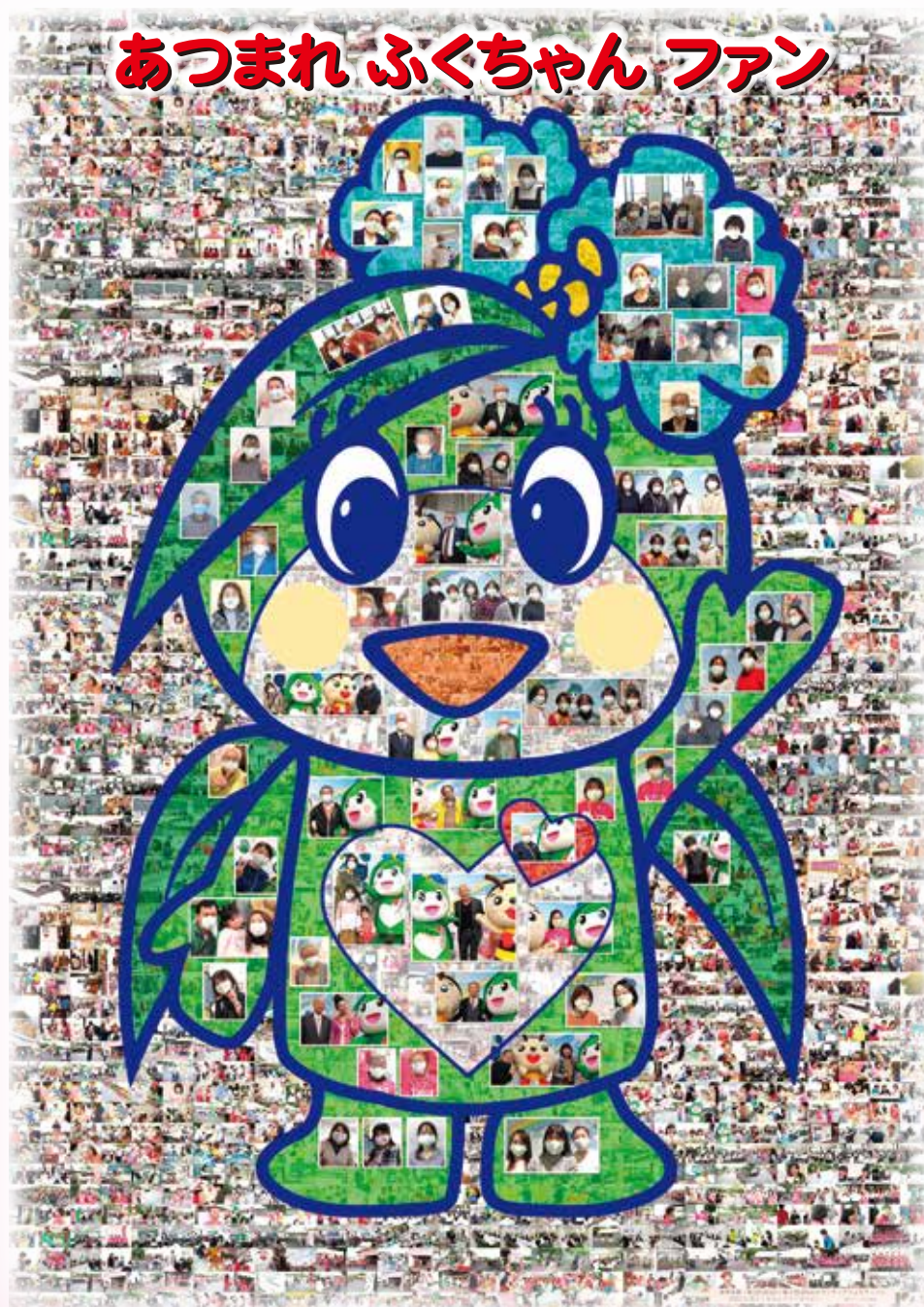


第4次 草津市地域福祉活動計画

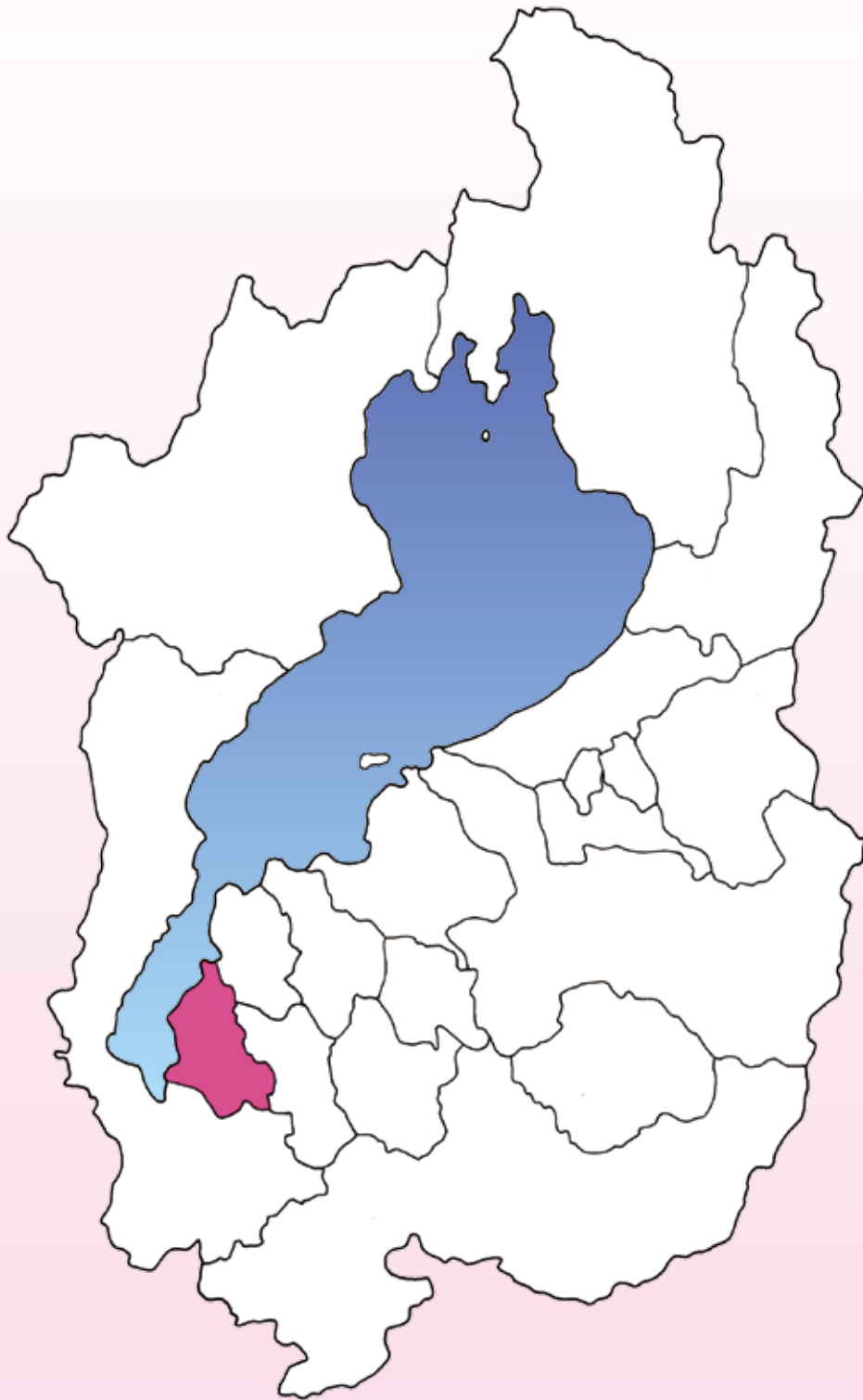


誰もが ころろ温かく 支えあい
住みつづけたい 福祉のまちづくり

令和4年4月



社会福祉法人 草津市社会福祉協議会



社会福祉法人 草津市社会福祉協議会

〒525-0032 草津市大路2丁目1-35 (キラリエ草津4階)

電話：077-562-0084 FAX：077-566-0377

ホームページ：www.kusa-shakyo.or.jp



HPTトップページ



地域福祉活動計画



草津市社協キャラクター
ふくちゃん

※ダイジェスト版および本編は上記アドレスから閲覧できます

※データの使用については、草津市社会福祉協議会までお問い合わせ下さい

はじめに

私たち草津市社会福祉協議会は、「こころ温かく支えあい 住みつづけたい 福祉のまちづくり」を基本理念に、みんなで考え、話し合い、協力し地域で抱える福祉課題の解決に向け取り組んでまいりました。近年、少子高齢化や核家族化の進展に伴い単身世帯の増加、家族や地域のつながりの希薄化など地域課題の複雑化、多様化が懸念されています。また、令和2年からの新型コロナウイルス感染症は、日常生活に大きな影響を及ぼし、生活様式の変化だけでなく、地域福祉活動の在り方についても変化を求められています。



このような中、令和4年度からの5年間を計画期間とした第4次草津市地域福祉活動計画を策定しました。本計画では、地域共生社会の実現やSDGsの目標達成をめざし、これまでの基本理念を一步進め「誰もがこころ温かく支えあい 住みつづけたい 福祉のまちづくり」としました。私たちが進める地域福祉の推進の指針となる3つの基本目標を設定し、地域住民の抱える困りごとを見つけ、話し合い、解決に向けて、みんなが協働して取り組む仕組みを充実していくこととしています。

この指針を基に、10年後、20年後も住みつづけたい草津市をめざし、これからの5年間みなさまとともに取り組んでまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました地域住民の皆さま、関係各位に感謝申し上げますとともに、第4次草津市地域福祉活動計画策定委員会ならびに同作業部会の委員の皆さまに心から厚くお礼申し上げます。

令和4年4月

社会福祉法人 草津市社会福祉協議会
会長 清水 和廣

目 次

はじめに

第1部 草津市の地域福祉の現状について	1 ~ 20
---------------------	--------

1. 草津市の現状について	1 ~ 8
2. 学区ごとの現状について	9 ~ 10
3. 住民どうしの支えあいの活動と地域づくり	11 ~ 20

第2部 地域福祉の推進と社会福祉協議会	21 ~ 26
---------------------	---------

1. 地域福祉が求められる時代	21 ~ 23
2. 市域の地域福祉の中核となる社会福祉協議会	23 ~ 25
3. 草津市地域福祉計画等との関係性について	25 ~ 26

第3部 第4次草津市地域福祉活動計画の体系	27 ~ 35
-----------------------	---------

1. 第4次草津市地域福祉活動計画の策定にあたって	27 ~ 31
2. 第4次草津市地域福祉活動計画の基本理念と基本目標	32 ~ 35
1) 基本理念	
2) 基本目標	
3) 第4次草津市地域福祉活動計画の体系図	

第4部 実施計画	36 ~ 50
----------	---------

I 住民主体の福祉のまちづくり～参加と協働の地域福祉活動の推進～	36 ~ 46
基本目標 1 福祉の風土づくり	
基本目標 2 住民主体の活動づくり	
基本目標 3 新たな絆をつむぐまちづくり	
II 市社協が取り組む福祉の基盤づくり～地域福祉活動発展計画～	47 ~ 50
基本目標 地域で安心して暮らしてつづけることのできる体制づくり	

第5部 計画の評価	51 ~ 58
-----------	---------

第4次草津市地域福祉活動計画策定の経過	52
---------------------	----

第4次草津市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿	53
-------------------------	----

第4次草津市地域福祉活動計画策定委員会作業部会員名簿	54
----------------------------	----

用語解説	55 ~ 58
------	---------

資料編

1. 第3次計画と第4次計画の変遷	1 ~ 2
2. 学区社協便覧 (R 3年度)	3 ~ 17
3. 医療福祉を考える会議 実施学区まとめ	18 ~ 24
4. 第3次草津市地域福祉活動計画での市社協の取組	25 ~ 31
5. コロナ禍に立ち向かう草津市社協の魅力活動	32 ~ 48
6. 第3次草津市地域福祉活動計画の検証	49 ~ 65
7. 草津市社会福祉協議会のあゆみ	66 ~ 69
8. 財源の流れ	70

第1部

草津市の地域福祉の現状について

1. 草津市の現状について

我が国では少子高齢化や核家族化、高齢者世帯の増加、価値観の多様化などを背景に、地域社会のつながりや、地域に対する関心の希薄化などが様々なかたちで大きな社会課題の一つとして取り上げられてきました。

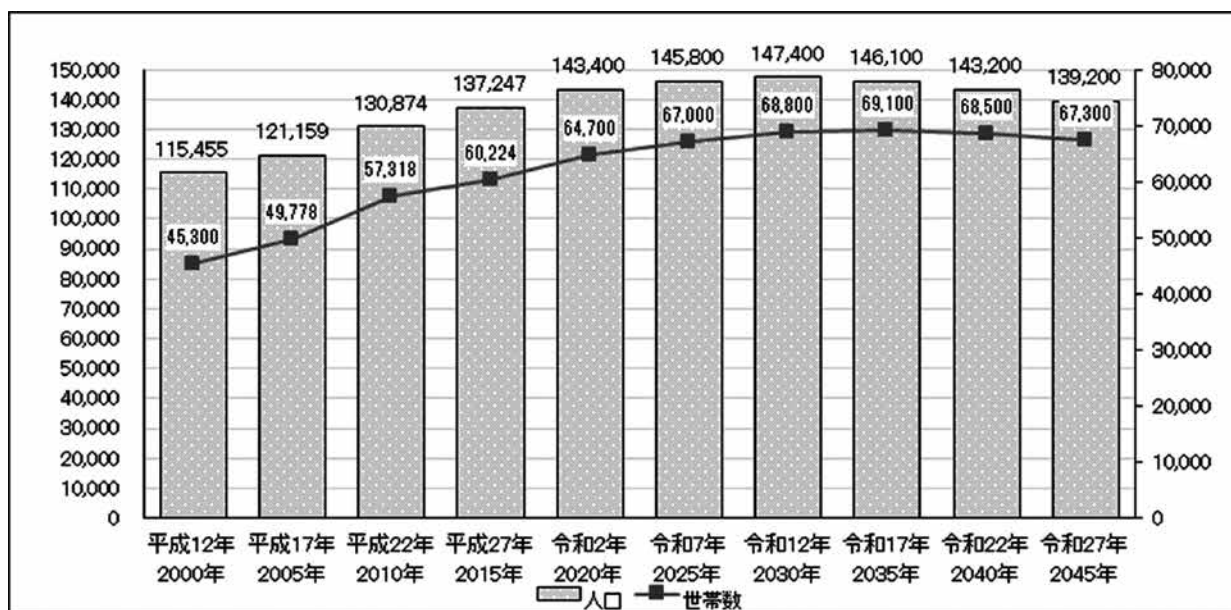
草津市においてもこれらの課題は、孤独死や虐待問題、老老介護、ヤングケアラー、生活困窮者や見守りが必要な人の増加などとなって現れ、私たちの住む身近な地域の中で福祉課題として複雑に、また多様性を持って広がりを見せています。

このような背景の中、私たち一人ひとりの住民がそれぞれの住む地域社会に関心を寄せ、自身が社会の一員であるという意識や誇りを持ち、地域を基盤とし共に生きる仲間として多様な価値観を認め合い、助け合う姿勢が求められています。

(1) 人口の推移

草津市の近年の人口動向をみますと増加傾向ではありますが、2030（令和12）年の147,400人（68,800世帯）をピークに、その後減少に転じ、2040（令和22）年には143,200人（68,500世帯）となる見込みとなっています。

◆人口・世帯数の見通し◆

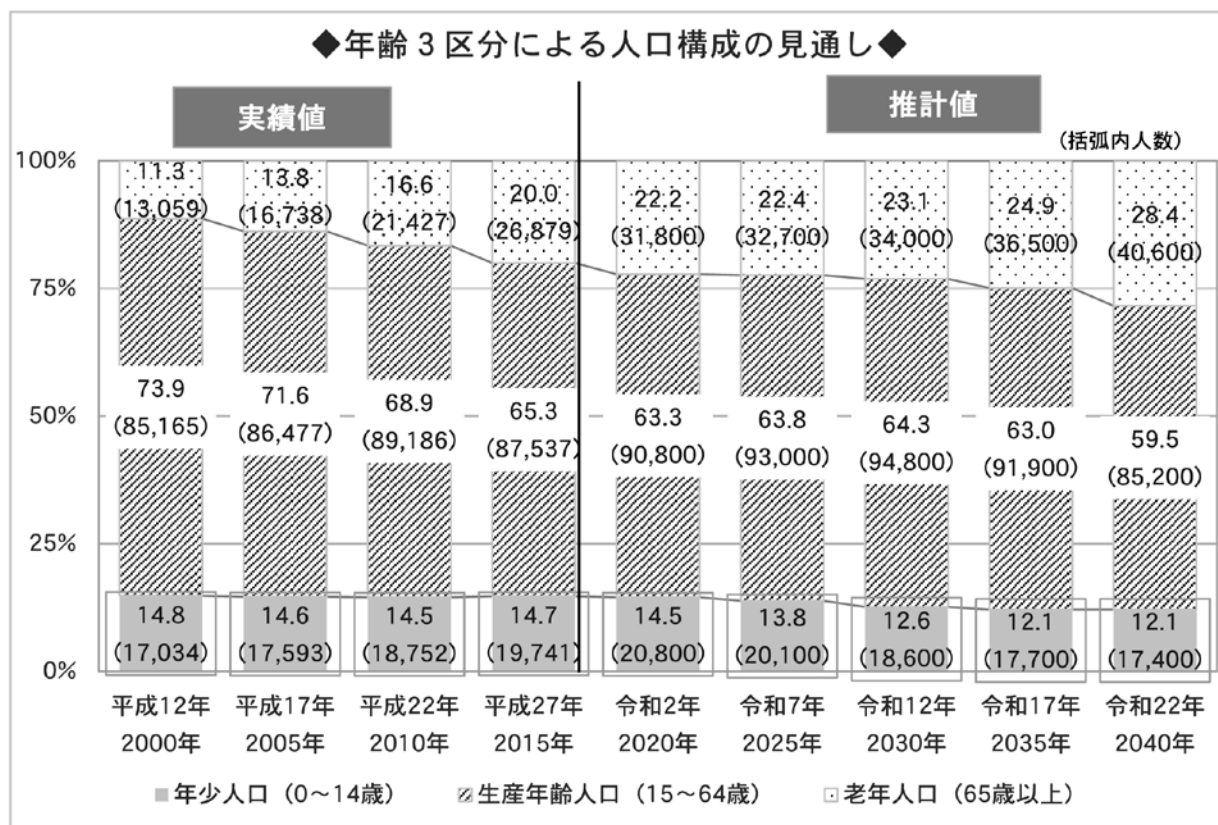


(第6次草津市総合計画 基本構想より)

(2) 年齢3区分による人口構成の見通し

年齢区分による人口構成についてみると、年少人口（0～14歳）は2020（令和2）年以降減少となる見込みであり、生産年齢人口（15～64歳）は2030（令和12）年まで増加し、その後人数・割合ともに減少傾向に転じる見込みとなっています。また、老年人口（65歳以上）は人数・割合ともに増加傾向であり、2015（平成27）年の20年後である2035（令和17）年には約10,000人増加する見込みとなっています。

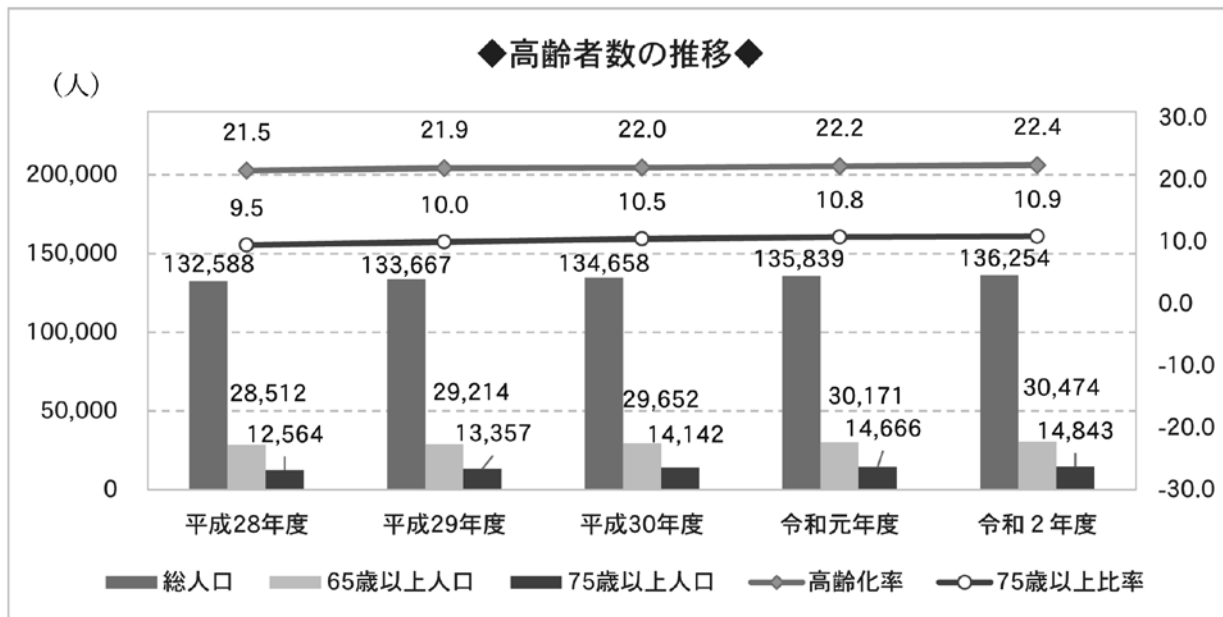
そのため、高齢者と共に生きがいをもって住み慣れた地域で暮らし続けることのできるまちづくりをすすめていく必要があるといえます。



(第6次草津市総合計画 基本構想より)

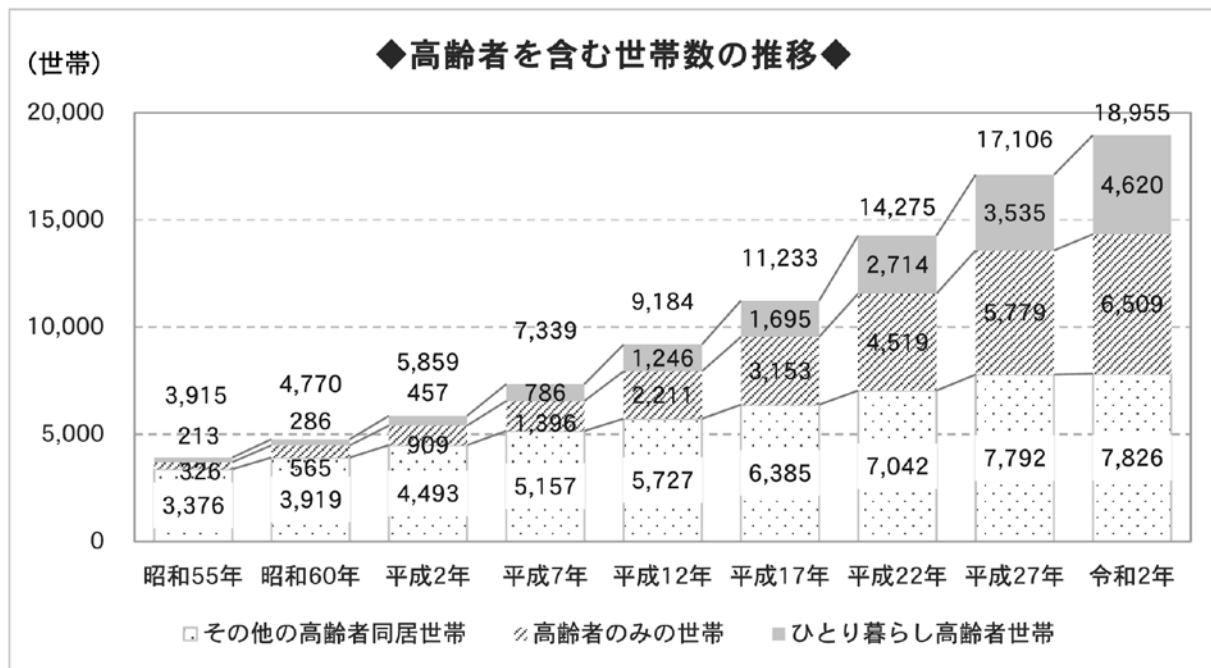
(3) 高齢者の状況

高齢化率の進展の他、75歳以上の高齢化率の進展もうかがえます。



(草津市 各年3月末時点)

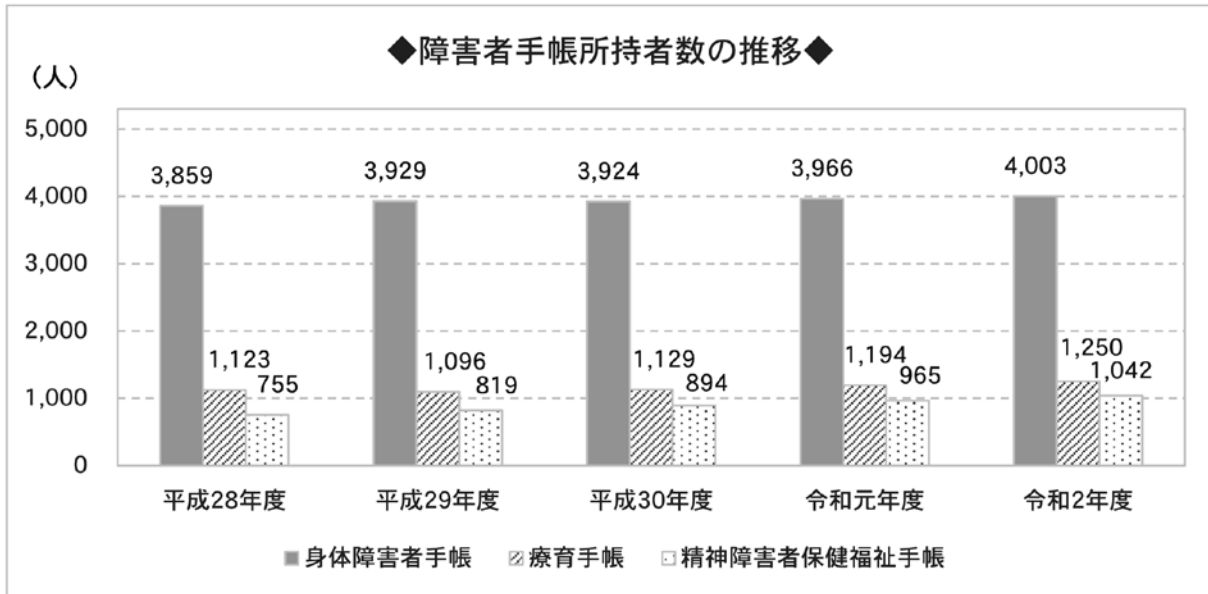
また、高齢者世帯の状況で見ますと、ひとり暮らし高齢者世帯・高齢者のみ世帯の急増が見られます。ひとり暮らし高齢者・高齢者のみ世帯が孤立・孤独に陥らないよう、情報を届ける等、地域で見守る体制づくりが今後さらに求められています。



(国勢調査より)

(4) 障害者の状況

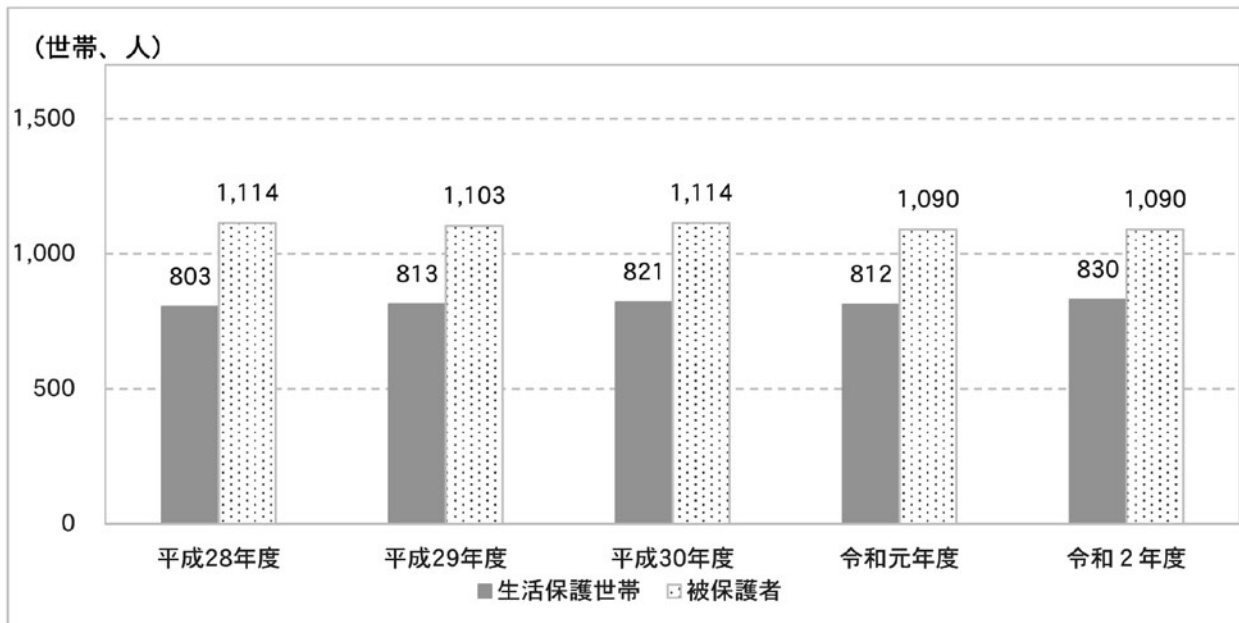
令和2年3月末で障害者手帳所持者数は、6,295人となっています。手帳の種別に関わらず、障害のある人もない人も孤立・孤独に陥らないように、地域で安心して暮らし続けることができるような仕組みづくりが必要だといえます。



(草津市 各年3月末時点)

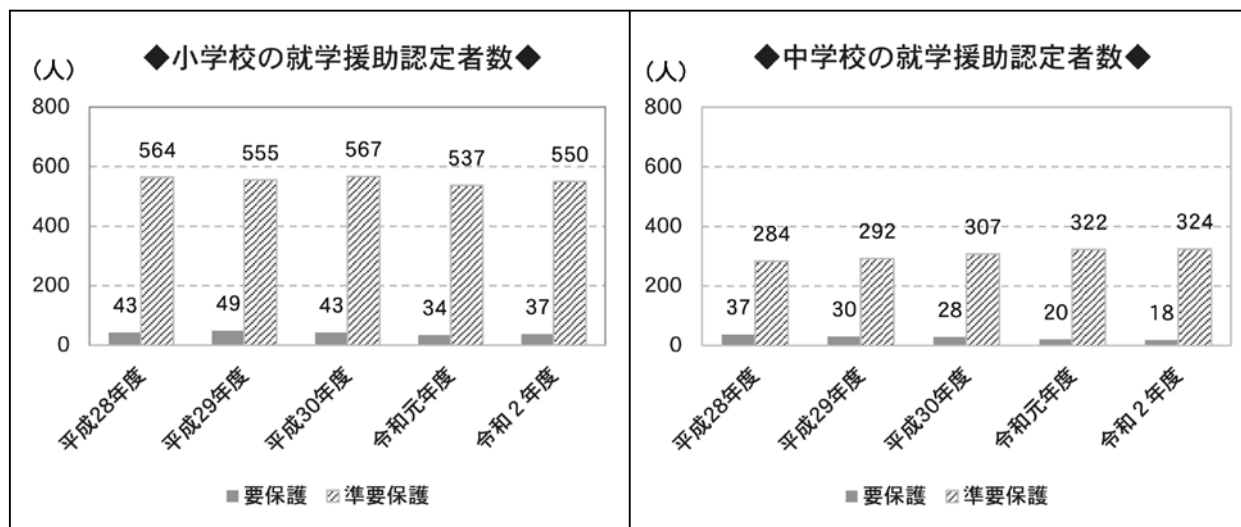
(5) 生活保護等の生活困窮世帯の状況

生活保護世帯・被保護者は横ばいとなっています。



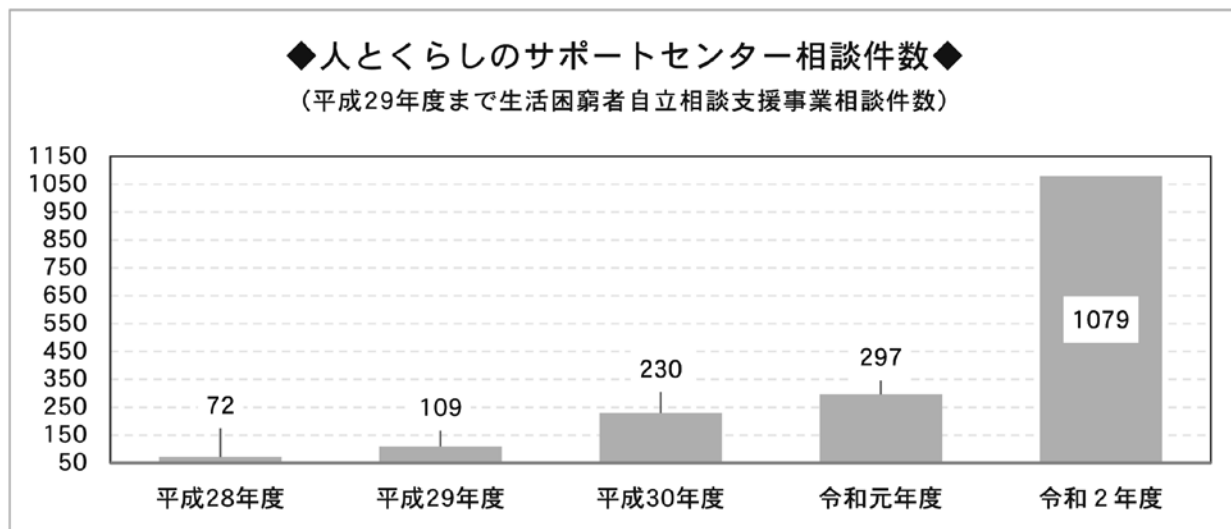
(草津市 各年3月末時点)

また子どもの育ちと経済的支援の側面から、就学援助認定者数は小学校・中学校ともに要保護者数（生活保護世帯）をみると、減少はしているものの、準要保護者数（市が認める要保護世帯に準じる世帯）は増加傾向にあり、生活困窮者への支援の必要がうかがえます。



(草津市 各年3月末時点)

さらに新型コロナウイルス感染症の影響もあり、生活困窮に関する相談をはじめ、生活の困りごと全般の相談を受けている「人とくらしのサポートセンター」の相談件数は、開所以前である平成29年度以前と比較すると、相談者、相談件数とも急増しており、生活困窮者の相談ニーズは高まっているといえます。



(草津市 各年3月末時点)

生活福祉資金では、新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮した方を対象とした、特例貸付制度が令和2年3月に開始されました。それに伴い、令和2年度は相談件数、貸付件数ともに大きく増加しました。

特例貸付の申請世帯には、複合的な課題を抱えた世帯も多く、人とくらしのサポートセンターとも連携し、切れ目のない支援に努めました。

◆貸付相談件数◆

(単位：件)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
貸付相談件数	52	46	52	125	1,401

◆貸付件数◆

(単位：件)

	新型コロナウイルス 特例貸付			総合 支援 資金	福祉資金		教育 支援 資金	不動産 担保型 生活 資金	臨時 特例 つなぎ 資金	生活 復興 支援 資金	合計
	緊急小口 資金	総合 支援 資金	延長、 再貸付 申請等		緊急小口 資金	福祉 費					
平成28年度	—	—	—	0	3	3	25	0	0	0	31
平成29年度	—	—	—	1	7	5	10	0	0	0	23
平成30年度	—	—	—	0	4	7	13	0	0	0	24
令和元年度	—	—	—	0	15	9	10	0	0	0	34
令和2年度	1,087	871	795	0	9	7	15	0	0	0	2,784

(草津市社会福祉協議会 各年3月末時点)

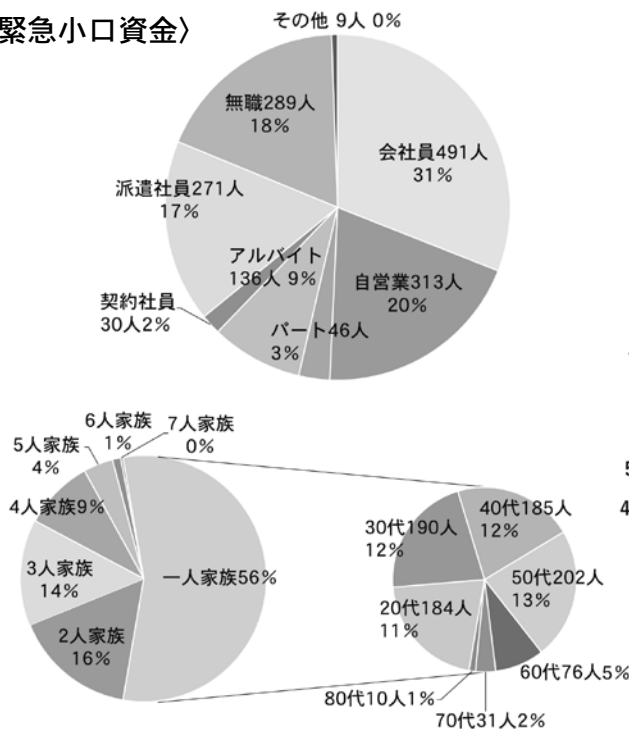
◆緊急小口等特例貸付業務◆

生活福祉資金貸付制度では、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、貸付の対象世帯を低所得世帯以外に拡大し、休業や失業等により生活資金でお悩みの方々に向けた、緊急小口資金等の特例貸付を実施しました。

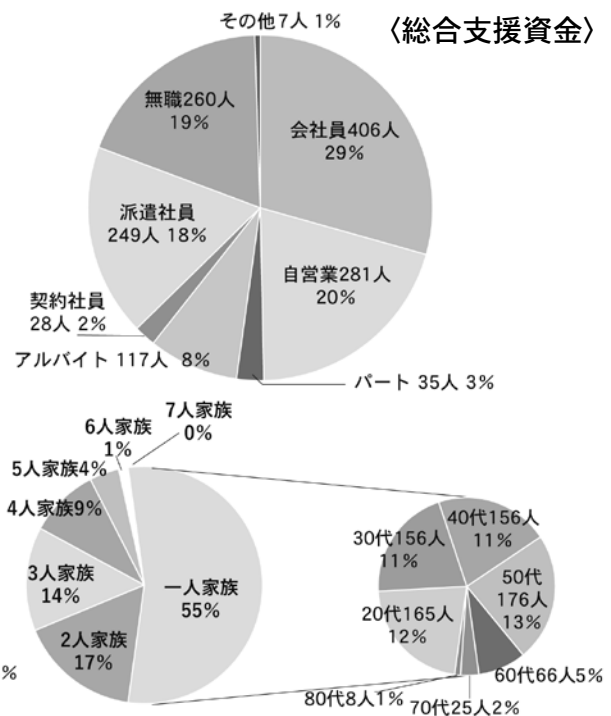
令和2年3月25日～令和4年3月31日現在 (延長は令和3年6月、再貸付は令和3年12月まで)
※市社協を通さない申請があるため、以下の統計と若干件数の相違あり

資金種別	件数	貸付金額	貸付内容
緊急小口資金	1,596	308,780,000	上限20万円以内(一人世帯は上限15万円以内)
総合支援資金	1,381	708,650,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
延長	546	281,390,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
再貸付	885	456,350,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
受付合計数	4,408	1,755,170,000	

(緊急小口資金)



(総合支援資金)



共同募金の助成を受け草津市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）で実施している歳末たすけあい見舞金^{※1}の個人見舞金^{※2}については、令和2年度まで民生委員・児童委員による調査と本人申請による2本立てで実施し、令和3年度から本人申請のみで実施しています。令和3年度については、申請方法の変更とコロナ特例貸付や給付金等の活用により申請が減少したと考えられますが、高額な貸付を受けてもなお少額の見舞金を必要とする世帯があることがうかがえます。また、対象世帯は地域ごとに見ると増加している学区、減少している学区があり、生活困窮世帯の状況も学区単位で異なることが分かります。

◆歳末たすけあい見舞金対象世帯数の推移◆

	学区・区	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1	志津	26	24	21	20	14
2	志津南	12	10	9	9	6
3	草津	20	22	21	22	19
4	矢倉	32	33	28	30	18
5	大路	15	13	14	16	10
6	渋川	50	50	47	39	19
7	老上	37	40	41	42	19
8	老上西	56	58	59	56	17
9	玉川	28	19	20	24	12
10	南笠東	22	18	15	14	13
11	山田	53	52	46	44	23
12	笠縫	41	41	46	51	20
13	笠縫東	42	40	37	33	23
14	常盤	27	26	23	26	8
合計		461	446	427	426	221

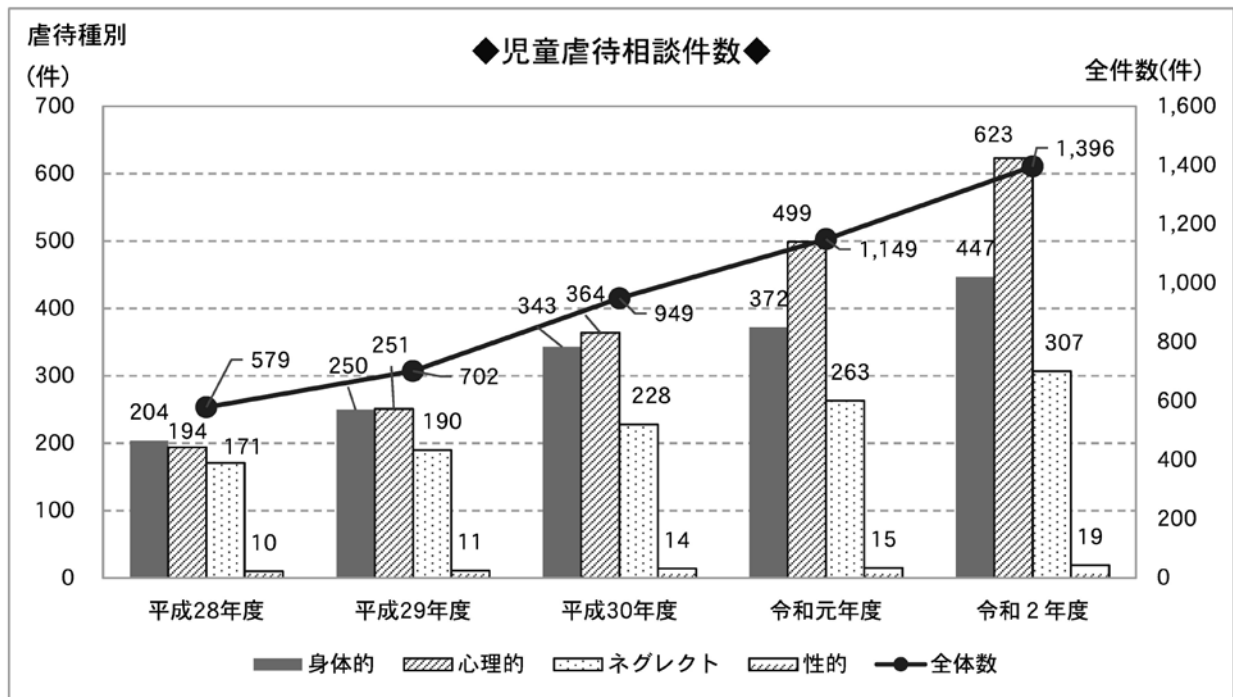
（草津市共同募金委員会 各年12月実施）

※¹個人見舞金、施設見舞金の2種類あり、個人見舞金では生活保護世帯を除く、生活保護に準じる世帯（生活保護世帯の1.2倍程度の収入の世帯）を対象に配布しています。

※²個人見舞金では、世帯配分として5,000円配分し、中学生以下の子ども2,000円、障害者手帳保持者2,000円、要介護3以上2,000円加算して配分しました。

(6) 児童をとりまく状況

児童虐待の相談件数は、草津市においても平成28年度以降増加している状況であり、虐待の早期発見と対応を可能にするためにも、地域での見守りが必要といえます。



(草津市 令和2年3月末時点)

2. 学区ごとの現状について

草津市内には、14の小学校区があります。それぞれの地域によって人口動態や、駅からの距離、琵琶湖や山側に近い等の地勢状況が異なり、学区ごとに様々な特徴があります。地域福祉を進めていくためには、学区ごとの状況を踏まえた上で、取り組んでいく必要があると考えています。

◆14学区の高齢化実態◆

学区	人口	世帯	平均世帯人員	高齢化率	ひとり暮らし高齢者	65歳以上のみ世帯	平成28年との比較		
							高齢化の進展	ひとり暮らし高齢者の進展	65歳以上のみ世帯の進展
志津	13,868	5,894	2.4	17.4	318	460	1.00	1.57	1.27
志津南	6,577	2,461	2.7	21.1	138	341	1.21	2.06	1.96
草津	11,503	5,317	2.2	23.3	471	534	1.01	1.34	1.00
矢倉	9,845	4,436	2.2	23.5	304	540	1.04	1.34	1.02
大路	11,930	5,455	2.2	18.5	567	503	1.14	1.69	1.22
渋川	9,495	4,348	2.2	18.0	360	391	1.14	1.49	1.42
老上	9,873	4,512	2.2	19.5	310	407	1.01	0.93	0.70
老上西	8,680	3,335	2.6	20.8	215	349	—	—	—
玉川	12,222	6,369	1.9	19.0	354	577	1.06	1.31	1.11
南笠東	7,784	4,045	1.9	21.7	259	444	1.19	1.46	1.01
山田	7,862	3,376	2.3	30.6	318	307	1.08	1.33	1.09
笠縫	11,148	4,741	2.4	29.9	415	619	1.04	0.89	0.93
笠縫東	10,630	4,664	2.3	25.8	451	595	1.09	1.51	1.21
常盤	4,837	1,804	2.7	32.2	115	220	1.12	1.28	1.79
草津市	136,254	60,757	2.2	23.0	4,595	6,287	1.05	1.39	1.17

(草津市民生委員児童委員協議会 令和3年7月1日時点)

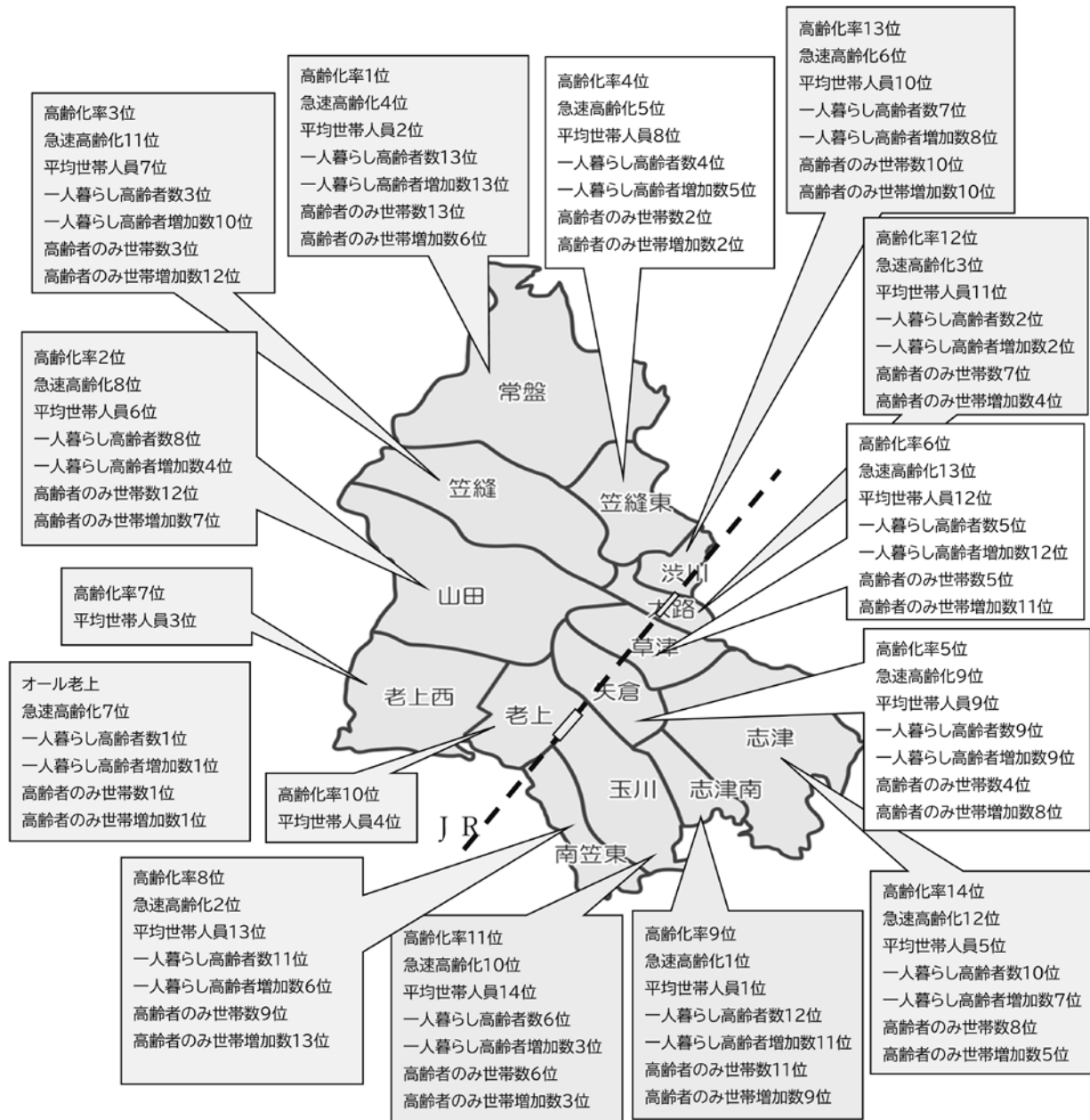
◆14学区の児童数の推移の表◆

学区	R3			H28-R3	順位	H28-R3	順位	H28	R3
	年少人口	総人口	順位	増加数		増加率		年少人口率	年少人口率
志津	2,534	13,868	2	278	1	1.12	2	18.0%	18.3%
志津南	1,459	6,577	8	52	6	1.04	6	22.8%	22.2%
草津	1,551	11,503	6	190	3	1.14	1	12.8%	13.5%
矢倉	1,353	9,845	10	-219	13	0.86	12	16.0%	13.7%
大路	1,630	11,930	4	-135	10	0.92	10	15.5%	13.7%
渋川	1,387	9,495	9	-176	12	0.89	11	16.5%	14.6%
老上・老上西	3,365	18,553	1	209	2	1.07	4	18.2%	18.1%
玉川	1,472	12,222	7	-101	9	0.94	9	14.0%	12.0%
南笠東	819	7,784	12	-175	11	0.82	13	12.7%	10.5%
山田	937	7,862	11	-6	8	0.99	8	11.9%	11.9%
笠縫	1,651	11,148	3	79	5	1.05	5	14.5%	14.8%
笠縫東	1,579	10,630	5	165	4	1.12	3	13.9%	14.9%
常盤	632	4,837	13	-2	7	1.00	7	12.7%	13.1%

※年少人口(0～14歳)

(草津市 令和3年3月末時点)

◆数字で感じる高齢者の実態いろいろランキング◆



<高齢者いろいろランキング>

- 高齢化率(高い順)
- 急速高齢化(H27年度から R2年度までの6年間の高齢化率の倍率)
- 平均世帯人員(平均的な世帯あたりの人数が多い順)
- 一人暮らし高齢者数(R2年度)
- 一人暮らし高齢者増加数(H27年度から R2年度までの6年間の増加数)
- 高齢者のみ世帯数(R2年度)
- 高齢者のみ世帯増加数(H27年度から R2年度までの6年間の増加数)

3. 住民どうしの支えあいの活動と地域づくり

(1) 住民どうしの支えあいのための活動者の広がり課題

身近な住民どうしの支えあいの活動を見る場合、草津市で早くから取り組んできた住民活動の一つ、高齢者の地域サロン活動があります。身近な町内会を単位とした茶話会や、食事会、日帰り旅行、百歳体操やグラウンドゴルフを楽しむサロン活動です。支える人、支えられる人の区分けなく、参加者が、自分ができる役割を担い、共に運営していくものです。

また、自分たちの趣味や能力を活かして、地域で活躍する多種多様なボランティアも、住民同士の支えあいの活動の一つです。

市社協のボランティアセンターが把握している地域サロングループ数・人数、ボランティアグループ数・人数は、ここ5年間では、令和元年をピークに減少傾向にあり、令和2年からのコロナ禍による活動の自粛傾向を反映し、さらに減少傾向にあります。

ボランティア活動は、強い使命感を持った方もおられますが、経済的、時間的に余裕がないとなかなか活動ができないという人もおられます。

人生100年時代、定年年齢の延伸や生活のために就業する高齢者も増加し、地域サロンの活動者もボランティアも新しい活動者が増加しない傾向も見うけられ、グループの高齢化や解散するグループも増えています。いつまでも元気で長生きし活動されている方で、最高齢の活動者は男性96歳、女性94歳の方もおられます。

ボランティア活動者は、65歳以上が70%以上を占めていることを考えると、今後、ますます活動者の高齢化や減少が危惧されます。

◆草津市ボランティアセンター登録者推移・ボランティア活動者状況◆

年度	登録ボランティア	地域サロン	合計グループ数	登録ボランティア	地域サロン	人数(人)	個人ボラン ティア	社協登録	増減(人)
	グループ数	グループ数		人数(人)	人数(人)		登録者数	ボランティア人数	
H29	175	156	331	4,002	998	5,000	12	5,012	154
H30	198	157	355	5,137	1,128	6,265	54	6,319	1,307
R1	200	157	357	5,272	1,100	6,372	57	6,429	110
R2	197	158	355	4,889	1,093	5,982	48	6,030	-399
R3	196	154	350	4,834	1,069	5,903	25	5,928	-102

(R3.8.31 更新)

※ H30 から学区社協・民児協・まち協・日赤の一部ボランティア保険に加入している方についてボランティア登録されています。



地域サロン



ボランティアセンター

◆登録ボランティア年代別・男女別集計◆

	80代～	75～79	70～74	65～69	60～64	50代	40代	30代	～20代	合計
人	278	576	705	503	247	289	154	68	85	2,905
%	10%	20%	24%	17%	9%	10%	5%	2%	3%	100%

	後期高齢(75～)	前期高齢(65～75)	60～64	50代	40代	30代	～20代
人	854	1,208	247	289	154	68	85
%	29%	42%	9%	10%	5%	2%	3%

★登録ボランティア最高齢

女性=94歳（上笠いきいきクラブ）

男性=96歳（楽遊会）

男	女	合計
1,439	1,758	3,560

（※合計人数に不明分含む）

（草津市ボランティアセンター 令和2年度末時点）

◆地域サロン参加者・活動者状況◆

	令和元年度	令和2年度
年間参加者延べ人数	75,839人	50,635人
年間運営ボランティア数	20,774人	14,023人

（草津市社会福祉協議会 令和2年度末時点）

（2）地域の特徴を活かした福祉活動の展開

十人十色と言われるように、私たち、ひとり一人は、みな別々の趣味や嗜好があって、一律ではありません。同じように、私たちが住む街、14学区は大別すると、湖岸の田園地域、JR駅周辺地域、工業地域周辺、大規模団地地域などと、いろいろな地域特性を持っています。福祉のまちづくりを進めるうえでも、それぞれの地域の課題が異なります。そして、今できることを、それぞれの身の丈に合った方法で進めています。それは、私たちが住むまち（町内会、小学校区、市域）を自分たちで少しでもよりよい街にしようと、活動する力強い住民主体の学区社会福祉協議会（以下「学区社協」という。）の福祉活動なのです。

【志津社会福祉協議会】

解決型組織で志津を住み続けたいまちへ！

「ふれあい支え合い住み続けたいまち」を理念として、高齢者の見守りや交流活動、「志津の医療福祉を考える会議」の運営、福祉推進委員さんや地域サロンとの意見交換会等を実施してきました。今後、「志津まちづくり協議会」と地域課題を共有し、連携する事業が多くあり、志津の福祉的課題を解決していく課題解決型組織としていきたいと思えます。すでに令和3年よりスタートしたまちづくりセンターのフリースペースでの「ぷらっと茶屋（カフェ）」は、多世代の居場所づくりとして、学区社協とまちづくり協議会が連携して手あげ方式の実行委員会形式で運営し、少しずつ周知がされてきています。また、「認知症になっても安心して住み続けられる地域づくり」をめざして、安心声かけ訓練を軸として、より多くの人々の協力をいただき、認知症への理解者の裾野を広げていき、安心して住み続けられるまちとなるよう、実践していきたいと思えます。

【志津南学区社会福祉協議会】

楽しく心豊かに暮らせる地域を目指して

学区内には、7つの子育て・児童育成活動グループ、14の地域サロン及びグループがまちづくりセンターや各自治会館及び各集会所等を利用して活動しています。

また、地理的な問題等があり現在サロン等を利用できていない人のためにも、今後各町内会と一緒にボランティアの発掘と地域の活性化を進めることが重要となります。学区社協の取組としての「送迎支援」はコロナ禍の影響で利用者が減っていますが、PRして運転手の増員と送迎を必要とされる方が気軽に利用いただけるよう取り組みます。平成24年に開設した学区社協活動拠点ふれあいハウス「絆」は、若草地区の一集会所を利用して、地域住民が気軽に立ち寄れる地域福祉活動の拠点として地域に根付いています。週に6日開所し、ふれあい喫茶、植物・家庭菜園・読書等の各種談義、こどもコーナー、ふれあい麻雀、歌声喫茶等 毎日誰かが来て好きな時間を過ごせる場となっています。ボランティアの高齢化や利用者の固定等課題もありますが、これからもどなたでも気軽に立ち寄れる場所として、さらに地域の力になっていけるよう取り組んでいきます。

地域支え合い運送支援事業

本事業は、高齢者・障害者等、社会とのつながりが希薄化している人や、日常生活支援が必要な人に対して行われる地域支え合い運送事業を実施する学区のまちづくり協議会または社会福祉協議会に無償で自動車を貸与することによって、閉じこもり予防や介護予防、地域でのふれあいの場への参加促進等、地域が主体的に取り組む支え合い活動に寄与することを目的としています。（5学区で実施）



地域支え合い
運送支援事業



【草津学区社会福祉協議会】**困った時に「助けて」が言える地域づくり**

令和3年11月から「草津市社協チューリップ事業・レディースカフェ」を始めました。終息の見えないコロナ禍で孤立・孤独・貧困などに不安を抱える女性を応援しています。

学区社協活動拠点である「立ち寄りカフェ ゆかい家」は令和4年3月で開所10年になります。当初からのコンセプトである「誰もが、ゆかい家に来れば、誰かとつながることができる居場所」として、数え切れぬ程の地域の方々と、「自分たちが一番楽しい」と惜しみなくボランティアに精を出してくださる方たちに支えられて継続してこれことができました。これからも「ゆかい家」から困った時に「助けて」が言える地域づくりを広げていきたいです。

【矢倉学区社会福祉協議会】**向こう三軒両隣り、支え合う心を育む**

私たちをとりまく環境も今まで以上に変化し、矢倉学区の住民の皆様の生活課題が多様化・複雑化しており、公的な福祉サービスだけでは対応が困難な状況にあります。

それを補うのが「地域の力」であり「住民相互の力」です。

矢倉学区では、第2次住民福祉活動計画で「みんなで支え合う、まちづくり」を第一の柱として取り組んでおり、地域の人たちが気軽に集える場所として「ふれあい喫茶・憩」を各町内会で立ち上げることにしました。

「ふれあい喫茶・憩」は地域の人たちが気軽に集える場所として、老若男女を問わず、コーヒーを飲みながら、おしゃべりや囲碁・将棋・ゲームが楽しめ、その運営は各地域のボランティアの人たちをお願いし、多くの人たちの交流の場となっています。

【大路区社会福祉協議会】**誰一人取り残さない地域づくり**

大路区では、マンション建設が続き、若い世代からリタイア世代まで幅広い層の住民が増え、地域の絆作りが課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症による影響は、商工業者をはじめ、そこで働く住民にも大きな影響を及ぼしています。

そこで、大路区社協では「誰一人取り残さない地域づくり」を合い言葉に、今まで地域活動への参加が少なく、なかなか支援が届かない方々に対して支援が届くように、年間を通して食料支援活動を実施しています。

また、新しい住民の方々が参加しやすい活動やイベントについて積極的に支援を行うことで、住民同士の新しい絆ができるよう取り組んでいます。

【渋川学区社会福祉協議会】

「住みよいまち」から「暮らしやすいまち」へ

コロナ禍が全世界を席卷し、わずかの間に人間の暮らし方、考え方などに大きな影響を与えていますが、社会の構造、医療現場の体制、とりわけ、人に寄り添うことを基本としている介護、高齢者福祉など「地域福祉」の分野で新たな課題が発見された感じがします。

地域福祉の末端を担う渋川学区社協は、第二次住民福祉活動計画において「支えあい助け合って、暮らしやすい渋川へ」をスローガンに、交通至便・買物便利な住みよいまち渋川に「住民力」がプラスされた「暮らしやすいまち」をめざしています。

いまだ道半ばですが、私たちはコロナ禍で被った犠牲を無にすることなく、次世代に有用な「新しい日常」を福祉の末端から創出していきたいものです。コロナ後が元の暮らしに戻っていたのでは進歩はありません。

【老上学区社会福祉協議会】

さそいあい かたりあい ささえあい

平成28年(2016)年度に老上学区、老上西学区に分離して7年になりますが「オール老上」としてお互いに協力、助け合いながら事業活動を続けています。まちづくりセンターを拠点に、居場所、交流場所、ふれあいの場所として活動の発進を行っています。主要な活動は、おしゃべりボランティアの訪問支援、カフェほっころいの開催、いずれにしても近年のコロナ禍における限られた時間、施設の中での活動です。いずれも利用されている皆さまの再開の声が寄せられています。送迎サポートにおいては、高齢者の利用者が待っています。通院中の方々や一人暮らしや高齢の移動困難な方の日常の買い物に最大のコロナ対策として、マスクの着用、体温の確認、車内の感染防止をしながら活動を行っています。新年度になり、従来への支援、活動が少しでも皆様の支えや、語りあいができるように願い支援に努めます。

【老上西学区社会福祉協議会】

昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう。

平成28年(2016年)に老上西小学校が老上小学校から分離新設され、新しく誕生した市内14番目の学区です。新学区としての歴史は浅いのですが、分離するまでの「老上学区」からの流れは続いています。当学区社協と学区まちづくり協議会との同時スタートは、市内で初めてのケースです。学区社協と学区まちづくり協議会と折合いを付け、協力しながら活動を続けています。「医療福祉を考える会議」から派生した「地域安心声かけ訓練」を毎年実施し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを実践しています。

また、ボランティアグループ【助け合い隊「ママの手」】を立上げ、各種団体の枠を超え、互いに協力し合いながら「おいにいずカフェ」を毎月1回開催、地域食堂「ニコニコ食堂」を春・夏・冬の長期休みに合わせて開催するなど地域社会とのかかわりも充実させています。今後も学区まちづくり協議会と力を合わせ、それぞれのできる力を出し合いながら、「安心して暮らせるまちづくり」を実現していきます。

【玉川学区社会福祉協議会】

人と人をつなぐ・人と人がつながる活動

令和2年からのコロナ下のなか、地域において支え合い助け合う力（地域の福祉力）が今まで以上に大切であり必要とされています。

地域の一人ひとりが安全に安心して暮らすことができる地域を目指し、人と人とのつながりを大切にする活動を進めています。

「人と人をつなぐ・人と人がつながる活動の推進」

- ・高齢者ふれあいサロンの開催、高齢者団体への支援
- ・子育て世代への支援（子育てサロン開催への助成）
- ・福祉セミナー（ヤングケアラー・在宅医療・コロナフレイル）の開催
- ・シネマサロン（「長いお別れ」認知症の父と家族の物語）の開催
- ・医療福祉を考える会議（コロナ下での取組と課題）の開催
- ・安心バトンの配布

【南笠東学区社会福祉協議会】

支えあい 笑顔あふれるまち南笠東

南笠東学区には立命館大学等の学生マンションが多くあることから、高齢化率が低くなっており、「若い学区」だとみられることが多いですが、実際は、市内でも2番目に速いスピードで高齢化が進行しています。また、買い物をする場所や病院も少なく、標高差が約50mと坂の多い地域でもあります。

高齢者の抱える暮らしの問題も増えてくるなかで、解決する仕組みをつくる必要だと学区の中で話し合い、『医療福祉を考える会議（地域福祉懇談会）』や『健全なまち南笠東プロジェクト』を実施しています。

さらに、移動に困っている高齢者や社会とのつながりが希薄化している人等に対して、引きこもり予防や介護予防、地域でのふれあいの場への参加を促進していくため、『送迎サポート』も実施しています。

学区の取組にあたっては、南笠東学区住民福祉活動計画2022を活動の柱として、学区一丸となって住民の「心のつながりをつむぐ」地域福祉活動をより一層進めてまいります。

老上学区まちづくり協議会キャラクター
「おいかめちゃん」



草津市社会福祉協議会キャラクター
「ふくちゃん」



渋川学区キャラクター
「しずはなちゃん」



公式キャラクター
ふくちゃん

【山田学区社会福祉協議会】 ひろがれ やまだの和・輪・話

～ひとと人とのつながりを求めて～

山田学区では、医療福祉を考える会議で実施したすごろくゲームを通し、孤立化やフレイル予防、つながりの希薄化などの課題のための居場所の必要性を感じ、「V.メロン」と特養えんゆうの郷の協力を得て、「ふれあいカフェ（やまだカフェ）」をはじめました。このカフェでは、子どもから高齢者までだれもが気軽に集まれる場所になっており、高齢者の居場所づくりや介護予防、多世代交流の場として地域の輪が広がっています。

また、地域支え合い運送支援事業は、「V.メロン」が以前の運転ボランティアの「V.ハナミズキ」から引継ぎ、活動しています。ボランティアのメンバーは、「こんなに楽しい活動が出来てグループに入って良かった」と生き生きと活動されています。これからも、ボランティア活動のすばらしさを伝え、さらに盛んになるように進めていきたいと思います。

【笠縫学区社会福祉協議会】

「誰もが いきいきと暮らせるまち」

高齢化が進む笠縫学区では、市内でも三番目に高い地域ということから、「おでかけふれ愛 模擬体験事業」を実施しています。コロナ禍の中、規模を縮小したことで、振り返りの時間がとれ、参加者からはとても参考になったとの声をいただいております。

事業の開催にあっては、コロナ禍であっても失敗を恐れず、その時々にあった活動をするのが、積極的に福祉活動をするきっかけづくりとなっています。

また、老人クラブの協力を得ながら、小学校の児童とグラウンドゴルフを通じて交流を深めています。コロナの関係から4クラスを2回に分けて、小グループで実施したことから、お年寄りの方とゆっくり交流ができ、少子高齢化の中、子どもと高齢者の接する機会づくりに取り組んでいます。

【笠縫東学区社会福祉協議会】

健康で心豊かに 長生きできるまち笠縫東

「今を大切に 誰もが 住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という思いをもって毎日の生活を送っていると思います。地域福祉とは、このような身近な暮らしの場での活動が基本だと考えます。

笠縫東学区では、先輩が「ボランティアグループ」の結成に努力され、平成7年にサークル活動の第一歩がスタートしました。現在では9グループが活動中です。

今まで全てがうまく運営できたわけではありません。20年余りが経過した今日、もう一度見直し、幅広い年代の人々が福祉活動に参加するきっかけや情報交換の場とすると共に、現在開催している「ほのほのサークル」や「ふれあいサロン」を幅広く多くの人々に知っていただき、より一層住民同士の交流が進むよう地域の特性や実情にあった場づくり、機会づくりを進めることが大切だと感じています。

【常盤学区社会福祉協議会】**『人と人のつながり=きずな』を大切にする常盤**

私たちは、お互いが尊重しあう「互助」の気持ちを日々の様々な場面で高め、つながり続けることで、人生の最後まで常盤でいきいきと暮らせる事を活動基本方針に、『福祉醸成』と『健康づくり』の両輪づくりに取り組んでいます。

学区社協は各協力団体への学区内発信源として、物・心両面で支援と活性化に向けて共同参画活動を続けています。全町内での地域サロンやグラウンドゴルフ会を支援し、地域包括支援センターとも協調しています。

子育てサロン、I .キャンパス「子ども食堂」への支援にも取り組んでいます。

近年は、相次ぐコロナ禍で対面活動が制約されて活動縮小・停止の中、活動の継続と維持を心がけています。

(3) 新しい関係性と地域とのつながり

市内には、市民が、安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、社会福祉事業を行う23の社会福祉法人があります。

各法人は、これまで高齢・障害・児童などの要援護者に対して、様々な福祉サービスを提供することで、地域の安全・安心の下支えを担ってきています。しかし、家族のあり方、働き方の多様化により、私たちの生活スタイルは変化し、それに伴い社会福祉のニーズも多様化し変化し続け、制度・施策が改正される中、社会福祉法人を取り巻く状況も大きく変化しました。国では、「地域共生社会の実現」に向け、制度や体制を超えて、様々な生活課題の解決に向けた支援や仕組みづくりを進めるよう、公益性・非営利性の徹底、国民に対する説明責任、特に、社会福祉法人の本旨として、「地域における公益的な取組」を義務化し、施設機能の開放や専門性の活用など、もてる資源を活かした様々な地域公益活動を社会福祉法人が率先して取り組み、地域社会に貢献することを求めています。

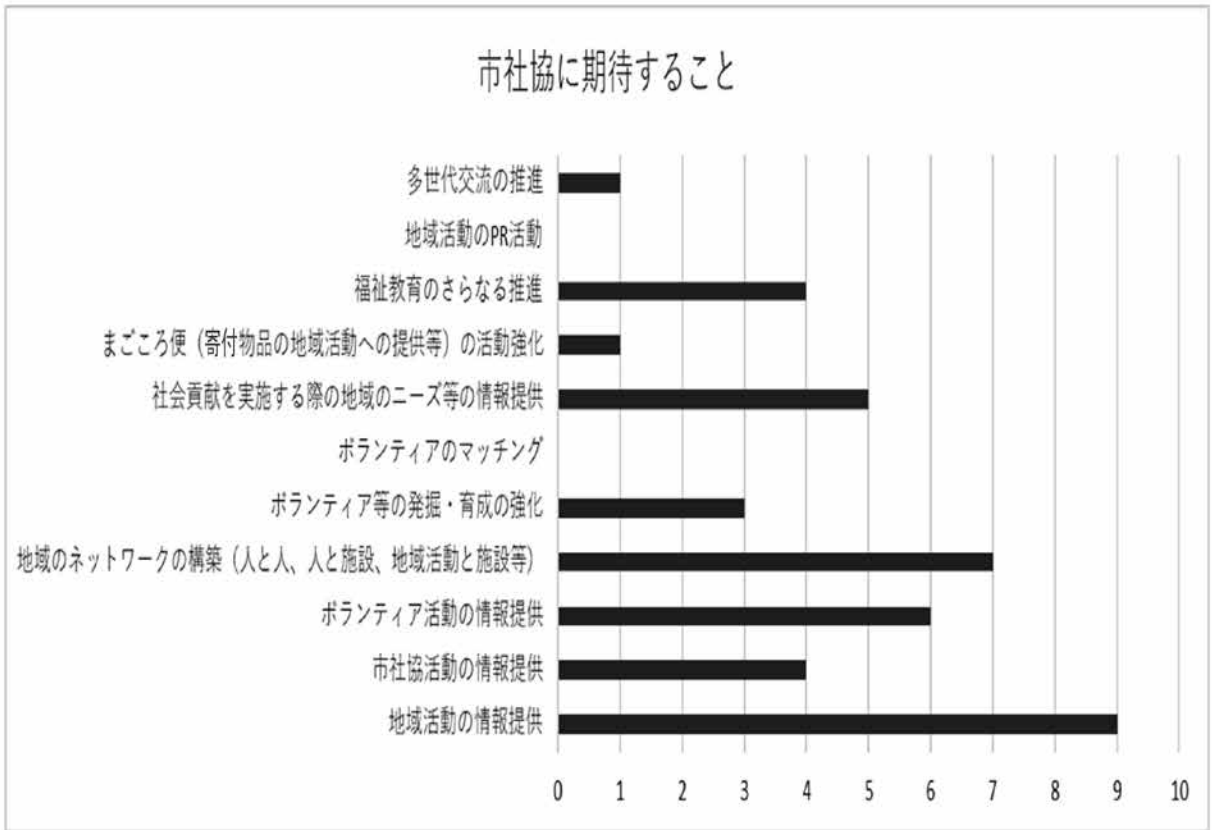
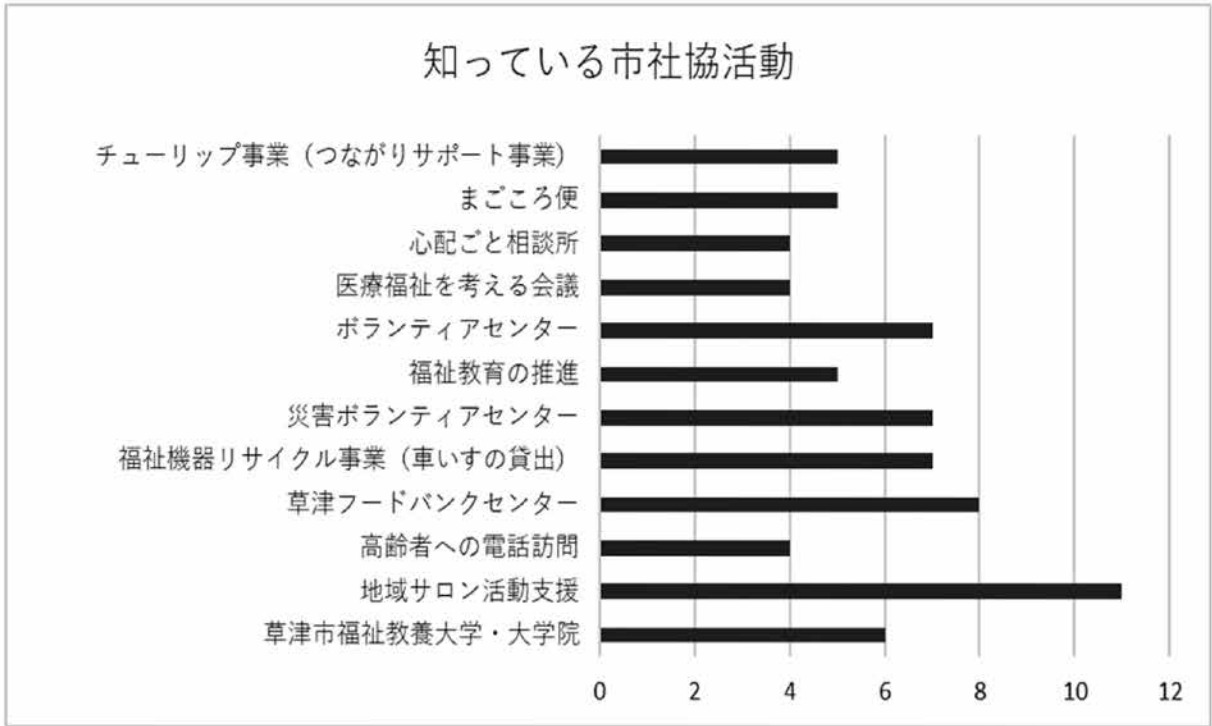
とりわけ、草津市では、子育て世代を中心に、転入による人口増加が続いていますが、高齢化は着実に進行し、今後、急激な少子高齢化の進行が推測されています。また、地域・家族のつながりの希薄化等、社会的孤立や生活困窮者が社会問題となり、既存の制度やサービスでは対応できない課題も現れています。

このような中、今回、地域を真ん中において、分野をこえたつながりネットワークをつかっていくために、市内の社会福祉法人に、地域福祉の推進での活動や社会福祉協議会に対する意見をアンケートしました。その中で、市社協に期待することは、地域のネットワークの構築や地域活動の情報提供など、情報の共有を求める声が多く、福祉事業に取り組む社会福祉法人として、高齢・障害・児童・介護等の福祉分野を超えて、お互いの法人の情報交換や課題共有の機会をつくり、協働しながら、草津市域の地域福祉の向上を図る必要を強く感じました。

◆市内社会福祉法人地域福祉アンケート結果◆

活動種別	公益的な活動内容等	草津市社協と関わりのあった活動および感想
高齢者		【医療福祉を考える会議】 山田学区にていつも参加させて頂いております。また何度か会場にも使ってもらっています。
高齢者・児童	人手が不足しておりできない。	【草津フードバンクセンター】 助かりました。
高齢者・児童	人手が不足しておりできない。	【草津市教養大学・大学院】 ボランティアの活動に良い変化、きっかけとなる取組と思います。認知症の方、障害者やひきこもりの方など関わりについてのヒントが学べると思います。 【福祉機器リサイクル事業】 たまに車いすを借りたいと相談に来られる高齢者がおられ、市社協を紹介させて頂きます。とても喜ばれています。 【医療福祉を考える会議】 地域課題をもっと話し合えると、何が必要か何ができそうか見えやすくなると思います。
児童	人手が不足しておりできない。	
児童	保育園幼稚園等の未就園児親子を対象に、週1回子ども同士や親同士の関わり、子育てで困った事を相談する場を開催。 ボランティアグループ、個人ボランティアの協力あり。	
児童	人手が不足しておりできない。	
児童	未就学児を対象に、親子で製作や年齢にふさわしい玩具や園庭で遊ぶ遊ぼう会を月5～6回開催。	
児童	月1回園庭開放や子育て相談広報誌「nonoたいむ」を年5回発行。	
障害	・県内の聴覚障害者、関係者を対象に、年1回聞こえない人や聞こえない子どもの暮らしを取り巻く制度や課題などをみんなで一緒に考える聴覚障害者の社会的自立を考えるセミナーを開催。 ・地域住民や事業所等に対し、聴覚障害者の理解のための講座や研修を行っている。	
障害	・地域の高齢者を対象に月1～2回サロンや居場所づくり、スペースの貸出を行っている。 学区社会福祉協議会、ボランティアグループ、個人ボランティアの協力あり。 ・地域住民の方にグループ会合などを行う際のスペースの貸出しを行っている。	【地域サロン活動支援】 地域サロン活動に助言等を頂いて助かります。 【草津フードバンクセンター】 【ボランティアセンター】
障害	人手の不足と、A型として製造業をメインとしているためできない。	
地域福祉	事業として実施している。	

23法人中、12法人から回答あり(回収率52%)



第2部 地域福祉の推進と社会福祉協議会

1. 地域福祉が求められる時代

(1) 長引くコロナ禍の影響

2019（令和元）年12月に発生した新型コロナウイルスの感染拡大によって全世界が大きな影響を受け、日本社会においてもさまざまな問題が顕在化しました。倒産・失業・減収・居住の不安定・債務の増加などが社会的脆弱層に顕著に現れ、これまで社会福祉とは縁がなかった住民層の困窮化が進んでいます。草津市においても、第1部で紹介されているように、「人とくらしのサポートセンター」（生活困窮をはじめ生活の困りごと全般の相談に対応）の相談件数も2020（令和2）年度は前年に比べて大幅に増加しています。

また、2021（令和3）年11月に内閣官房孤独・孤立担当室が発表した資料によれば、2020（令和2）年度の全国の自殺者数は総数が21,081人（前年比912人増）、中でも女性は前年比935人増、児童生徒は前年比100人増で過去最多であることがわかりました。さらにDV相談件数も前年度の1.6倍、児童虐待相談対応件数も前年度より1万1,249件増加しています。

一方、感染状況の長期化によって、住民による地域福祉活動やボランティア活動も休止せざるを得なかったり、活動回数や人数を減らすなどの対応を余儀なくされ、地域内での人々の交流の機会や見守り機能が低下しつつあることが懸念されます。約2年に及ぶ活動制限によって、メンバーのモチベーションや組織運営に問題が生じているところも出てきています。居場所活動や見守り活動が停滞することで、ひきこもりや虐待、孤独死の増加にもつながり、またボランティア自身のやりがいや人間関係も損なわれてしまいます。

このようにコロナ禍の影響は経済的な困窮にとどまらず、人々が出会い、つながる機会を減少させ、孤独や孤立の深刻化を招いています。

(2) 孤立しやすい私たちの暮らし

しかし、こうした「孤立」の問題は、コロナ禍で初めて出てきたわけではありません。2018年にイギリスで世界初の「孤独担当大臣」が新設されたように、私たちの暮らす社会では、孤立問題への取組が大きな課題となっています（日本でも2021年2月に内閣官房に「孤独・孤立担当室」が設置されています）。

そもそも私たちは「会話しなくても成り立つ社会」に生きています。他者と「会話しない」、すわなち「関わらない」でもモノが買えるし鉄道にも乗れる、とても便利な社会です。その

陰で私たちの「他者と関わる」能力は、少しずつ低下していつているかもしれません。そのことに一人ひとりが気づくところから、実は、共生社会づくりが始まるのかもしれません。

社会的孤立のリスクをさらに高めているのは、単独世帯の増加です。2020（令和2）年の国勢調査の結果（2021年11月30日発表）によると、一人暮らしが世帯全体の38.0%を占めています。およそ2.5世帯に1世帯が単独世帯という計算になります。特にひとり暮らしの高齢者は5年前の前回調査と比べて13.3%も増加していることがわかりました。草津市においても同様の傾向にあることが第1部で示されています。

ひとり暮らしでなくても、「8050問題」（80代の親が50代の子どもの暮らしを経済的に支える家庭状況）などと言われるように、若年層の引きこもり（孤立）問題が解決されないまま長期化し、世帯全体が孤立しているような状態も顕在化しています。また、「ヤングケアラー」といった課題も浮き彫りになってきています。

こうした社会的孤立のリスクが高まっている中、さらにコロナ禍によって追い打ちをかけられた状況に直面しています。

（3）求められる「地域福祉」の充実

そこで、ますます重要になってくるのが地域福祉の推進です。

地域福祉とは、

「誰もが住み慣れた地域で、安心していきいきと暮らしていくために、行政・事業者・NPO・ボランティア・住民などが連携して、制度の充実とともに人と人とのつながりや協働を大切にした自治と共生の社会をつくっていくこと」

地域には、赤ちゃんから高齢者まで様々な年代の人々、また病気や障害を有する人々、外国人住民など様々な人々が暮らしています。そうした人々が孤立せずに、“住民”として安心して暮らしていくためには、基盤となる制度の充実はもちろんのこと、人と人とのつながりや協働が不可欠となります。

一人ひとりの“暮らし”は分断することはできません。したがって、専門分化されている機関や施設、専門職がつながって“暮らし”を支えていくことが求められます。それは社会福祉領域のみにとどまるものではありません。医療、保健、教育、まちづくり、環境、農業、商業、メディアなど、多様な分野とのつながりを作っていくことで、豊かな地域が作られていきます。

そして、何より住民一人ひとりが自分の暮らす地域のあり方に関心を持ち、主体的に地域課題を発見したり、共に問題解決に向けて取り組んでいけるような地域づくりが大変重要となります。

このように“地域課題の解決力の強化”“地域を基盤とする包括的支援の強化”“地域丸ごとのつながりの強化”を進めることが「地域共生社会の実現」につながるとして、国も新たな施策を展開してきています。

(4) これからの地域福祉 ～誰一人取り残さない地域社会を～

長引くコロナ禍の影響を受け、今、改めて求められていることは以下のようなことではないでしょうか。

- ①孤独・孤立に陥っても支援を求める声を上げやすい社会
- ②状況に応じた切れ目のない相談支援につなげること
- ③人と人との「つながり」を実感できる地域づくり
～見守り・交流の場や居場所づくりを確保～

①は、「助けて」と言える社会づくりといってもいいでしょう。ともすれば“自己責任”が強調される現在の社会の中で、SOSを発するのが遅れてしまう事態がよく見られます。まずは弱さを分かち合える風土づくり、身近に相談しあえる関係性づくりを地道に進めることが求められています。これは制度やサービスを作っただけでは解決し得ない課題です。もちろんSOSを受け止めて、つなぐことができる窓口の整備も必要です。

②は、ニーズの発見から具体的な支援まで切れ目がない状態、また年齢別や課題・サービス別で対応が途切れのないような状態を目指すことです。そのためには、行政内の関係部署の連携や、様々な専門機関・事業所などのネットワーク構築が必要となります。さらに地域住民と専門職との連携も重要な課題となります。

③は、コロナ禍において、ますます重要性が増しています。「つながり」を実感できるような地域づくりとして、これまで学区の社会福祉協議会やまちづくり協議会、自治会、ボランティアグループなどが取り組んできた居場所づくりの活動を維持、発展させていくことが本当に大切になっています。

こうしたことをただ唱えるだけでなく、着実に実現していくにはどうしたらいいのかが問われます。単純な答えはあり得ませんが、それを話し合い、ビジョンを持って実行に移していくための「計画」が必要となるのです。

2. 市域の地域福祉の中核となる社会福祉協議会

すでに見てきたように、地域福祉は、行政・事業者・NPO・ボランティア・住民などが連携して推進していくものです。中でも社会福祉協議会は地域福祉推進の中核を担う組織として期待されています。

社会福祉協議会とは「地域福祉の推進を目的とした民間組織であり、非営利、公益の組織として社会福祉法に定められています。一人ひとりのニーズを受け止め、支援を行うとともに、地域全体の課題として解決をはかる仕組みづくりを進めます」（全国社会福祉協議会）とされています。

社会福祉法第109条には「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し」と規定されています。

では、地域福祉推進の中核として「社会福祉協議会」に何が期待されるのでしょうか。

（1）「地域の福祉力」を高めるために

地域福祉は、「実践・政策・理論」が互いに関連し合いながら発展してきました。行政が政策として取り組む側面も重要ですが、基盤として住民自治（住民主体）として展開する側面が極めて重要です。住民主体の地域福祉を推進していくためには、住民が力をつけることが必要です。例えば、以下のような7つの力です。

「地域の福祉力」で求められる7つの力

- 1 地域（住民）が地域課題を発見し、共有する力
- 2 地域（住民）が主体的に課題を解決していく力
- 3 地域（住民）が制度・サービスを活用・改善・開発していく力
- 4 地域（住民）が行政・専門職と連携していく力
- 5 地域（住民）が制度や資源の不足について提言・提案する力
- 6 地域（住民）が「まち」の将来を描き、行動計画をつくる力
- 7 地域（住民）が自ら立てた計画に基づき、「まちづくり」を実践し、
ふりかえる（評価する）力

（岡山県社会福祉協議会作成冊子より）

地域（住民）がこれらの力を身につけていくことを、学区の社会福祉協議会の会議や実践、様々な相談対応や研修、イベントなどを通してサポートするのが社会福祉協議会の役割です。

（2）多様な人や団体が出会い、さらなる展開が生まれるプラットフォームに

これからの地域福祉の推進のためには、狭義の社会福祉団体だけでなく、まちづくりや環境保全、多文化共生、文化芸術など多様な活動をしている団体とも連携することが必要です。また学校、病院、企業などともつながり協働していくことが大切になります。

そこで、社会福祉協議会の特性を活かした取組が大切になってきます。“夕テ割り”とは

行政によく使われる言葉ですが、民間の活動においても同様の課題があります。活動の対象や分野が違つと出会う機会も少なく、同じ地域で活動していてもほとんど接点がなかったり、また自治会などの地縁型組織とNPO法人などのテーマ型組織がうまく連携できていないということもあります。

また、同じ社会福祉分野であっても、学区の社会福祉協議会と学区内の福祉施設や事業所との接点がない場合もあります。

そこで、対象や活動内容を特定していない社会福祉協議会が、日常的あるいは特別にイベントや会合を企画して多様な団体が出会い、新たな展開が生まれるようなプラットフォームの役割を果たすことが大変重要になっています。社会福祉協議会はボランティアセンターも運営しているため、より幅広い年代や背景を持つ人々や多様な活動団体との接点を持ちやすく、さらなる展開が期待されます。

3. 草津市地域福祉計画等との関係性について

すでに述べたように、地域福祉を推進していくためには、ただ目標を唱えるだけでなく、着実に取り組んでいけるように「計画」を作ることが求められます。

地域福祉に関する「計画」には3種類あります。

- ①地域福祉計画（行政計画：市区町村が策定 社会福祉法第107条）
- ②地域福祉支援計画（行政計画：都道府県が策定 社会福祉法第107条）
- ③地域福祉活動計画（民間計画：社会福祉協議会が策定）

「地域福祉計画」と「地域福祉支援計画」は行政計画です。2000年に社会福祉法（社会福祉事業法を改訂）ができたときに、はじめて規定されました。ただし、策定義務はなく、各自治体に任されていた。しかし、地域福祉推進の重要性が増すとともに、その位置付けも変わり、2018年の社会福祉法改正では「任意」から「努力義務」に変わっています。

「地域福祉計画」とは

地域福祉推進の主体である地域住民等の参加を得て、地域生活課題を明らかにするとともに、その解決のために必要となる施策の内容や量、体制等について、庁内関係部局はもとより、多様な関係機関や専門職も含めて協議の上、目標を設定し、計画的に整備していくことを内容とするもの（厚生労働省）

「地域福祉活動計画」とは

社会福祉協議会が呼びかけて、住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する者が相互協力して策定する地域福祉の推進を目的とした民間の活動・行動計画

(1) なぜ、「地域福祉活動計画」に取り組むのか？

行政計画としての「地域福祉計画」があるのに、さらに「地域福祉活動計画」の作成を行うのはなぜでしょうか。

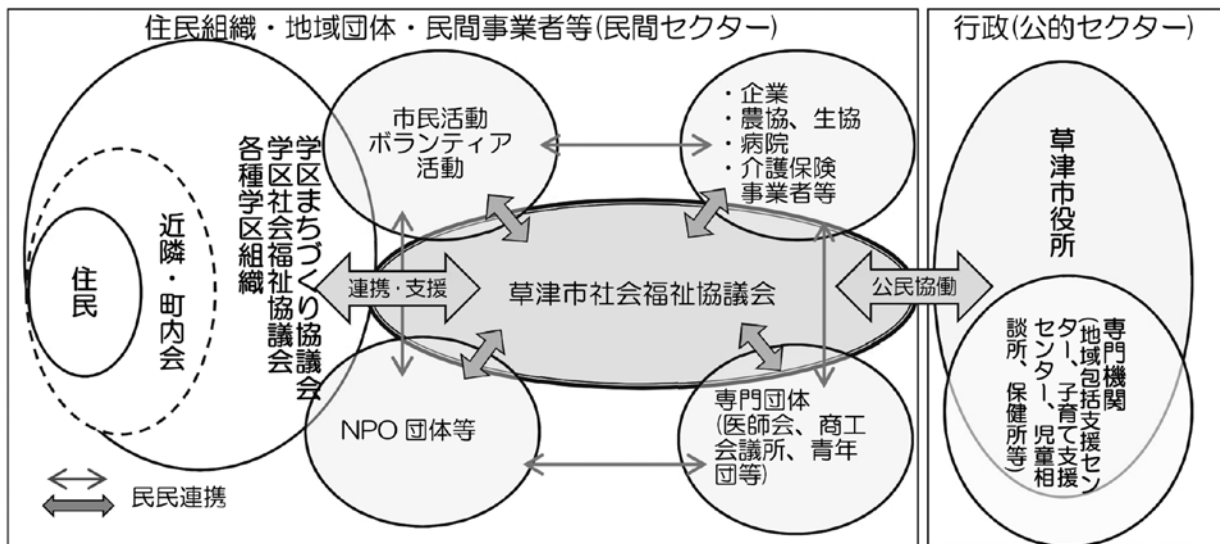
それは、地域住民が、生活上の問題や課題を発見・共有し、問題を抱えた当事者とともに話し合い、関係機関・団体と連携し、そして解決に向けた取組を提案していくという計画策定のプロセスこそが、まさに、“地域の福祉力”を高めていくことにつながるからです。地域福祉活動計画を策定することは、住民主体で地域福祉を推進していくという市町村社会福祉協議会の使命にもどづく大変重要な取組と言えます。

(2) 地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係

草津市では、2021（令和3）年度から5か年を計画期間とする「第4期草津市地域福祉計画」が策定されています。基本理念を「[助け合い・支え合い]を未来につなげるまち～いつまでも健幸で地域力のあるまち草津をめざして～」としています。

地域福祉計画は行政計画ですから、地域福祉推進のための「基盤や仕組み」を作ることに重きを置いているのに対し、民間計画である地域福祉活動計画は、それを実行するための「地域住民の活動や行動のあり方」を定めており、いわば両者は車の両輪であると言えます。当然、内容的に重なる部分も多いため、行政と社会福祉協議会の担当者がそれぞれの策定委員会に参加し合うなど連携して策定しています。

〈地域と社協そして行政〉



第3部

第4次草津市地域福祉活動計画の体系

1. 第4次草津市地域福祉活動計画の策定にあたって

(1) 第4次草津市地域福祉活動計画の体系について

これまで述べてきたように、日本の地域社会に変化があり、社会福祉行政・地方自治体の中でも地域福祉が重要な意味を持つようになってきました。その背景には、経済不況による生活困難、人間関係・地域関係の希薄化からくる社会的孤立・孤独の問題、虐待事件に代表されるような人としての内面や暮らしの歴史・文化の危機、これらが複雑に暮らしの問題に影響している状況があります。

一方で、こうした状況に危機感をもち、主体的に踏み出そうとしている住民の姿があり、生活課題・地域課題の共有と活動の交流をとおして、身近な暮らしの場で支えあう地域の特徴ある福祉活動が広がっています。

こうした住民参加の地域福祉活動をさらに発展させていくためには、より身近な暮らしの場で、住民同士の課題認識を共感し広げていくことが不可欠であり、そのためには、住民同士の課題認識の共有とめざすべき方向の合意形成が大切であると考えています。

また、地域福祉の推進を図ると社会福祉法で規定され、地域福祉の推進を使命としている市社協としては、市域で取り組むべき地域福祉活動や、社会福祉協議会でしか実施できない地域福祉権利擁護事業などの事業の推進を含め、地域の特徴ある地域福祉活動を市域で計画的に進め、地域支援を行っていく必要があると考えています。

以上のことから、第4次草津市地域福祉活動計画における基本理念については、これまでの計画を引き継ぎつつ、「全ての住民にとって」住みつづけたい福祉のまち・草津を目指すため、「誰もが ころ温かく支えあい 住みつづけたい 福祉のまち・くさつ」とします。

また、本計画では、住民自身が中心に取り組む「住民主体の福祉のまちづくり～参加と協働の地域福祉活動の推進～」と市社協が中心に進める「市社協が取り組む福祉のまちづくり～地域福祉活動発展計画～」の二本の柱で本計画を作成します。

(2) 第3次草津市地域福祉活動計画期間から見えてきたこと

第3次計画期間では、医療福祉を考える会議を広め、地域の現状や課題を共有し、顔の見える関係づくりや課題等を踏まえた新たな活動づくり等、地域に応じた地域活動の支援を行い、また新たな活動者を発掘・育成するための講座の工夫や、フードバンク事業やまごころ便事業等時代に応じた事業展開などを行ってきました（資料編 P25 参照）。しかし、ボラン

ティアの高齢化や担い手の不足、経済的貧困、社会的貧困等生きづらさを抱える人の課題もより明確になってきた5年でもありました。

・地域に溶け込む地域福祉コーディネーター

医療福祉を考える会議は、平成24年度から学区ごとに開始していますが、多いところでは開催回数が20回を超え、地域や専門職との顔のつながりができ、関係性を強化することができました。何度も地域に出向き、住民と対話を重ねる中で、地域支えあい送迎事業や地域カフェ等の居場所づくりなど、それぞれの地域の実情に応じた地域福祉活動実施のきっかけづくりができました。

・ボランティア登録者や各種講座等への参加者も増加

ボランティアや地域福祉活動の担い手不足の問題に対し、平成30年度から新たに福祉教養大学・大学院を開講し、地域福祉活動への理解者を増やし、地域福祉活動者の育成を進めました。様々な切り口から語られる福祉の話題は受講者の心をつかみ、市社協応援ボランティアやボランティアグループ1グループの立ち上げ等、活動者の拡大につながりました。さらに、未来の活動者の育成につながるよう、フードバンクや送迎ボランティア等の市社協事業や学区社協活動を紹介し続けていきます。

・支えあいの輪の広がり

平成26年度に志津南学区、山田学区で開始した、高齢化や障害により外出が困難な方を支援するための地域支えあい送迎事業は、平成30年度に老上・老上西学区、令和2年度に南笠東学区でも開始され、実施学区が増えたことで、住み慣れた地域での安心した生活の継続を支えました。送迎ボランティアも増え、支えあいの輪が広がりました。

・コロナ禍でのピンチをチャンスに

また、第3次計画後半の2年間では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、三密の回避や、人と人との距離の確保などが求められ、住民同士のつながり、見守り支えあい等対面での地域福祉活動が制約される状況となりました。

特に、令和2年度は、当初より高齢者地域サロンをはじめ多くの地域福祉活動やボランティア活動、市社協事業の一部を中止や延期とせざるを得なくなりました。このことにより支え合い、助け合い、生きがいづくりなどの住民同士のつながり活動がほぼ停止することとなりました。閉じこもりによる高齢者の虚弱化の進行や社会的孤立、虐待等が深刻になる一方で、誰かとつながっていること、誰かを支えたり支えられたりしていることの大切さ、これまで積み重ねてきた活動への思いを再確認する機会にもなりました。

そこで、地域福祉活動の一日も早い再開を願いつつ、「コロナ禍に立ち向かう草津市社協

の魅力活動」と題して、①「つながり」を途絶えさせない、②「活動」を止めない、③地域の実情に応じた新たな福祉活動を展開していくことを目的とした活動を進めました。

コロナ禍で見えてきた地域課題に対し、まごころ便やフードバンク事業を通じて、学区社協活動をはじめとした地域の福祉活動への支援の継続や、市内の福祉施設や企業との新たなつながりづくりなど、継続的な関わりや支援につなげました。コロナの影響を受けた生活困窮者への生活福祉資金の貸付事業では、人とくらしのサポートセンターと連携し、支援体制を強化しました。

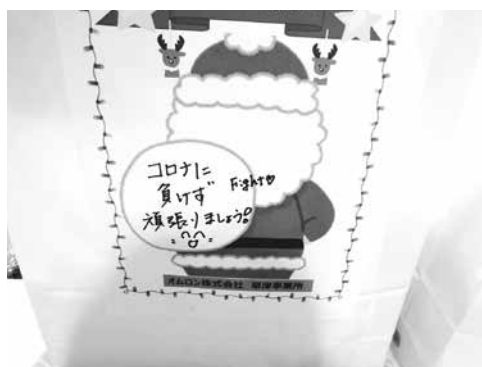
また、コロナ禍であっても、高齢者等を地域で支える仕組みづくりを考える「医療福祉を考える会議」を含め、令和2年度は14学区に884回出向き、住民とともに地域の福祉課題を共有し、住民の良きパートナーとして、今できることへの取組を支援しました。

今後もウィズコロナ・アフターコロナを見据え、「新しい生活様式」への対応や地域活動へのオンライン活用等の視点を取り入れる等工夫や見直しを行い、感染リスクを回避しながら地域のつながりを絶やさないよう、活動の継続が求められています。



ランチボックス

一般社団法人全国司厨士協会滋賀県本部からいただいたランチボックスを歳末見舞金対象者である準要保護世帯の一人親家庭に届けた。



まごころ便



ランチボックスへのありがとうメッセージ

作業部会におけるワークショップで出された御意見

I 住民主体の福祉のまちづくり ～参加と協働の地域福祉活動の推進～			
基本目標①:福祉の風土づくり			
推進項目: 地域福祉活動の周知・啓発			
重点項目① 地域の活動を見せる福祉の風土づくり			
課題	○ 移転を契機にしたPR方法の開発 ○ 新たな周知方法の開発 ○ 市社協事業の見える化の強化	対策	・ 他団体と協働して新たな活動者を発掘する取組の実施 ・ 異なる広報媒体を活用した情報発信の強化 ・ 市社協事業が「見える」媒体を増やす ・ 地域に出向き、市社協事業をPRする機会を増やす
重点項目② 住民どうしが互いに見守り励ましあう関係づくり			
課題	○ 「我がごと」と感じる出前講座の内容充実	対策	・ コロナ禍でも可能な講座の開発 ・ 講座の地域や対象者を明確化する
重点項目③ ボランティア活動を応援する環境づくり			
課題	○ 若い世代の地域福祉に関わるきっかけづくり	対策	・ 若い世代が参加しやすい講座の提供 ・ 学校等と協働した企画の実施
基本目標②:住民主体の活動づくり			
推進項目: 地域福祉力の向上			
重点項目① 地域福祉活動の担い手づくり			
課題	○ 新たな活動者の獲得につながる講座の継続 ○ 参加しやすい講座の開催	対策	・ 福祉教養大学の卒業生の活動支援 ・ 気軽に参加・取り組める福祉活動の講座の開催
重点項目② 地域で支えあう仕組みづくり			
課題	○ より身近な医療福祉を考える会議の開催 ○ 町内会との連携 ○ ニーズに応じた活動の提供	対策	・ 医療福祉を考える会議の参加者の拡大 ・ 他分野との協働 ・ 町内会への学区社協・市社協事業の周知啓発 ・ ボランティアを促進する好循環の仕組みづくり ・ 学区社協・他団体からの事業提案を形にする仕組みづくり
重点項目③ 住民福祉活動計画の推進			
課題	○ ニーズに応じた活動の提供(再掲)	対策	・ 学区社協・他団体からの事業提案を形にする仕組みづくり
基本目標③:絆をつなぐまちづくり			
推進項目: ボランティア活動の充実と住民参加の仕組みづくり			
重点項目① ボランティア活動の充実と活性化			
課題	○ ボランティア団体同士のつながりづくり	対策	・ 市社協を交流・居場所づくりとして拠点化する ・ プラットホームとしての役割の強化 ・ ボランティアの楽しさを実感してもらえる体験の創出
重点項目② ボランティア活動への住民参加の促進			
課題	○ 若年層のボランティア活動のきっかけづくり ○ 新たなボランティア獲得の仕組みづくり	対策	・ 学校と協力したボランティア活動の機会創出 ・ 若い世代が得意とする分野のボランティア活動の構築 ・ 住民ニーズ等を把握したボランティアのマッチング強化 ・ ボランティア活動による好影響のPR ・ 気軽に参加してもらえるボランティア講座の実施
重点項目③ すべての人が社会参加する仕組みづくり			
課題	○ 障害者・高齢者であっても参加できるボランティアの仕組みづくり ○ 誰もが参加しやすい居場所づくり ○ 災害を我がごととして捉える機会の創出	対策	・ 収集ボランティア等の誰もができる活動の周知強化 ・ 誰もが参加できるボランティア活動の拡充 ・ 学区ごとの拠点・居場所づくりへの支援 ・ フードバンクと災害支援の連携 ・ 町内会との連携

II 市社協が取り組む福祉のまちづくり ～地域福祉活動発展計画～

推進項目：住み慣れた地域で安心して暮らせる体制づくり

重点項目① 学区社協をはじめとした地域福祉活動支援			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後継者の育成・発掘 ○ 誰もが参加しやすい居場所づくり ○ 学区の取組に関する情報発信と学区社協への支援強化 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学生と学区社協活動のマッチング ・ 活動グループの立ち上げ支援・活動グループへのマッチング支援 ・ 個人ボランティアの育成 ・ 他団体と協働した居場所づくり ・ 地域に根ざして地域福祉活動への支援 ・ 学区社協等の活動の見直し ・ 学区社協の取組の周知強化
重点項目② 小地域福祉活動における民生委員・児童委員との連携			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門職と地域の連携等への働きかけ 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職の出番をつくる
重点項目③ ボランティアセンターの機能強化			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 住民ニーズの把握 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズのデータベース化

推進項目：個別援助活動の充実と市社協の基盤づくり

重点項目① 地域福祉権利擁護事業の充実			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域福祉権利擁護事業の利用促進 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉権利擁護事業の周知啓発強化 ・ 地域福祉権利擁護事業における他団体との連携強化
重点項目② 心配ごと相談・貸付事業の充実			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 包括的な相談体制の構築 ○ 潜在化しているニーズの掘り起こし 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的な相談体制の仕組みづくり ・ 潜在化しているニーズに基づく新たな事業の構築
重点項目③ 行政・専門機関、福祉専門職との連携強化			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 包括的な相談体制の構築 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的な相談体制の仕組みづくり
重点項目④ 役員体制と事務局体制の強化			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の人材育成・業務量の見直し 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市社協事業のスクラップ&ビルド ・ 権利擁護事業の専門員・生活支援員への研修の充実
重点項目⑤ 地域福祉活動推進に要する財源確保			
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 財源確保 ○ 企業へのPR 	対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな財源確保の方法を構築 ・ 善意銀行のさらなる周知啓発 ・ 企業へのPR ・ 企業と協働できる事業の構築 ・ 企業との連携強化

2. 第4次草津市地域福祉活動計画の基本理念と基本目標

(1) 基本理念

誰もが 心温かく支えあい 住み続けたい
福祉のまち・くさつ

全ての人、一人ひとり生まれながらに平等であり、かけがえのない存在であるという基本的人権を尊重し、差別や偏見のない地域共生社会の実現をめざします。

草津市では、様々な地域福祉活動を通じて、高齢者が高齢者を、高齢者が子どもを支え、助け合いや支えあいの輪が広がりつつあります。子どもも高齢者も障害者も外国籍の方も、支える側、支えられる側と区別することなく、お互いを尊重しながら支えあえる地域福祉活動を今後さらに広げていきたいと考えます。

そのために、第4次計画では「誰もが」を強調し、基本理念として掲げました。

身近な家族や友人だけでなく、同じ地域で暮らす“誰か”の生活課題を、自分の問題として捉え、地域のみんなで考え、地域全体で支えあい・お互いに助けあえることが当たり前になる、これからもずっと住み続けたい福祉のまち・草津市をめざします。

この基本理念をめざして、草津市地域福祉活動計画では、実施する内容を明確に分けるために、Ⅰ部は、住民を主語とした住民主体の福祉活動計画としました。Ⅱ部は、草津市社協を主語とし、市社協の事業推進計画としました。Ⅰ部・Ⅱ部に分けて、それぞれ基本目標・基本項目を明記します。

(2) 基本目標

Ⅰ 住民主体の福祉のまちづくり～参加と協働の地域福祉活動の推進～

Ⅰ部では、基本理念をめざして、学区社協をはじめとした「地域住民」と「市社協」がともに進めていく活動について、基本目標・基本項目を掲げ、地域住民と市社協がともに、地域福祉の推進を進めていきます。

基本目標1 福祉の風土づくり

～福祉の風土を広げ、地域のくらしの課題を他人ごととしない、地域福祉力の向上をめざします～

福祉教育や啓発活動の充実に取り組み、尊重され、くらしの課題を他人ごととしない福祉の風土を広げ、課題を受け止め支え合いの活動を進めます。

- 基本項目1 地域福祉に関する新たな周知啓発方法の開発
- 基本項目2 若い世代に福祉風土を広げる
- 基本項目3 住民どうしが互いに見守り・気にかけてあう関係を広げる

基本目標2 住民主体の活動づくり

～地域の困りごとを話し合い、未来に向けた人づくり・活動を考える～

くらしの課題を共有し、課題の解決に向けての地域福祉力向上を図るため、人づくりと支えあう体制づくりを進めます。

基本項目1 小学校区を基盤とした地域福祉力の向上

- 1-1 地域福祉活動の担い手づくり
- 1-2 地域で支えあう仕組みづくり
- 1-3 住民福祉活動計画の推進

基本項目2 ボランティア活動の充実と住民参加の仕組みづくり

- 2-1 若い世代のボランティア活動のきっかけづくり
- 2-2 新たなボランティア発掘の仕組みづくり
- 2-3 誰もが参加できるボランティアの仕組みづくり

基本目標3 新たな絆をつむぐまちづくり

～地域・分野を超えた新たなつながりづくりを考える～

いきいきと楽しく活動する場と、活動する人たちの輪を広げるため、地域や福祉という分野にとらわれず、多種多様な新たなつながりづくりを進めていきます。

基本項目1 地域を超えたつながりづくり

基本項目2 分野を超えたつながりづくり

Ⅱ 市社協が取り組む福祉の基盤づくり～地域福祉活動発展計画～

Ⅱ部では、市社協が地域福祉の向上をめざして、学区社協支援をはじめとする地域福祉活動を支援する体制づくりや、個別援助活動をはじめとする相談体制の仕組みづくり、市社協の運営面での基盤強化を進めていきます。

基本目標 地域で安心して暮らしつづけることのできる体制づくり

誰もが地域で、安心して暮らせるまちをめざして、学区社協をはじめとした地域福祉活動の支援や、くらしの困りごとを受け止める相談体制の充実、地域福祉活動の中核となる市社協の基盤づくりを強化します。

基本項目1 地域福祉活動支援の推進

- 1-1 学区社協をはじめとした地域福祉活動支援
- 1-2 小地域福祉活動における民生委員・児童委員との連携
- 1-3 ボランティアセンターの機能強化
- 1-4 企業等との連携・ネットワークの構築

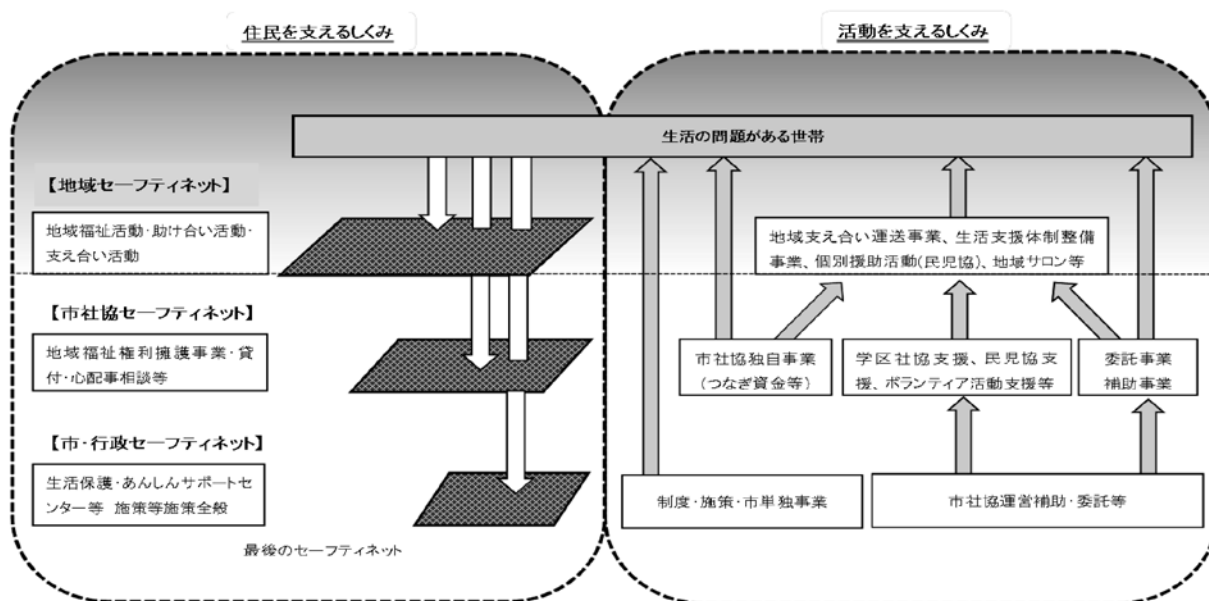
基本項目2 個別援助活動の充実

- 2-1 包括的な相談体制の構築
- 2-2 地域福祉権利擁護事業の充実

基本項目3 市社協の基盤強化

- 3-1 地域福祉活動推進に要する財源確保
- 3-2 事務局体制の強化

〈住民を支える仕組みと活動を支えるしくみ〉



第4次草津市地域福祉活動計画の体系図



※網掛は、第4次計画における重点項目

第4部 実施計画

I 住民主体の福祉のまちづくり～参加と協働の地域福祉活動の推進～

基本目標 1 福祉の風土づくり

基本項目1 地域福祉に関する新たな周知啓発方法の開発 **重点**

見える社協、魅せる社協活動をめざして積極的な広報啓発を行い、住民への周知・啓発を行うことで、地域の取組に関心をもつ人を増やし、地域の福祉力アップを図ります。

住民活動の目標

- ・地域の様々な活動に光をあてて、様々な団体と協力しながら、広く地域活動の楽しさ等をPRし、一人ひとりの福祉意識を高めるきっかけづくりをします。
- ・地域の様々な活動の楽しさ・良さをPRし、実際に参加してもらうことで、“共感”してもらうきっかけづくりをします。
- ・地域の様々な団体と協力しながら、地域活動の情報の周知・啓発を進めます。

市社協の実施項目

- ・市社協事務所の立地の利点を生かし、他団体とのさらなる連携を深めるとともに、他団体の広報紙への記事掲載や、他団体へのイベント等に協力・参加する等を通じて、周知・啓発を行うことで、市社協事業が見える機会を増やします。
- ・SNS等新たな周知啓発方法を検討し、より多くの人に「伝わる」周知啓発を行います。
- ・「社協くさつ」点字版だけでなく英語表記版など、外国籍の方にも伝わる広報紙の作成を検討します。
- ・地域に出向く機会を増やし、社協活動や地域の取組をPRする機会を増やします。

市社協事業における活動例

- ・広報紙「社協くさつ」発行 ・ホームページ ・近所力アップ講座
- ・「広報くさつ」、「社協くさつ」点字版作成 ・市社協キャラクター「ふくちゃん」啓発
- ・ふくちゃんプロジェクト

基本項目2 若い世代に福祉風土を広げる

特に若い世代を対象に、福祉教育やボランティアのきっかけづくりに取り組むことで、小さいときから福祉を身近に感じてもらい、若年層の福祉風土を広げていきます。

住民活動の目標

- ・学校等と連携・協働した、福祉教育や地域福祉活動を実施します。
- ・子どもも参加しやすい地域福祉活動を進め、子どもと地域がつながる風土づくりを進めます。

市社協の実施項目

- ・福祉教育をはじめ、学校等と連携・協働した企画を立て、子どもや保護者も参加しやすい講座やボランティア体験教室等、若い世代に「福祉」を身近に感じてもらえる取組を進めます。
- ・中学・高校・大学生の得意分野を生かした活動や、学生が企画した事業の立案等、学生と協働した活動づくりを検討します。
- ・市社協キャラクター「ふくちゃん」を活かした啓発活動を発展させ、より多くの人に地域福祉活動に関心をもってもらうきっかけづくりをします。

市社協事業における活動例

- ・近所力アップ講座 ・福祉教育 ・ボランティア体験教室
- ・ふくちゃんプロジェクト ・市社協キャラクター「ふくちゃん」啓発

〈ボランティア活動を広げるふくちゃんプロジェクト〉



布マスクとマスクケース



クリアファイルでつくるマスクケース



ふくちゃんプロジェクト

基本項目3 住民どうしが互いに見守り・気にかけてあう関係を広げる

住民どうしがつながり合い、お互いを見守り・気にかけてあう関係をつくることで、日々の生活や地域の困りごとに気づく人を増やし、地域の福祉力の向上に努めていきます。

住民活動の目標

- ・地域に根ざした研修・講座を通して、身近な福祉を知ってもらうことで、福祉意識を高め、互いに見守り・気にかけてあう関係を広めます。
- ・地域で活動する福祉委員の設置を進め、福祉委員^{※1}を活かした見守り・気にかけてあう関係づくりを広めます。
- ・地域サロンや子育てサロンをはじめとする、様々な見守り活動を進めます。
- ・気軽に立ち寄ることができる「居場所づくり」を進めていきます。
- ・地域活動を行っている団体ともっと知り合い、団体同士の気にかけてあう関係づくりを進めていきます。

市社協の実施項目

- ・福祉に関心を持つ人を増やすため、地域で起きている問題等を「我がごと」として感じるきっかけづくりとなる研修・講座を行います。
- ・研修・講座により参加しやすくするために、対象者や地域を明確にした企画や、オンラインでの実施などの工夫を行います。
- ・「福祉委員」の役割を明確にし、やりがいを見いだせる活動の充実を促進します。
- ・地域サロンをはじめとする、地域の様々な見守り活動の支援を進めます。
- ・気軽に立ち寄ることができる「居場所づくり」の設置・活動支援を進めます。

市社協事業における活動例

- ・近所力アップ講座 ・福祉委員活動設置支援 ・ボランティア養成講座
- ・地域サロン活動支援 ・チューリップ(つながりサポート)事業
- ・社会を明るくする運動

※1 福祉委員とは、学区社協や町内会長と連携して、地域の福祉課題の解決を図るなど、福祉のまちづくりに関する身近な活動を推進する役割を担っています。学区に応じて具体的な役割や名称が異なっており、福祉推進員や福祉ボランティア委員等とも呼ばれています。



チューリップ事業
「つながりサポート事業」

基本目標 2 住民主体の活動づくり

くらしの課題を共有し、解決に向けての地域福祉力向上を図るため、人づくりと支えあう体制づくりを進めます。

基本項目1 小学校区を基盤とした地域福祉力の向上

身近な地域の集まりである町内会が所属する小学校区を、重要な地域のまとまりとして捉え、小学校区の地域の特徴を踏まえた上で、地域福祉力の向上と住民主体の地域福祉活動の発展のため、その基礎をなす人づくり、支えあう体制をつくりまします。

1-1 地域福祉活動の担い手づくり **重点**

地域福祉を推進するため、各学区の地域福祉活動の基礎となる人づくりを、より一層進めます。

住民活動の目標

- ・絆を深めるには、まず知り合いになることが必要であり、みんなで一緒に行う行事を何回も継続して行えるよう、他団体との連携を図ります。
- ・地域福祉推進のための大事な役割を担う活動者を市社協と協働して育成し、その活躍の場を広めます。
- ・福祉委員の設置を支援し、地域福祉活動に理解を深め、協力してくれる人を増やしていきます。
- ・福祉委員の役割を明確にし、やりがいを見いだせる活動の充実を促進します。
- ・福祉委員の任期後も地域福祉活動に関わってもらえるように取り組んでいきます。
- ・学区社協の見える化や、住民に共感が得られるような活動を行い、ともに活動をしていく人を増やしていきます。
- ・協力できる範囲は人それぞれであることを認識し、気軽に参加できる地域福祉活動をPRしつつ、やってみたい・やりたいと思ってくれる人を応援していきます。

市社協の実施項目

- ・新たな担い手の発掘・育成を行っていくため、活動につながる講座の開催や、講座を受講した後の、「活躍の場」を提供できるよう、活動支援を行います。
また、気軽に参加・取り組むことのできる地域福祉活動の紹介を行っていきます。
- ・福祉委員の設置を支援し、地域福祉活動に理解を深め、協力してくれる人を増やします。
- ・学区社協や市社協事業を知ってもらい、活動に共感し、活動に参加するきっかけづくりとするため、様々な団体と連携を図り、「知ってもらう機会」を増やすよう取組を行います。

市社協事業における活動例

- ・ 草津市福祉教養大学・大学院 ・ 福祉委員活動設置支援
- ・ 地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の推進

1-2 地域で支えあう仕組みづくり **重点**

くらしの課題を共有し、課題の解決に向けた地域福祉活動を進めていくことで、地域で支えあう仕組みを推進します。

住民活動の目標

- ・ 学区社協が地域福祉活動を進めている人と、地域の様々な福祉関係団体（医療機関・福祉事業所等）と顔の見える関係を作りながら、地域のさまざまな課題を共有し、ニーズや課題に応じた地域の取組について考える医療福祉を考える会議や地域福祉懇談会の開催・継続をめざします。
- ・ 学区社協は、他団体（学校・企業・その他の地域団体等）を巻き込み、連携を図りながら地域福祉活動を進めます。
- ・ 学区社協の活動を広く広報するため、他団体と協働して広報を行い、学区社協活動が見える媒体を増やすことで、見える機会を増やし、活動の周知・啓発を行います。

市社協の実施項目

- ・ 地域のさまざまなくらしの問題を受け止められる地域づくりを進めます。
- ・ 学区ごとの医療福祉を考える会議を継続していけるよう（未設置学区については会議が開始できるよう）、地域福祉コーディネーターとして、地域の現状やニーズを把握しながら、会議の内容の充実を図ります。
- ・ 学区社協が実施する地域福祉活動をはじめ、様々な情報収集を行い、市社協や他団体の広報媒体などを用いて、地域の活動に光を当てていきます。
- ・ 新たな地域福祉活動を構築していくために、学区社協や他団体等からの事業提案を形にできるように伴走型の支援を行いつつ、事業提案を応援できるような仕組みづくりを進めます。

市社協事業における活動例

- ・ 医療福祉を考える会議
- ・ 地域支え合い運送支援
- ・ 福祉車両貸出
- ・ 電話訪問事業
- ・ 地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の推進
- ・ 草津フードバンクセンター
- ・ まごころ便
- ・ 共同募金活動助成

1-3 住民福祉活動計画の推進

地域住民と市社協がともに、同じ理念のもと、地域福祉活動に取り組めるよう、各学区の課題を把握しながら、住民福祉活動計画を策定し、未来に向けた地域福祉の推進を図ります。

住民活動の目標

- ・ 各学区社協は、各種団体と話し合い、暮らしの困りごとを共有し、各地域に応じた住民福祉活動計画を策定していきます。
- ・ 計画策定後には、各学区社協が、住民福祉活動計画を基に、具体的な活動目標を設定し、その実施に努め、毎年度検証していきます。

市社協の実施項目

- ・ 各学区が、各地域の現状とニーズをとらえた住民福祉活動計画を策定できるよう、地域の課題の共有と課題に応じた地域の取組について考える、医療福祉を考える会議等の活動と連動させながら、策定支援を行います。
- ・ 計画策定の過程を大切にした、策定支援・計画策定のひな型を作り、学区支援につなげます。
- ・ 住民福祉活動計画の進捗状況に応じながら、地域福祉のプラットフォームとしての役割を發揮し、地域を多方面から支えることで、地域の福祉課題の解決に結びつけます。

市社協事業における活動例

- ・ 地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の推進
- ・ 医療福祉を考える会議



各学区住民福祉活動計画と草津市地域福祉活動計画



学区・区社協

基本項目2 ボランティア活動の充実と住民参加の仕組みづくり

住民どうしがふれあい、いきいきと楽しく活動できるボランティア活動を広めていくため、多種多様なニーズをつかみ、ボランティア活動につなげていくことで、ボランティア活動の充実を図ります。また、誰もが参加できるボランティアの仕組みづくりを進めることで、ボランティアの輪を広めます。

2-1 若い世代のボランティア活動のきっかけづくり **重点**

ボランティアの高齢化が進む中、若い世代にボランティア活動に関心をもってもらい、ボランティア活動に参加してもらえるよう、ボランティアの魅力発信や、子どもや保護者が参加しやすいボランティア活動を広げる等、きっかけづくりを進めます。

住民活動の目標

- ・学校等と連携・協働してできるボランティア活動を進めます。
- ・様々な地域の活動に、子どもをはじめとする若い世代が役割をもって参加してもらえるように進めます。
- ・子どもが参加できるようなボランティア活動の周知・啓発を行い、親世代も巻き込み、子どもを通じたボランティア育成を進めます。

市社協の実施項目

- ・学校で行う福祉教育等と協力・連携したボランティア活動の構築をめざします。
- ・住民にわかりやすく、かつ多様なボランティア活動を紹介する冊子の作成や、身近なボランティア活動の紹介を通じて、地域に応じたボランティア活動を広げます。
- ・若い世代が得意とする分野のボランティア活動の構築をめざします。
- ・中学、高校、大学生と協働で、新たなボランティア体験の企画・立案をするなど、子どもを含めた若い世代に関心をもってもらえるようなボランティア活動の推進を図ります。

市社協事業における活動例

- ・福祉教育 ・ボランティア体験教室、ボランティア養成講座
- ・ボランティアリスト、地域サロンリスト作成 ・移動ボランティアセンター
- ・赤い羽根助成事業つながり紡ぐ☆ハッピーチャレンジ事業

2-2 新たなボランティア発掘の仕組みづくり **重点**

ボランティアの魅力を知り、ボランティアに関心をもつ人を増やしていく仕組みづくりを進めることで、さらなるボランティアの輪を広めます。

住民活動の目標

- ・福祉活動の事例を広く住民に伝え、趣味や特技がボランティア活動につながるきっかけづくりを進めます。
- ・地元の企業、福祉施設等の社会貢献活動と、地域福祉活動とが連携した活動を推進します。

市社協の実施項目

- ・地域の各団体とボランティアとが顔見知りとなり、身近なところでともに支えあう関係づくりができるよう、関係性を強化します。
- ・住民のニーズ把握を行った上で、ボランティアをやってみたい人の得意なことで社会貢献できる機会を提供することで、住民や地域福祉活動とボランティアをつなげます。
- ・ボランティアの楽しさを実感できる好循環の仕組みづくりについて、様々な団体と連携しながら進めます。

市社協事業における活動例

- ・ボランティア体験教室、ボランティア養成講座
- ・ボランティアセンター
- ・まごころ便
- ・草津フードバンクセンター
- ・ふくちゃんプロジェクト

2-3 誰もが参加できるボランティアの仕組みづくり

誰もが参加でき、いきいきと楽しく活動できるボランティア活動の仕組みと、参加した人が社会貢献を実感してもらえる仕組みづくりを進めます。

住民活動の目標

- ・ボランティアに参加することが、自分自身の生きがいや楽しみにつながり、また健康増進や介護予防にもつながるということを啓発します。
- ・誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりを進めます。
- ・散歩をしつつ、子どもの登下校の見守りをする等、身近にできるボランティアを広めます。
- ・誰もが参加しやすい居場所づくりを推進し、誰もが交流できる機会を設け、交流を通じて、支えあうきっかけづくりを推進します。

市社協の実施項目

- ・気軽に参加できるボランティア講座を企画し、より多くの人にボランティアの魅力や楽しさを伝える取組を進めます。
- ・ペットボトルキャップをはじめとする収集ボランティアの周知・啓発を進めつつ、気軽にできるボランティア活動の新たな仕組みづくりについても検討を進めます。
- ・普段の暮らしを行いながら、一緒に取り組めるような身近なボランティア活動事例等をより広く発信します。
- ・災害時の保存食とフードバンクを結びつけるなど、市社協の事業の中でリンクできる取組を検討します。
- ・誰もが気軽に参加できる居場所づくりの活動支援を行います。

市社協事業における活動例

- ・収集ボランティア
- ・ボランティアセンター
- ・災害ボランティアセンター
- ・ボランティア体験教室、ボランティア養成講座
- ・草津フードバンクセンター



災害ボランティアセンター



草津フードバンクセンター

基本目標 3 新たな絆をつむぐまちづくり

基本項目1 地域を超えたつながりづくり

小学校区内にとどまらず、地域で活動する人たちのつながりをつむぎ、小学校区という地域を超えたつながりづくりを進め、活動の輪を広めます。

住民活動の目標

- ・小学校区にとどまらず、学区外の交流を図る等、地域で活動する人や団体と協力した活動を進めます。

市社協の実施項目

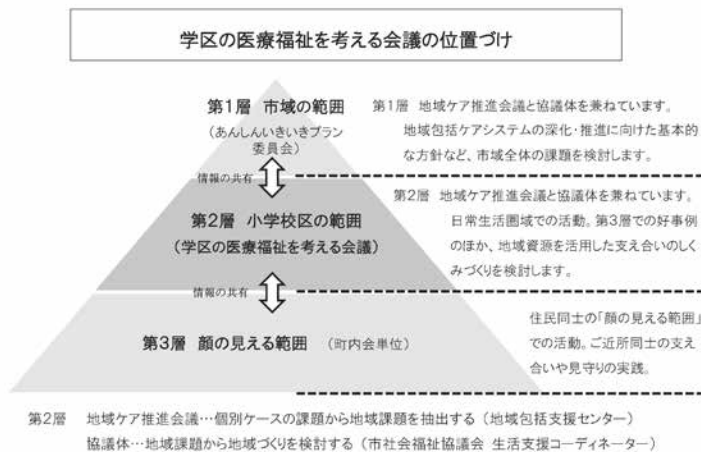
- ・小学校区にとどまらず、活動する個人ボランティアやボランティア団体の育成に努めます。
- ・市社協をボランティア活動者・団体の拠点とし、活動者や団体の交流の場となるよう取り組みます。
- ・ボランティア活動だけでなく、地域で様々な活動をする人や団体が交流できるような機会をつくり、お互いの活動の良さを伝えあい、自分たちの活動の参考にしてもらおう場をつくります。
- ・地域の各種団体の行事を行き来する等しながら、一緒にできる活動について考えます。
- ・地域で様々な活動をする人や団体と学区社協をはじめとする団体がともに活動できるよう、活動のマッチング支援を行います。

市社協事業における活動例

- ・ボランティアセンター
- ・地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の推進
- ・医療福祉を考える会議（生活支援体制整備事業第2層協議体）



生活支援体制整備事業
(第2層協議体)



医療福祉を考える会議
(生活支援体制整備事業第2層協議体)

基本項目2 分野を超えたつながりづくり **重点**

福祉にとどまらず、地域の企業や学校、各種団体などつながり、連携を図ることで、地域の課題や地域の活動について協働で行う取組を進めます。

住民活動の目標

- ・医療福祉を考える会議等で、目的に応じて、福祉関係者にとどまらず、顔の見える関係づくりを進めます。
- ・様々な地域の団体等に、地域福祉活動の魅力等を周知・啓発することで、協力者を増やします。
- ・様々な地域の団体等が、地域福祉活動に協力できる部分を見つけ、ともに地域を支える存在として理解し合い、ともに活動できることを増やします。

市社協の実施項目

- ・医療福祉を考える会議等で、地域の団体等が、学区社協をはじめとする団体や活動する人と顔見知りとなり、身近なところでともに支えあう関係づくりができるよう、関係性を強化します。
- ・寄付いただいた物品を、地域で活動する人や団体にお届けする取組を通じて、様々な団体と地域がつながるきっかけづくりを促進します。
- ・様々な分野を超えた団体と協力し合うことで、新たなつながりを生み出す居場所づくり等の活動につながるよう支援を行います。
- ・ボランティア活動やNPO活動の情報を収集し、各種団体と連携しながら、分野にとられない多種多様なボランティア活動を広め、くらしの課題を解決する取組を進めます。

市社協事業における活動例

- ・医療福祉を考える会議
- ・地域コーディネーターによる地域活動支援
- ・善意銀行
- ・まごころ便
- ・草津フードバンクセンター
- ・ボランティアセンター



Ⅱ 市社協が取り組む福祉の基盤づくり～地域福祉活動発展計画～

基本目標 地域で安心して暮らしつづけることのできる体制づくり

基本項目1 地域福祉活動支援の推進

学区社協をはじめとする地域で活動する人や団体の支援を行うことで、地域福祉活動を活性化し、誰もが安心して暮らせる体制をめざします。

1-1 学区社協をはじめとした地域福祉活動支援 重点

地域福祉の推進に欠かせない学区社協をはじめ、地域で活動する団体等に地域福祉のプラットフォームとしての役割を発揮し、ともに地域福祉活動を展開します。

市社協の実施項目

- ・地域福祉活動の拠点である学区社協を支援し、ともに地域福祉活動を展開します。
- ・職員の学区担当制を設け、地域に根差した活動を推進します。
- ・各種研修会への参加や職員研修の実施を通して、職員の地域福祉コーディネーターとしての資質の向上に努めます。
- ・学区社協の取組の情報発信を強化し、学区社協の見える化・魅せる化を推進します。

1-2 小地域福祉活動における民生委員・児童委員との連携

地域の身近な相談相手である民生委員・児童委員との連携・活動支援とともに、地域住民の困りごと等を地域の課題として捉え、新たな事業構築などの地域福祉の推進につなげます。

市社協の実施項目

- ・職員の学区担当制による情報提供や学区社協等との連携を図り、地域のさまざま取組を通して、個別援助活動がより一層推進できるように支援します。
- ・民生委員・児童委員や地域の専門職との連携を強化します。
- ・民生委員・児童委員と連携し、地域の潜在化しているニーズの掘り起こし、必要に応じて新たな事業の構築につなげます。

1-3 ボランティアセンターの機能強化 **重点**

ボランティアニーズの把握や、マッチング機能、ボランティアの養成や魅力のPR等、ボランティアセンターとして必要な機能を強化し、ボランティアセンターがより一層ボランティア活動の拠点となるよう取り組みます。

市社協の実施項目

- ・ボランティアの周知・啓発を行い、子どもから高齢者まで様々な年代層のボランティア意識の向上を図ります。
- ・ボランティア活動の継続を支援します。
- ・ボランティア同士のつながりづくりを進めます。
- ・住民のニーズを把握し、求められるボランティア活動を踏まえて、新たなボランティアを育成します。
- ・活躍の場となる活動を提供する等のマッチング支援を行います。
- ・誰もが気軽に参加できるボランティア活動の仕組みづくりを構築します。
- ・災害時に対応する災害ボランティアセンターの運営訓練を毎年実施します。

1-4 企業等との連携・ネットワークの構築

企業や学校、福祉事業所等、地域にある様々な団体等と、市社協が率先して連携を図り、かつ地域福祉活動の魅力などを情報発信していくことで、様々な団体と地域活動が連携を図るきっかけとし、様々なネットワークの構築へつなげます。

市社協の実施項目

- ・市社協事業や学区社協活動等、地域福祉活動の情報の周知・啓発を行います。
- ・寄付金、寄付物品、活動場所の提供や、ともに活動する活動者など、具体的な協力事例を提案しながら、協働できる活動づくりを図ります。



まごころ便



ありがとうメッセージ

基本項目2 個別援助活動の充実

貧困・孤立・孤独等を防ぎ、相談内容を受け止めることができる相談体制を構築しつつ、様々な関係団体と連携を図ることで、住民に安心を届けます。

2-1 包括的な相談体制の構築 **重点**

- ・心配ごと相談所の周知・啓発を強化し、すべての人の相談に対応します。
- ・生活福祉資金貸付をはじめ、個々の問題を受け止められる相談者として、研修に参加する等、職員の相談能力の向上を図り、相談体制を強化します。
- ・民生委員・児童委員をはじめ、人とくらしのサポートセンター等の各種相談機関との連携を強化し、相談を受け止め、切れ目のない支援が行える体制づくりを進めます。

2-2 地域福祉権利擁護事業の充実

- ・生活支援専門員、生活支援員の力量を向上させ、利用者がより安心して生活を送れるようにしていきます。
- ・金銭の入出金等に係る事務処理をより厳格なものとし、利用者の財産保全を確実なものとしします。
- ・地域包括支援センターや生活保護担当部署等、関係機関との連携をより強化し、利用者の課題に対してチームで取り組みます。
- ・よりわかりやすい広報紙やパンフレット、ホームページでの啓発、また出前講座を実施し、本事業への理解を深める取組を進めます。

基本項目3 市社協の基盤強化

地域福祉活動を安定的・継続的に進めることができるよう、市社協事務局の体制を築くため、必要な財源の確保や、職員の育成に努めます。

3-1 地域福祉活動推進に要する財源確保 **重点**

- ・「見える社協、魅せる社協活動」について企業等へPRすることで、地域福祉活動を応援してくれる賛助会員を増やし、加入促進を図るとともに、市社協会費制度への理解と協力を広げます。
- ・クラウドファンディングや目的を明確にした寄付金の提案等、新たな財源確保の方策を検討します。
- ・市内の地域福祉活動へ助成を行っている赤い羽根共同募金運動を盛り上げることで、財源確保につなげます。

3-2 事務局体制の強化

- ・ 役職員等に対しての地域福祉研修会などを実施し、社会変化に応じた社協運営ができるよう努めます。
- ・ 全職員のスキルアップをはかり、地域福祉コーディネート機能を発揮できるよう努めます。
- ・ 事業の効果等確認し、継続する事業や見直す事業を明確にし、より地域のニーズにあった事業への更新等を行います。
- ・ 「草津市社会福祉協議会職員行動原則」にのっとり、常に使命感をもち、信頼される社協づくりを進めます。

市社協が担う事務局機能

●草津市民生委員児童委員協議会事務局

- ・ 民生委員・児童委員活動における、個々の暮らしの問題を受け止め、解決するための引き出しづくりを支援します。
- ・ 地域の団体と連携し、民生委員・児童委員活動が円滑に進むように支援します。
- ・ 市内全域の市民児協活動と、それぞれの地域に応じた地区民児協活動の土台づくりを進めます。

●滋賀県共同募金会草津市共同募金委員会事務局

- ・ 共同募金運動の促進を図るため、広く市民に対して募金の使いみちを明確にし、あらゆる機会において啓発を行うとともに、その方法を工夫して地域の団体や市民等の賛同者を増やし、地域全体で共同募金運動を盛り上げていく風土づくりに努めます。
- ・ 赤い羽根助成事業ハッピーチャレンジ事業をはじめとするテーマ型の募金活動等の新たな取組を進めることで、より多くの方に、地域とともに歩む共同募金運動の趣旨に賛同いただけるよう努めます。

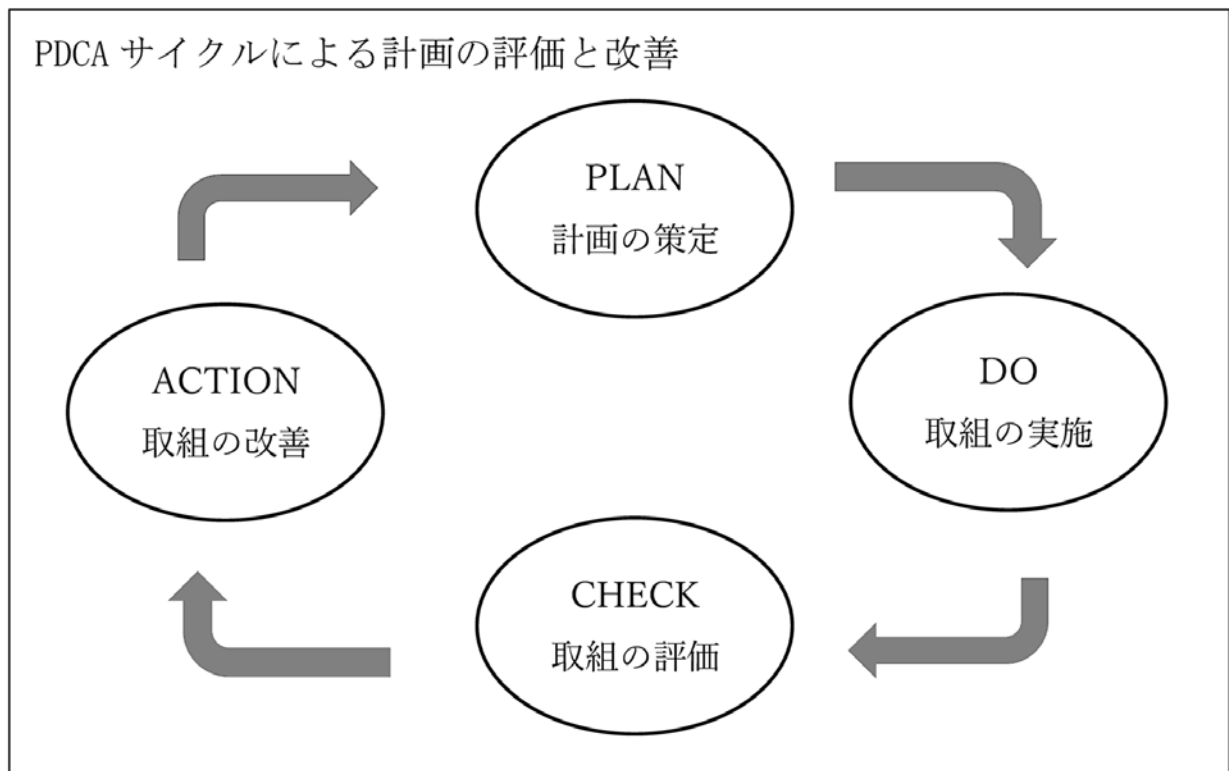
●日本赤十字社滋賀県支部草津市地区事務局

- ・ 活動資金募集および義援金募集の積極的な啓発や赤十字奉仕団の活動支援を通し、人道・博愛の赤十字精神の普及を図ります。

第5部 計画の評価

本計画の推進にあたっては、市社協が主体となって、学区社協や行政、福祉サービス事業所、民生委員・児童委員、地域住民組織、NPO 法人やボランティア団体等および関係機関と常日頃から連携して取り組みます。

また、地域における地域福祉活動の取組状況の把握と、本計画の施策・事業の進捗管理を定期的に行うとともに、PDCA サイクルによる評価を実施します。



第4次草津市地域福祉活動計画策定の経過

策定委員会・作業部会開催一覧

年月日	会議名	内容
令和3年 7月29日	策定委員会・作業部会 第1回合同会議	<ul style="list-style-type: none"> ・策定委員長・副委員長の選出、作業部会長・副部会長の選出 ・地域福祉活動計画について ・計画策定の意義について ・データからみる草津市について ・3次計画の取組結果と課題について
8月31日	第2回作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・学区社協アンケートの報告について ・分野別アンケートの実施について ・市社協事業の二次検証(文書にて意見集約)
10月22日	第3回作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協事業の二次検証 ① 事前に二次検証の意見集約したものを提示し意見交換 ② 4次計画の柱・体系について意見交換 ※グループワーク形式で実施
11月19日	第2回策定委員会・ 第4回作業部会合同会議	<ul style="list-style-type: none"> ・4次計画の基本理念・基本目標・実施計画・重点項目について ・4次計画のイメージについて
12月3日	第5回作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・4次計画のイメージおよび基本理念等について ・4次計画素案について
12月24日	第3回策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・4次計画素案について
令和4年 2月7日	第6回作業部会	<ul style="list-style-type: none"> ・4次計画素案について
2月17日	第4回策定委員会・ 第7回作業部会合同会議	<ul style="list-style-type: none"> ・4次計画本編案について

第4次草津市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

No.	氏名	所属・役職等	備考
1	清水 和廣	草津市社会福祉協議会会長	委員長
2	筒井 のり子	龍谷大学社会学部現代福祉学科教授	副委員長
3	宇野 敬造	学区社協会長会（志津社会福祉協議会会長）	
4	大久保 義一	草津市民生委員児童委員協議会会長	
5	出呂町 馨	草津市民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会代表	
6	大脇 正美	草津市ボランティア連絡協議会会長	
7	中村 陽子	草津学区社会福祉協議会会長／地域拠点「ゆかい家」活動者	
8	佐々木 絹代	草津市赤十字奉仕団委員長	
9	安達 美幸	指定居宅介護支援事業所きららケアマネジャー	
10	宮下 千代美	特定非営利活動法人ディフェンス理事	
11	安武 邦治	滋賀県社会福祉協議会縁企画・改革グループ グループリーダー	
12	山本 敏雄	まちづくり協議会連合会（人と地域が輝く常盤協議会副会長）	
13	木戸脇 美由紀	学校関係（校長会）南笠東小学校校長	
14	嶋村 謙太	圏域包括支援センター（玉川地域包括支援センター所長）	
15	岸本 正俊	草津市健康福祉部健康福祉政策課長	

第4次草津市地域福祉活動計画策定委員会作業部会員名簿

No.	氏名	所属・役職等	備考
1	山本 清治	学区社協会長会（老上学区社会福祉協議会）	部会長
2	村田 智美	龍谷大学社会学部現代福祉学科講師	副部会長
3	筒井 のり子	龍谷大学社会学部現代福祉学科教授	
4	八木 良人	学区社協会長会（大路区社会福祉協議会会長）	
5	中野 和彦	学区社協会長会（玉川学区社会福祉協議会会長）	
6	飯田 美智子	草津市民生委員児童委員協議会副会長	
7	中島 由里子	草津手をつなぐ育成会理事長	
8	安間 陽子	やんちゃ寺（子ども食堂）ボランティア/フードバンクボランティア 地域福祉権利擁護事業・生活支援員	
9	丸林 浩二	草津市ボランティア連絡協議会副会長	
10	岡 顯朗	市民活動者/学識経験者/第3次草津市地域福祉活動計画作業部会長	
11	宮下 千代美	特定非営利活動法人ディフェンス理事	
12	安達 美幸	指定居宅介護支援事業所きらケアマネジャー	
13	嶋村 謙太	圏域包括支援センター（玉川地域包括支援センター所長）	
14	川北 聡	株式会社平和堂 フレンドマート草津大路店店長	
15	田村 憲嗣	草津市健康福祉部健康福祉政策課課長補佐	
16	松永 祐子	草津市子ども未来部子ども若者政策課課長	
17	西山 宜克	草津市まちづくり協働部まちづくり協働課課長	

用語解説

【あ行】

■医療福祉を考える会議

草津市内の学区（小学校区）単位で行っている地域ケア会議。地域の高齢者を支える活動をしている関係者と、地域の医療や介護、福祉サービスに携わる関係者が一堂に会し、地域の高齢者の現状を把握するとともに、課題に取り組み、参加者が自分たちで何ができるかを話し合っています。メンバーとしては、学区社協、まちづくり協議会、民生委員児童委員、老人クラブ、自治会、医師、介護事業者（ケアマネジャー、ホームヘルパーなど）圏域地域包括支援センター、市行政、市社協 など。

■SDGs（エスディー・ジーズ）

Sustainable Development Goalsの頭文字をとった言葉で、日本語では「持続可能な開発目標」という意味。「世界中にある環境問題・差別・貧困・人権問題など様々な課題を、世界のみみなで2030年までに解決していこう」という計画・目標のことです。地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを掲げており、この理念は地域福祉における誰もが支え合いながら排除されず、住み慣れた地域での生活を継続させていけるようにとの想いとも重なります。SDGsは17のゴールと169のターゲットで構成されています。

■SNS（エス・エヌ・エス）

ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、インターネットを使用し、パソコンやスマートフォンを用いて繋がることのできるコミュニティのことを指します。

【か行】

■共助

制度化された相互扶助。社会保険制度、医療や年金、介護保険などを指します。

■公助

自助・互助・共助でも支えることができない問題に対して、最終的に対応する制度です。例えば、生活困窮に対する生活保護や、虐待問題に対する虐待防止法などが該当します。

■互助

家族、友人、クラブ活動仲間など、個人的な関係性を持つ人間同士が助け合い、それぞ

れが抱える生活課題を、お互いが解決し合う力。また、それらの活動を発展させると、地域住民やNPO（非営利団体）などによるボランティア活動や、システム化された支援活動となります。

■コミュニティ・ソーシャルワーカー

CSW と略されます。地域福祉を進めるために位置づけられた専門職で、全国的には大阪での取組が始まりとされています。大阪府が2003年に策定した「地域福祉支援計画」に盛り込まれ、2004年度から府の補助で、府内の自治体が中学校区に1人ずつをめどに配置できるようになりました。住民と協働で「制度のはざま」にある人たちを発見し、その解決をめざし、行政と住民をつなぐ役割も担っています。CSW とほぼ同じ役割を担う専門職を「地域福祉コーディネーター」と呼んでいる自治体もあります。

【さ行】

■災害時要援護者

高齢者、障害者、乳幼児、妊婦、傷病者、日本語が不自由な外国人といった災害時に自力で避難することが困難な人のことを指します。政府は2005年に「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を定め、全国の自治体に災害時要援護者名簿の作成や避難支援の取組方針を策定するよう呼びかけてきました。平成25年には災害対策法が改正され、災害時要援護者名簿の作成が市町に義務化されています。

■サロン活動

地域で高齢者や障害者(児)、子育て中の方が、それぞれの居場所づくりや、生きがい活動と元気に暮らすきっかけづくりを見つけ、地域の人同士のつながりを深める自主活動の場です。このうち、草津市においては、高齢者を対象としたサロン活動で、一定の条件を満たしていると認め、市からの補助金を受けているものを特に地域サロンと呼んでいます。

地域で交流の場をもうけることで住民の地域への関心を深め、近隣での助け合いを育む地域づくりをめざします。

■自助

自分の力で住み慣れた地域で暮らすために、介護予防活動に取り組んだり、健康維持のために検診を受けたり、病気のおそれがある際には受診を行うといった、自発的に生活課題を解決する力のことを指します。

【た行】

■地域支え合い運送支援

市社協から車を借り受け、閉じこもり予防や、介護予防、また地域でのふれあいの場へ

の参加等の観点から社会とのつながりが希薄化している人や、日常生活支援が必要な人に対して、地域の活動団体が主体的に取り組む支え合い、助け合う活動の一環として移動困難者を送迎支援することにより、地域福祉の向上を図ることを目的としています。車の運転は地域のボランティアが担っています。

■地域福祉権利擁護事業

判断能力が不十分な為日常生活に困っている方が、住みなれた草津市で安心して暮らせるよう、福祉サービス等の利用援助に関する相談を受け、必要に応じて預貯金の払い戻し等の支援、見守りを行います。この事業では、市社協の職員である生活支援専門員と生活支援員が連携し、利用される方の継続的な生活の支援に努めています。

生活支援専門員は困りごとや悩みごとについて相談を受け、ご本人の希望をもとに適切な支援計画をつくり、契約までサポートする専門職員です。

生活支援員は契約内容に沿って、定期的に訪問し、福祉サービスの利用手続きや預金の出し入れをサポートしています。

■地域福祉コーディネーター

生活上の悩みや困りごとを抱える方に対し、様々な機関・団体と連携しながら、課題の解決を図るとともに、居場所づくりなどを住民主体の活動の推進や、地域でのネットワーク構築といった取組を行っています。市社協では全学区に1名以上の専門職が対応できるよう体制を整えています。

■地域包括ケアシステム

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される、高齢者の支援を目的とした総合的なサービスを地域で提供する仕組みのことを意味します。

草津市においても、今後認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要となります。

【は行】

■人とくらしのサポートセンター

お金や就労、ひきこもりなど、生活の中での悩みや困りごとなどの相談を行う福祉の総合相談窓口。専門の相談員が配置されています。

■福祉委員

福祉委員は、地域住民と協力し、社協、町内会長と連携して地域課題の解決を図るなど

福祉のまちづくりに関する身近な活動を推進する役割を担っています。

《具体的な活動の例》

- 1) 民生委員・児童委員と連携した高齢者の見守り活動
- 2) 敬老会の案内通知を配布することにより、地域の高齢者の顔を見ながら信頼関係をつくる
- 3) 地域サロン・子育てサロンの運営や協力
- 4) 学習会や研修に参加し、地域福祉の啓発協力
- 5) ふれあい広場等地域のイベントに参加協力し、住民と交流を図る
- 6) 学区・区社会福祉協議会の役員として運営やお手伝い

その他にも、地域に根ざした活動が展開されています。

■福祉活動推進員

草津市地域福祉計画では、住民のなかでリーダー的立場になって、地域福祉活動やボランティア活動のコーディネートの役割を果たす、市民コーディネーターの育成をすることとしています。この育成業務を市社協が市から受託し、養成講座を実施しています。この養成講座を受講終了した者を福祉活動推進員と呼んでいます。現在、延べ254人（R3年度）の福祉活動推進員がいます。

■フードバンク

フードバンクとは、「食料銀行」を意味する社会福祉活動のことです。さまざまな理由でまだ食べることができるにもかかわらず、保管されたままの食料や、廃棄されてしまう食品を企業や個人等から寄付を募り、子ども食堂などを実施する団体や、生活に困窮している世帯、学区・区社会福祉協議会の活動拠点等に対して支援を行い、地域の中での支え合いの活動を広げる取組です。

【ま行】

■民生委員・児童委員

民生委員は、民生委員法に基づき、各市町村の区域におかれる民間奉仕者で都道府県の推薦により厚生労働大臣が委嘱します。職務は、①住民の生活状態を適切に把握すること、②援助を必要とする者が地域で自立した日常生活を営むことができるよう相談・助言・その他の援助を行うこと、③援助を必要とする者が福祉サービスを適切に利用するための情報提供等の援助を行うこと、④社会福祉事業者等と密接に連携し、その事業または活動を支援すること、⑤福祉事務所その他の関係行政機関の業務に協力することと規定されています。児童委員は、地域の子どもの見守りや子育て相談・支援等を行う委員で、民生委員は児童委員を兼ねているため（児童福祉法）、「民生委員・児童委員」と列記されています。

資 料 編

1. 第3次計画と第4次計画の変遷…………… 1 ～ 2
2. 学区社協便覧（R3年度）…………… 3 ～ 17
3. 医療福祉を考える会議 実施学区まとめ…………… 18 ～ 24
4. 第3次草津市地域福祉活動計画での市社協の取組…………… 25 ～ 31
5. コロナ禍に立ち向かう草津市社協の魅力活動…………… 32 ～ 48
6. 第3次草津市地域福祉活動計画の検証…………… 49 ～ 65
7. 草津市社会福祉協議会のあゆみ…………… 66 ～ 69
8. 財源の流れ…………… 70

1. 第3次計画と第4次計画の変遷

草津市の地域福祉を取り巻く情勢と住民の暮らし	
第1部	<p>1 福祉をめぐる草津市の現状</p> <p>草津市全域の人口推移や高齢化の推移、高齢化、子どもの人数、生活保護の状況等を表記し、草津市の地域福祉を取り巻く現状について説明</p> <p>2 学区ごとの現状</p> <p>学区ごとの高齢化率、民衆協による実態調査の状況、小学校児童数の推移等を説明</p> <p>3 住民どうしの支えあいの活動と地域づくり</p> <p>学区ごとの地域サロン、ボランティア数の推移、居場所等の紹介を行う。</p>

地域福祉の推進と社会福祉協議会	
第2部	<p>1 地域福祉が大専ら時代</p> <p>草津市の現状を踏まえて、どのような地域支援が必要か記載。</p> <p>2 地域福祉の第一線機関としての市社会福祉協議会</p> <p>社会福祉協議会として今後取り組んでいくべき点について記載。</p> <p>3 第1次・第2次計画の成果と今後の目標</p> <p>第1次・第2次計画の策定における「方針と成果を明記。これまでの計画の進捗を踏まえて、第3次ではどのような方針を掲げるか明記。これから進める地域の課題」として、学区社会協の取組を活動集として掲載。</p> <p>4 草津市地域福祉計画等との関係性について</p> <p>市の地域福祉計画との関係性</p>

第3次草津市地域福祉活動計画の体系	
第3部	<p>1 第3次草津市地域福祉活動計画の策定にあたって</p> <p>第2次計画の継承と見直しを行ったポイントについて</p> <p>2 第3次草津市地域福祉活動計画の基本理念と基本目標</p> <p>基本理念の紹介と、基本目標についての説明を行う</p> <p>(1) 基本理念</p> <p>基本理念の紹介</p> <p>(2) 基本目標</p> <p>基本目標の3つを掲載</p> <p>(3) 第3次草津市地域福祉活動計画の体系図</p>

実施計画	
第4部	<p>1 I 住民主体の福祉のまちづくり</p> <p>(1) 基本目標1 福祉の風土づくり</p> <p>(2) 基本目標2 住民主体の活動づくり</p> <p>(3) 基本目標3 絆をつむぐまちづくり</p> <p>2 II 市社協が取り組む福祉のまちづくり</p> <p>(1) 推進項目</p> <p>推進項目の説明と、重点項目ごとに住民活動の目標と市社協の実施項目を説明。また、市社協事業の活動例も併せて掲載。</p>

草津市の地域福祉の現状について	
第1部	<p>1 草津市の現状について</p> <p>草津市全域の人口推移や高齢化の推移、高齢化、子どもの人数、生活保護の状況等を表記し、草津市の地域福祉を取り巻く現状について説明</p> <p>2 学区ごとの現状について</p> <p>学区ごとの高齢化率、民衆協による実態調査の状況、小学校児童数の推移等を説明</p> <p>3 住民どうしの支えあいの活動と地域づくり</p> <p>学区ごとの地域サロン、ボランティア数の推移、居場所等の紹介を行う</p> <p>また社会福祉法人を対象に行ったアンケートについても言及</p>

地域福祉の推進と社会福祉協議会	
第2部	<p>1 地域福祉が求められる時代</p> <p>時代に即じた地域福祉の必要性、地域の福祉力とは</p> <p>2 市域の地域福祉の中核となる市社会福祉協議会</p> <p>社会福祉協議会として求められる役割と、時代のニーズにあつた役割について</p> <p>3 草津市地域福祉計画等との関係性について</p> <p>地域福祉活動計画を策定する必要性と、市の地域福祉計画との関係性</p>

第4次草津市地域福祉活動計画の体系	
第3部	<p>1 第4次草津市地域福祉活動計画の策定にあたって</p> <p>第3次計画の継承、第4次計画への継承と見直しを行ったポイントについて</p> <p>2 第4次草津市地域福祉活動計画の基本理念と基本目標</p> <p>基本理念の説明</p> <p>(1) 基本理念</p> <p>基本理念の説明</p> <p>(2) 基本目標</p> <p>I部とII部の主体の違いも説明を行った上で、基本目標の説明を行う</p> <p>(3) 第4次草津市地域福祉活動計画の体系図</p>

実施計画	
第4部	<p>1 I 住民主体の福祉のまちづくり</p> <p>(1) 基本目標1 福祉の風土づくり</p> <p>(2) 基本目標2 住民主体の活動づくり</p> <p>(3) 基本目標3 新たな絆をつむぐまちづくり</p> <p>2 II 市社協が取り組む福祉のまちづくり</p> <p>(1) 基本目標 住み慣れた地域で安心して暮らせる体制の基盤</p> <p>基本項目の説明と、重点項目ごとに住民活動の目標と市社協の実施項目を説明。また、市社協事業の活動例も併せて掲載。</p>

用語集

医療福祉を考える会議／草津市福祉教養大学／生活支援コーディネーター／地域支え合い運送支援事業
 地域サロン活動／地域福祉権利擁護事業／地域福祉コーディネーター／地域包括ケアシステム／中間支援組織／福祉委員

用語集

医療福祉を考える会議／草津市福祉教養大学／生活支援コーディネーター／地域支え合い運送支援事業
 地域サロン活動／地域福祉権利擁護事業／地域福祉コーディネーター／地域包括ケアシステム／中間支援組織／福祉委員
 共同基金／福祉車両貸出／電話訪問事業／災害ボランティアセンター／心配ごと相談／善意銀行
 ボランティアセンター／赤十字奉仕団／民生委員児童委員連絡協議会

資料編

1	第1次・第2次・第3次計画の変遷	・第3次計画と第4次計画との違いがわかるように、変遷を掲載
2	第2次計画と第3次計画の変遷	・第2次計画と第3次計画の変化のポイント
3	福祉指標	・第1部で掲載しなかった内容も含めて、掲載
4	市社協の地域分析	・今後の地域福祉活動の参考になるように、H29→R2の変化を一覧表にして、学区ごとに分析を行い掲載 ・地域分析については、学区協議会での意見を掲載
5	学区の地域福祉活動の取組	・学区の取組を紹介
6	医療福祉を考える会議 実施学区まとめ	・学区ごとに会議の内容を明記
7	学区協議会とまち協事務局への聞き取りまとめ	・懇談会の主だった意見を、まち協への聞き取りをまとめて
8	4年間の地域福祉活動の広がり	・重点項目ごとに学区ごと・市域の活動がどのように変化したのか記載。
9	第2次草津市地域福祉活動計画での市社協の取組	・第1回合同部会の資料と、各年で実施した市社協事業の検証を中心に掲載
10	第2次草津市地域福祉活動計画の検証	・第2回合同部会の資料(作業部会意見まとめ)を中心に掲載 ・第2回合同部会で出された意見も併せて掲載
11	草津市社会福祉協議会のありみ	・第3次計画確定後の出来事も追加して掲載
12	財源の流れ	
13	第3次草津市地域福祉活動計画確定の経過	・会議実施日とその内容をまとめて掲載
14	策定ニュース	・作業部会の構子を報告した資料を掲載
15	第3次草津市地域福祉活動計画確定委員会名簿	・名簿掲載
16	第3次草津市地域福祉活動計画確定委員会作業部会名簿	・名簿掲載

資料編

1	第3次計画と第4次計画の変遷	・第3次計画と第4次計画との違いがわかるように、変遷を掲載
2	福祉指標	・第1部で掲載しなかった内容も含めて、掲載
3	市社協の地域分析	・今後の地域福祉活動の参考になるように、H29→R2の変化を一覧表にして、学区ごとに分析を行い掲載 ・分析については、市社協の学区担当者に記入してもらう。
4	学区の便覧(R3)と学区社協アンケートのまとめ	・学区の便覧と学区社協アンケートをまとめて掲載
5	医療福祉を考える会議 実施学区まとめ	・学区ごとに、①現在のテーマと②これまでの実績経過③今後の方向性についてまとめて掲載
6	第3次草津市地域福祉活動計画での市社協の取組	・第1回合同部会の資料と、各年で実施した市社協事業の検証を中心に掲載
7	コロナ禍に立ち向かう草津市社協の魅力活動	・令和2年3月31日までの新型コロナウイルス感染時期業務の報告とまとめを掲載
8	第3次草津市地域福祉活動計画の検証(作業部会意見・策定委員会まとめ)	・第2回合同部会の資料(作業部会意見まとめ)を中心に掲載 ・第2回合同部会で出された意見も併せて掲載
9	草津市社会福祉協議会のありみ	・第3次計画確定後の出来事も追加して掲載
10	財源の流れ	
11	第4次草津市地域福祉活動計画確定の経過	・会議実施日とその内容をまとめて掲載
12	第4次草津市地域福祉活動計画確定委員会名簿	・名簿掲載
13	第4次草津市地域福祉活動計画確定委員会作業部会名簿	・名簿掲載

社会福祉法人アンケートまとめは、第1部本文中が資料編に掲載

2. 学区社協便覧 (R3 年度)



《令和3年度》

草津市学区・区社会福祉協議会

便覧

○学区・区社会福祉協議会（学区社協）とは

- ・市社協が昭和30年に発足し、昭和34年から36年に6小学校区ごとに結成された歴史のある団体です。その後、小学校区分離により、現在、学区社協は14あります。
- ・各学区社協が策定した住民福祉活動計画を活動の柱として、地域福祉活動を進めていきます。

○学区社協は地域福祉活動を推進しています

住民の小さな声に気づくことができるのは、同じ地域に住む住民の方々です。つまり、顔が見える住民同士が、できる範囲の中で助け合うという自発的な活動を「地域福祉活動」と言います。そして、学区社協は「小学校区」という「暮らしの一つのまとまり」の中で活動を行っています。

この活動には支援をする側、受ける側は無く、「お互いさま」の気持ちで大切にし、困った人が「助けて」と言える、そして住民が地域の課題に気づき、活動を始められるような福祉の風土づくりをすすめています。

○学区社協は人と人との「つながり」を大切にしています

地域福祉で言う「つながり」は、専門機関同士の連携という形式的なものではなく、心と心が繋がり合うことを「つながり」と言います。
 顔なじみの人との関わり、気にかけてくれる存在、笑顔で話せる話し相手がいてこそ、幸せを感じることができないのではないでしょうか？
 人と人との「つながる」ことは地域の中で「ふだんのくらしのしあわせ」を考へる上でなくてはならないものであり、学区社協は、このつながりづくりを住民の皆様や各種団体等とともに考へ、活動しています。



社会福祉法人 草津市社会福祉協議会



志津社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	13,868人	世帯数	5,894世帯	町内会数	12町内会自治会
65歳以上	2,411人	高齢化率	17.4%	社協年会費	0円
15～64歳	8,923人	生産年齢人口比率	64.3%	平均世帯人員	2.4人
14歳以下	2,534人	年少人口比率	18.3%	地域サロン数	15団体

2. 概況

発定年月日	昭和34年2月
-------	---------

3. 地帯の特徴

・2021年度志津社会福祉協議会は、ここ盛かく「ふれあい 支え合い 住み続けたいまち」福祉のまちづくりを推進するため、社会福祉協議会の構成する組織 団体と社会情勢の変化に対応した住民主体の地域の福祉活動を実施することを目的に取り組み。
 ・福祉活動計画は、1 福祉の土壌づくり 2 活動の担い手づくり 3 個別の援助活動で、地域性に合った活動を進める。
 ・2020年同様、福祉活動事業は、三役本部会、常任理事会で審議し福祉活動組織の中で実施。

4. 役員

役職名	定員	任期	名	称	人数	名	称	人数
会長	1人	2年	5人	母子福祉のぞみ会	1人			
副会長	2人	2年	2人	町内会 自治会福祉推進委員代表	12人			
会 計	1人	2年	1人	有識者	7人			
事務局長	1人	2年	1人	身体障害者更生会志津分会	1人			
監 事	2人	2年						

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名	称	人数	名	称	人数
民生委員児童委員協議会	5人	母子福祉のぞみ会			1人
ボランティアグループ代表	2人	町内会 自治会福祉推進委員代表			12人
健康推進員連絡協議会	1人	有識者			7人
更生保護女性会	1人	身体障害者更生会志津分会			1人

6. 福祉推進委員

名	称	活動内容	人数
町内会 自治会福祉推進委員		町内会のミニサロン、百歳体操、出前講座、福祉講座、歴史講座、歴史講座、福祉推進委員代表の交流会等。(今年度、新型コロナウイルス感染症防止のため、全体的に少ない)	34人

7. 財源 (令和2年度 決算)

収 入		支 出	
会費	0円	高齢者対策活動	240,849円
市社協補助金	335,000円	高齢者ふれあいサロン	132,309円
学区社協共同募金助成	260,000円	高齢者福祉支援	108,540円
学区社協助成	75,000円	子育て支援	74,654円
学区まち協交付金	254,200円	ボランティア活動の推進	115,000円
市社協助成金助成金	132,000円	福祉出前 歴史講座等	25,000円
雑収入	5円	ボランティアG活動支援	55,000円
前年度繰越金	368,086円	老人クラブ活動支援	35,000円
		地域福祉研修・交流会	4,668円
		障害者支援 交流	20,000円
		児童福祉支援	20,000円
		お互い様のまちづくり	8,919円
		管理常用費(事務消耗品費 管理費)	119,251円
		市社協会費、継続特別委員会費	103,000円
		繰越金	382,960円
合 計	1,089,291円	合 計	1,089,291円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
毎月1回	三役本部会	福祉活動計画の確定、市社協会長報告と対応、収支会計の説明
3月24日	常任理事会	活動事業の承認、活動の収支予算執行部補正と予備費補填の承認
4月23日	総会	前年度事業 決算 監査報告 次年度事業 予算計画 役員承認の審議
4月27日	障害者支援と交流	新型コロナウイルス感染症第1波 第2波拡大で感染防止の為、中止
7月中旬	高齢者障害者交流ふれあいサロン2	新型コロナウイルス感染症第2波拡大で感染防止の為、中止
10月29日	高齢者障害者交流ふれあいサロン1	新型コロナウイルス感染症第2波拡大で感染防止の為、中止
12月10日～	交流ふれあいサロン代替「まごころ便」	・サロン1・2の中止で、コロナ禍の中で対面者との交流の場が心の栄養ともなる大切な場であることを実感した1年。一方、新型コロナウイルス感染症第3波蔓延で感染防止に役立てばとの思いで、徹底性電解水500ml(消費電)を届け、その地域での見守りと共に状況把握
12月21日	高齢者障害者交流ふれあいサロン3	・新型コロナウイルス感染症第3波蔓延で感染防止の為、高齢者・障害者参加無しで、西代表、3役がフレゼントを渡すだけのサロンとなる
年間	高齢者福祉支援と目的	・70歳以上の1人住まいの方に地域での見守りと共に状況把握が目的の誕生日祝(刈家者201人)
年間	ボランティア活動支援と推進	・4町内会ふれあいミニサロン、いきいき百歳体操、出前講座、歴史講座(5回+2回…支援外)…(福祉の土壌づくり)
	2. ボランティアグループ活動支援	・ほほえみ会、あやめ会…福祉施設・こども園の訪問支援
	(活動の担い手づくり)	・本大好き会…志津小、こども園、施設、子育てサロンで本読み
	3. 老人クラブの活動支援	・7町内会の老人クラブ居場所づくりの継続に支援(個別の援助活動)
2月中旬	地域福祉研修 交流会(福祉の土壌づくり)	・新型コロナウイルス感染症第3波の蔓延で感染防止の為、中止
3月	児童福祉支援	・一人親家庭の児童へ小学校入学のお祝い(後者10人)
年間	お互い様のまちづくり	活動推進の視察研修は、新型コロナウイルス感染症第3波の蔓延で感染防止の為、中止
	1. 支援のあり方、居場所づくりの進め方(2月～3月)	・あんしん居場所マップ掲載のボランティアG、老人クラブ、子育てサロン等の活動紹介資料提出
	2. デマンド型交通システム「まめタク」	・11月30日、1年間の乗証運行の開始、試乗運転に協力し利用促進の為、5路線毎の時刻表、場所と乗換時間、路線図を6町内会へ配布
	3. 人生100年時代の高齢者対策	・新型コロナウイルス感染症第3波の蔓延で感染防止の為、中止
年間3回	志津学区の医療福祉を考える会議(18、19、20回)	・志津のあふみつながりプロジェクトの進捗状況
		・新型コロナウイルスと地域活動…施設の状態、状況、意見交換と発表
		・居場所マップ、ランチャマップの掲載内容のアップデートで電覧交換
		・ランチャマップ協力の店舗に配置のマスキングテープ貼り

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	対象者(参加者数)	協力者(団体)	経費	事業内容	今後の課題
高齢者ふれあいサロン	①郊外研修、②まちづくりセンター内、③学区内のこども園、保育園	高齢者の福祉対策、障害者支援と交流でふれあうことを企画し、一人ひとりを大切に、孤立させない地域での見守り、声掛けの実施と共に、地域住民の参加や日頃の交流推進を図ること。	70歳以上のひとり住まいの方、障害者の方(①80人、②100人、③100～150人)	社協、福祉活動組織構成、身体障害者更生会、民生委員 児童委員、健康推進員、学区内のこども園、保育園	今年度、新型コロナウイルス感染症第1波 第2波拡大で第3波の蔓延で③のみ、15,891円	
高齢者ふれあいサロン	ひとり住まいの方、障害者更生会の高齢者への参加を取り止め、代表2人がサタクロースに扮し、社協3役と園を訪問し、4・5歳園児の代表に園内で実施のクリスマス会に参加賞としてフレゼントを渡すだけとなり、園児とのふれあい交流が出来ないサロンになる。					
今後の課題	②の事業内容がマンネリ化にならぬ工夫と、③の保育園の開園間による実施日、実施内容の検討が必要					
事業名	高齢者の福祉支援					
目的	学区内の高齢者対策として、誕生日の記念品を届ける訪問で、地域の見守りと共に状況把握を行う。					
対象者(参加者数)	70歳以上のひとり住まいの方、201人					
協力者(団体)	民生委員 児童委員					
経費	108,540円					
事業内容	毎月の誕生日の対面人数を把握し、その都度名前作成と記念品を購入し、民生委員 児童委員に協力をお願いする。					
今後の課題	志津地域の事業・行事に参加出来ない中で増加になりやすい課題となり、居場所づくりの検討が必要。					

志津南学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	6,577人	世帯数	2,461世帯	町内会数	14町内会
65歳以上	1,389人	高齢化率	21.1%	社協年会費	0円
15～64歳	3,729人	生産年齢人口比率	56.7%	平均世帯人員	2.7人
14歳以下	1,459人	年少人口比率	22.2%	地域サロン数	10団体

2. 概況

発足年月日	平成 10年 9月
-------	-----------

3. 地理の特徴

昭和58年にびわこ文化公園都市の住宅ゾーンとして開発（若草地区）され、当初は志津南学区社会福祉協議会（現在）に加入しスタート。平成10年に単独で活動を始め23年が経過した。平成26年にかがやきの丘町内会など3町内会が、平成27年より志津南町内会が加わり、2400戸強が響らす地域になった。高齢者が「住み慣れた地域で安心して暮らして欲しい」と、子育て中の親世代の方が「安心して子育てができること」を目標として活動を展開している。

4. 役員

役職名	定員	任期
会長	1人	1年
副会長	1人	1年
会計	1人	1年
事務局	1人	1年
監事	2人	1年

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名称	人数	名称	人数
町内選出の福祉委員	34人	ボランティア等の代表者	13人
町内選出の社会福祉委員	13人	民生委員児童委員協議会	12人

6. 福祉委員

名称	活動内容	人数
福祉部会（敬老会実行委員会 若者会）	福祉部長を中心に、民生委員・児童委員、ボランティア代表者等で、敬老会、セミナー等を開催している。	27人

7. 財源（令和2年度 決算）

収入		支出	
会費	0円	福祉の士づくり事業	78,680円
市社協補助金	777,500円	地域支えあい活動事業費	78,680円
学区社協共同募金助成	260,000円	活動の担い手づくり事業	141,829円
学区社協助成	75,000円	ふれあい活動事業費	141,829円
地域サロン補助金	442,500円	個別援助活動事業	35,000円
学区まち協交付金（利息10円含む）	2,032,760円	高齢者友愛訪問	35,000円
市社協賛助会費助成金	29,150円	地域サロン活動支援	442,500円
雑収入（利息含む）	83,296円	絆関係	182,246円
雑収入（その他）	437,384円	その他支出	106,446円
前年度繰越金	183,680円	地域福祉関係団体間の交流事業	2,032,760円
		学区まち協関係	1,252,301円
		学区まち協へ私戻金	480,459円
		市社協会費	300,000円
合計	3,543,770円	繰越金	524,309円
		合計	3,543,770円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
6月	令和2年度総会	コロナ禍のため、書面審査
年間	企画委員会	毎月第2土曜日と第4日曜日に開催行事等の調整
年間	福祉部会	毎月第2土曜日、敬老会と福祉研修について打ち合わせ
9月5日	地域福祉活動研修	「医療福祉を考える会議」と併せて実施
9月	敬老会	コロナ禍のため対象者全員に、祝いのメッセージと記念品を配布
年間	地域支え合い送迎	コロナ禍のため利用者が減った
年間	ふれあい活動支援	道分南、かがやきの丘、若草等の団体に支援
年間	若草文庫	毎週文庫を開催
年間	一人暮らし高齢者との屋食会	コロナ禍のため、お弁当の配布
年間	NPO若草の家 交流支援	若草の家への支援
年間	未就園児への活動支援	未就園児のサークル活動に民児協経由で支援
年間	児童支援活動	民児協経由で支援
年間	高齢者友愛訪問（85歳以上）	民生委員の自宅訪問を支援
年間	地域サロン	1団体増え、10団体となる

9. わが学区社協の主な事業

事業名	ふれあいハウス「絆」活動
目的	地域の支え合い
対象者（参加者数）	高齢者、障害者、未就園児、児童を中心とした本人と家族
協力者（団体）	福祉委員、民生委員児童委員協議会、ボランティア
経費	独自の収入とまちづくり協議会からの交付金で運営
事業内容	◎喫茶 ◎送迎支援 ◎麻雀提供 ◎歌声喫茶の開催 ◎サロンの場所提供 ◎ハザー ◎こども支援の場所提供 ◎「絆」ニュースの発行 他
今後の課題	ふれあいハウス「絆」は、学区社協の事務室としても利用しており、主な事業は「喫茶」「サロン（談話）」等で若草地先のほぼ固定された方が参加されている。また、建物の維持・管理費の捻出方法の検討を要す。

事業名	敬老会
目的	高齢者（70歳以上）への長寿のお祝い
対象者（参加者数）	令和2年度の志津南学区在住の70歳以上 978人
協力者（団体）	各町選出の社会福祉委員、各町の福祉委員又は福祉協力員、民生委員児童委員協議会、まちづくり協議会、ボランティア
経費	約100万円
事業内容	コロナ禍のため、従来の一斉開催が難しいため、対象者全員にメッセージと記念品を、各町内会の福祉委員、福祉協力員、民生委員・児童委員の協力を得て配布
今後の課題	令和3年度もコロナ禍の影響で一斉開催は難しいと思われる。コロナ以前の問題として1,000人を超える人数になると学区内の一斉開催は難しい。町内毎に開催方向で検討したい。

草津学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	11,503人	世帯数	5,317世帯	町内会数	26町内会
65歳以上	2,679人	高齢化率	23.3%	社協年会費	200円
15～64歳	7,273人	生産年齢人口比率	63.2%	平均世帯人員	2.2人
14歳以下	1,551人	年少人口比率	13.5%	地域サロン数	10団体

2. 概況

特定年月日	昭和36年3月
-------	---------

3. 地域の特徴

東海潭と中山潭の分岐点として栄えた町はマンション街になってきている。若い世帯が増えることで高齢化率はおさえられているが、今後も一人暮らし高齢者数、要介護者数の増加は否めず地域の大きな課題である。また、一人親家庭も増加傾向にあり、見えにくい貧困問題についても意識を持つ必要がある。

4. 役員

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体		名	称	人 数	名 称	人 数
役職名	定員	任期				
会長	1人	2年	民生委員児童委員協議会	25人	更生保護女性会	2人
副会長	2人	2年	老人クラブ連合会	2人	自治連合会	25人
会 計	1人	2年	青少年育成区民会議	2人	地域福祉協力委員会	22人
事務局	1人	2年	健康推進員連絡協議会	2人	草津小・中	2人
監 事	2人	2年	赤十字奉仕団	2人	ボランティアサークル	2人

6. 福祉委員

名 称	活 動 内 容	人 数
地域福祉協力委員会	地域福祉の担い手として民生委員・児童委員と連携し見守りの活動を行う。	22人

7. 財源 (令和2年度 決算)

収 入		支 出	
会費	590,800円	福祉の工藤づくり事業	631,337円
市社協補助金	822,500円	研修費	205,624円
学区社協共同募金助成	260,000円	会議費、事務費	125,713円
学区社協助成	75,000円	ゆかい家事業	300,000円
地域サロン補助金	487,500円	活動の担い手づくり事業	955,500円
学区まち協交付金	95,000円	地域サロン助成事業	589,219円
市社協賛助会費助成金	209,000円	各種団体事業助成事業	195,000円
歳末子ども支援事業助成金	30,000円	地域福祉協力委員会育成事業	51,281円
事業収入	831,477円	ボランティア支援	120,000円
臨時収入	31,700円	個別援助活動事業	534,534円
雑収入	5,111円	高齢者支援事業	218,526円
前年度繰越金	646,022円	老人クラブ支援事業	108,008円
		災害時等特別募立金、他	208,000円
		地域福祉関係団体間の交流事業	82,766円
		健康を語りあうプロジェクト	82,766円
		市社協会費	443,100円
		繰越金	614,373円
合 計	3,261,610円	合 計	3,261,610円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
4月	定期総会	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、文書審議
5月	福祉事業者との交流事業	学区内の福祉関係事業所にマスクを寄付
6月27日	七ツサロンの代替え事業	一人暮らし高齢者にちらし寿司を配達(希望者154人)
7月4日・5日		
7月31日	賛助会費募集	事業所、個人より66件
8月2日		
8月8日	地域サロン交流会	10サロンの代表者との意見交換会 活動補助金交付
9月30日	ミニサロン	認知症養成講座、マジックショー、弁当配布
10月5・12日		
11月9・16日	地域福祉協力委員会	福祉委員の役割について研修 民生委員・児童委員との交流
12月	クリスマスサロンの代替え事業	カレンダーを作成し一人暮らし高齢者に配布(323人)
1月16日	豚汁会	健康を語りあうプロジェクトの啓発を兼ねて実施 220人参加
3月14日	研修会	演題「歴史上の偉人から学ぶ生き方」講師 今村翔吾氏 72人参加

9. わが学区社協の主な事業

事業名	地域活動拠点事業 立ち寄りのカフェゆかい家
目的	誰でもが集い、出合いがあり、自分の出来ることを活かし、元気になる、笑顔になれる居場所であり、支え・支えられる関係づくりの出来る拠点を目的としている。
対象者(参加者数)	地域、学区、年齢に関係なく誰でも、年間の利用者数 令和2年度 約4,600人
協力者(団体)	地域住民、健康推進員、赤十字奉仕団、更生保護女性会、民生委員・児童委員
経費	学区社協一般会計より事業運営費+飲食等売上金
事業内容	介護予防を目的とした健康バンド運動、認知カフェ、囲碁カフェ、グラウンドゴルフ等のイベント。 手作りの健康ランチ、飲み物の提供。地域サロン、各種団体の会議に利用。 様々な関係機関と連携し相談活動事業を行いたい。
今後の課題	

事業名	笑顔いっぱいゆかい家食堂
目的	子どもから高齢者まで多世代交流の出来る場を目指す。特にコロナ渦の中、しんどい思いをしている親子の居場所になればと考えている。
対象者(参加者数)	子どもから高齢者まで誰でも
協力者(団体)	民生委員・児童委員、健康推進員等
経費	学区社協一般会計より事業費 50,000円+大人参加費 200円(子ども無料)
事業内容	月に一度(第4土曜日11時～14時)昼食の提供(子ども無料、大人200円) カードゲームや盤ゲーム、制作等、参加者皆が楽しめる内容
今後の課題	この事業を進める中で見てくる地域の課題を、ゆかい家での相談活動事業に繋げていきたい。

矢倉学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	9,845人	世帯数	4,436世帯	町内会数	12町内会
65歳以上	2,313人	高齢化率	23.5%	社協年会費	185円
15～64歳	6,179人	生産年齢人口比率	62.8%	平均世帯人員	2.2人
14歳以下	1,353人	年少人口比率	13.7%	地域サロン数	9団体

2. 概況

発定年月日	昭和 53 年 4 月
-------	-------------

3. 地域の特徴

令和2年度は「新型コロナウイルス」の感染拡大で「緊急事態宣言」が発出、予定していた事業の多くを中止せざるを得ない状況下になりました。しかし、「コロナに負けず、みんなで頑張ろう」を合言葉に、民間協や町会長委員会等、各種団体の協力を得ながら、実施可能な事業を進めてきました。当学区も高齢化がとんとん進み、地域活動の担い手が少なくなる一方で、住宅やマンションの建設で、若い人や子どもも増えつつあり「住みよいまちづくり」を目指し「みんなが集える場所づくり」の充実を進めます。

4. 役員

役職名	定員	任期
会長	1人	1年
副会長	3人	1年
会 員	1人	1年
事務局	1人	1年
監 事	2人	1年

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名 称	人 数	名 称	人 数
町会長委員会	12人	矢倉小学校	1人
民生委員児童委員協議会	6人	矢倉小学校PTA	1人
老人クラブ連合会	2人	連 誼 会	1人
身体障害者連合会	1人	更生保護女性会	1人
子ども会指導者連絡協議会	1人	健康推進員	1人
青少年育成学区民会	1人	矢倉幼稚園	1人
少年補習委員	1人	高穂中学校	1人
体育振興会	1人	交通安全協会	1人
体育文化振興会	1人	矢倉まちづくりセンター	1人

6. 福祉委員

名 称	活 動 内 容	人 数
福祉ボランティア委員会	ひとり暮らし高齢者サロンや子育てサロン、福祉講座の計画及び実施	8人

7. 財源（令和2年度 決算）

取 入		支 出	
会費	625,300円	福祉の土壌づくり事業	199,425円
市社協補助金	772,500円	子育て・高齢者支援	49,425円
学区社協共同募金助成	260,000円	福祉の土壌づくり事業	150,000円
学区社協助成	75,000円	交流の場づくり	528,594円
地域サロン補助金	437,500円	地域サロン補助	527,500円
学区まち協交付金	115,000円	ふれあい喫茶「憩」等支援	1,094円
市社協賛助会費助成金	101,750円	住民福祉活動推進事業	9,370円
雑収入	15,009円	福祉講座・研修費（役員研修等）	5,481円
前年度繰越金	747,739円	会議費等	3,889円
		市社協会費納入金	492,000円
		事務費・保険・その他	306,994円
		繰越金	840,955円
合 計	2,377,298円	合 計	2,377,298円

8. 令和2年度活動実績

日 月	事業名	事業内容
5月15日	令和2年度定期総会	・前年度の事業・決算・監査報告、今年度の事業計画・予算の審議等を予定していたが「 新型コロナウイルス 」の感染拡大で中止。 ・委員会にて本部会一任で、全案件が承認される。 ・地域の「未就園児とその親」を対象に、子育て出前講座、ゲームやボール遊び、クリスマス会等を楽しんだ。（参加者年間188人） ・ 4月、5月は新型コロナウイルス感染拡大のため中止。 ・みななが集える場所づくり 「なまよいまちづくり」 ここにこそレストランではカレーライスを食べながら、皆でお話しをしました。
6月20日	ひとり暮らし高齢者「ふれあいサロン」	・「ふれあい喫茶「憩」」を開催「憩」の楽しいお話し 会場・まちづくりセンター 講師：奥井照夫 先生（全国福祉老人協会、口演講話家） 講師：老人クラブ福祉大会（参加者人数限定 45人） ・矢倉小学校の3年生児童が、花の苗植えをしました。
7月8日	ひとり暮らし高齢者「ふれあいサロン」	・矢倉小学校の6年生児童と一緒に「平和学習とすいどんの会」 ・矢倉小学校の1年生児童が「昔遊び」に挑戦 （2回は中止） ・各地域サロンの活動について発表いただき、今後の取り組みや関係性を話し合い、話し合いをしました。 ・出席者 サロン代表を含めて、総人数 17人 テーマ：『40代・50代から備える家族の安心』 講 師：高穂地域包括支援センター 職員の高さん ・「コロナ禍」における 高齢者の支援について ・高齢者を支えるしくみを学ぶ 参加者制限 25人
11月	老人と子どもの交流会（老人クラブ）	・地域（町内）で3ヶ所開設し、それぞれ 週1～週2で開催。
令和2年5月～令和3年1月（中止）		
11月20日	「地域サロン」代議者交流会	
2月13日	福祉講座	
随 時	ふれあい喫茶「憩」	

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	対象者（参加者数）	協力者（団体）	経費	事業内容	今後の課題
ふれあい喫茶「憩」（みんなが集える場所づくり）	子どもからお年寄りまで、若者男女を問わず、楽しい「憩」と「交流」の場をつくり支援する。地域（町内）で3ヶ所開設、学区で1ヶ所（まちづくりセンター・まち協と共催）	対象者 学区・全会員（参加者：年間延べ 約150人）	地域ボランティアの高さん	1,094円（参加者個人負担あり）	・今年度は「コロナ禍」で中止が多く参加者も減少 ・コーヒーを飲みながら、囲碁・将棋・ゲーム等で楽しいひと時を過ごしてもらおう場を提供する。 ・子どもを含め、若い人からお年寄りまで、どなたでも参加可能で、飲み物・お菓子は有償で提供。 ・「コロナ禍」での開催方法の検討や「地域ボランティア」を増やすアイデアが必要。	
「地域サロン」への支援事業	地域のお年寄りの楽しい「憩」と「交流」の場である「地域サロン」は、見守りや閉じこもりの防止、また仲間づくりや、高齢者の社会参加を目的に、学区内で10サークルが活動している。	対象者 学区・全会員（参加者：約320人）	地域ボランティアの高さん	90,000円（活動支援のための補助金）	・高齢者や高齢者に役立つ講話、お茶やコーヒーなどを飲みながら、ゲーム・囲碁・将棋等で楽しいひと時を過ごしてもらおう場を提供する。 ・みんなが集える場所づくり、交流を図る。 ・開催をお願いしている「地域ボランティア」の高齢化で、新しい人を増やす必要がある。	・ コロナ禍のため事業の中止も多かった。

大路区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	11,930人	世帯数	5,455世帯	町内会数	25町内会
65歳以上	2,206人	高齢化率	18.5%	社協年会費	150円
15～64歳	8,094人	生産年齢人口比率	67.8%	平均世帯人員	2.2人
14歳以下	1,630人	年少人口比率	13.7%	地域サロン数	10団体

2. 概況

発足年月日	昭和 48 年 6 月
-------	-------------

3. 地域の特徴

大路区では、駅前開発事業が継続しており、人口の流入が草津市の中でも多い地区となっております。また急速なマンション開発によって住民の顔が見えにくい地域にもなっています。誰一人取り残さない地域、住民力の高い地域を構築するためにも、大路区社会福祉協議会と大路区まちづくり協議会・各種団体との連携のあり方を見直して構築することが課題になっていきます

4. 役員

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

役職名	定員	任期
会長	1人	2年
副会長	3人	2年
会計	1人	2年
事務局	1人	2年
監事	2人	2年

名称	人数	名称	人数
民生委員児童委員協議会	2人	草津第二学区子ども会	解散
母子福祉のぞみ会	1人	草津第二小学校PTA	1人
健康推進委員連絡協議会	1人	草津中学校	1人
更生保護女性会	1人	大路区町内会長	21人
保護司会	1人	まちづくり協議会	2人

6. 福祉委員

名称	活動内容	人数
大路区福祉委員	現在休止中	人

7. 財源（令和2年度 決算）

収入		支出	
会費	295,650円	福祉の工塚づくり事業	389,134円
市社協補助金	335,000円	敬老会	200,000円
学区社協共同募金助成	260,000円	高齢者ふれあいサロン	132,840円
学区社協助成	75,000円	生活困窮者支援事業	56,294円
学区まち協交付金	95,000円	活動の担い手づくり事業	27,763円
市社協助成費助成金	85,250円	社協により印刷	20,000円
雑収入	11円	事務費	7,763円
前年度繰越金	898,693円	個別援助活動事業	633,000円
大路区町内会連合会助成	650,000円	個別団体助成金	240,000円
		ボランティア助成金	100,000円
		事務費・会議費・予備費	293,000円
		市社協会費	375,000円
		繰越金	934,707円
合計	2,359,604円	合計	2,359,604円

8. 令和2年度活動実績

月日	事業名	事業内容
4月11日	会計監査	令和2年度 会計監査を実施
5月9日	理事会	令和2年度 事業計画・予算打合せ 役員改選と事業活動
5月15日	定期総会	令和2年度 定期総会
6月12日	理事会	事業計画検討（敬老会の件）
7月22日	助成金支払い	個別改善活動・担い手づくり 地域サロン助成金
7月29日	部会・社協合同会議	敬老会前筒作成名簿配布
8月4日	部会・社協合同会議	敬老会事業の件
8月26日	部会・社協合同会議	敬老会事業の件
9月14日	敬老記念品の配布（エコハッパ）	1544人分
10月29日	理事会	ふれあいサロン事業打合わせ、 記念品の件・講演会内容の件
11月20日	コロナ禍緊急提案	町内会長へ配布
12月	高齢者ふれあいサロン事業	独居高齢者宅へ個別訪問 記念品配布 民生児童委員共催事業
3月	生活困窮者支援事業	食料無償配布事業（135食分）

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	協力者（参加者数）	経費	事業内容	今後の課題
敬老会事業	長寿祝いの記念品配付	70歳以上の大路区在住者全員	記念品の全対象者へ配付	令和3年度の敬老会について、コロナ対策をどのようにするか。	
民生委員児童委員協議会・町内会長・健康推進委員連絡協議会・更生保護女性会・まちづくり協議会	民生委員児童委員協議会・町内会長・健康推進委員連絡協議会・更生保護女性会・まちづくり協議会				
高齢者ふれあいサロン	高齢者の1人暮らしの人を対象に、コロナ禍における心身の健康を確認する意味もかねて、個別訪問で記念品を渡す				
民生委員児童委員協議会・更生保護女性会・健康推進委員協議会・町内会長	70歳以上の一人暮らしの方				
132,840円					
個別援助活動事業	独居高齢者宅に訪問して記念品をお渡しする				
240,000円					
100,000円					
293,000円					
375,000円					
934,707円					

11 送川学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	9,495人	世帯数	4,348世帯	町内会数	17町内会
65歳以上	1,707人	高齢化率	18.0%	社協年会費	600円
15～64歳	6,401人	生産年齢人口比率	67.4%	平均世帯人員	2.2人
14歳以下	1,387人	年少人口比率	14.6%	地域サロン数	11団体

2. 概況

発足年月日	昭和15年4月
-------	---------

3. 地域の特徴

送川学区は草津駅周辺に位置し、交通至便かつ商業施設の集積する好立地のため、近年は大型高層マンションの建設が相次ぎ学区内の総人口は増加を続けている。1万人近くとなった学区の人口のうち、9割以上が高度成長期以降に他地域から転入してきた人である。現在の当学区の高齢化率は草津市平均を4%程度下回っているが、2030年頃には市平均を上回り、転入世代が急速に高齢化すると予測される。(市資料)この現状を転入住民が認識し、自分自身の問題として取り組んでいくことが大切である。

4. 役員

役職名	定員	任期	名	称	人	数	名	称	人	数
会長	1人	2年	学区内	15町内会	15人	草津中学校、送川小学校	2人			
副会長	2人	2年	民生委員児童委員協議会	1人	赤十字奉仕団、保護協会	2人				
会計	1人	2年	送川スポーツ振興会	1人	送川老人クラブ連合会	1人				
事務局	1人	年	健康推進員協議会	1人	連誼会送川支部他、学区内諸団体	9人				
監事	2人	2年	更生保護女性会	1人						

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名	称	活 動 内 容	人 数
福祉活動推進員		学区社協構成団体の枠に拘束されず、どの組織にも所属せずとも、みずから集まり活動を展開の福祉マインドを地域福祉活動に活かす。地元町内で一人暮らし高齢者や若者世代の巡回訪問を予定している。	

7. 財源 (令和2年度 決算)

会費	収入	支 出	
市社協補助金	2,072,300円	福祉の土壌づくり事業	131,977円
学区社協共同募金助成	910,000円	広報紙発行	112,585円
学区社協助成	260,000円	会議費・消耗品費	19,392円
地域サロン補助金	75,000円	活動の担い手づくり事業	939,294円
市社協助成費助成金	575,000円	医療福祉考ええる会活動費	49,294円
賛助会費徴収事務費	160,000円	学区まち協繰出し金	890,000円
雑収入	8,000円	個別援助活動事業	1,795,560円
前年度繰越金	36円	地域サロン活動助成金	575,000円
	4,056,286円	学区内福祉関連団体助成金	160,000円
		町内会福祉活動助成金	1,060,560円
		賛助会費	160,000円
		市社協会費	603,440円
		繰越金	3,656,351円
合計	7,286,622円	合計	7,286,622円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
5月17日	令和2年度役員総会(書面審議)	5月17日開催予定とされていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。評議員あてに郵送による書面審議に変更。回答30人、未回答4人。1～3号議案はいずれも回答者全員賛成で可決された。
6月5日～3月3日	学区社協理事会(毎月第一金曜日)	年間10回 社協運営、当面の課題、市社協に関する報告など
7月30日	医療福祉を考える会議	前年度活動の総括、第一回健康相談会の反省。
8月5日	地域サロン活動補助金の交付	16団体 市社協575千円 学区社協160千円
10月1日	赤い羽根共同募金街頭キャンペーン	草津駅東口 会長参加
10月26日	送川小学校3年生くご総合学習への参加	「地域の高齢者についてかかんがえよう」
10月28日	広報紙「社協しあひかわ」発行	特集「コロナ禍でも頑張る送川の福祉従事者」
11月28日	医療福祉を考える会議/ワーキンググループ会議	第2回健康相談会について検討
2月11日～12日	福祉活動推進助成金交付	15町内会から助成金申請 一町内あたり70,000円
2月12日～3月1日	賛助会員募集活動	26件 160,000円
3月2日	市社協事務局長会議	西村会計出席
3月12日	医療福祉を考える会議/しあひかわ健康サロン(第2回健康相談会)	こばやし整形外科の小林昌明院長による講演 体組成計活用による健康診断 「しあひかわ」を贈ろう

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的
学区町内会福祉活動支援事業	地域活動をおこなっている町内会は、他の任意団体に比べて、住民の組織への帰属意識も高く、各町内会の会則等では町内会の目的として「住民の相互親睦」が掲げられている。町内会は学区社協にとって最も重要な構成団体であるが、町内会役員も含めて住民に「地域福祉の担い手」という意識は与えられていなかった。コロナ禍の影響で「高齢者サロン」など学区社協の主要事業が中止に追い込まれる中で、「町内会が地域福祉の原点」ということを再認識し、町内会活動を支援する取り組みとして助成金支援を実施する。
対象者(参加者数)	学区内15町内会
協力者(団体)	なし
総費	町内会福祉活動推進支援 各7万円 合計105万円
事業内容	各町内会において福祉活動を推進していくには何が最も必要か、何が足りないかを町内会自身で考えてもらうことを主眼とし、各町内会からの申請では定期的にコロナ対策関連のものが多かったが、会館にAEDを設置、会館暖気設備の取り換え、会館トイレの手すり設置等のアイデアも見られた。
今後の課題	学区社協が毎年継続してできる事業ではないが、令和2年度に実施したところ、事業のマンネリ化防止の一助になった。町内会役員が1、2年で交代していく中で、当事者意識をいかに継続していくかが課題である。

若上学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	9,873人	世帯数	4,512世帯	町内会数	8 町内会
65歳以上	1,923人	高齢化率	19.5 %	社協年会費	500円
15～64歳	6,204人	生産年齢人口比率	62.8 %	平均世帯人員	2.2人
14歳以下	1,746人	年少人口比率	17.7 %	地域サロン数	7団体

2. 概況

発足年月日	昭和 34 年 4 月
-------	-------------

3. 地理の特徴

若上学区は草津市南部に位置し、南草津駅周辺の工業団地により急速に宅地化が進み、マンションが多く建設されている。また、新快速の停車駅となったことに加え、圏地が新たに大規模な地区開発による宅地化に進展されつつあり、急激な都市化と人口増につながっている。学区社協としては旧住民と新住民とのふれあいの交流を深める拠点を若上まちづくりセンターの運営、人と人とのつながりを支え合う地域活動に努める。

4. 役員

役職名	定員	任期
会長	1人	2年
副会長	5人	2年
会計	1人	2年
事務局	6人	2年
監事	2人	2年

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名称	人数	名称	人数
町内会長	7人	更生保護女性会	1人
民生委員児童委員	2人	赤十字奉仕団若上分団	1人
老人クラブ	1人	健康推進員連絡協議会	1人
ボランティア連絡協議会	2人	少年輔導委員	1人
社会福祉委員	1人	青少年区民会議	1人

6. 福祉委員

名称	活動内容	人数
若上学区社会福祉委員会	各町内の福祉担当者の指導・育成及び町内の福祉事業	28人

7. 財源（令和2年度 決算）

収入	支出
市社協補助金	福祉の土壌づくり事業
学区社協共同募金助成	高齢者福祉活動費
学区社協助成	障害者福祉活動費
地域サロン補助金	児童父子母子活動費
学区まち協交付金	活動の担い手づくり事業
市社協員助成費助成金	委員会活動費
雑収入	研修会講座活動費
	各種団体地域ふれあい活動
前年度繰越金	個別援助活動事業
	地域活動福祉費
	運営費等
	員助成員孤児活動費
	いのちのハトン配布
	市社協会費
	繰越金
合計	合計

8. 令和2年度活動実績

月日	事業名	事業内容
4月15日	カフェほっこり	居場所づくりとしてのカフェの開所 4月～8月開催
4月	老人クラブとの交流会	老人クラブ連合会との交流会は中止
4月28日	社協評議委員会	令和2年度事業報告、決算報告、令和3年度計画、予算案
5月1日	まつづくり協議会	令和2年度まつづくり協議会評議委員会、令和2年事業報告他
6月	学区子育てサロン	若上・若上西学区子育てサロンコロナ対応の中止
7月7日	福祉施設訪問	児童、老人福祉施設 4か所訪問 代表者のみ参加
7月	学区団体研修会	更生保護女性会一般公開コース中止
7月20日	学区敬老会	役員会議にてコロナ対応の中止
8月3日	令和2年度地域サロン事業	地域サロン事業助成金配布6町
8月20日	学区敬老会	令和2年敬老会高齢者対象者 100歳 2人 記念品持参
9月1日	学区敬老会	敬老会記念品配布対象者 1,520人
11月9日～13日	募金活動	赤い羽根共同募金運動実施 募金額 32,450円
11月16日～30日	員助成員募集	3班編成で員助成員募集事業 32事業所
11月19日	医療福祉を考える会議	第19回医療福祉を考える会議プレ会議
1月15日	医療福祉を考える会議	第19回医療福祉を考える会議プレ会議
1月28日	医療福祉を考える会議	第19回医療福祉を考える会議全体会議
2月10日	医療福祉を考える会議	第19回医療福祉を考える会議のふりかえり
3月15日	福祉おいかみ実行	全戸配布1,300戸
3月22日	医療福祉を考える会議	いのちのハトン組み立て 4月各戸配布

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的
若上送迎サポート事業	一人暮らしや、高齢者の移動困難な方の日常生活支援が必要な人が、安心して病院や市役所、介護施設、買い物に行けるよう送迎の支援を行う。
学区内登録者	現在 30人
協力者（参加者数）	オール若上送迎サポート登録者 11人
協力者（団体）	送迎 1回学区内 100円 学区外 200円（ガソリン代）
総費	原則市内への送迎 医療機関への送迎、行政機関への送迎、福祉施設への送迎、買い物物の送迎
事業内容	送迎サポートの運転手の確保と利用者の啓発
今後の課題	
事業名	目的
医療福祉を考える会議	一人暮らしの高齢者が増えつつある若上、地域の人々が安心して生活出来る体調不良になっても緊急車が来て「いのちのハトン」が活用されて処置が早くできる事を望む。
対象者（参加者数）	70歳以上の方に配布
協力者（団体）	社協、民生委員、児童委員、医師、介護施設、地域包括支援センター
総費	学区社協予算 約30万円
事業内容	高齢者の暮らしの問題や課題を共有し、住み慣れた地域の問題を検討する。
今後の課題	地域住民、各団体、町内会の協力を得て活動する。

老上西学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	8,680人	世帯数	3,335世帯	町内会数	19町内会
65歳以上	1,806人	高齢化率	20.8%	社協年会費	500円
15～64歳	5,255人	生産年齢人口比率	60.5%	平均世帯人員	2.6人
14歳以下	1,619人	年少人口比率	18.7%	地域サロン数	6団体

2. 概況

発足年月日	平成 28 年 4 月
-------	-------------

3. 地域の特徴

2016年4月の老上西小学校誕生とともに生まれた、まだ歴史の浅い学区社協です。まちづくり協議会をはじめ各種団体と同じ歴史を歩んでいます。まち協や各種団体と協力して高齢者サロンや「おいにいずカフェ」、「ニコニコ食堂」などの立ち上げを支援し、子ども、高齢者、障害者、子育て中の方、在住外国人の方など、地域のみんなが安心して暮らすことができるバリアフリーな活動を目指します。

4. 役員

役職名	定員	任期
会長	1人	2年
副会長	4人	2年
会 計	1人	2年
事務局長	1人	2年
監 事	2人	2年

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名 称	人 数	名 称	人 数
町内会長	9人	赤十字奉仕団老上分団	1人
民生委員児童委員協議会	3人	同和教育推進協議会	1人
社会福祉委員会	2人	少年補導委員会	1人
老人クラブ連合会	1人	健康推進員連絡協議会	1人
更生保護女性会	1人	教育振興会	1人

6. 福祉委員

名 称	活 動 内 容	人 数
老上西学区社会福祉委員会	各町内の福祉担当者の指導・育成及び町内の福祉事業	35人

7. 財源（令和2年度 決算）

収 入		支 出	
会費	703,500円	福祉の土壌づくり事業	629,916円
市社協補助金	638,000円	事務費	80,751円
学区社協共同募金助成	260,000円	コロナ緊急支援	500,000円
学区社協助成	75,000円	広報誌印刷	49,165円
地域サロン補助金	303,000円	活動の担い手づくり事業	755,432円
学区まち協交付金	95,000円	地域ふれあい活動費	259,267円
市社協賛助会費助成金	88,000円	地域サロン	307,000円
雑収入	11円	委員会活動	189,165円
前年度繰越金	562,650円	個別援助活動事業	321,946円
別途積立解約金	1,000,051円	各種団体ふれあい活動費	237,751円
		雑費	84,195円
		地域福祉関係団体間の交流事業	228,889円
		連携強化費	228,889円
		市社協会費・分担金	195,000円
		繰越金	956,029円
合 計	3,087,212円	合 計	3,087,212円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
4月9日	評議員会書面評決 議案書発送	
4月20日	評議員会書面評決 回収締切	
4月28日	第1回役員会開催 評議員会書面評決議案書発送	書面評決の結果集計、令和2年度活動計画等の協議 評議員に書面評決の結果を郵送。
5月6日	新型コロナウイルス緊急対策	マスクを全戸配布（まち協と共同事業）。
6月19日	まち協福祉部会と協議	社協とまち協の団体の枠を超えた活動のできるボランティアグループが必要と意見の一致をみる。メンバー集めの開始。
8月5日	ボランティアグループ たすけ隊「ママの手」発足	赤十字奉仕団・更生保護女性会・民児協・健康推進員などの協力を得て、メンバー20人で正式発足。立上げを支援。
8月7日	敬老会名簿確認	民児協の協力のもと、敬老会対象者の確認作業。
9月11日	敬老の日記念品分け、配布	各町内会・福祉委員・民児協の協力のもと、記念品を対象者に配布。
9月8日	自治会長と共同募金の依頼	まち協理事事に合わせて、会議の始まる前に各自治会長に共同募金の説明と協力を依頼。（市社協より説明）
9月21日	学区敬老会	新型コロナウイルス感染症拡大により中止。
10月25日	ふれあい遊楽まつり	新型コロナウイルス感染症拡大により中止。
11月25日～12月5日	賛助会員募金及び賛助会費募金	賛助会員26事業所(160,000円)
12月17日	医療福祉を考える会議	関係者18人で開催。今後の進め方について協議
1月11日	新春書初め大会	例年のぜんざい提供を取りやめ、お菓子や果物の提供支援。
3月9日	医療福祉を考える会議 (山田学区との交流会)	医療福祉を考える会議に特化した議題で、山田学区社協と交流会を実施。各々の学区での取り組みについて意見交換。

9. わが学区社協の主な事業

事業名	事業内容
地域安心声かけ訓練	
目的	認知症高齢者と介護する家族が安心して暮らすことができ、人と人とのつながりと思いやりを大切にできるまちづくりを目的とする。
対象者（参加者数）	福祉委員、民生委員、児童委員、自治会役員など 45人
協力者（団体）	地域包括支援センター、各介護事業所、行政、市社協
経費	20,000円
事業内容	町内会の集会所を自宅に見立て、認知症高齢者役介護施設の職員を参加者が見つけ、声をかけて自宅に送る訓練をする。訓練の様子を介護職員や専門職の方に評価と対応を教授してもらおう。安心と安全を第一に、声をかける体験をする。
今後の課題	コロナ禍で本年度は実施できなかったが、感染症対策を取りながら実施方法を考える。
事業名	老上・老上西学区区合同送迎事業
目的	学区住民の閉じこもりをなくす。
対象者（参加者数）	70歳以上の高齢者
協力者（団体）	運転者11人で実施。
経費	一回あたり100円で運用（学区外への送迎は200円/回）
事業内容	配車された車での送迎。
今後の課題	運転者と利用者の拡充。

玉川学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	12,222人	世帯数	6,369世帯	町内会数	4町内会
65歳以上	2,317人	高齢化率	19.0%	社協年会費	250円
15～64歳	8,433人	生産年齢人口比率	69.0%	平均世帯人員	1.9人
14歳以下	1,472人	年少人口比率	12.0%	地域サロン数	11団体

2. 概況

発足年月日	昭和63年3月
-------	---------

3. 地域の特徴

立命館大学びわこキャンパスの開校やJR南草津駅の開業により人口が増加してきたが、住民同士の関係が希薄になっている。
また、学区全体の高齢化が急速に進んでいる一方で子育て世代も増加していることから、高齢者への支援や活動とともに子育て世代への支援や活動も重要になっている。

4. 役員

役職名	定員	任期	名	称	人数	名	称	人数
会長	1人	2年	町内会		4人	各種団体		6人
副会長	4人	2年	民生委員児童委員協議会		17人	学校等		6人
会計	1人	2年						
事務局	10人	2年						
監事	2人	2年						

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名	称	活動内容	人数
社会福祉委員		地域の福祉活動の推進	58人

7. 財源（令和2年度 決算）

収		入		支		出	
会費	458,000円	福祉の土壌づくり事業	665,839円				
市社協補助金	965,000円	会議費等	31,013円				
学区社協共同募金助成	260,000円	広報紙発行、福祉セミナー等	34,826円				
学区社協助成	75,000円	特別障立への障立	600,000円				
地域サロン補助金	530,000円	活動の担い手づくり事業	553,500円				
ふれあいの場づくり助成金	100,000円	ボランティア活動への支援	23,500円				
学区まち協交付金	0円	地域サロンへの助成	530,000円				
市社協補助金	85,250円	個別援助活動事業	553,008円				
雑収入	6円	高齢者団体、サロン等への助成	142,254円				
前年度繰越金	886,356円	子育てサロン等への助成	230,629円				
		ふれあいの場応援事業	180,125円				
		地域福祉関係団体間の交流事業	0円				
		関係団体との交流等	0円				
		市社協会費	274,800円				
		繰越金	347,465円				
合計	2,394,612円	合計	2,394,612円				

8. 令和2年度活動実績

月日	事業名	事業内容
5月13日	玉川学区社会福祉協議会総会	令和元年度事業報告、令和2年度事業計画案等（審議決）
6月12日	自治連等との共同事業	玉川小中学生へのコロナ感染防止対策支援
9月26日	玉川学区医療福祉を考える会議	コロナ下での介護の現状について
9月	子育てサロンへの支援	会場マット、幼児用おもちゃの貸与
10月	草津市社協賛助会員への依頼	賛助会員への依頼活動
10月17日	歳末たすけあい募金活動	西反南草津店前で街頭キャンペーン
10月24日	福祉セミナー	「しつとと体罰」をテーマに開催
11月	地場ふれあいやサロンの活動支援	参加者の検温用に非接触式電子体温計を貸与
11月11日	高齢者ふれあいやサロン	野路町で開催。コロナ禍での過ごし方、フレイル予防について等
12月19日	玉川学区医療福祉を考える会議	コロナ下での在宅医療について
1月25日	高齢者ふれあいやサロン	ローレルコート南草津で開催。フレイル予防について等
2月15日	玉川社協だより	第58号発行
3月1日	自治連等との共同事業	玉小新一年生黄帽子助成

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	対象者（参加者数）	協力者（団体）	経費	事業内容	今後の課題
玉川学区医療福祉を考える会議	地域住民と専門家が地域の医療福祉に関する課題について議論し、相互理解を深めるとともに今後の地域福祉活動について考える	学区社協運営委員と民生児童委員 31人	専門機関の代表		第8回 コロナ下での介護の現状について専門職からのお話の後、意見交換 第9回 コロナ下での在宅医療について番組映像を視聴後、意見交換	対象者の拡大による地域住民への啓発
町別高齢者ふれあいやサロン	高齢者の介護予防の機会づくりやつながりによる高齢者の見守り、孤立化の防止	高齢者 野路町 53人	ローレルコート南草津 18人		社会福祉委員、民生児童委員等	
子育てサロンへの支援				72,254円		
コロナ下での過ごし方やフレイル予防についてのお話						
健康づくりのための簡単な体操など						
実施されない町内会の解消						

南笠東学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	7,784人	世帯数	4,045世帯	町内会数	6町内会
65歳以上	1,690人	高齢化率	21.7%	社協年会費	350円
15～64歳	5,275人	生産年齢人口比率	67.8%	平均世帯人員	1.9人
14歳以下	819人	年少人口比率	10.5%	地域サロン数	6団体

2. 概況

発足年月日	平成 12年 4月
-------	-----------

3. 地域の特徴

当学区は、草津市の南端に位置し、平成20年に開業した草津田上インターは新名神高速道路の起点となり、草津市南の玄関口と呼ばれています。一方、立命館大学びわここさかキャンパスや滋賀医科大学、龍谷大学瀬田キャンパスに通う学生が当学区に多く住んでおり、「若者の街」というイメージがあります。しかし、高齢化率や高齢者のみ世帯がこの10年間で1.4学区中で1番～2番の増加率であり、医療福祉を考える会議、健康なまら南笠東プロジェクト、福祉懇談会等の事業を強化し、誰もが安心して暮らせる取り組みを行っています。

4. 役員

役職名	定員	任期	名 称	人 数	名 称	人 数
会 長	1人	1年	自治連合会	5人	少年補導員	1人
副 会 長	3人	1年	福祉委員	16人	健康推進員	1人
副 会 計	1人	1年	民生委員児童委員協議会	17人	交通安全協会	1人
事務局次長	1人	1年	保護司	1人	老人クラブ	1人
事務局次長	1人	1年	更生保護女性会	1人	草津市BBS会	1人
理 事	6人	1年	青少年育成学区民会議	1人	こども園・小・中PTA	3人
監 事	2人	1年	体育振興会	1人	こども園・小学校・中学校	4人
			草津市赤十字奉仕団	1人	公的施設	5人
			草津市身体障害者福祉委員	1人	経験者	5人
			スポーツ推進委員	3人		

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名 称	活 動 内 容	人 数
福祉委員	事業の支援	20人

6. 福祉委員

名 称	活 動 内 容	人 数
福祉委員	事業の支援	20人

7. 財源（令和2年度 決算）

会費	収 入	支 出	
市社協補助金	799,000円	総務費	64,034円
学区社協共同募金助成	335,000円	事務費	37,079円
学区社協助成	260,000円	会議費	26,955円
地域一括交付金	75,000円	事業費	2,161,275円
市社協助成	1,750,100円	地域活動費	1,140,982円
ふれあいの場づくり補助金	121,000円	その他	639,063円
地域サロン補助金	100,000円	広報活動費	23,850円
前年度繰越金	215,500円	青少年福祉活動費	166,689円
利息、送迎利用者負担金	916,938円	高齢者福祉活動費	103,656円
	20,113円	民生福祉活動費	87,055円
		諸費	560,500円
		市社協会費	345,000円
		地域サロン	215,500円
		繰越金	1,471,842円
合 計	4,257,651円	合 計	4,257,651円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
9月	敬老会	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の高、対象者参加型の開催はできず、対象者へ記念品(お祝いメッセージ、マスク、タオル、純正おしぼり)を配布。男女学区内最高齢者宅に会長、民生委員・児童委員が訪問しお祝いをした。
9月2日	離乳食レストラン	離乳食作り「産学と育学」フェルトパネルと3色折り紙を用いてハンカシの可愛い真実の説明(44人)
9月24日	第1回高齢者健康教室	整理収納アドバイザー1級一坂相摩子氏より「今から始めよう1健康に過ごす為の整理収納の基本」の講話(42人)
2月2日	第2回高齢者健康教室	管理栄養士の谷口美津子氏より「住みなれた地域で生活元気にくらすために」の講話(40人)
10月11日	ひびこ学園との交流	学区まわりのシンボル事業で、学区の活動団体が協働して取組み、情報共有、地域の連携を育む。野外ステージ、作品展(マルシェ、器展覧会等を開催(延べ400人)
10月24日	合同フェスタ2020	合同フェスタの防災コーナーで防災食の紹介と配付。献金金の募集(190人)
10月24日	災害時支援訓練	防災食の紹介と配付
11月25日	赤十字奉仕団活動	ハイハイの清掃活動
11月28日・11月30日 12月3日・12月17日	食育講座	生活習慣病予防、フレイル(虚脱)予防の資料とランチョンマット配付。町内会のサロンに出向いて行った(70人)
12月16日	医療福祉を考える会議(福祉懇談会)	「はじめの294(ふくし)リレー」講座。草津市各課より当学区の事業のお褒めの発表をいただいた(31人)
1月11日	ボランティア団体新春交流会	「草津市社協のコロナ禍での取組みと過去と未来」と題し草津市社協の秋吉氏より講演。参加者全員に抱負や活動報告などひと言発表。(24人)
1月23・30日 2月27日	ミニ集会	「立ち直りを支えるボランティア」と「あなただひとりじゃない」のDVD鑑賞後、座談会で専業主婦の活動等について話し合う。(延べ35人)
通年	健康なまらプロジェクト	プロジェクトチームが健康、運動、笑いをテーマに年間4回の健康講座を開催。(延べ110人)
毎月 第1水曜	配食サービス	民生委員・児童委員が独居高齢者宅へお弁当等を届ける。同時に見守り活動となる。(延べ370人)
10月～3月末	赤ちゃん訪問	学区内の赤ちゃんを訪問し、子育ての相談窓口としての民生委員・児童委員の周知。孤獨な子育ての悩み相談の対応。(81人)
毎月 第3火曜日	子育てサロンあそび	未就園児の保護者の交流の場、子どもの遊び相手、遊び場の提供、支援が必要な家庭の発見と支援。(延べ168組)
通年	バースデイ訪問	80歳以上の高齢者を誕生日に訪問。話を聞いたり、情報を伝える。支援が必要な高齢者家族の起こし活動(361人)80歳以上の出席率25%
毎週木曜日	いきいき百歳体操	百歳体操とお口の体操を実施(延べ1,900人)
年1回	広報紙発行	学区社協により「氷菓」38号(3月31日)発行

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的
地域支え合い連立支援事業	草津市社会福祉協議会より送迎車を貸与いただき、学区内の社会とつながりが希薄化している高齢者や、日常生活支援が必要な人に対して、引きこもり予防や介護予防、地域でのふれあいの場への参加促進等を目的に実施。
対象者(参加者数)	送迎延べ 201人
協力者(団体)	運転ボランティア8人
経費	147,872円
事業内容	10月26日より送迎サポートを開始。高齢者、障がい者を対象に、病院、買い物、公共施設への送迎を実施。運転ボランティアは8人(3月末)で対応。
今後の課題	運営委員会は、6/15、8/24、10/19、12/16、3/15の4回実施。事業開始までの準備や詳細内容を検討し、送迎開始からは現状報告や問題点や改善点などを協議。ボランティアの年齢を配慮し、新しい方の登録を募る

山田学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	7,862人	世帯数	3,376世帯	町内会数	14町内会
65歳以上	2,402人	高齢化率	30.6%	社協年会費	420円
15～64歳	4,523人	生産年齢人口比率	57.5%	平均世帯人員	2.3人
14歳以下	937人	年少人口比率	11.9%	地域サロン数	17団体

2. 概況

発足年月日	昭和32年2月
-------	---------

3. 地域の特徴

琵琶湖に接するどかな田圃地帯であるが、幹線道路沿いは開発が進んでおり、近隣の商業地のようなところがある。しかし生活の場との意識は少なく、地域住民とのつながりは希薄である。学区内の人口は、草津市全体の傾向とは逆に、毎年減少しており、合わせて、市内高齢者の高齢化が進んだ地域である。
 ただし、旧来の地域では、高齢者だけの世帯率は比較的低く、三世帯が同居の世帯が多く、昔からの風習が色濃く残る部分もある。人々のつながりが密であったが、近年だんだんつながりが薄くなってきている。でもこの地域のつながりこそが、地域福祉の原点と考え「人と人とのつながりを求めて」活動を進めている。

4. 役員

役職名	定員	任期	構成団体			人数
			名	称	数	
会長	1人	2年	14人	連済会山田支部	1人	
副会長	若千名	2年	1人	健康推進員	1人	
会計	1人	2年	1人	更生保護女性会、保護司会	2人	
事務局	1人	2年	1人	子ども会指導者連合会	1人	
監事	2人	2年	1人	学区内保幼小PTA	5人	
6. 福祉委員			9人	ボランティアグループ	4人	

名	活動内容	人数
福祉委員	一人暮らし高齢者バス旅行・高齢者ふれあいサロン等、学区社協活動	25人
山田の福祉を考える会	福祉活動推進員養成講座修了者で構成し、学区社協のシンクタンクの存在	4人

7. 財源（令和2年度 決算）

会費	入		支		出
	収	入	支	出	
市社協補助金	985,000円		福祉の土壌づくり事業	166,307円	
学区社協共同募金助成	1,190,000円		県外人権研修	0円	
学区社協助成	260,000円		一人暮らし高齢者バスツアー	117,267円	
地域サロン補助金	75,000円		広報紙発行等	49,040円	
ふれあいの場づくり助成金	855,000円		活動の担い手づくり事業	3,883円	
雑収入	1,142円		福祉講座、福祉委員研修	3,883円	
前年度繰越金	798,514円		個別援助活動事業	1,071,568円	
			高齢者ふれあいサロン	0円	
			地域サロン	855,000円	
			一人暮らし友愛訪問等	216,568円	
			医療福祉を考える会議	9,600円	
			地域のふれあいの場づくり	111,065円	
			安心のハートン	26,458円	
			地域福祉関係団体間の交流事業	440,000円	
			会議費・事務費等	122,384円	
			市社協会費	318,900円	
			繰越金	950,241円	
合計	3,220,406円		合計	3,220,406円	

8. 令和2年度活動実績

月	日	事業名	事業内容
4月	6日	理事会	総会の議案書の審議
4月	18日	総会	前年度の事業報告・決算・監査報告/今年度の事業計画・予算の審議/役員改選
6月	4日	ふれあいの場づくり	地域サロンへの応援メッセージ
6月	24日	医療福祉を考える会議	市社協のまごころ便を全サロンに配布
7月	13日	ふれあいの場づくり	特別養護老人ホームえんゆうの郷2号館見学
7月	14日	福祉委員会	非接触型体温計、消毒用アルコールを全サロンへ配布
7月	30日	医療福祉を考える会議	福祉委員とは、年間の行事予定について
10月	28日	一人暮らし高齢者バス旅行	地域の香りゲーム 地域をもちこ知り福祉の理解を深める
11月	4日	助成金員募集	永源寺温泉八風の湯 地域をもちこ知り福祉の理解を深める
11月	15日	友愛訪問	一人暮らし高齢者への友愛訪問 対象337人
12月	14日	介護者歳末見舞金	一人暮らし高齢者への友愛訪問 対象11人
1月	15日	広報紙発行	広報紙76号発行 医療福祉を考える会議の広報 全戸配布
1月	21日	民泊協議会	民生委員、児童委員と福祉委員との懇談会
2月		第3次学区住民福祉活動計画	第3次学区住民福祉活動計画 安心のハートン製作 400個
3月	9日	医療福祉を考える会議	救急医療情報キット 安心のハートン製作 400個
3月	15日	広報紙発行	老上西学区との交流会を実施
年間			広報紙77号発行
			地域支え合い送迎事業

9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	対象者(参加者数)	協力者(団体)	経費	事業内容	今後の課題
山田学区の医療福祉を考える会議	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、現状や課題を話し合い、共有し、出来ることから実施して、地域における支え合いの仕組みをつくることを目的とする。	あらかじめ依頼した委員	町内会長、福祉委員、民生委員、児童委員、山田の福祉を考える会、医師(会)、ケアマネ、訪問看護、行政、地域包括支援センター、市社協、学区社協	3,883円	高齢者の困りごとやお互いの活動内容を共有し協力しながら、解決できることを話し合う	会議の目的や共有について地域での広がりが十分でない。会議参加者でも地域に専門職との間の理解が進んでいると感じられない。
キラキラキッズやまごころ(本年度はコロナで休止)	子ども達の居場所づくりや、食育を求めて一緒に調理や食事をし、またゲームに興じたりすること、地域の子ども達の絆や、地域の連携を深めることを目的とする。また保護者の方にもお手伝いを呼びかけ、地域デビューの一助になるように期待している。	学区内の小学生を対象とし、学校にお願ひして全児童に案内チラシを配布。30人程度を募集する	学区民生委員児童委員協議会、山田の福祉を考える会、市社協	0円	募集前に何をやるか料理を決めて、〇〇を作りまじょうと呼びかけている。子ども達5～6人と指導の大人2人程度でグループを作り調理する。またそのグループで自分たちの作ったものを食する。ゲーム等を通して楽しい時間を過ごす。地域の子ども達を守り育てる意識の大切さを理解する。最初のプレゼンテーションに紙芝居を作り、今日の準備を説明している。	民泊協とは常に一緒に実施しているも、今後の団体に広げることが毎回まだ手探りの状況。
新しいボランティア団体の創設	ふれあいの場づくり	令和3年度立ち上げのための準備やボランティアメンバーの募集業務	特別養護老人ホーム えんゆうの郷		出来ることから実施し、メンバーの熱意や地域への広がりに応じ、密度を上げたい	

笠縫学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	11,148人	世帯数	4,741世帯	町内会数	26町内会
65歳以上	3,330人	高齢化率	29.9%	社協年会費	150円
15～64歳	6,167人	生産年齢人口比率	55.3%	平均世帯人員	2.4人
14歳以下	1,651人	年少人口比率	14.8%	地域サロン数	17団体

2. 概況

邦定年月日	昭和34年8月
-------	---------

3. 地域の特徴

草津市の西部に位置し、JR草津駅西口から琵琶湖に至る地域である。京阪神の通勤・通学圏として開発された野村・上笠地区の住宅地も一定の期間が経ち、高齢化が進んでいる。近年は、農業振興地域の下笠地区にも住宅開発が進み、若い世帯が増加しているものの、市内では、高齢化率の高い学区である。

4. 役員

役職名	定員	任期	名	称	人数	人数
会長	1人	2年	福祉委員	民生委員児童委員	56人	2人
副会長	1人	2年	老人クラブ連合会	松原中学校PTA	1人	1人
会計	-	年	連済連合会笠縫支部	まちづくり協議会	1人	1人
事務局長	1人	2年				
監事	1人	年				

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名	称	活動内容	人数
福祉委員		町内会長および民生委員児童委員と連携し、地域内の福祉活動をすすめる	54人

6. 福祉委員

名	称	活動内容	人数
福祉委員		町内会長および民生委員児童委員と連携し、地域内の福祉活動をすすめる	54人

7. 財源 (令和2年度 決算)

収入		支出	
会費	384,000円	福祉の土壌づくり事業	757,000円
市社協補助金	1,038,000円	地域サロン活動助成金	754,000円
学区社協共同募金助成	260,000円	地域サロン交流会	3,000円
学区社協助成	75,000円	活動の担い手づくり事業	12,130円
地域サロン補助金	703,000円	おでかけ「はれ愛」模擬体験	6,065円
市社協奨励会費助成金	107,250円	高齢者みまもり(ワーキング)	6,065円
前年度繰越金	0円	個別援助活動事業	127,144円
		各種団体支援事業	90,000円
		小学校との交流事業	37,144円
		市社協会費	384,000円
合計	1,529,250円	繰越金	248,976円
		合計	1,529,250円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
6月11日～ 2月18日【8回】	地域医療と福祉を考える会議【定例会】	学区の課題の共有や見守り体制づくりについて、どのように取り組んでいくのか検討
7月15日～ 2月18日【11回】	事業等打合せ会議	令和2年度実施事業について協議
10月17日	おでかけ「はれ愛」模擬体験	認知症で町内を徘徊している人への声かけ体験(41人)
10月26日	小学校との交流	笠縫小学校3年生とグラウンドゴルフを通じて交流(小学生114人)
11月5日	地域医療と福祉を考える会議【ワーキング】	学区の課題の共有や見守り体制について、地域・事業所等に参加いただき、グループでの話し合いを実施(35人)
12月16日	小学校との交流	特別支援学級との交流 25人
2月9日	地域サロン交流会	地域サロン代表者交流会 23人 高齢者を取り巻く環境やコロナ禍での取り組みについて、情報交換
6月～9月	敬老事業支援	各町内会で実施
随 時	各種団体支援	各種団体活動助成

※コロナ禍による中止事業
福祉活動担い手研修 2回 「はれ愛」いざなり(70歳以上かつ一人暮らし) 2回 地域医療と福祉を考える会議ワーキング 2回目
9. わが学区社協の主な事業

事業名	目的	対象者(参加者数)	協力者(団体)	経費	事業内容	今後の課題
笠縫「おでかけ」はれ愛模擬体験	認知症で町内を徘徊している人への声かけ体験	41人	野村地域住民(コロナ禍により参加者限定)、松原地帯包括支援センター、学区内介護施設、自治連、民児協、市役所、市社協、まち協地域福祉部会 *野路桜が丘町内会の見守りあり	6,065円	コロナ禍により参加者および地域を限定して実施 10月26日の開催に向けて、詳細の打合せ会議:8/12、9/14、10/8の3回 10月26日本番:声かけ模擬体験の実施 参加者アンケート実施 当日、雨天のため、野村丸/内会館にて実施	
地域サロン交流会	高齢者が住み慣れた地域で、安心して生活を送ることができるように、身近な場所へ気軽に参加し、地域の仲間とのつながりを深める居場所づくりへの支援	23人	地域サロン代表者、市役所、市社協、まち協地域福祉部会	3,000円	2月9日:地域サロン交流会の開催 ・高齢者を取り巻く環境について・・・市地域保健課より ・マスコット作り ・地域サロン代表者間のコロナ禍での活動状況・取り組み内容について意見交換	各地域サロンへの新たな参加者(引きこもり等の高齢者)、地域サロンの増設

笠縫東学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	10,630人	世帯数	4,664世帯	町内会数	14町内会
65歳以上	2,744人	高齢化率	25.8%	社協年会費	350円
15～64歳	6,307人	生産年齢人口比率	59.3%	平均世帯人員	2.3人
14歳以下	1,579人	年少人口比率	14.9%	地域サロン数	9団体

2. 概況

発足年月日	昭和 58年 5 月
-------	------------

3. 地域の特徴

小地域福祉活動の充実と推進
 ◎ミニサロン・ほのほのサークルへの支援強化
 ◎ふれあいサロンの充実による子ども連への支援

4. 役員

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体					
名称	定員	任期	名称	人数	人数
会長	1人	1年	町内会長	4人	6人
副会長	3人	1年	総務部会		6人
合計	1人	1年	民生委員児童委員協議会	4人	10人
事務局	1人	1年	地域活動部会		
監事	2人	1年			

6. 福祉委員

名称	活動内容	人数
ボランティア委員	地域サロンの担い手	102人

7. 財源（令和2年度 決算）

収入		支出	
会費	1,171,100円	福祉の土壌づくり事業	3,471,123円
市社協補助金	672,500円	敬老会	2,588,190円
学区社協共同募金助成	260,000円	三世交代流	160,053円
学区社協助成	75,000円	地域福祉活動	722,880円
地域サロン補助金	337,500円	活動の担い手づくり事業	215,840円
学区まち協交付金	2,636,200円	福祉講座	30,268円
市社協賛助会費助成金	137,500円	わんぱくプラザ	35,000円
雑収入	46,613円	友愛訪問	150,572円
前年度繰越金	471,028円	個別援助活動事業	747,739円
		各種団体助成	90,000円
		消耗品費 他	186,299円
		まちづくり協議会基金積立	471,440円
		地域福祉関係団体間の交流事業	0円
		市社協会費	498,150円
		繰越金	202,089円
合計	5,134,941円	合計	5,134,941円

8. 令和2年度活動実績

月 日	事業名	事業内容
4月4日	令和2年度総会	書面議決
9月19日	学区内最高齢者お祝い	103歳の女性にお祝いと花束贈呈
9月21日	敬老会	開催は中止。記念品とマスク（10枚）を対象者全員に届ける
10月31日	地域福祉懇談会	高木洋司氏による「コロナ禍の人権学習」34人参加
12月5日	フワアアアレンジメント	小学生22人参加。クリスマス花の制作
12月19日	ふれあいサロン	餅つき大会55人参加
年間を通して	ほのほのサークル	学区内10サークルで高齢者行き場づくりを展開
//	ミニサロン	//
//	友愛訪問	85歳以上の高齢者に誕生日プレゼントを届ける

9. わが学区社協の主な事業

事業名	内容
友愛訪問	85歳以上の高齢者を対象に誕生日プレゼントを安否確認も兼ねて届ける
対象者（参加者数）	364人
協力者（団体）	本部 ボランティア委員 民生児童委員
経費	150,572円
事業内容	本部、ボランティア委員が手づくりのプレゼントを用意し、お誕生日に民生協とボランティア委員が訪問。安否確認を兼ねて届ける
今後の課題	施設利用等で転居者が増加している事から普段からの気配り等が求められる

事業名	内容
ふれあいサロン（第3回）	
目的	三世交代流
対象者（参加者数）	55人
協力者（団体）	ボランティア委員
経費	160,000円
事業内容	児童や園児と高齢者との交流 （本年に限りにコロナ禍の為、交流は中止。一人暮らしの高齢者へののみプレゼント）
今後の課題	協力者（ボランティア委員の高齢化）

常盤学区社会福祉協議会

令和3年4月1日現在

1. 学区の状況

人口	4,837人	世帯数	1,804世帯	町内会数	16町内会
65歳以上	1,557人	高齢化率	32.2%	社協年会費	500円
15～64歳	2,648人	生産年齢人口比率	54.7%	平均世帯人員	2.7人
14歳以下	632人	年少人口比率	13.1%	地域サロン数	16団体

2. 概況

発定年月日	昭和 34年 5月
-------	-----------

3. 地域の特徴

田園地帯の中に、草津市の歴史遺産が多く残る学区です。「人と地域が輝く常盤協議会」を地域の中心軸として、進む『少子化・高齢化』の多様な地域課題に、地域遺産でもある『人とのつながり=きずな』を基盤に、『子どもから高齢者まで、みんなが元気でいきいきと、健康で最後まで暮らせる安心のまち』と『常盤』をめざしています。

4. 役員

役職名	定員	任期
会長	1人	2年
副会長	2人	2年
会 計	1人	2年
事務局	1人	2年
監 事	2人	1年

5. 学区・区社会福祉協議会 構成団体

名 称	人 数	名 称	人 数
理事会	16人	1キヤンパス	1人
常協、福祉健康部会	22人	更生保護女性会	1人
民生委員児童委員協議会	12人	日赤奉仕団	1人
健康推進員	1人	身体障害者更生会	1人
子育てサロン	2人	他6団体	6人

6. 福祉委員

名 称	活 動 内 容	人 数
福祉協力員	全16町で活動する『地域サロン=ほのほのサークル』の代表者。	16人

7. 財源 (令和2年度 決算)

会 費	入		支 出	
	収	入	支	出
市社協補助金	675,000円	事業活動費	1,316,510円	
学区社協共同募金助成	903,500円	地域サロン活動助成	1,056,908円	
学区社協助成	260,000円	ひとり暮らし高齢者事業	110,030円	
地域サロン補助金	75,000円	福祉健康事業	72,572円	
学区まち協交付金	568,500円	団体活動助成	77,000円	
市社協賛助会費助成金	95,000円	協力団体、活動助成費	285,000円	
社会教育振興基金活動助成金	148,500円	全12団体	285,000円	
雑収入	3円	教育振興基金、活動助成費	130,000円	
前年度繰越金	322,255円	3団体	130,000円	
		活動保険費	8,050円	
		通信費	13,523円	
		会議費	17,237円	
		市社協会費	206,160円	
		繰越金	297,778円	
合 計	2,274,258円	合 計	2,274,258円	

8. 令和2年度活動実績 ※ 新型コロナウイルス感染症防止の為、多くの行事・事業の中止、延期、変更が発生した。

月 日	事業名	事業内容
4月11日	定例 総会	前年度事業・決算報告、次年度事業・予算計画提案、役員改選。
7月 1日	「社協 ときわ」発行	9/5「草津市特定健診in常盤」の説明・案内を全戸配布。
8月 8日	ひとりの暮らし高齢者一給食	希望者62人。民生委員・児童委員が安否確認を兼ねお菓子を配布。
〃	福祉協力員会議	活動助成金の支給と、活動報告及び情報交換会。
8月11日	「人権福祉協議会」活動助成	各町老人クラブでの懇談会開催支援。
9月 5日	草津市、特定健康診断in常盤	まちづくりセンターにて健診実施。
9月15日	「長寿付表」の全戸配布	9/1付での男女別、長寿者各々20人を選載。
10月19日	「みんなであおう会」開催	福祉健康講座。社会人英語家2名による英語講座。
10月24日	「健康推進員活動」の全戸配布	健康推進員活動の支援組織。21人が登録して、活動打ち合わせ。
11月14日	賛助会会員募集活動	11/14理事会にて説明。11月度内にて完了。
11月25日	「笑おう会in志那中町」	社会人英語家をサロンに派遣。8/19片岡町・9/12上寺町・9/19津田江町・9/22穴村町・10/6吉田町の6サロンで開催。
12月 5日	ひとり暮らし高齢者一給食	健康、同協力が調理バック詰め、民生委員・児童委員が安否確認を兼ね配布。
12月12日	「健康ウォーキング会」	常協8団体共催事業。学区内南側地域6kmを歴史ウォーキング。
1月15日	「社協 ときわ」発行	賛助会加入事業所・個人の紹介を全戸配布。
2月19日	福祉協力員会議	活動報告及び情報交換会。非接触式温度計を全サロンに支給。
2月15日	「お笑いin体障会」	福祉健康講座。社会人英語家・体障指導士による。
3月 3日	ひとり暮らし高齢者一給食	健康、同協力が調理バック詰め、民生委員・児童委員が安否確認を兼ね配布。
3月27日	理事会	総会提案事項の協議。

9. わが学区社協の主な事業

事業名	内容
高齢者支援事業	移住族化、長寿命化、高齢化進行中の、一人暮らし・二人暮らし・高齢者が増加中、これに伴い発生する「孤立化」防止を目的に、様々な事業活動を継続展開する。
対象者(参加者数)	約300人/月平均
協力者(団体)	福祉協力員、民間団、自治会、老人クラブ、健康推進員、同協協力員、まち協、身障生会、四徳会。
経費	約1,300千円
事業内容	各町の地域サロン活動・運営全般での支援。ひとり暮らし高齢者事業(食事・旅行)の実施。 常盤学区の福祉健康推進事業(広報啓蒙、健康チェック、高齢者の健康づくり、お笑いの提供) 各町での老人クラブの人情・福祉懇談会の活動支援。
今後の課題	新型コロナウイルス対策の充実、人材育成、新規参加者、特に男性高齢者の参加促進。
事業名	こども支援事業
目的	少子化の中、子どもが常盤の自然の中で元気に、いきいきと育つための活動支援や、未就学児童とその保護者との交流を推進して健全育成に資する。
対象者(参加者数)	約50人/月平均
協力者(団体)	1キヤンパス、子育てサロン(ひまわり・チャイルドハウス、民活協、健康推進員、まち協)
経費	約400千円
事業内容	1キヤンパスの「線のはらへっこ会議」/毎月実施への活動・運営を支援する。「子育てサロン」/毎月実施への活動・運営を支援する。
今後の課題	新型コロナウイルス対策の充実、人材育成と支援者増加。

3. 草津市の医療福祉を考える会議実施地区まとめ

草津市の医療福祉を考える会議



この会議では、地域の団体、市社協、地域包括支援センター、事業所、医師（必要に応じて企業や事業者）等が地域の現状や生活課題を共有し、解決に向けた地域の活動の充実または創出を進め、地域における支えあいの仕組みをつくることを目的としています。

何度も行ったり来たりしながら、いろいろな立場の方々の参画を促し、専門職等との連携、協働を進めます。

- 顔の見える関係づくり** 地域・事業所・行政・市社協・各団体のそれぞれの役割、取り組みを理解する
- 課題の共有（我が事）** 様々な困りごとから暮らしの課題、地域の課題を共有する（GWDの実践例）
- 資源の把握** 地域にある、様々な資源を把握する（事業所、医師個人、学校、坊保、企業、商店、神社等）
- 地域の課題を知る** 地域の課題・自然や特徴・形成経緯を知る（高齢化率、一人暮らし、生活保護率、地域版すごろくゲーム、地域活動の情報交換等）
- 周知・啓発・学習** 地域住民への理解を深めるためのフォーラム、研修会の開催やHP、各媒体による啓発の実施

↑

（五ごと）地域活動（資源）の創設・拡大・継続
 地域課題の解決のため、地域社会や市民との連携・協働で多様な活動を創設する
 （図い子育て館、居場所づくり、支えあいの活動づくり……）

志津学区

テーマ	向こう三軒両隣 おたがいきさまのまち志津 ～地域のすべてが「つながり」、認知症になっても安心なまちに～
経過	平成27年度 第1回 会議の目的・情報について共有 地域にある高齢者の課題、こういう支援やサービスがあれば 第2回 認知症予防のために行っていること ～志津学区の地域課題について～ 平成28年度 認知症講座の開催① 第3回 振りの返りと今後のテーマについて ～関係機関・団体の「ご縁」～ 第4回 お互いを知る① ～市社協、学区社協、まち協、民児協、福祉委員、健康推進員～ 第5回 お互いを知る② ～ケアマネ、小規模多機能、特養、GH、長寿いきがい課～ 第6回 お互いを知る③ ～デイサービス、訪問看護、医師、包括～ 第7回 お互いを知る④ ～事例研究～ 平成29年度 認知症講座の開催②、「あしんつながりノート」作成・配布 第8回 資源マップの作成について 第9回 資源マップの内容検討① 第10回 資源マップの内容検討② 第11回 資源マップ「あしんつながりノート」の活用について 平成30年度 地域あしん声掛け訓練の実施 第12回 認知症になっても生き生きとくらしつづけるためには 第13回 たとえ徘徊が始まったとしても、志津で住みつづけてほしい！と思えるように、地域・個人で何ができるか考えよう 第14回 認知症になっても安心なまちを目指して ～具体的に何かできるのかを考える～
志津らしい「つながり」を考える	令和元年度 第15回 理想の居場所「語らいの場」について ～内容、人、場所、頻度や時間について考える～ 第16回 身近な居場所について① ～こんな居場所がある、こんな居場所があったらいいな～ 第17回 身近な居場所について② ～居場所をもっと広げてみる～ 令和2年度 第18回 コロナ禍の地域福祉について考える 第19回 志津のあしんつながりプロジェクトについて① ～居場所マップ、ランチマップの作成～ 第20回 志津のあしんつながりプロジェクトについて② ～マップの校正について、マスキング作り～ 令和3年度 志津のあしん居場所マップ、ランチマップの作成・配布、 第21回 ぶらっと茶屋の開設 第22回 マップの活用方法について
今後の取り組み	令和3年度、地域のつながりに活動をすすめる、「志津のあしんつながりプロジェクト」としてマップを作成し、地域資源の見える化ができた。今後は、配付して終わりではなく、引き続き転入者には顔合せの目的で配布したり、若い世代の目にとまるよう電子化し、更新管理していく。 また、医療福祉を考える会議のメンバーにテーマに関するアンケート調査を行い、認知症をテーマにしたという声が多数あったので、認知症をテーマに地域安心声掛け訓練や認知症研修、認知症サポーター・リーダー養成講座等を実施していく予定である。

志津南学区

テーマ	医療福祉を考える会議立ち上げに向けて
経過	<p>平成29年度 事前会議① 医療福祉を考える会議について 事前会議② 大野木長寿まつり会との視察交流会</p> <p>平成30年度 事前会議③ 医療福祉を考える会議について「テーマの提案」 事前会議④ 他学区の状況、今後のテーマについて</p> <p>令和2年度 事前セミナー</p> <p>令和3年度 医療福祉を考える会議 研修会 社会福祉委員対象「高齢者を支えるしくみ」</p>
今後の取り組み	<p>平成24年2月に「さわあいわす絆」を開設、また26年9月から「地域支えあい運送」事業を開始している。高齢者の除草や、買い物支援等の助け合いが広がっている。また、子育て世代の居場所として「もっこもこ」を開設するなど、その活動が広がっている。</p> <p>地域活動の拠点・土壌がある中、令和2度に医療福祉を考える会議が設置されたところであり、地域の課題を共有し、課題解決に向けて検討を進めるためのメンバーの選出、テーマの検討を進めていく。</p>

矢倉学区

テーマ	矢倉なりの見守りと居場所を知る、広げる ～高齢者になってからも住み慣れた地域で暮らしたい・病院に入りたくないという思いを受け止め、地域にどんな支援のしくみが必要か考える～
経過	<p>平成27年度 地域資源マップの作成・配布、「さわあいわす絆」の開催 第1回 会議の目的の共有と学区の課題 ～こんなのがあったらいいな～</p> <p>第2回 たくさんの地域課題から認知症を取り上げる</p> <p>平成28年度 第3回 事例検討 ～地域で気になる、物忘れの多くなった人～</p> <p>第4回 地域の活動を知る ～地域サロン、民児協～</p> <p>平成29年度 認知症サポーター養成講座（児童育成クラブ）開催、 「行方不明徘徊対応心コミュニケーション」作成</p> <p>第5回 事例検討 ～自助・共助で何ができるか～</p> <p>第6回 徘徊してしまふ高齢者に対してどのような予防法などがあるのか</p> <p>第7回 町内会での認知症高齢者に対する取組事例と意見交換</p> <p>平成30年度 認知症サポーター養成講座（小学校）開催、 「ニコニコストロン」と「聴」のコラボ開催</p> <p>第8回 地域の活動を知る ～つながりの大切さ、地域つながりを作るために～</p> <p>第9回 地域のつながりの場「聴」について ～「聴」がもっと広がるために～</p> <p>第10回 「聴」を広げる具体案を出し合おう</p> <p>令和元年度 玄相団地の「聴」の開始、まち協新聞「みらい通信」で会議啓発</p> <p>第11回 居場所を広げよう① ～自分たちが居場所を作るには、ひと・もの・時間～</p> <p>第12回 居場所を広げよう② ～学区内の居場所を知ろう、考えよう～</p> <p>令和2年度 まち協新聞「みらい通信」で会議啓発</p> <p>令和3年度 聴いの場づくり応援隊プロジェクトの立ち上げと、プロジェクト会議のメンバー構成を決めることができた。</p>
今後の取り組み	<p>地域課題の中から「認知症」をテーマに進め、小学校や児童育成クラブを対象に認知症サポーター養成講座を実施し、地域での認知症理解を進めてきた。また、認知症による行方不明に対応するため「行方不明徘徊対応心コミュニケーション」を作成し、地域での迅速な対応を目指している。</p> <p>さらに、地域の「見守り」の場として「聴」を開設しており、その拡大を目指して、「居場所開設マニュアル」作成の検討が進んでいる。サロン等運営者の意見を聞きながら、マニュアル作成を進めるとともに、居場所の拡大を目指す。なお、地域のつながりを進めることができる活動の検討を進める。</p>

草津学区

テーマ	地域の誰もがつながりを持ち、困りごとを抱えながらも安心して暮らせていけるまちなちを目指す
経過	<p>平成 30 年度 草津学区の「健幸を語り合うプロジェクト」事前会議 ざくばらんに意見交換「認知症、子育て」</p> <p>第 1 回 つながるって面白い ～今までにどんなつながりがあったかな～</p> <p>第 2 回 楽しく活動を続けるために ～活動の課題、困りごと、つよみについて～</p> <p>令和元年度 会議の啓発：学区社協事業「豚汁会」を共催</p> <p>第 3 回 活動の情報交換と意見交換 ～フェイス、オアフ、みんなの家、ゆかい家～</p> <p>令和 2 年度 会議の啓発：学区社協事業「豚汁会」を共催</p> <p>第 4 回 コロナ禍での支え合い、つながりについて</p>
今後の取り組み	<p>平成 24 年にオープンした立ち寄りカフェ「ゆかい家」は地域の居場所として定着しており、また様々な地域活動の拠点となっている。プロジェクトでは、地域と介護事業所、専門職のつながりが進みつつあり、今後、協働での活動の創設に向けて取り組みを進めたい。また、参加メンバーを固定しないで、「地域」の誰もが、何かを抱えながらも幸せに暮らしていきたい」という思いを語りあう場として、テーマに合った参加者を募るなど、若者世代、子育て世代が参加しやすい環境づくりが必要だと考える。地域の誰もが繋がれる地域づくりにむけて引き続き取り組んでいく。</p>

渋川学区

テーマ	いつまでも安心・安全に住みつづつづけられる福祉のまちづくり ～地域と専門職が協働してできることを考え、福祉の風土づくりを進める～
経過	<p>平成 27 年度 第 1 回 会議の目的の共有と学区の現状について ～こんなのがあったらいいな～</p> <p>第 2 回 事例検討「認知症高齢者の現状を知る」</p> <p>平成 28 年度 第 3 回 ケアパスと資源マップの作成について</p> <p>第 4 回 医療福祉を考える会議新聞の発行</p> <p>平成 29 年度 第 5 回 ① 渋川学区ってどんなまち？ ② 暮らしのアンケート調査の結果 ③ 渋川の課題、つよみ、夢について</p> <p>平成 30 年度 アンケート調査の実施（つながりを広めるために） 健康相談会の開催</p> <p>第 6 回 「つながり」の大切さ、どうしたらつながり広がるのか」</p> <p>第 7 回 「つながり」を広げるためにできることを考える</p> <p>平成 31 年度 「しずはなちゃん健康サロン」開催 第 8 回 事業所との協働「よろず相談」「健康相談」について</p> <p>第 9 回 健康相談の実施について ～ワーキンググループが進める健康相談～</p> <p>令和 2 年度 「しずはなちゃん健康サロン」開催</p>
今後の取り組み	<p>地域のつながりを広げるアイテムとして、ワーキングによる「健康サロン」を開催している。今後、ワーキングを中心に気軽に立ち寄れる居場所として、依頼希望のある地域サロンに出向く「出張健康サロン」の実施も計画しており、継続する体制としたい。また、改めて今後の少子高齢化による課題の共有を図り、必要な地域活動の創出や活性化に向けて取り組みについて検討を進めていく。</p> <p>会議メンバーについてはテーマに応じて柔軟に変更することとして、地域の意欲ある人材の参画を促す。</p>

老上学区

テーマ	人と人とのつながりづくり・ふれあいの場づくりを考える～居場所づくり～
経過	<p>平成24年度 会議の目的を共有する</p> <p>平成25年度 認知症フォーラムの開催</p> <p>第1回 学区内の医療や介護サービスを把握し、学区の実情を知る</p> <p>第2回 介護者の声を聞き、課題を考える</p> <p>第3回 「認知症」をテーマにした研修会の実施について</p> <p>平成26年度 事例検討 ～地域にどのような支援が必要か～</p> <p>第4回 「認知症ケアパス」について</p> <p>第5回 地域資源マップの作成・配布、徘徊模擬訓練の実施（老上社協）</p> <p>第6回 「認知症」をテーマにしたワークショップ実施について</p> <p>第7回 「認知症ケアパス」の内容・運用方法について</p> <p>第8回 「認知症ケアパス」の内容・運用方法について</p> <p>平成28年度 徘徊模擬訓練の実施（湖州平）</p> <p>第9回 地域の高齢者を見守る仕組みについて</p> <p>第10回 会議のコンセプトについて再認識と振り返り</p> <p>平成29年度 徘徊模擬訓練の実施（老上西社協）、会議新聞発行①②</p> <p>第11回 「どんな拠点だったら行ってみたい？」を考える</p> <p>第12回 学区での拠点の必要性について考える</p> <p>第13回 「活動を長く続けるには」を考える</p> <p>第14回 カフェほっこり、支えあい運送の開始</p> <p>平成30年度 カフェほっこり、支えあい運送の開始</p> <p>第15回 老上のこれからを考えるフォーラム（町内会長、VG等）</p> <p>第16回 カフェほっこり、支えあい運送を広げるには？</p> <p>第17回 地域の事業を知る ～居宅介護・学区社協～</p> <p>令和元年度 安心のアイテム「命のバトン」の実施について</p> <p>第18回 「命のバトンプロジェクトチーム」について</p> <p>令和2年度 「命のバトン」について考える（消防署と連携）</p> <p>第20回</p>
今後の取り組み	<p>高齢者の課題の中から認知症をテーマとし、「認知症フォーラム」や「徘徊模擬訓練」など、認知症に対する理解を深めるための取り組みを実施した。また、高齢者を見守りの仕組みとして居場所や拠点の開設に取り組み、カフェほっこりの開催や支えあい運送事業を開始している。</p> <p>今後は、コロナ禍でも老上おしゃべりボランティアや送迎サポートを通して高齢者が孤立しない地域づくりを進めていくとともに、地域の現状を共有し課題を再認識することで活動の継続、拡大に向けて検討していく。</p>

老上西学区

テーマ	地域での支えあい活動の広がりと担い手の育成を目指す～医療福祉を考える会議から生まれる地域活動を目指して～
経過	<p>平成24年度 会議の目的を共有する</p> <p>第1回 認知症フォーラムの開催</p> <p>平成25年度 学区内の医療や介護サービスを把握し、学区の実情を知る</p> <p>第2回 介護者の声を聞き、課題を考える</p> <p>第3回 「認知症」をテーマにした研修会の実施について</p> <p>平成26年度 事例検討 ～地域にどのような支援が必要か～</p> <p>第4回 「認知症ケアパス」について</p> <p>第5回 地域資源マップの作成・配布、徘徊模擬訓練の実施（老上社協）</p> <p>第6回 「認知症」をテーマにしたワークショップ実施について</p> <p>第7回 「認知症ケアパス」の内容・運用方法について</p> <p>第8回 「認知症ケアパス」の内容・運用方法について</p> <p>平成28年度 徘徊模擬訓練の実施（湖州平）</p> <p>第9回 地域の高齢者を見守る仕組みについて</p> <p>第10回 会議のコンセプトについて再認識と振り返り</p> <p>平成29年度 徘徊模擬訓練の実施（老上西社協）、会議新聞発行①②</p> <p>第11回 「どんな拠点だったら行ってみたい？」を考える</p> <p>第12回 学区での拠点の必要性について考える</p> <p>第13回 町内会で話せる場をつくらせたら？</p> <p>第14回 地域での支えあい活動の広がりと担い手の育成を目指す</p> <p>平成30年度 支えあい運送の開始</p> <p>第15回 老上のこれからを考えるフォーラム（町内会長、VG等）</p> <p>第16回 「こんな繋がる活動ができそう、こんな活動が必要」を考える</p> <p>令和元年度 地域安心声掛け訓練（新浜・栗新浜）</p> <p>第17回 「認知症」について事例検討</p> <p>第18回 「認知症サポート養成講座」</p> <p>令和3年度 VG ままの手発足</p> <p>第19回 地域の実情を知ろう ～包括や事業所から困りごとの事例紹介～</p>
今後の取り組み	<p>平成29年度からは老上学区との分離により活動している。地域の居場所・拠点について議論を重ね、「VG ままの手」が発足。支えあい運送や居場所の開設につながっている。専門職等から老上西学区の地域課題を紹介頂き、地域・事業所等での共有を進めている。今後は、課題解決に向けて地域でできること、地域に期待することを話し合い、新たな活動につなげていきたい。</p> <p>令和4年度のテーマを「認知症予防」とし、「地域・医療・福祉・行政」といったさまざまな立場から知識や知恵を持ち寄り話し合い、学区住民の声による地域の課題把握を共有することはもちろん、事業所や自治体等から個別課題を吸い上げ、それをもとに考える会議内で地域の課題かどうかの検討や情報交換、学習会の開催に取り組み、解決策につながる具体的な活動展開の検討をする。まずはこの課題の解決に取組むか、どの活動の実現を目指すか等の方向性を会議の場にて話し合い、住民に広く周知・啓発を図りながら医療福祉を考える会議発信の取り組みを行う。</p>

玉川学区

テーマ	誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり ～地域と専門職が一緒に何ができるかを考える～
経過	平成 29 年度 医療福祉を考える会議新聞の発行①② 事前会議 会議の目的を共有する 第 1 回 玉川の高齢者の暮らしの問題を知る 第 2 回 知りたいたい情報ってどんな情報？ 平成 30 年度 第 3 回 認知症について考える 第 4 回 身近なつながり、繋がりの弱い人の目線、あったらいいな、繋がりが つくり 第 5 回 町内会の取り組みを知ろう 令和元年度 第 6 回 地域の施設を知ろう ～萩の里交流会～ 第 7 回 地域・施設での認知症介護について 令和 2 年度 第 8 回 コロナ禍の介護について（社協運営委員、民生委員） 第 9 回 コロナ禍の医療について（社協運営委員、民生委員） 令和 3 年度 第 10 回 コロナ下での各団体・専門職の取組、コロナ下での障害者のくらし （民生委員・医師・手をつなぐ育成会・地域サロン活動者・主任児 童委員・ケアマネ・施設長・包括）
今後の取り組み	4 つの町内会がそれぞれ地域の特性に応じた活動を行っており、各地域の活動や地域の事業所について情報を共有し、顔の見える関係づくりを進めてきた。また、地域で活動する多くの団体を対象に、対象メンバーを変えながら、コロナ下の暮らしについての学習を行った。地域にある事業所や専門職とのつながり、お互いに地域で何ができるのか、どんな活動ができるのかの意識付けを進めたい。

南笠東学区

テーマ	誰もが安心して暮らし続けられる福祉のまちづくりを進める
地域と専門職が高齢者の暮らしの問題を「我が事」ととらえて共感し、その問題を地域の課題として地域全体で考える	平成 28 年度 第 1 回 「顔合わせ」みんなの思いや活動・役割を知る 第 2 回 「感じる」高齢者の暮らしを自分のことを受け止めてみる 第 3 回 「考える」高齢者の暮らしの問題を知り、自分たちの未来を考える 平成 29 年度 第 4 回 「つくる」地域資源マップを作成する 平成 30 年度 第 5 回 資源マップを作ってみての感想、マップのアンケート報告 第 6 回 南笠東学区でこれから必要なことを考えよう 令和 2 年度 第 7 回 地域福祉懇談会 『ほめほめ 294（ふくし）リレー講座～「ありがとうを伝え、地域と共に生きぬきましょう」～』 （学区の魅力を再発見する機会）
地域の活動について	
今後の取り組み	平成 29 年に、地域と専門職が議論を重ね、資源マップ「地域の香り」ときめきのまち南笠東 お助けマップ」を作成した。このマップを通して、地域の香りを感知ながら、南笠東で安心して暮らしていくにはどうしたらよいか、一緒に考えるきっかけとなるよう配布を行った。 今後は、地域の活動に光があてられ、より深みがでるよう、周知・啓発を進めていくとともに、地域と専門職（行政や事業所等）のつながりを強化し、どちらか一方ではなく、お互いが助け合いながら、学区の実情をとりえ、地域の支え合いができるよう進めていきたい。

笠縫東学区

テーマ	笠縫東の見守りの仕組みをつくらう ～地域住民と専門職で顔の見える関係づくりを行い、地域の課題を把握・共有し、解決に向か って何をしたら良いのかを話し合う～
経過	平成 24 年度 第 1 回 私の周りで気になる高齢者について 第 2 回 認知症と医療について ～医師・地域・包括・ケアマネ等～ 第 3 回 老々介護とひきこもり、独居高齢者について（事例検討） 平成 25 年度 第 4 回 老々介護の現状と課題について情報交換 第 5 回 老々介護世帯訪問の実態と課題について（民生委員・包括から） 第 6 回 老々介護世帯を孤立させないための支援を考える① ～各専門職から～ 平成 26 年度 地域資源マップの作成・配布 第 7 回 老々介護世帯を孤立させないための支援を考える② ～医師から見た気になる世帯～ 第 8 回 独居高齢者の生活課題について（事例検討） ～住民の力や社会資源の活用、不足しているサービスは何か～ 第 9 回 振り返り ～共通の地域課題共有する～ 平成 27 年度 第 10 回 認知症ケアパスを作成 ～笠縫東の社会資源を考える～ 第 11 回 事例を通して認知症ケアパスの内容の検証 平成 28 年度 第 1 2 回 高齢者がかけられる場所を知ろう ～認知症を抱える世帯の孤立・サロンに行けない背景～ 第 1 3 回 サロンに行けない背景 （認知症、地域からの関わり、身体状況の変化等） 平成 29 年度 第 1 4 回 地域サロンの必要性、認知症高齢者にとってのサロン環境 第 1 5 回 どうしたらサロンが行きやすい場所になるのか 平成 30 年度 第 1 6 回 地域サロンの担い手とサロンの良さ、今後のサロンについて 令和元年度 第 1 7 回 学区内にある事業所を知ろう① 令和 2 年度 第 1 8 回 学区内にある事業所を知ろう② 第 1 9 回 学区内にある事業所を知ろう③
今後の取り組み	地域と専門機関とで高齢者の暮らしの課題について、情報の共有を行ってきた。また、地域にある事業所を知るために会議へ参加しただけ、事業所とつながる機会となった。今後事業所と連携した取り組みを進めていく。また、今後まち協が実施を予定している学区のアンケート調査をもとに、求められる地域活動についての検討を進めていく。 さらに、学区内で町内会等の地域ごとに課題が異なるとの意見も多く、地域に応じたきめ細やかな活動の創出が求められていることについても検討していく。

常盤学区

テーマ	常盤学区でいつまでも変わらない暮らしを続けていくために ～暮らしの問題や困りごとを「我が事」として考え、支え合いの仕組みづくりを考える～
経過	平成 27 年度 地域資源マップの作成・配布 第 1 回 常盤学区のまちなかを知らう ～学区にある様々なサービスや活動について～ 第 2 回 資源マップについて考える ～活動サービス一覧表について～ 第 3 回 資源マップの確認 ～利用しやすいキャッチフレーズ～ 平成 28 年度 第 4 回 身近で起きている課題について考える ～どんな見守りがあるの？どんなつながりがあるの？～ 第 5 回 在宅介護サービスを知らう（訪問介護、通所介護、訪問入浴、訪問看護、福祉用具レンタル、小規模多機能） 平成 29 年度 第 6 回 事例から考える ～高齢者が在宅で暮らしていくために必要なことは何かを考える～ 平成 30 年度 医療福祉を考える会議新聞の発行（No.1） 第 7 回 常盤の良いところを見つめよう ～認知症になっても続けたいところ、やり続けたいこと～ 第 8 回 常盤ですと暮らしていくために「つながり」について考える ～認知症になっても続けたいところ～ 令和元年度 医療福祉を考える会議新聞の発行（No.2、No.3） 第 9 回 将来の困りごとについて ～あなたはどうする？今からできることは？～ 第 10 回 「人生の最期まで自分らしく生きる」を考える ～在宅看取り、未来ノートについて～ 令和 3 年度 役員会 「資源マップ&認知症ケアパス」の見直し
今後の取り組み	地域と専門職が学区内の活動を共有し、常盤ですと暮らし続けるために必要なことについて話し合いを進めてきた。特に地域で「つながる」ことが重要であり、その取り組みについて検討していく。 また、以前に作成した資源マップの更新について検討する。なお、医療機関「ハートセンター」との連携事業についてはコロナ禍で延期となっているが、機会があれば実施したい。あわせてかかりつけ医の必要性について啓発をしていく。

4. 第3次草津市地域福祉活動計画での市社協の取組



第3次計画での市社協の取組（主な事業成果と課題）

【基本理念】 ころろ温かく支えあい 住み続けたい 福祉のまち・くさつ

【基本目標 1】 福祉の風土づくり

子どもから高齢者まで一人ひとりが尊重され、くらしの課題を他人ごととしない福祉の風土をつくるため、地域福祉活動の魅力を広く広報し、住民への啓発に取り組みます。

【推進項目】 地域福祉活動の周知・啓発

見える社協、魅せる社協活動をめざして広報し、住民への啓発を行い、地域の福祉力アップを図ります。

市社協の事業

- ・ 広報紙「社協くさつ」発行
- ・ ホームページ
- ・ 社会福祉功労者表彰式典
- ・ 福祉を考える市民のつどい（R元年度まで）
- ・ 社協キャラクター「ふくちゃん」啓発
- ・ ホランティア体験教室
- ・ 福祉教育
- ・ 近所力アップ講座
- ・ 社会を明るくする運動
- ・ 社協のしおり
- ・ 福祉を考える市民のつどい（R元年度まで）
- ・ 「広報くさつ」点字版作成
- ・ ホランティア情報誌「よみ〜な」の発行

事業課題

- ・ 近所力アップ講座は、市が行なっている「みんなでトーク」の出前講座として実施していません。開催地域が固定化しているため、講座の内容を充実させ、また積極的に広報紙やホームページ等で講座の周知・啓発を図り、講座の開催回数を増やしていく必要があります。
- ・ 社協の「見える化」として、広報紙「社協くさつ」やホームページ等、市社協独自の媒体や、記者提供など市社協活動や地域の活動を外部に積極的にPRし、より多くの市民の方目にとまるような啓発が求められます。

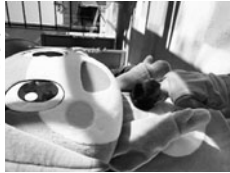
また、今後はSNS等の活用についても検討し、多世代への周知も求められています。



▲ 近所力アップ講座



▲ 社会福祉功労者表彰式典



▲ ふくちゃん啓発

PICK UP 事業

◆ 近所力アップ講座

職員が地域に向き、講座をおして住民どうしのつながりや地域福祉活動の大切さを伝えました。

延べ参加者 **193人** (H28~R2)

講座は4年間に7回開催し、平均して約27人の参加がありました。講座を通して193人の住民と顔合わせ、身近な地域での支え合いについて、住民と市社協がともに話しあう場としました。

◆ ホームページ事業

市社協の活動内容や講座やボランティア活動に関する情報等、様々な情報をホームページにて啓発してきました。

ホームページアクセス数 **202,553件** (H28~R2)

4年間の年平均は、50,638件ですが、令和2年度からは地域の行事等に出向いた際にはその様子などをホームページに掲載し、また市社協の活動内容がわかる新聞を発行し、ホームページに掲載するなど情報発信に努めた結果、アクセス数が初の60,000件越えとなり、大幅に閲覧数を増やす要因となりました。

【基本目標 2】住民主体の活動づくり

くらしの課題を共有し、解決に向けての地域福祉力向上を図るため、人づくりとそ
の人を支援する体制をつくります。

【推進項目】地域福祉力の向上

地域福祉力の向上と住民主体の地域福祉活動の発展のため、その基礎をなす人づく
り、またその人を支援する体制をつくります。

市社協の事業

- ・福祉活動推進員育成講座 (H30～草津市福祉教養大学)
- ・ステップアップ講座 (R1～草津市福祉教養大学大学院)
- ・地域サロン活動支援
 - ・地域のふれあいの場づくり (R2年度で終了)
- ・草津フードバンクセンター
 - ・地域支えあい運送支援
- ・介護予防サポーターポイント制度
 - ・共同募金活動助成
- ・福祉車両貸出
 - ・電話訪問事業
- ・福祉委員設置促進
 - ・医療福祉を考える会議
- ・地域福祉コーディネーターによる地域福祉活動の推進

事業課題

- ・福祉に関心のない方にも関心をもってもらい、福祉の風土をつくり、新たな担い手を育成するために、平成30年度から草津市福祉教養大学を創設しました。福祉活動者だけでなく、福祉の隣接領域の方々（医療・弁護士・住職等）に登壇いただき、受講生からは幅広い視点から話を聞くことができるといってお声も多々聞いています。
- ・草津市福祉教養大学を卒業された方のうち、実際に「活動をしてみたい」という方を対象とした草津市福祉教養大学院を令和元年度から実施しています。大学院に進まれた方の中から、実際に地域活動を開始した方もおられます。しかし、大学から大学院への希望者が13%となっており、大学卒業後から大学院への希望者を増やしていくための工夫が必要となっています。
- ・医療福祉を考える会議の開催は13学区が実施し、地域支えあい運送支援事業は5学区が実施、学区の居場所づくりを実施する学区も4学区が実施と、学区社協が新たに事業を開始する学区も増えてきています。地域の特徴を活かした活動への広がりがあがるもの、実践につながるには時間を要する学区もあります。市社協は地域特徴を丁寧にとらえ、地域での動きや時代の流れ等を常にキャッチし、活動者の身近な相談相手となる必要があります。

PICK UP 事業

◆草津市福祉教養大学・大学院



「心に訴え、誰もが置いてみたい斬新なテーマ」の講座として、今まで福祉に興味があった市民に参加いただけるように、幅広い講師に講演いただき、地域の担い手不足と言われている現状を打破すべく、地域福祉活動者のすそ野を広げることを目的に、「福祉教養大学」を実施しています。

延べ参加者

748人 (H30～R2)

講師数

38人 (H30～R2)

この3年間で、年平均249人の方が参加され、そのうち、69名の方は年間5講座すべてを終了された卒業生になります。協力いただいた講師数は3年間で38人と、様々な分野の幅広い視点からの「福祉」が多くの受講につながっていると考えています。

また、草津市福祉教養大学の卒業生を対象とした大学院を設立し、具体的活動へのキャリアアップを設定し、丁寧に地域の活躍の場へ草津市を愛する人材を送り届けるため、令和元年度の開始より延べ16人の方が参加されています。

より多くの方に参加していただけるよう、従来の大学の卒業生を対象としたコースの他、民生委員・児童委員を退任された方等、活動の再開を後押しするコースを新設することで、地域で活躍していただける人材を送りだせるように、工夫を重ねていきます。

16人

大学院延べ

うち、ボランティア・福祉活動をされている方

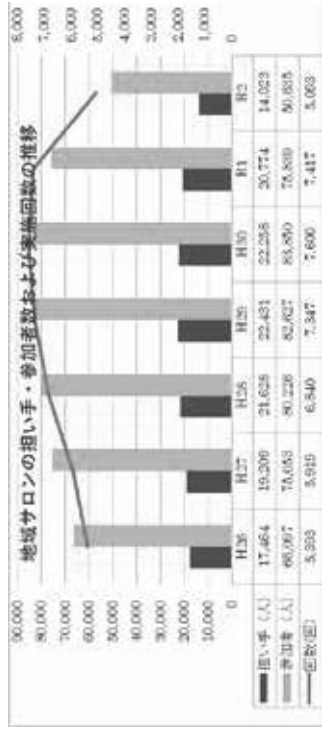
10人(62.5%)

◆地域サロン活動支援

地域サロンはボランティアをはじめ、町内会長や福祉委員、民生委員・児童委員等多くの方の協力により開催され、身近な高齢者の支えあい活動になっています。

地域サロンの良さは自由な形でできるところであり、その地域に住む高齢者などのことを考え、自分たちでできることを自分たちで考えて活動されてきました。ひとつひとつの地域サロンにはそれぞれの味わいがあり、市社協ではそれを大切にしながら支援を行なっています。

1日に**20.1回**どこかで地域サロンが開かれ、**61人**のボランティアが動いている。



5学区となった令和2年度では、

延べ**322人**の送迎を**29人**のボランティアが支え、

1日あたり17キロの送迎が、

草津市内のどこかで実施されています。

この活動が継続していくよう、安全運転講習会等の開催などをサポートします。
また、今後新たに開始される学区に対し、要綱やボランティアグループ立上げ等の支援を実施していきます。

【基本目標 3】絆をつむぐまちづくり
住民どうしがふれあい、いきいきと楽しく活動するボランティアの輪を広め、絆をつむぐことができる地域をつくりたい。

【推進項目】

ボランティア活動の充実と住民参加の仕組みづくり

市社協の事業

- ・災害ボランティアセンター
- ・収集ボランティア
- ・福祉教育、体験教室
- ・ボランティアカフェスティバル
- ・ボランティアリスト、地域サロンリストの作成
- ・災害ボランティアセンター
- ・男性の活躍の場づくり（H29年度のみ）
- ・移動ボランティアセンター
- ・ボランティア連絡協議会支援

事業課題

・ボランティアフェスティバルでは中・高・大学生にボランティア活動をしてもらう機会を設け呼びかけを行っていますが、市社協に登録されているボランティアの4割が70歳以上となっており、若い世代のボランティアが少ないのが現状です。福祉教育などを通じて、ボランティア意識を広げるような事業展開が必要です。

また、移転に伴い、令和3年度でボランティアフェスティバルは終了となります。そのため、今後キラリエ草津の入居者団体や、キラリエ草津が所在する大路区の団体等とも連携を図りつつ、これまで行ってきたボランティアとの連携についても検討していく必要があります。

・若い世代の福祉団体を高め、ボランティアが活動に関心をもってもらうために、気軽に始めることができるボランティアとして「収集ボランティア」の周知啓発の他、福祉教育の推進やボランティア体験教室の内容を充実させていく必要があります。

・さらに、自然災害が各地で毎年のように起きている現状を鑑みて、非常時に力を発揮する災害ボランティアセンターの取り組みについて、市社協職員だけでなく、「万が一」に向けて向けてPRし、非常時の訓練に多くの方に参加していただき、より一層「万が一」に向けての活動を実施していく必要があります。

PICK UP 事業

◆災害ボランティアセンター

災害が発生すると、新たな生活課題が生まれ、これまであったつながりが途切れてしまう場合もあります。

市社協ではボランティアセンターを併設しており、市民とともに安心した生活がなるべく早く戻るよう、課題の解決に向けて取り組みひとつの取り組みとして、災害ボランティアセンターの運営訓練を行なっています。

平成29年度からは、運営訓練以外にも訓練検討委員会や班長会議を実施し、訓練の反省点を踏まえて、使用する様式を変更するなど、より訓練が円滑に進むよう努めています。さらに、訓練に参加したい一般の人の募集も行い、様々な人が携われるようにしています。

令和元年度には、草津青年会議所の若い力と地の利を最大限に活かし、災害時により効果的な被災地支援活動を行うため、



草津市・草津青年会議所草津市社会福祉協議会の三者で「災害時の被災者支援に関する相互協力協定」を締結

近年では熊本地震災害・中国地方を襲った大雨災害など、毎年のように日本各地では大規模な災害が発生しています。草津市社協では被災地へ職員を派遣し、地元の災害ボランティアセンターの運営支援を行いました。

そこで得た職員の経験などを参考にしながらも、草津市の実情に合わせたセンターの運営が必要であり、毎年実際の訓練から見えた課題を参加した住民とともに話し合い、災害対策本部である行政との必要な連絡網や準備物の検討など、行政と一緒に住民にとって安心・安全な生活ができるような支援を展開しています。

◆ ボランティア登録数

市社協ではボランティアコーディネーターを配置し、いきいきとボランティア活動ができるよう、需給調整や保険加入の促進などの支援を行いました。さらにボランティア情報紙などを通じて、活動者が活かせるような情報を提供する事業も展開しました。



357団体

ボランティアグループ
(R2)

6,030人

ボランティア数 (R2)

4.4%

草津市の人口のボランティア



ボランティアフェアフェスティバルでは、市ボランティア連絡協議会と連携し、ボランティアの横のつながりづくりに取り組み、ボランティアフェアイベントをきっかけにボランティア登録をされた方もいます。ボランティア養成講座を実施し、市社協の事業を始め、新たにボランティア活動を始めた方もおられます。

また、地域サロン活動者には、ボランティア保険に加入いただくようお願いしており、市内各地で行われている「地域サロン」の存在は、地域の福祉力の向上に大きく寄与しているといえます。

地域サロンや講座等から、H29年度と比較すると、1,012名のボランティアが増える結果となりましたが、令和元年度をピークにして、減少傾向となっています。また、ボランティア登録者の4割以上が70歳以上となっており、ボランティアの高齢化が続いています。

そのため、時代のニーズにあったボランティア講座の他、子どものころからボランティアに関心をもってもらい、ボランティア活動に参加してもらえよう、福祉教育の推進も今後進めていく必要があります。

【推進項目】

住み慣れた地域で安心してくらせる体制づくり

市社協の事業

- 学区社協会長の実施
- 地域福祉活動推進の支援強化
- ボランティアコーディネーターによる学区社協支援
- 地域福祉活動助成
- 草津市民生委員児童委員協議会事務局
- ボランティアコーディネート

事業課題

• 学区社協は学区の地域福祉の要です。そのため、学区担当を設け学区社協の活動支援に力を入れ、学区社協の地域活動支援や、学区ごとに開催される医療福祉を考える会議の支援を行ってきました。草津市内に小学校区は14学区ありますが、人口動態、世帯構成、高齢化の状況等、14学区それぞれ特色があり、地域の課題も様々です。

今後こうした地域の特徴や課題を学区社協と共有しながら、学区社協と協力しながら地域福祉活動を進めていく必要があります。

• 生活課題が多様になり複雑化する、ボランティアに対するニーズも多様化し、それに対応できる多様なボランティアが必要になります。ボランティアセンターは、アンテナを張り、社会的に必要とされるボランティアを結成するための機能を果たす役割があり、今後の時代のニーズにあったボランティア養成講座・体験教室を企画していく必要があります。

• また、ボランティアを行う団体や人数が増えると、活動するためのニーズも増えてきます。ボランティア情報紙を発行していますが、ボランティアセンターとしてボランティア活動者に必要な情報を届けるためには、分かりやすく発信する工夫をするだけでなく、助成金などのさまざまな情報収集に努めることが重要です。

PICK UP 事業

◆ 地域福祉コーディネーターによる学区社協支援

学区にはそれぞれの特徴があり、学区社協では地域の実情に合わせた活動をしています。学区社協のより暮らしに近いところでの地域福祉活動が充実することは、そこで暮らす人々の安心した暮らしにつながります。地域の中にある福祉課題は多様化し、それを解決するための地域福祉活動も多岐にわたっています。市社協は、学区社協の活動に寄り添い支援することで、学区の福祉課題の解決のための支援をしています。

市社協は学区社協の **心の扉** の前に立ち、
地域とともに **884回**

平成28年度から14となった学区社協は、**市社協の心臓部分**です。学区すべてに地域福祉コーディネーターを設置し、学区社協活動に参加・協力しました。市社協では全学区に担当職員を配置し、**毎月平均して、約73回**地域に出向いたり、相談等の活動者への支援を行っています。

【推進項目】
個別援助活動の充実と市社協の基盤づくり

市社協の事業

- ・地域福祉権利擁護事業
- ・生活福祉資金貸付
- ・社会福祉推進会議
- ・社会福祉施設との連携
- ・役員会ならびに研修会の開催
- ・地球温暖化防止
- ・社協くさつの有料広告の拡大
- ・入れ暮らしサイクル（H29年度終了）
- ・善意銀行、災害復興基金等への寄附金の募集
- ・地域福祉コーディネーター兼生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）による地域福祉の推進

事業課題

- ・権利擁護事業や貸付事業では、複雑化したケースが多くなり、担当自立支援専門員・生活支援員だけでなく、職員全員が困ったことに耳を傾けられる職員である必要があります。
- ・また、権利擁護事業を継続していくために、財源確保に努めていく必要があります。
- ・令和2年度より、善意銀行の取り組みを強化し、企業等からの寄附物品を必要とされる地域活動や福祉事業所に配布する「まごころ便」を開始し、これまで希薄だった福祉事業所等ともつながりを持つことができてきました。
- 今後は、この取り組みを通じて、企業と地域活動、企業と福祉事業所、人と地域活動のつながりづくりを進めていけるよう、企業への周知啓発を行っていく必要があります。

PICK UP 事業

◆ **地域福祉権利擁護事業**

認知症や知的障害、精神障害などにより判断能力が低下して金銭管理がうまくできなくなってきた人に対し、地域で安心して暮らし続けられるよう、支援を行います。また、地域福祉権利擁護事業は、金銭管理だけでなく、その方の生活の支援を行います。また、近年では、精神障害者の利用が増えてきており、その時々々の体調等を踏まえながら、より治った支援を生活支援員・自立支援専門員ともに行っています。近年の支援回数の増加は、支援員や自立支援専門員との関係性の強さがうかがえます。

契約者数 (R2)

45 人

支援回数 (R2)

1,058 回

相談回数 (R2)

2,282 回

	H29	H30	R元	R2
相談件数	2,705	2,194	2,289	2,282
高齢者	647	355	280	334
知的	1,350	938	823	722
精神	550	901	970	1,152
その他	—	—	216	74
契約件数	43	44	42	45
高齢者	5	5	5	7
知的	26	24	22	21
精神	12	15	14	16
その他	0	0	1	1
支援回数	808	829	915	1,058
生活支援員	20	20	20	26

◆ **まごころ便（善意銀行の活用）**

新型コロナウイルス感染症により、地域活動が中止・延期・休止を余儀なくされました。活動が止まることにより、これまでの人々とのつながりや、人と団体とのつながり等、様々なつながりが断ち切られてしまいました。いゆゆるコロナ禍で、「今できること」を考え、また「とも頑張ろう」という気持ちを皆さんに伝えていく一つの方法として、市社協に御寄附いただいた物品の中で、地域活動に活用いただける物品を配布させていただく「まごころ便」を実施しました。



善意銀行では「人・モノ・お金」を必要な方へ届けていく、善意の循環を大切にしています。

また、ただ届けるだけではなく、寄附いただいた方々の想いも一緒に届けながら、地域福祉を担う皆さんとのつながりを大切にしながら、そして、企業等への協力の呼びかけを行い、さらなるつながりがつくりとくなるよう、今後取り組みを進んでいきます。

～**ありがとう**から**ありがとう**へ、想いととも～

19 企業・団体・個人から、 **323** 団体・世帯へ

12,140品 をお届け

5. コロナ禍に立ち向かう草津市社協の魅力活動

コロナ禍における「貧困・孤立・孤独」を 「つながり」と「応援」で立ち向かう 草津市社協魅力活動

～「ありがとう」に勇気づけられたのは私たち市社協です～



令和 3 年 4 月 1 日～令和 4 年 3 月 31 日
社会福祉法人草津市社会福祉協議会

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちは当たり前にあった人と人との交流を遮断することが求められました。しかし、今までは、暮らしを揺るがす問題や地域での課題が発生した時、私たちは、「人と人との出会い、手を取り合い、寄り添い、支え合う」ことで問題の解決を図ってきました。

コロナ禍では、孤立・孤独・貧困はさらに深刻となり、これまでも増して、助け合い活動が必要となっており、多くが感染予防の観点から見直しを余儀なくされていますが、期せずして、つながり、支え合うことの意義や価値を再認識する機会にもなりました。

そこで、感染予防をしながら「できる方法」を生み出し、地域福祉の本領を発揮する時だと前向きに取り組んでまいりました。草津市社会福祉協議会は、暮らしをまもる福祉の原点に立ち、コロナ禍により急増した生活課題への対応策と、新たなケアイデアや工夫や工夫をいろいろな関係機関・幅広い分野と連携し、コロナ禍でも地域の福祉活動の歩みをとめなため具体的な活動を実施してみました。

その活動で生まれた「ありがとう」「人」を思う気持ち「感謝」という気持ちでこの報告書をまとめました。流行の再燃も予想されますが、この姿勢を貫き、より一層分野を越えた関係機関と力を合わせ、「住みづづきたい 草津」の実践を展開してまいります。

< 目次 >

- 1.緊急小口等特別貸付業務～暮らしを取り戻す～
- 令和 2 年 3 月 25 日から令和 4 年 3 月 31 日まで(草津市におけるコロナによる経済的影響世帯総合分析)
- 令和 2 年 3 月 25 日から令和 4 年 3 月 31 日まで詳細分析(外国籍、各 6 カ月)
- ◆**これまでの活動にとらわれず、いまだできることに取り組む**
- 2.フードバンク拡大事業～品物の配分だけでなく、心を伝える応援活動～
- お神酒で応援～コロナ鎮静化を祈願～
- 市立学校給食センターからの食材を市内福祉施設等へ応援～コロナ禍でも笑顔を取り戻す福祉関係施設～
- ◆**with コロナだから愛護できたこともある**
- 3.「素敵なまごころ便」～ありがとうありがとう～
- プロが料理した愛情たっぷりランチボックス～ひとり親家庭で子どもがいる 135 世帯 341 人を応援～
- 自主防災組織 α 米 100 個とフードバンク滋養チヨコレート 100 個
- ～災害備蓄品寄付、アーモンド植物繊維摂取で免疫アップ～
- 草津市赤十字奉仕団「愛のこもった炊き込みご飯 672 個」市社協コラボ
- ～炊き込みご飯で免疫ケアアップ地域サロン 155 団体応援～
- 障害者作成年賀状で「つながり」市社協作成脳トレセットで「元気」～高齢者へ「元気」と「笑顔」地域サロンを応援～
- CHRISTMAS PRESENT お楽しみ まごころ便
- ～オムロン社員の直筆コメントコラボ企画(企業との連携強化)応援の輪を広げる～
- 開けてビックリ!!今年度ラストまごころ便
- ◆**改めて自分たちの活動の意義を再確認し、新たな可能性を模索**
- 4.草津市「つながりサポート事業」～草津市ユースリッパ事業 生理貧困への取組 48,116 枚配布～
- 生理用品や食料品の配布を通じた相談窓口や各種サービスにつなげる
- ◆**「案」にいることが価値となる今、発想の転換が求められる**
5. With コロナで豊かな暮らしを提案
- ふくちゃんプロジェクト～多くの人たちの気持ちを広げる新しい取組～
- ラストボランティアフェアイベント～16,650 人の参加とボランティア 604 人の集いの歴史～

9月16日読売新聞掲載
令和2年3月25日開始～令和4年3月31日

1. 緊急小口等特例貸付業務 ～暮らしを取り戻す～

- <会議・調整等>
- 令和2年
- 3月19日緊急特例貸付について、市くらしサポートセンターと協議
- 3月25日貸付申請受付開始、当面7月末まで決定、4月13日当初面談対応から、郵送方式に切り替える
- 4月27日派遣職員1名、5月11日から1名を増員、当面7月末まで
- 4月30日近畿労働金庫、5月28日から県内郵便局でも緊急小口貸付申請受付開始
- 6月15日緊急小口資金特例貸付の受付期間の延長、9月末まで決定
- 6月20日派遣職員2名、9月末まで延長
- 7月14日総合支援資金特例貸付における3カ月超える延長貸付を決定
- 7月16日総合支援資金特例貸付における3カ月超える貸付について市くらしサポートセンターと協議
- 9月16日特例貸付受付期間の延長、12月末日まで決定
- 12月17日特例貸付受付期間の延長、令和3年3月末日まで決定
- 令和3年
- 2月2日特例貸付受付期間の再延長決定
- 3月30日特例貸付受付期間の延長、令和3年6月末日まで決定
- 4月2日総合支援資金特例貸付における市くらしサポートセンターと協議
- 5月28日特例貸付受付期間の延長、令和3年8月末日まで決定
- 7月30日特例貸付受付期間の延長、9月以降も現体制維持するよう通知
- 8月18日特例貸付受付期間の延長、令和3年11月末日まで決定
- 11月30日緊急小口資金特例貸付の受付期間の延長および措置期間延長、償還免除規定の確定について(緊急小口資金特例貸付期間令和4年3月末まで延長、再貸付令和3年12月末まで)

草津市の貸付の現状
令和2年3月25日～令和3年3月31日現在

資金種別	件数	貸付金額	貸付内容
緊急小口資金	1,087	209,690,000	上限20万円以内(一人世帯は上限15万円以内)
総合支援資金	871	438,790,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
増額	5	1,000,000	当初上限までいかなかった世帯の追加
延長	431	221,840,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
延長増額	1	200,000	延長上限までいかなかった世帯の追加
再貸付	358	185,730,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
受付合計数	2,753	1,057,250,000	

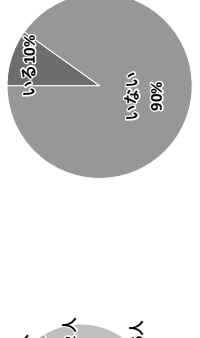
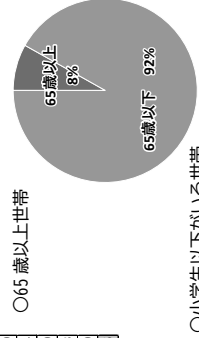
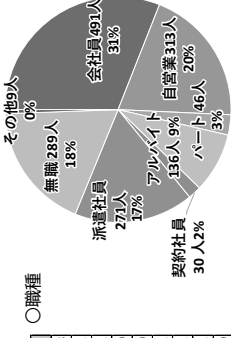
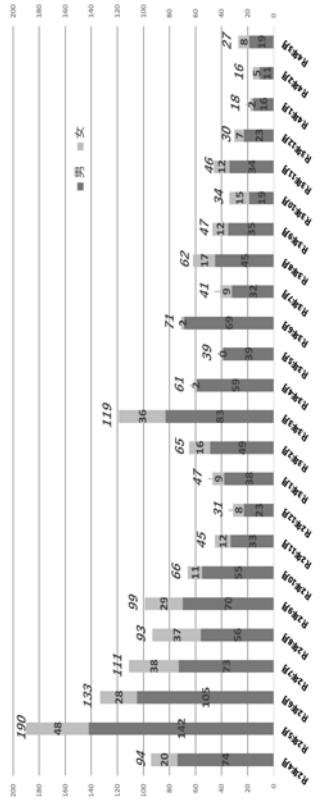
令和2年3月25日～令和4年3月31日現在
(延長は令和3年6月、再貸付は令和3年12月末まで)
※市外住居をもちいる世帯は含まれておらず、以下の図は市外在住世帯の借付のみ

資金種別	件数	貸付金額	貸付内容
緊急小口資金	1,596	308,780,000	上限20万円以内(一人世帯は上限15万円以内)
総合支援資金	1,381	708,650,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
延長	546	281,390,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
再貸付	885	456,350,000	上限20万円(一人世帯は上限15万円以内)×3カ月
受付合計数	4,408	1,755,170,000	

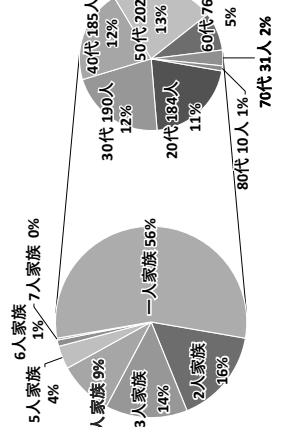
1) 草津市におけるコロナ感染症による経済的影響世帯総合分析
(令和2年3月25日から令和4年3月31日まで)

<緊急小口資金貸付月別件数>

貸付年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計												
男	74	142	105	73	56	70	55	33	23	38	49	83	59	39	69	32	45	19	11	19	1202				
女	20	48	28	38	37	49	11	12	8	9	16	36	2	0	2	9	17	12	15	12	7	2	5	8	383
計	94	190	133	111	93	99	66	45	31	47	65	119	61	71	71	54	36	30	34	34	26	18	16	27	1585



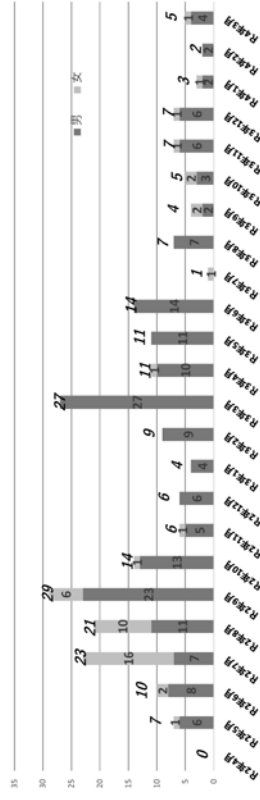
職種	件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
無職	227	36	57	64	44	15	5	3
会社員	31	1	5	14	8	1	1	1
派遣社員	208	43	53	38	37	25	10	1
アルバイト	99	12	18	25	34	8	2	0
契約社員	78	16	15	16	21	5	5	0
その他	96	18	24	20	21	10	2	1
自営業	41	7	7	12	8	5	1	1
パート	118	12	28	29	27	17	4	1
学生	147	36	29	43	30	4	5	0
その他	130	25	34	33	24	11	3	0
主婦	92	17	18	28	18	8	3	0
その他	152	29	33	32	37	10	8	3
その他	35	5	5	7	8	10	0	0
合計	1885	281	345	392	346	149	56	15



2) 草津市におけるコロナ感染症による経済的影響世帯外国籍総合分析
(令和2年3月25日から令和4年3月31日まで)

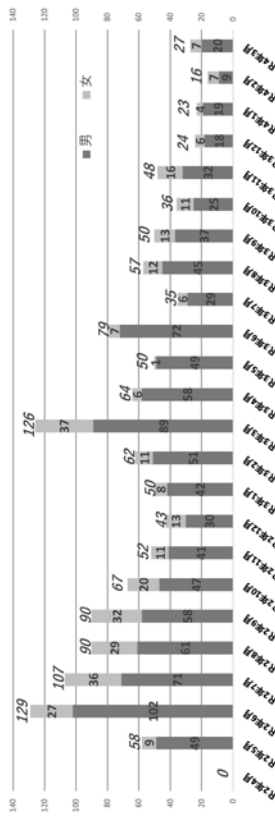
<緊急小口資金貸付月別件数>

性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月							
男	5	7	7	11	23	13	5	6	4	9	27	10	1	4	184				
女	1	2	8	10	6	1	1	0	0	1	0	1	0	2	1	1	0	1	39
計	0	6	9	15	21	14	6	6	4	9	27	11	1	4	5	7	3	2	223



<総合支援資金貸付月別件数>

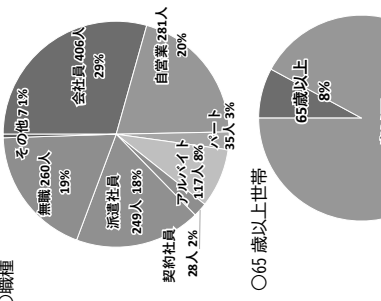
性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月													
男	49	102	71	61	58	47	41	30	42	51	89	58	49	72	29	45	37	25	32	18	19	9	20	1054	
女	9	27	36	29	32	20	11	13	8	11	37	6	1	6	12	13	11	16	6	4	7	7	7	329	
計	0	58	129	107	90	90	67	52	43	50	62	126	64	50	79	35	57	50	36	48	24	23	16	27	1383



○貸付者学区・年齢別貸付件数

件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代								
志津	3	2	7	1	3	7	1	4	0	0					
志津南	2	0	1	1	1	0	0	0	0	0					
草津	4	3	2	0	1	4	2	1	0	0					
大津	1	4	3	1	3	5	2	0	0	0					
深川	9	3	1	2	2	1	0	0	0	0					
矢倉	2	5	1	3	6	1	4	1	0	0					
老上	4	1	2	1	0	0	0	0	0	0					
老上西	1	2	1	8	0	2	1	0	0	0					
五川	2	1	1	5	1	4	0	0	0	0					
南笠東	1	3	7	4	2	0	0	0	0	0					
山田	6	1	2	2	2	1	0	0	0	0					
笠織東	1	0	1	2	5	0	2	0	0	0					
常盤	3	1	2	9	4	4	1	1	0	0					
常盤	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0					
合計	2	2	3	8	1	7	0	3	2	5	1	3	1	0	0

○職種

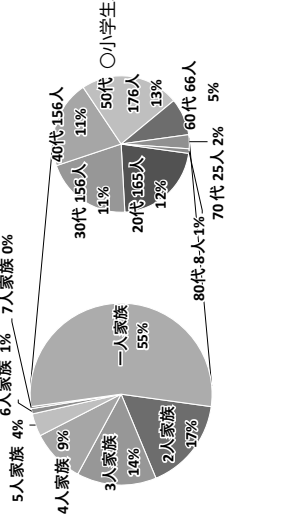
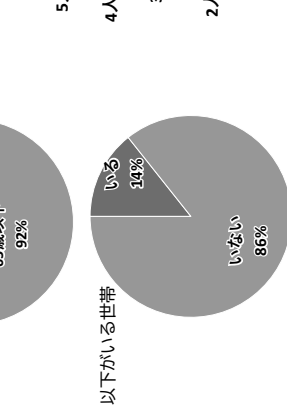
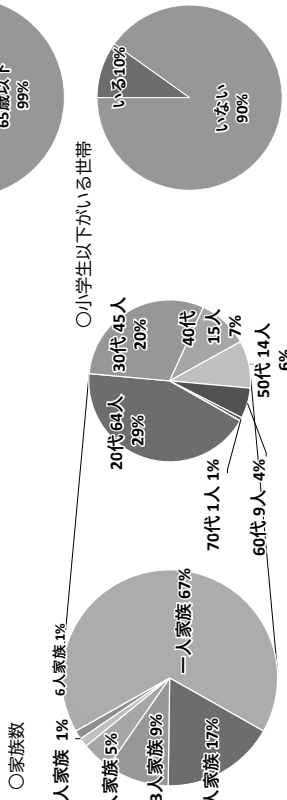
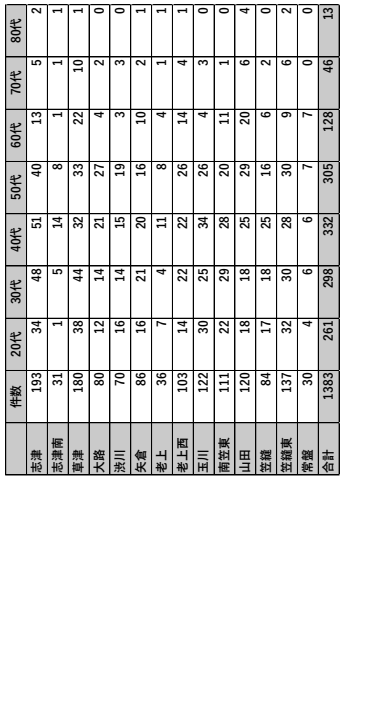


○家族数

件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	193	34	48	51	40	13	5
志津南	31	1	5	14	8	1	1
草津	180	38	44	32	33	22	10
大津	80	12	14	21	27	4	2
深川	70	16	14	15	19	3	3
矢倉	86	16	21	20	16	10	2
老上	36	7	4	11	8	4	1
老上西	103	14	22	22	26	14	4
五川	122	30	25	34	26	4	3
南笠東	111	22	29	28	20	11	1
山田	120	18	18	25	29	20	6
笠織東	84	17	18	25	16	6	2
常盤	137	32	30	28	9	6	
常盤	30	4	6	6	7	7	0
合計	1383	261	298	332	305	128	46

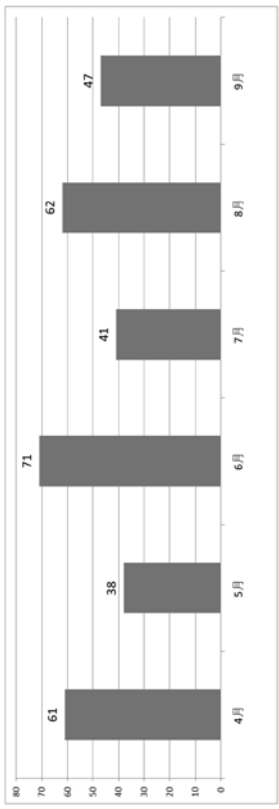


○小学生以下がいる世帯



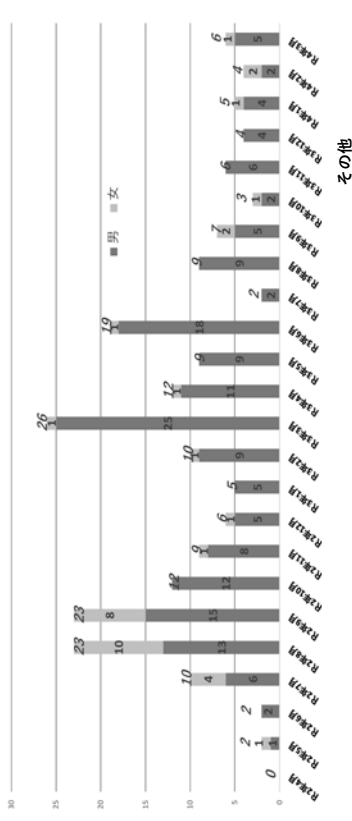
3) 令和3年度6カ月分析(令和3年4月1日から令和3年9月30日まで)

<緊急小口資金貸付月別件数>



<総合支援資金貸付月別件数>

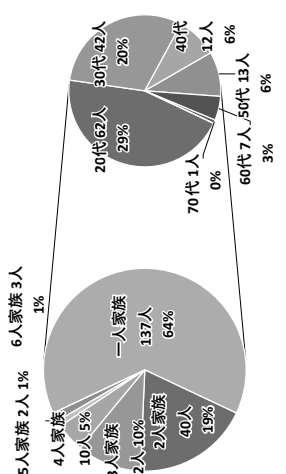
性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計		
男	1	2	6	13	15	12	8	5	5	9	25	11	9	18	2	9	5	2	6	4	4	2	5	178
女	1	0	4	10	8	0	1	1	1	1	1	1	0	1	0	2	1	0	1	0	1	2	1	36
計	2	2	10	23	23	12	9	6	5	10	26	12	9	19	2	9	7	3	6	4	5	4	6	214



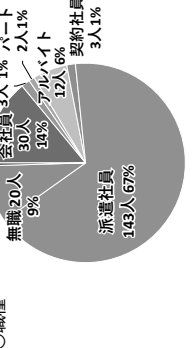
○貸付者学区・年齢別貸付件数

件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	3	1	2	6	1	4	0
志津南	2	0	1	1	0	0	0
志津東	4	2	0	1	4	2	1
大塚	1	3	1	3	4	0	0
洲川	9	3	1	2	1	2	1
矢倉	2	3	1	2	7	0	0
志上	4	1	2	1	0	0	0
志上西	1	4	2	8	0	3	1
玉川	1	1	4	1	3	0	0
柳原東	1	2	7	3	2	0	0
山田	4	0	2	1	1	0	0
笠原	1	0	1	3	4	0	2
笠原東	3	2	1	3	1	0	0
笠原西	1	1	0	0	0	0	0
合計	21.4	8.2	6.9	2.8	2.3	1.1	1.0

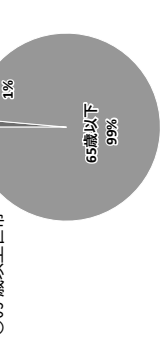
○家族数



○職種



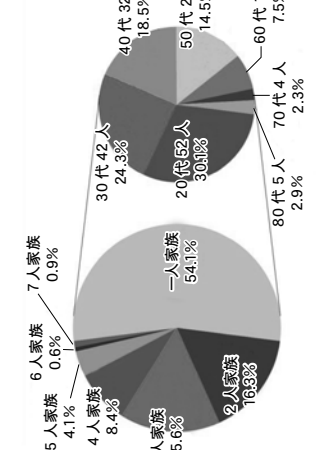
○65歳以上世帯



○貸付者学区・年齢別貸付件数

件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	3	6	9	3	2	1	1
志津南	7	0	1	4	2	0	0
志津東	4	12	13	8	4	1	0
大塚	18	3	7	3	1	1	0
洲川	19	5	3	4	6	0	1
矢倉	27	7	4	5	6	4	0
志上	8	2	1	2	1	2	0
志上西	13	0	6	1	4	2	0
玉川	29	7	7	8	5	1	1
柳原東	35	6	10	9	4	3	3
山田	27	8	2	7	4	4	1
笠原	12	2	1	5	1	2	1
笠原東	35	8	7	9	7	1	1
笠原西	8	1	2	1	1	3	0
合計	320	71	74	75	55	29	11

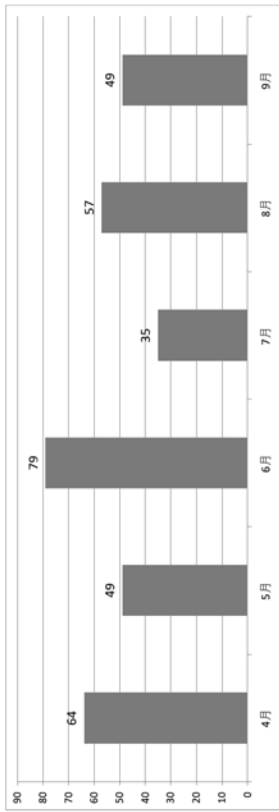
○家族数



○65歳以上世帯

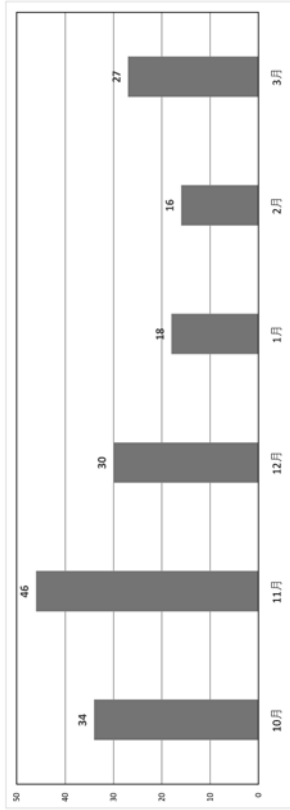


<総合支援資金貸付月別件数>



4) 令和3年度6カ月分分析(令和3年10月1日から令和4年3月31日まで)

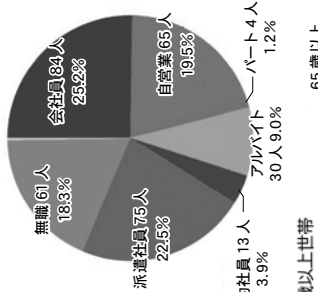
<緊急小口資金貸付月別件数>



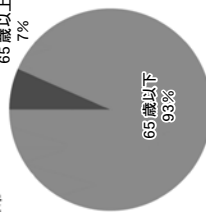
○貸付者学区・年齢別貸付件数

学区	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	37	10	10	8	5	2	1
志津南	8	0	2	4	2	0	0
津津	48	12	15	7	8	4	2
大森	18	4	5	4	3	1	0
沼川	17	6	2	3	5	0	1
矢倉	21	6	5	4	4	1	0
老上西	7	2	1	2	1	1	0
老上東	15	3	5	1	3	3	0
玉川	36	7	9	11	5	2	2
南笠原	32	8	8	10	3	3	0
山田	30	9	2	6	4	6	2
笠原	13	5	2	5	1	0	0
笠原東	41	9	10	10	8	2	1
麻登	10	2	3	1	1	3	0
合計	333	83	79	76	53	28	10

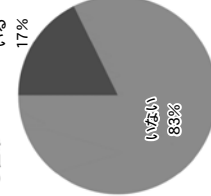
○職種



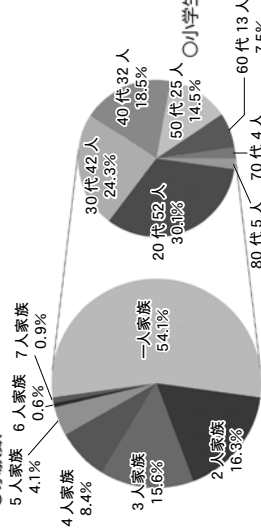
○65歳以上世帯



○小学生以下がいる世帯



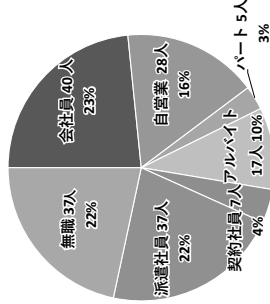
○家族数



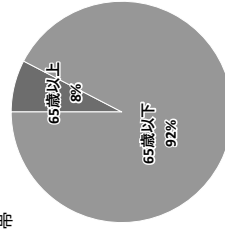
○職種

○貸付者学区・年齢別貸付件数

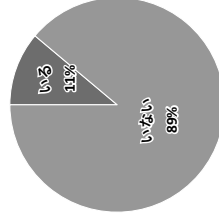
学区	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	19	5	5	4	3	1	1
志津南	3	1	0	2	0	0	0
津津	28	9	6	4	5	3	1
大森	7	2	1	3	1	0	0
沼川	7	1	1	3	2	0	0
矢倉	11	4	3	3	0	1	0
老上西	6	1	0	3	1	1	0
老上東	14	2	3	1	4	2	2
玉川	11	3	2	2	4	0	0
南笠原	14	6	3	1	2	2	0
山田	15	3	0	2	5	4	1
笠原	16	4	3	5	2	1	1
笠原東	22	4	7	5	4	1	1
麻登	1	0	0	0	1	0	0
合計	174	45	34	38	34	16	6



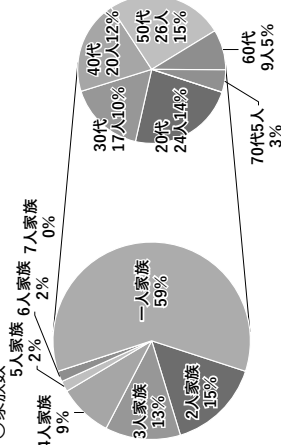
○65歳以上世帯



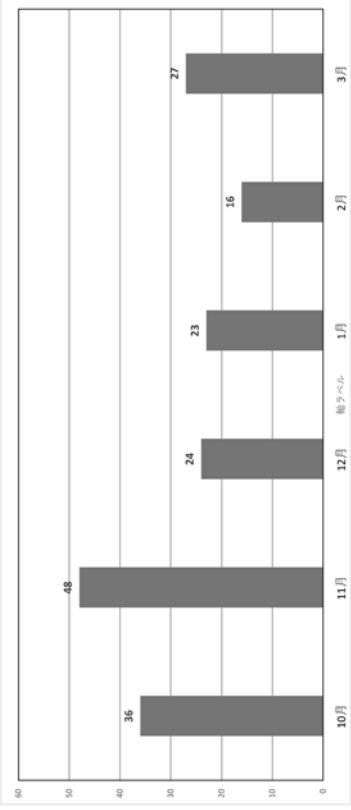
○小学生以下がいる世帯



○家族数



<緊急総合支援資金貸付月別件数>



◆これまでの活動にとらわれず、今できることに取り組む

2. フードバンク拡大事業 ~品物の配分だけでなく 心を伝える応援活動~

新型コロナウイルス感染症拡大により使用されなくなった食品を寄付していただき、コロナ禍で頑張っている生活困窮者への支援関係 3 団体(フードバンク滋賀・立命館大学地域連携課・多文化共生支援センター)、障害者関係(障害者関係施設・作業所 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童児童育成クラブ 29 団体、学区社協・日赤等 15 団体、子ども食堂 6 団体の 104 関係機関を応援いたしました。

7月29日京都・中日新聞掲載

令和3年7月26日~7月30日

1) お神酒で応援 ~コロナ鎮静化を祈願~
120本で104福祉関係施設・団体を応援

新型コロナウイルスの影響で小汐井神社に残ったお神酒 120本を料理酒として応援配分しました。神に捧げられたお酒を「新型コロナウイルス感染症拡大の鎮魂」として活用させていただきました。

○「ありがとう」の感動メッセージを一部紹介

おいにカプフェ、高齢者サロンにて使用させていただきました。高価な物なので大変助かります。ほんとうに嬉しいです。(たすけ愛隊 ママの手)

大切に利用させていただきます。(笠城学区社会福祉協議会)

大変励まされます。施設での調理の際活用させていただきます。(RUMAH RUMAH)

ゆかい家で提供しているランチに料理酒として活用させていただきます。地域の皆さまにも小汐井神社様の思いが伝わると嬉しいです。(草津学区社会福祉協議会)

施設での料理に使わせて頂きます。又、ご近所のお年寄りの方でご希望される方に配らせていただきたいと思っております。大切に使用させていただきます。(フェイス)

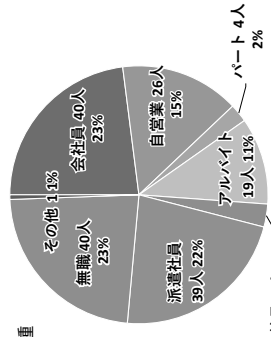
当学園の対象児童は15~18歳の食べ盛りの年代となります。そのため、少しでも子ども達においしい食事を提供できるよう、調理担当職員を中心に日々頑張っております。料理酒として使わせて頂く事で、さらに料理がおいしくなるのではないかとありかたかと思っております。貴神社のますますのご発展と皆さま方のご健勝を心よりお祈り致します。(滋賀県立信楽学園)

お酒の風味を生かした豊かな料理の提供ができ、利用者の皆さまも大変喜ばれると思います。(びわこ学園)

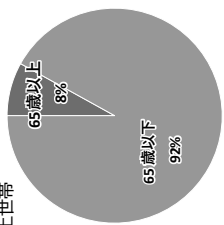
昼食作りに利用させていただきたいと思えます。(シエスタ)

施設をご利用くださっているご利用者、ご入居者の食事提供に使用させていただきます。ありがとうございます。(えんゆうの郷)

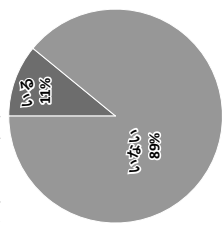
○職種



○65歳以上世帯



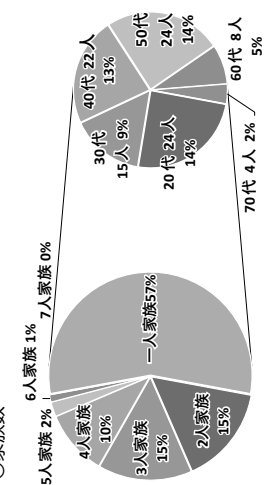
○小学生以下がいる世帯



○貸付者学区・年齢別貸付件数

件数	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
志津	19	5	4	3	1	1	0
志津南	3	1	0	2	0	0	0
草津	28	9	6	4	5	3	1
大森	7	2	1	3	1	0	0
津川	7	1	1	3	2	0	0
安倉	11	4	3	3	0	1	0
老上	6	1	0	3	1	1	0
老上西	14	2	3	1	4	2	2
玉川	11	3	2	2	4	0	0
南笠原	14	6	3	1	2	2	0
山田	15	3	0	2	5	4	0
笠原	16	4	3	5	2	1	1
笠原東	22	4	7	5	4	1	0
常盤	1	0	0	0	1	0	0
合計	174	45	34	38	34	16	1

○家族数



草津市の遍照寺で中高生を対象に居場所活動をしております。子どもたちの為の食堂で調理の際、料理酒として大切に使用させていただきま
す。(やんちゃ寺)

職員・利用者一同ありがたく使わせていただきま
す。ありがとうございます。
(アイコラボレーション)

皆で使わせていただきます。
(ワークステーション わかたけ)

入居者様に安心安全に心温まる食事を提供でき
るよう有意義に使わせていただきます。
(第二昌蒲の郷)

調理実習等で活用させて頂きます。
(JALAN)

料理に活用します。ご利用者の笑顔がまた一つ増
えます！(むつみ園)

通所施設の利用者の昼食等で使わせていただければ
と思っております。(かみえ)

お酒を使用して、施設の利用者の方々においしい料
理を提供していきます。ありがとうございます。
(菫蒲の郷)

コロナ禍で飲食店は、お客様の減少で売上の落ち込
みが深刻で、材料費の削減などいろいろ取り組ん
でいる今感謝の念に堪えません。料理酒として有効活
用させていただきます。ありがとうございます。
(きらら)

2) 市立学校給食センターからの食材を市内福祉関係施設等へ応援 ～コロナ禍でも笑顔を取り戻す福祉関係施設～

新型コロナウイルス感染症拡大につき、臨時休校にともなう廃棄処分となる給食食材の有効活用を図り、不
体で頑張っておられる福祉関係施設・団体とランチボックス配布対象者を応援しました。
給食センターは、廃棄食材を減らすためギリギリまで調整し、それでも入荷を止められない食材を市社協へ
寄付していただきました。フードロス無くし、医療・福祉従事者・利用者の応援として「笑顔で越える福祉関係
施設」を目的に寄付食材をすべて配分しました。

配分総重量 13t.052kg (13,052 kg:品種延べ80品)

① 第一弾 市内福祉施設等応援配分

福祉関係施設・団体とランチボックス配布対象者を応援しました。

配分量	・食品5,932kg	配分月日	4回(8/30、8/31、9/2、9/3)
配分食材 25種類	・野菜(じゃがいも、たまねぎ、ごぼう、にんじん、なす、青ねぎ、さといも、かぼちゃ等) ・果物(梨) ・肉(鶏もも肉、牛もも肉)		
配分対象	・生活困窮者への支援関係 3 団体、障害者関係(障害者施設 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童育成クラブ 29 団体、子ども食堂 6 団体、学区社協 14 団体、ランチボックス対象者		



② 第二弾 市内福祉施設等応援配分

市社協から各施設・団体へ「コロナ禍の応援メッセージ」を付けて応援しました。

配分量	・食品2,577kg	配分月日	4回(9/6、9/7、9/8、9/10)
配分食材 9種類	・野菜(えのきだけ、たまねぎ、ごぼう、にんじん、なす、青ねぎ、さといも、かぼちゃ) ・肉(鶏もも肉、牛もも肉、鶏ももミンチ)		
配分対象	・生活困窮者への支援関係 3 団体、障害者関係(障害者施設 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童育成クラブ 29 団体、子ども食堂 6 団体へ案内、学区社協 14 団体		

〇市社協からの応援メッセージ

コロナ禍で頑張っている福祉関係施設・団体へ
コロナ禍でも、歯を喰いしばって前を向き伴に心を燃やそう。僕たちが足を止めてしまっても時間の流れは止ま
ってくれない。だったら、伴にこの時代を前向きに歩いてみませんか。誰かの善意や思いがあってものになっ
てます。精一杯、前を向き、頑張ってくださいませよう。草津市社協は、皆さんと一緒に歩んでいます。

③ 第三弾 市内福祉施設等応援配分

市社協から各施設・団体へ「コロナ禍の応援メッセージ」を付けて、応援施設・団体からは、「ありがとうメッ
セージ」をいただきました。

配分量	・食品1,109kg	配分月日	4回(9/13、9/14、9/15)
配分食材 9種類	・野菜(えのきだけ、たまねぎ、ごぼう、にんじん、なす、青ねぎ、さといも、かぼちゃ) ・肉(鶏もも肉、牛もも肉、鶏ももミンチ)		
配分対象	・生活困窮者への支援関係 4 団体、障害者関係(障害者施設 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童育成クラブ 29 団体、学区社協 14 団体、子ども食堂 6 団体へ案内		

〇市社協からの応援メッセージ

福祉関係施設・団体の方々へ
『泣いても笑っても、同じ人生ですからね。「できない」じゃなくて「できたことを喜ぶ」ことが大切
走り出したら、できることまで行こうかなって走ってる方が生きてるって感じがしませんか？』
パラスポーツ界の、レジェンド中のレジェンドで、ネイトやオジャレも好きで、「パタフライダム」の愛称
を持つ、73 歳を迎える大ベテランの別所キミエ選手(パラ卓球)の言葉です。どんな状況になっても、辛
しい、悲しいだけでなく、楽しむことを知って前向きに「感謝・ありがとう」を忘れない。私たち「福祉関係職
員」の今の現状からも考えさせられる言葉と感じました。どうか、緊急事態宣言中でも少しでも前向きに「感
謝・ありがとう」を忘れず頑張ってくださいませよう。



○市社協からの応援メッセージ

草津市社会福祉協議会は、心から「ありがとう」を伝えたいと思います。

1. 市民のために少しでも食材のロス無くそうと夜遅くまで調整していただいたいる草津市給食センターの皆様方
2. 「福祉関係施設・団体等コロナ禍応援配分」の思いを受けとめていただいた 103 の福祉関係施設・団体・給食センターの皆様方
3. この事業に共感していただき、食材をきっかけに多くの市民へ「幸せ」「笑顔」を創ってくださったすべての皆様方

私たちは多くの「ありがとう」と「感謝」の声をいただきました。それは、食材より大きなものをいただいたと感じています。

市内の地域での会議で、『他人から何かしてもらったとき、私たちは自然に「ありがとう!」と言います。他人からの気遣いに対する感謝の言葉です。この世で最も不幸な人は感謝の心のない人である。何をしてもらっても、当たり前と悪い、感謝の心がなければ、不平不満ばかり出て、幸せを実感することはできない。』と話されていたことを思い出しました。福祉とは、「幸せ」と訳されることがあります。草津市社会福祉協議会は、「この時代への不平不満」より「幸せの美感」を選択し、「感謝とありがとうの輪」を広げ、コロナ禍をすべての人と一緒に乗り越えていきます。本日に「ありがとう」にございます。そして、「感謝」申し上げます。

④ 第四弾 市内福祉施設等応援配分

福祉関係施設・団体へ応援しました。

配分量	・食品 2,240kg	配分月日	3回(9/16、9/17、9/22)
配分食材 8種類	・野菜(たまねぎ、もやし、こぼろ、さといも、さつまいも) ・肉(鶏もも肉、豚もも肉スライス、鶏もも肉ミンチ)		
配分先 対象	生活困窮者への支援関係 4 団体、障害者関係(障害者施設 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童児童育成クラブ 29 団体、学区社協 14 団体、子ども食堂 6 団体へ案内		

○「ありがとう」の感動メッセージを一部紹介

いつも応援して頂きましてありがとうございます。今日のランチ食材、鶏肉、玉ねぎ、人参、じゃがいも、里芋、もやし全て心温まる寄付食材です。心を込めて調理させていただきました。一緒に「ありがとう」いただきますを申し上げます。

「走っている方が生きているって感じます」

今日もコロナ禍の中で、このような取り組みをして頂きありがとうございます。子どもの登所人数が少なかったため、職員で分けて頂きました。この時代のために人と触れ合うことも少なくなり、感謝と言う気持ちを忘れていたように思い、改めて人に感謝する気持ちを思い出しました。学童がいつも通り開所できるよいうになり、感謝の気持ちを子ども達にも伝えたいというになり、感謝の気持ちを子ども達にも伝えたいというになり、感謝の気持ちになる取り組みを本日にありがとうございます。感謝の気持ちを忘れず一日でも長く学童を開所できるようにがんばります。

新型コロナウイルス感染拡大という災禍は、ひとり親家庭の不安定な就労が直接的に大打撃を受け、家計を脅かしました。「収入が減った」「食べる物に困っている」「お金がないなどの相談があります。困っている時に学校給食の休止による食材の提供を頂き、3回に渡りひとり親家庭の方々にはいたただく事が出来まして、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

今回のフードロス削減の取り組みにおいて、美味しい食材を施設の利用者さんに提供することができ、また職員分も配分していただいた大変有難かったです。利用者さんへは、普段のメニューに入れないようなさつま揚げ等を作り喜んで頂きました。職員の声では、「フードロスの野菜が届く日は、どんな野菜が届くのか楽しみでワクワクした!」「いつもは簡単な野菜料理しかしないけど今回もらった食材で普段作らないような料理を作り美味しく野菜は食べられた!」「椎茸や里芋等大きくて綺麗な食材ばかりで、子どもたちも美味しくそこに食べてくれた!」「等々」等々という声がたくさんありました。今回の提供を受け、買い物時は家で使い切れるくらいの必要なだけを買うように心がけたり、売り場で手前のものを取りようにしたりとフードロスについて考えるきっかけになりました。とても良い機会となりました。

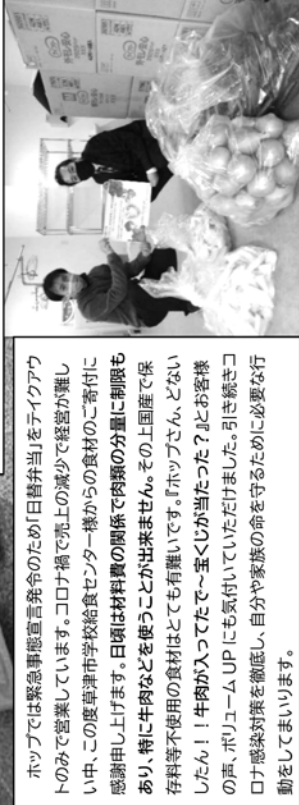


いつもお世話になりありがとうございます。頂いた食材は、スタッフで分けさせて頂きましたが、一人親家庭の方や、市外の子ども食堂さんへお渡しすることができました。「最近はお野菜も高くなっていて買えなかったので頂けてうれしい」と喜んで頂きました。高齢者サービスでは、昼食に使わせて頂きました。コロナで静まり返った昼食時でしたが、ご利用者様の「おいしい!」というほっこり笑顔が見られるひとときが出来、大変感謝しております。

緊急事態宣言の中でも、「前向きに感謝とありがとうを忘れず」という社会福祉協議会の取り組みにコロナで暗い思いばかりの毎日ですが感謝しています。ありがとうございます。今回の食材ご寄付に際しては、はじめは量と食材の良さに驚きました。子どもたちが、こんないい食材で給食を提供されていることに安心感を覚えました。毎回「FAX」が流れてくると、どんな料理ができるのかスタッフ同士でレシピを交換し、日々バタバタしているスタッフの間に話が増え雰囲気も楽しく、次はどんな食材が提供されるのかと厚くましても期待するようになっていきました。そして、沢山の食材を職員間で分け合うことが出来、家計の足しになると大喜びでした。また放課後等デイサービスでは、手作りのおやつを毎日提供することが出来ました。つい先日野菜嫌いの子がいてジャガイモでスイートポテトを作ったのですが、少しスプーンで口に入れた後舌で味わって一度は拒否されてしまいました。でも「いっぺんたべてみよう！！」と仲間を声をかけられ、仲間が勧めましたらスプーンで口に運んでくれたおかげで間食出来たことがあり、お母さんに報告したところでも喜んでおられました。10月からはまた子どもたちが美味しい給食をみんなと一緒に食べられることを願っております。



日頃は、当施設の運営にご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。この度は、寄付食材の届けたいだき有難うございました。当施設では、職員配分とさせていただきます。学校給食で質の高い食材を使用されていることを実際に味わうことが出来ました。改めて草津市の学校給食を誇りにすることができました。そんな中一番皆のリアクションが良かったのが「もやし」でした。3kg入りの袋に「枕持ってきたん」と笑われ「今日明日やな」と分けて持ち帰り、翌日には多くの職員から「ナムル」「とんべい焼き」「ラーメン」「豚肉と蒸し鍋」等色んな献立で食べたこと話しました。今回は、本当に有難うございました。感染拡大防止に努め頑張ります。



ホップでは緊急事態宣言発令のため「日替弁当」をテイクアウトのみで営業しています。コロナ禍で売上の減少で経営が難しい中、この度草津市学校給食センター様からの食材のご寄付に感謝申し上げます。日頃は材料費の関係で肉類の分量に制限もあり、特に牛肉などを使うことが出来ません。その上国産で保存料等不使用の食材はとて有難いです。『ホップさん、どないしたん！！牛肉が入ったで～至くじが当たった？』とお客様の声、ボリュームUPにも気付いていただけました。引き続きコロナ感染対策を徹底し、自分や家族の命を守るために必要な行動をまいります。

いつもありがとうございます。通所利用者の食事では使う食材や量にも制限があるので、グループホーム等にも配って利用させていただきました。残りは職員へも配布させていただきました。草津市の学校に通うお子さんをお持ちの親さん(お母さん)が職員にも多いので、本音を言えば、「給食をしていただきたかった」のですが、給食に使われる食材を見ることができ、それもいい食材を使われているのが分かったので、親としても安心できるなどという声を聞きました。また、家に持ち帰って学校給食の食材を子ども達にも見せられ、それを使って食事すること、自然と給食の話となりました。これは、このような機会だからこそ経験できたことで、ある意味「食育」につながっているなど感じました。先日いただいたいたツツマイモで、焼き芋を企画中です。コロナ禍で制限も多いですが、秋の楽しみを企画できよかったです。フードロスなく取り組みの一環として素晴らしいと思いますし、利用者、職員で協力できてよかったですと思います。ありがとうございました。

この度は、食材の提供を頂きましてありがとうございました。とても良質な野菜にびっくりしました。食材を吟味され、安心・安全な給食を提供されている幸せな子どもたちの様子を初めて知ることが出来ました。頂いた食材は、地域の高齢者支援に携わったボランティアの皆さんに配布することが出来ました。お礼申し上げます。



今回、この食材をいただいたありがとうございました。みなさんからのありがとういただいた感想です。素材がいいのでとてもおいしかったです。我が家の食卓が豊かになりました。じゃがいもがホックホックで話が盛りまりました。鶏ミンチのハンバーグおいしかった。大さきさいつまいもを見てみんなで大笑いした三。等々でした。学校給食が始まってよかったですね。子ども達も栄養いっぱい元気な顔張ってほいです。



給食が始まること本当に良かったですね！この期間たくさん食材をご寄付頂きまして本当にありがとうございました。ゆかいな家の利用者さん、私たちボランティアも緊急事態宣言の中、下を向きそうになる気持ちをおたまたま食材のおかげで豊かな気持ちになりました。コロナに立ち向かう強い気持ちも頂きまして！みなでがんばりましょう！

少しずつ子ども達の生活が通常に戻りつつあることを喜んでおります。今回、さといも、じゃがいも、玉ねぎ、もやしを頂きました。どの野菜も新鮮で、特にさといも、じゃがいもはホックホックしてとても美味しく食しました。学校給食は冷凍物だと思っていましたのでこのように美味しいものを調理して食べている草津市の子ども達に幸せだと職員一同感激いたしました。調理員さんまた配達してくださるドライバーさんに感謝の思いで一杯です。本当にありがとうございました。



いただいた食材の下処理を利用者様の前でパフォーマンスとして披露させて頂く事で「うなわあー立派な野菜」どんな料理を食べてももらえるやろおろなど期待して頂くと同時に、普段とは違ったお料理を提供させて頂くことが出来、大変喜んで頂きました。ありがとうございました。

毎度ありがとうございます。職員一同、普段よりも賑やかになった食卓を楽ませて頂いています。未だに続くコロナ禍、給食を食べられない学生さんの分も、美味しく食わせて頂いてます。感謝！！

色々な野菜、お肉を頂けることで、職員への配分時には「晩ご飯に使えるなあ」「子供が多いのでたくさんさんの食材は助かる」など職員間で明るい雰囲気の話がうまれています。



⑤ 第五弾 市内福祉施設等応援配分

医療・福祉関係施設・団体へ直接応援しました。

配分量	・食品 245kg	配分月日	1回(1/26)
配分食材 3 種類	・野菜(たまねぎ、白菜、壬生菜、カブ)		
配分先施設	医療・福祉関係 1 施設(草津ケアセンター)、学区社協視 点ゆかい家		

⑥ 第六弾 市内福祉施設等応援配分

特別養護老人ホームへ直接応援しました。

配分量	・食品 170kg	配分月日	1回(1/28)
配分食材 3 種類	・野菜(きゅうり、じゃがいも、玉ねぎ)		
配分先施設	特別養護老人ホームえんげいの郷、西の郷		



⑦ 第七弾 市内福祉施設等応援配分

特別養護老人ホームへ直接応援しました。

配分量	・食品 220kg	配分月日	1回(2/2)
配分食材 3 種類	・野菜(だいこん、白菜、玉ねぎ)		
配分先施設	特別養護老人ホームほづら、(社福)寿会常盤の里		

沢山の食材をありがとうございます。利用者さんの毎日の食事に使わせて頂いています。毎日ボリュームがあって、いつものメニューがとっても華やかになり、利用者さんも大満足の様子です。調理担当も大変喜んで、アシャコシやと毎日前をふって頂いています。利用者さんが嬉しいように召し上がられている姿を見られるのは、職員としても、とてもうれしいです。毎日おいく、楽しく食事ができることに感謝しながら頂いています。本当にありがとうございます。



⑧ 第八弾 市内福祉施設等応援配分

特別養護老人ホーム、障害者施設、グループホームへ応援しました。

配分量	・食品 308kg	配分月日	1回(2/10)
配分食 9 種類	・カレー切身 1200 個、いわしの切身 400 個		
	・みかんゼリー 1000 個、ぶどうゼリー 1500 個		
	・小魚おかし 1000 個		
	・野菜(白菜、壬生菜、じゃがいも)、りんご		
配分先施設	特別養護老人ホームえんげいの郷、医療・福祉関係 1 施設(草津ケアセンター)、障害者グループホーム 15 施設・団体		



⑨ 第九弾 市内福祉施設等応援配分

不休で頑張っておられる特別養護老人ホーム、障害者施設、グループホームへ応援しました。

配分量	・食品 251kg	配分月日	1回(2/14)
配分食材 4 種類	・いわしの開き 2400 切、さばの切身 1560 切		
	・オールドボークハンバーグ・がんもどき・大根		
配分先施設	特別養護老人ホームえんげいの郷、草津ケアセンター、ホームぼとん、フェリス		



<フードバンク拡大事業に取り組んで感じたこと>

緊急事態宣言が発令される中、今まで直接的に「つながり」がなかった給食センターと福祉関係施設・市社協との関係性ができ、短時間で 15 回の配分を行いお互いの立場を理解するようになりました。コロナウィルス感染症拡大、緊急事態宣言、不要不急の活動自粛、医療崩壊、地域福祉活動停止、研修中傷等、暗い影を落とす中、この時期に「新しい地域福祉活動」「市社協でしか出来ないこと」「笑顔と楽しみ」等明るい話題と食材を応援というカタチで考えることができたことは一つの光とも言えます。新鮮食品ということもあり、時間のない中でフードバンク拡大事業がありましたが、給食センターや市内の福祉関係施設・団体との理解があり、フードロス無くすためだけでなく、「コロナ禍において不体で頑張っている医療・福祉関係者(入所・通所の方や職員)を応援できたことで、今後の「つながり」として医療福祉を考える会議(生活支援体制整備事業)等、地域との関係性が深まることを祈っています。また、プライズだっただけの、この配分「食材」での会話が広がり、「こんな立派な食材を草津市は子どものために」「家族の食事の中で明るい話題となったこと」等、市社協が考えていた以上に「食育」「感謝」「家族会話」「笑顔」が取り戻せたことはフードロス以上の価値があったと考えます。

◆with コロナだから実現できたこともある

3. 「まごころ便」事業

つながりの連鎖で再構築～ありがとう から ありがとうへ～

新型コロナウイルス感染症拡大の中、頑張ってきた活動されている医療・福祉関係施設・団体等を応援するため企業等から寄付物品等をいただきました。対象は、生活困窮者への支援 3 団体(フードバンク滋賀・立命館大学地域連携課・多文化共生支援センター)、歳末たすけあい見舞金配分対象者(希望の一人親家庭・障害者関係(障害者関係施設・作業所 26、グループホーム 12)、高齢者関係 12 施設(特養)、医療関係 1 施設(ケアセンター)、草津市公設児童育成クラブ 29 団体、学区社協 14 団体、赤十字奉仕団、子ども食堂 6 団体の 105 関係機関等へ応援しました。

8月5日朝日新聞掲載

令和3年3月23日～令和4年3月28日

1)プロが料理した愛情たっぷりランチボックス ～ひとり親家族で子どもがいる135世帯341人を応援～

新型コロナウイルスの感染症拡大により貧困・孤立・孤独が進んでいます。また全国では、子どもの貧困として7人に1人、ひとり親家庭については、約48%が貧困であると考えられています。そこで、歳末たすけあい見舞金対象である準保護世帯で「ひとり親家庭で子どもがいる世帯」にランチボックス(チキンのクリーム煮・バターライス、コロックカレー等)を届けることに賛同していただいた一般社団法人全日本同人社協滋賀県本部から寄付を受け成援しました。

〇対象

- ア. 4～5月は、ひとり親家庭で15歳以下の子どもの数が2人以上いる世帯
(令和2年度歳末たすけあい見舞金対象者 65世帯 212人)
- イ. 6～11月は、ひとり親家庭で15歳以下の子どもの数がある世帯
(令和2年度歳末たすけあい見舞金対象者 135世帯 341人)
- ウ. 12月は、ひとり親家庭で15歳以下の子どもの数がある世帯
(過去のランチボックス1回以下で令和3年度歳末たすけあい見舞金対象者 35世帯 82人)
- エ. 12月は、ひとり親家庭で18歳以下の子どもの数が3人以上いる世帯
(令和3年度歳末たすけあい見舞金対象者 14世帯 62人)
- オ. 1月～3月は、ひとり親家庭で18歳以下の子どもの数が1人以上いる世帯
(令和3年度歳末たすけあい見舞金対象者 102世帯 279人)



【ランチボックス配布状況】

対象	対象学区	対象者		配布世帯		寄付食品
		世帯	食	世帯	食	
R3年						
3/23	志津・矢倉・大野・淡川・玉川・山田・笠縫東	9	44	5	26	チキンと野菜のカレー サブランチボックス
4/8	志津・矢倉・老上西・常盤	16	53	10	37	ハッシュド・ポークバターライス添え
4/23	南笠縫東・笠縫東	15	53	7	28	チキンのクリーム煮バターライス添え
5/13	淡川・草津	17	53	8	30	
5/27	志津南・大野・玉川・老上・山田	16	54	10	45	チキンのストロノゴノフバターライス添え
6/8	志津・志津南・矢倉	22	58	10	35	
6/29	草津・老上西・笠縫	24	57	12	43	
7/9	笠縫東	26	70	13	45	コロックカレーバターライス添え・チキンカレー
7/30	淡川	23	60	12	41	
8/10	大野・山田・常盤	21	53	14	43	
8/30	玉川・南笠縫東・老上	25	60	16	44	チキンストロノゴノフバターライス添え
9/13	志津・志津南・矢倉	22	58	12	45	チキンカレーバターライス添え
9/27	草津・老上西・笠縫	24	57	15	45	
10/12	笠縫東	25	68	12	45	コロックカレーバターライス添え
10/25	淡川	22	57	14	45	
11/8	大野・山田・常盤	18	44	12	45	
11/29	玉川・南笠縫東・老上	24	57	14	39	
12/20	ウ	35	82	12	36	
12/27	エ	14	62	11	41	
R4.1/11	矢倉・淡川・草津	35	94	17	45	
1/31	老上・老上西・玉川・大野・志津・志津南	34	91	16	42	
2/7	山田・笠縫東・笠縫東	34	94	14	45	
2/28	南笠縫東・常盤	35	94	16	45	
3/7	矢倉・淡川・草津	33	91	14	41	
3/28	志津・志津南・大野・玉川・老上・老上西	34	94	13	45	



〇「ありがとう」の感動メッセージを一部紹介
 ♡美味しく子どもたちも喜んでいきます。ありがとうございます。
 ♡いつもありがとうございます。おいしいカレーを子どもと感謝していただきました。皆様のご健康をお祈りしています！
 ♡ランチボックスありがとうございます。
 ♡毎月ギリギリの生活の中一食分は、とてもありがたく、とても嬉しくおいしくいただいています。子どもたちも喜んで食べています。とても感謝しています。
 ♡いつもおいしいランチボックスをありがとうございます。ランチではなく夕飯にさせていただき、経済的にもとても助かっています。支援をいただき大変心強く感謝しています!!これからはともよしをお願いします。
 ♡ランチボックス美味しかったです。頼る実家も子どもと二人不安な毎日を送っています。そんな時ランチボックスをいただき、福祉の人の優しさに触れた思いです。ありがとうございます。

2) 自主防災組織:α米100個とフードバンク滋賀:チョコレート100箱
～災害備蓄品寄付・アーモンドチョコレート植物繊維摂取で免疫アップ～

フードバンク滋賀からいただいたアーモンドチョコレートと町内会の自主防災組織からいただいたα米を頂
張って活動されている障害福祉関係施設・団体等にお届けしました。



○配布品
・草津市社会福祉協議会会長メッセージ
(配分先へ各1枚)
・アーモンドチョコレート(1箱 88g、100箱)
・α米(100個)

○配布先

配布先	配布関係施設数
障害者グループホーム	12
障害者施設	26
合計	38

10月26日・11月10日
3) 草津市赤十字奉仕団「愛のこもった炊き込みご飯672個」市社協とコラボ
～炊き込みご飯で免疫アップ地域サロン155団体を応援～

草津市赤十字奉仕団と草津市社会福祉協議会がコラボして、新型コロナウイルスの感染症拡大防止の観点
から活動が困難な状況にある高齢者地域サロンを応援しました。三密等を選び、地域サロン活動の活動者の前
向きな気持ちの応援と参加される高齢者が笑顔になっていただきたいという気持ちで「炊き込みご飯」をつく
り、地域福祉活動の安心と安全を応援しました。



○対象 高齢者地域サロン155サロン
○配分数

	応援サロン数	個数
10/26(火)	22サロン	349個
11/10(水)	14サロン	323個
合計	36サロン	672個

○「ありがとう」の感動メッセージを一部紹介

いつもお世話になりありがとうございます。また、この度は、私たちひばりサ
ロンに赤十字奉仕団の方々手作りの「炊き込みご飯」を差し入れていただきまし
た。体に優しい味付けで、とてもおいしくいただきました。心より厚くお礼申し
上げます。～参加者の声より～ティーンタイムのおやつも全部食べたのに、この炊
き込みご飯は美味しくて、全部いただいたでもうた。今日は夕飯控えなどな
(笑)ひとつひとつの味かやくの味が生きているね。薄味なのに、どうするとこん
ないか味がでるんやろう。私は、ついつい濃い味になってしまっわ。お
いしかった。ごちそうさん。準備、大変やったやろうなあ。おおきに。奉仕団のみ
なさま。本当にありがとうございます。合掌

暖たかくて美味しい「炊き込
みご飯」をありがとうござい
ました。特に一人暮らしをさ
れている方は、とても喜んで
おられました。皆さんのそ
れぞれの気持ちも上がったよ
うに思います。とても感謝し
ます。「ごちそう様でした！」

12月20日～23日

4) 障害者作成年賀状で「つながり」市社協作成脳トレセットで「元気」
～高齢者へ「元気」と「笑顔」地域サロンを応援～

新型コロナウイルスの感染症拡大により障害者の雇用困難な状況の中、作っていただいたハガキを「高齢
者のつながり」をつくるためのアイテム(年賀状)として応援しました。また、市社協から緊急事態宣言等で在
宅高齢者の認知症予防として「脳トレセット」を地域サロンへお送りしました。高齢者の元気と笑顔を応援しま
す。



○対象 市内高齢者地域サロン155サロン
○内容 ふくちゃんイラスト入り年賀状
・市社協脳トレセット内容(「脳トレ」福祉バスルでGO!「冊子、万華鏡キ
ット、色紙)

応援 サロン	年賀状 136枚	脳トレ福祉バスルでGO! 18冊	万華鏡 48個	色紙 166枚
-----------	-------------	---------------------	------------	------------

12月15日～16日

5) CHRISTMAS PRESENT お楽しみ まごころ便
～オムロン社員の直筆コメントコラボ企画(企業との連携強化)応援の輪を広げる～

新型コロナウイルスの感染症拡大の中でも、「コロナに負けず」活動されている施設を「みんなまで応援しよう」
と市社協が企業・市民に呼びかけたたくさんのお寄付物品をいただきました。寄付もボランティア、それこそ草津
市社協の応援「まごころ便」です。

<対象>

市内福祉関係施設(高齢者・障害者・子ども)52施設と地域サロン18サロン、キラリエ入居「ココクルひろば」
を応援しました。



今回のまごころ便の特徴

- ① 市内の約480社に物品の寄付依頼を実
施し、多くの市民・企業の心が集まった物
を活動応援に変える。
- ② 企業の労働組合がボランティア体験とし
て袋に手書きのコメント、袋詰め、マスク
ケースづくり等、心のこもった応援に変え
た。
- ③ コロナ禍でのクリスマスプレゼントなの
で、いろいろな寄付物品を入れ、楽しい
袋とした。

《全寄付品一覧表》

寄付団体	寄付物品	数
アイコラレーション	はかき(2種類)	34枚
株式会社阪急オアシス	アルコール除菌シート	42個
有限会社管財技研	次亜塩素酸液(消毒・除菌水)	30本
大阪ガス株式会社	画用紙	8冊
大阪ガス株式会社	折紙(大判)	58冊
大阪ガス株式会社	折紙(普通サイズ)	10冊
フードバンク滋賀	除菌シート	180個
市民からの寄付	石鹸	9箱
市民懇話会	マスク(50枚)	20箱
	子供用不織布マスク(50枚)	114枚
	てつくりマスク(大人用)	19枚
	てつくりマスク(子ども用)	1個
	スヌーピーぬいぐるみ	14個
	トミカ	1箱
市民からの寄付	コットン(300枚)	3箱
	子供用不織布マスク(50枚)	4箱
	不織布マスク(50枚)	5箱
	洗剤(ピーズ)	10本
	高麗き粉	6本
	消毒ジェル	10本
	消毒液	12箱
草津介護センター	マスク(100枚)	77箱
	手袋・グローブ(100枚)	
オムロン株式会社 草津事業所	そうざん	170枚

※LL牛乳480本

〇「ありがとう」の感謝メッセージを一部紹介

この度は「サロン」運営者宛にコロナ対策用品や子ども達の台拭きを頂きましてありがとうございます。コロナで参加数も限られ、又、厳しいやりくりをしている中、大変うれしく思います。これからもガンパッ「サロン」を続けたいと思います。御提供頂いた企業様にお礼申し上げます。ありがとうございます。た。(南苜蓿学区「よっつといでくらぶ」)

オムロン株式会社 草津事業所 御中このたびは心のこもった贈り物をありがとうございます。大切に使用させていただきます。(特別養護老人ホーム鳳和里 職員一同)

心あたまるお品をありがとうございます。年末の掃除に早速使用させていただきます。本年もよろしくお願ひします。(びわこ学園)



「クリスマスまでごろ便」が届いたいた団体の皆様ありがとうございます。とても嬉しいです。早速サロンのお楽しみ会で、いただいた品をビンゴゲームの景品に使わせていただきました。喜んでいただきました。厚くお礼申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。(青地ひまわり会)



このたびは手作りのはかきや手ぬいのぞうきんなどたくさんのお品物をいただき感謝しております。ウイズコロナを今後とも意識し仲間と頑張り張っていきます。(ペーカリー&カフェ 監本)

明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い致します。昨年の奮闘には、たくさんのごプレゼントをご用意いただき、ありがとうございます。コロナで大変な毎日ですが、メンバー一同元気に前向きにがんばっております。いただいたプレゼントは、会の活動にしっかりと使わせていただきます。今年もまだまだ油断できない日々が続きますが、皆様からの温かいお気持ちに支えられて、がんばっております。本当にありがとうございます。(テリード草津 ふれあい)



この度は「クリスマスお楽しみ」まで、貴重な物品を頂き、誠にありがとうございます。ご入居者様のサービス向上のために、誠にありがとうございます。(社福聖優会 特別養護老人ホーム 西の郷 職員一同)

この度は心の込められた品々をいただきまして、職員一同感謝しております。誠にありがとうございます。施設のご入居者様や職員とで、大切に使用させていただきます。みなさまのお気持ちで心も温まりました。ともに頑張っていきたいと思います。みなさまもお身体大切にしてください。誠にありがとうございます。(社福よつば会 特別養護老人ホーム ゆうすずいのごと)

皆様方からの真心の贈り物ありがとうございます。サロンで大切に使用します。貴社のご発展を祈ります。(阿本西サロン友の会)

クリスマス☆お楽しみまでごろ便 JALANメンバーのもとにも届きました！ありがとうございます。お品物はありがとうございました。ありがとうございます。(JALAN 一同)



いつもお世話になっております。この度も色々御品を丁度致しまして、ありがとうございます。高齢者の皆様のために役に立ちたいと思っております。コロナはスツキリとは収まりませんが、なんとか工夫しながらやっております。これからもよろしくお願ひ申し上げます。(のんびりの会)

令和4年3月15日～16日

6) 開けてビックリ!! 今年度ラストまごころ便
～令和3年度ありがとう! 35施設を応援～

市内福祉関係施設が、新型コロナウイルスの感染拡大の中でも、三密等を選び、利用者・入所者のため「コロナに負けず」活動されている施設を「みんな応援しよう」と市社協が多く企業・市民に呼びかけ多くの寄付物品をいただきました。寄付もボランティア、それこそが草津市社協の応援「まごころ便」です。

○対象 特別養護老人ホーム、障害関係施設・グループホーム、医療関係施設等
○内容 企業・市民等からいただいた食料品

寄付物品	数
米	15袋
乾麺	98個
乾物	80個
缶詰	73個
瓶詰	13個
調味料	108個
油	7個
レトルト食品	82個
菓子	96個
飲料	88箱
ルー類	24箱
粉類	17個
みかんゼリー	240個
太刀魚(冷凍)1箱50切れ	16箱
餃子(冷凍)	6袋

左記の物品をバラエティパックとして、35特別養護老人ホーム、障害関係施設・グループホーム、医療関係施設等へ「ラストまごころ便」として応援しました。



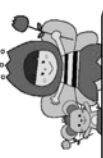
フードバンク事業では、缶詰等3,386品・米約1,851kgを寄付していただき、地域福祉活動団体・福祉関係施設・グループホーム・貧困者等へ配分しました。

それ以外にコロナ禍での取組として、企業・市民等からいただいた寄付物品を「まごころ便事業」(コロナ禍で頑張っている地域サロン活動、福祉・医療関係施設等への応援)「フードバンク拡大事業」(給食センターからの生鮮食品等の寄付を応援に変える事業)を実施しました。

このコロナ禍を越える「社会を明るくする活動」「笑顔が笑顔を生む活動」を進めていきます。

◆改めて自分たちの活動の意義を見直し、新たな可能性を模索

6月2日滋賀県草津市社協スタート
8月号「おバカバナズ」掲載



4. 草津市「つながりサポート事業」委託

1) 草津市「つながりサポート事業」生理貧困への取組～48,116枚 配布～
○草津市「つながりサポート事業」とは

貧困・孤独・孤立により不安を抱える女性が、社会の絆・つながりを回復することができるよう、生理用品や食料品の配布を通じて、対象者を必要な相談窓口や各種サービスにつなげるとともに、民生委員等の地域の支援者につなげていく。また、連携会議や研修会を実施し支援体制の強化を図る。また、実施する上で、施策連携・公民連携・地域連携の3連携を実施して進める。

○支援体制の強化

窓口での生理用品(委託)ならびに食料品(市社協事業)の配布

<市内窓口配布と食料品との連携>

＜キラリエ草津窓口拠点＞(生理用品、食料品)	＜市社協(フードバンクセンター) (4F) (ふれあいハウス棟、立ち寄りカフェゆかい家、志津・南草津まちセン)＞	＜生理用品配布窓口＞(生理用品)	＜市役所窓口拠点＞(生理用品、食料品)
●市社協	○女性共同参画センター (5F)	○人権センター (3F)	●人ごらしのサポートセンター (フードバンクサテライト) (2F)
○家庭学習相談室(第3F)	○生活安心課 (1F)	○健康増進課 (2F)	○生理用品配布窓口(生理用品)
○生活安心課 (1F)	○ハローワーク	○障がい福祉課 (4F)	○子ども家庭課 (保2F)
○障がい福祉課 (4F)	○福祉センター	○福祉センター	○健康増進課 (2F)
○福祉センター			○障がい福祉課 (2F)

公民連携・施策連携

＜配布物1回基準＞	＜食料品セット＞
○生理用品セット ・つながりサポート事業チラシ ・相談窓口一覧表 ・生理用品2セット(24個入り2パック)	○食品5種、米500g、インスタント関連5袋を紙袋に入れる
○フードバンク・緊急食糧支援で用意する。	

○住民への周知・理解

市広報、社協ごさつ、SNS等を活用し、周知を図ります。貧困・孤独・孤立を防ぐために、身近な相談者への周知を図り、理解を広げる研修会として、市民生委員児童委員協議会(市民児協)、学区社協会会長で研修会を実施し、地域の支援体制づくりの醸成を図ります。また、地域と連携し、相談できる場所や、居場所となるような拠点により身近な地域にできるよう検討し、「助けてと云える風土」をつくらせます。

施策連携・公民連携・地域連携

地域連携

○生理用品配布事業等へボランティアの参画と社会的つながり

生理用品や食品等を配布する際に、住民意識の高揚を考え、フードバンク仕分け・配達ボランティア他新たなボランティアを募集し、一緒に考え活動する仲間を増やします。また、貧困から起きる孤立・孤独を防ぐため、社会的つながりをつくるボランティア活動への参画も促していきます。

○関係機関との連絡会議と相談体制の整備

下記の11機関で事業の主旨について共通理解し、取り組みについて協議・連携を図ります。
<市役所>人ごらしのサポートセンター、子ども家庭課、家庭児童相談室、健康増進課、生活安心課、障がい福祉課、生活支援課、<キラリエ>市社協、男女共同参画センター、人権センター

施策連携・公民連携

【配布状況】

令和3年度 生理用品配布枚数 48,116枚 (3月末現在)

<キラリエ>5カ所

※1セット 22個入り×2パック(1人 44個)

配布	社協窓口	社協未 BOX	男女共同参画 センター	人権センター
合計	45	83	387	32
	562			

(配布年齢)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
	225	29	112	154	27	5	0

<市役所>6カ所

配布	人どらしのサ ポートセンター	子ども 家庭課	子ども 相談室	家庭 相談室	健康 増進課	生活 安心課	商工観光 労働課
合計	32	91	21	14	36	8	
	202						

(配布年齢)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
	16	23	66	75	20	2	0

<関係機関>6カ所

配布	福履 センター	フードバンク 滋賀	ハロー ワーク草津	ふれあい ハウス絆	立ち寄りカフェ ゆかい家	志津 まちゼン	南草津 まちゼン
合計	2	93	3	13	99	99	2
	221						

(配布年齢)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明
	43	34	53	55	8	6	19

<トイレ設置>3カ所(トイレへの設置は、単品で設置する。)

配布	キラリエトイレ	市役所トイレ	フェリエトイレ
合計	1,848	334	300
	2,482		

<小・中学校>小学校14校、中学校6校

小学校	1,272枚配布
中学校	1,022枚配布

※学校によってバラつきがあります。

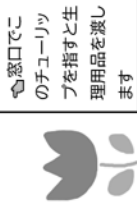
【地域での新しい取り組み】

立ち寄りカフェゆかい家(草津学区社会福祉協議会活動拠点)では、「レディースカフェ」実施

貧困対策では、生理用品だけでなく、市協のフードをセットにして、お渡しします。孤立・孤独対策としては、社会参加(ボランティア活動)や各相談機関等の連絡先パンフレットを入れて配布。市協では、「女性の尊厳を守る」活動に見えない貧困に取組を拡大していきます。

【令和5年度へ向け】

委託が切れることを考慮し、市協でできる「生理用品の寄付を呼び、女性の尊厳」を守る活動としてあらゆる活動を広げてまいります。



現状を把握し、地域で支え合う仕組みづくり

Q. 草津市全体で、何人ぐらいを対象と考えると、生理用品の購入は何人分みていますか。
A. 滋賀県の「生理的貧困実態アンケート」3,682人、10代から70歳以上では、4人に1人が貧困と言われています。草津市の8歳から60歳の女性人口は、43,849人です。1/4は、10,962人とみていますが、生理用品の購入数は、1,840人分と予備400人分を用意します。配布実績から見ても十分であると判断しているが、状況を見て市民へ寄付のお願いも考えていきます。

Q. 住民への周知・啓発で、市広報、社協など書かれています。その他の周知・啓発はありますか。
A. 市協で、ポスター、チラシを作成しますが、ポスターには、生理用品の配布窓口がわかる小さなカードも用意し、親にも相談できない子どもたちが持つて帰って連絡できるように配慮をしようと考えています。

Q. 「助けて」と言える地域の風土をつくるのが、周知・啓発以外にどのような方法を考えていますか。
A. 風土づくりは、住民の皆様のおかげです。直ぐにできるものではないと考えています。しかし、配布窓口を増やし、いろいろな媒体で啓発し、ボランティアに参画していただきながら、いろいろな地域団体へも学習会等を実施して草津市で困っている人が困らなくなると考えています。

Q. 孤立・孤独を防ぐに「社会的つながり」をつくることとありましたが具体的に説明をしてください。
A. 「社会的つながり」とは、ボランティア活動・地域の福祉活動への参画・地域の役割等、社会の中でつながる関係性の構築を言いますが、特にコロナ禍で、より希薄になった人間関係が話題となっています。「社会的孤立」が進むと「感染死」だけではなく「関連死」が増えるとも言われています。ここで、コロナ禍で仕事がなく「行き場所のない」方々に少しでも、ボランティア活動等に参画していただき「人と人の新しい出会いと関係性」の構築を図りたいと考えて、ボランティア情報もお渡しし、声もかけていこうと考えています。

Q. 相談機関の連携とは？
A. 相談機関同士の連絡調整、配布・相談状況の確認・分析を実施し、共通認識を持つための連絡会を実施します。また、各相談所の相談員の連携強化も図り、ワンストップでいろいろな相談ができる体制を整備します。

令和3年4月1日スタート

◆「家にいることが価値」となる今、発想の転換が求められる

5. Withコロナで豊かな暮らしを提案

1) ふくちゃんプロジェクト～在宅でできるボランティア活動～

このプロジェクトは、ふくちゃんグッズを作ることでボランティア活動の活性・活躍の場を広げ、新たなボランティア活動団体等の立ち上げアイテムに活用したいと考えています。そのマスク・マスクケース、いろいろな手作りのふくちゃんグッズを広げることにより、新型コロナウイルス感染症対策として、在宅で「楽しさ」と「豊かな暮らし」を少しでも地域福祉活動(ボランティア)を通して感じていただきたいと思っています。

そして、コロナ禍で失われた「つながり」で、あいふれあいを草津市社協のキャラクターをマスクで啓発することで、地域福祉活動の啓発ができ、「ふくちゃんグッズ」をつけている人たちが同士の「ふくちゃんつながる新しい関係性」新しい出会いを構築したいと考えています。また、在宅で楽しめ、少しでも手を動かして認知症予防になる「ふくちゃん在宅でぬり絵」等を多くの高齢者や子供たちが、楽しく過ごすアイテムとして作成しました。草津市ボランティアセンターでは、「ボランティア10,000人」を目指していますが、「ふくちゃんグッズでボランティア」を合言葉に、市民へボランティア活動者への参加を促し、コロナ禍で減りつつあるボランティア活動の活性化に努めます。

【年間ふくちゃんマスク・マスクケース製作数】

	製作数	販売数	市社協 啓発用	残
マスク	882枚	428枚	271枚	183枚
マスクケース	1,186枚	347枚	334枚	505枚

①マスク作成団体

- 草津市赤十字奉仕団
- 志津学区ボランティアグループ「ほほえみ会」
- ボランティアグループ「ふくちゃん」
- 協賛点立ち寄りカフェ「ゆかい家」 ボランティア
- 個人ボランティア
- オムロン株式会社

②ボランティア講座等

- ぬいぬい講座(ふくちゃんマスクづくり)
令和3年5月25日10:00～ 7人参加
- おりおり講座(ふくちゃんマスクケースづくり)
令和3年5月27日10:00～ 10人参加



新しいボランティア拡大の取組み

- ③ZOOM で421人ボランティア活動
- 新しいボランティアの広がり(オムロン労働組合)
コロナ禍で在宅勤務されているオムロン株式会社職員へ労働組合と連携し、マスクケースづくり、雑巾、「クリスマスはお楽しみまごころ便」をラッピングするボランティア活動をzoomで実施しました。725個のマスクケース等を作成していただきました。また、クリアファイルで作成するマスクケースづくりの動画を作成し、市社協HPで掲載
- ふくちゃんグッズ作成ボランティア交流会「和気あいあい交流会」
講座をきっかけに集まったボランティアの「つながり」「仲間意識」をもっていただき、新たなボランティアグループの立ち上げのために実施しました。
令和3年6月25日(金)10:00～ 参加者10人



○市民への「ふくちゃんグッズボランティア」募集
ふくちゃんグッズを作成し、「ふくちゃんファンのつどい」で販売しよう。」を言葉に、在宅化している期間を利用して家でできるボランティア活動を展開しました。

約20人 328点



④ふくちゃんファンのつどい

市民に作っていただいた「ふくちゃんグッズ」を「ふくちゃんファンのつどい」でチャリティ販売し、ふくちゃん写真展やふくちゃん塗り絵を啓発しました。コロナ禍で立ち上がったボランティアグループ(VGふくちゃん、VGフリーダム)がイベント協力ボランティアとして協力していただきました。

開催月日 令和4年3月18日(金)13:30～15:30 キラリエ草津 6F
(ラストボランティアイベント同日開催)

○協力ボランティア

令和3年度に草津市福祉教養大学の卒業生が立ち上げたボランティアグループ「VGふくちゃん」、「VGフリーダム」が協力

⑤ふくちゃん寄付金募集

ボランティアが作成した募金箱を活用し、「ふくちゃん応援寄付金」を草津市社協窓口へ設置しました。
令和4年度は、キラリエ入居者会議にて置いていただけの職場を選定します。



2) LAST VOLUNTEER FESTIVAL & ふくちゃんファンのつどい

草津市社会福祉協議会が、市役所旧庁舎から青地町へ移転を契機にボランティアの拡大、ボランティア同士のつながりづくり、市民とボランティアの交流の場、多くの市民へボランティアの楽しさやボランティアの入り口づくりとして(福祉イベント協力ボランティア)身近に感じられる活動イベントとしてボランティアフェスティバル(VF)を実施してきました。

そして、今までの福祉の枠を越えた他分野とのつながりや中間組織連携、市域を越えた新しいボランティアの広がりも目的に加え、幅広い方々の参加も進めてまいりました。(来場者総数 16,650人、ボランティア参加者数約604人)そこで第10回を迎え、ご協力いただいた方々の「つながり」をもう一度新設、市社協の応援団や地域福祉活動へご協力していただく「仲間づくり」の構築を目的に実施した。

コロナ禍で、つながりの希薄化、孤立、孤独が広がる中で、市社協が実施していたボランティアフェスティバルが契機になったことを願います。

○開催月日 令和4年3月18日(金)13:30～15:30 キラリエ草津 6F

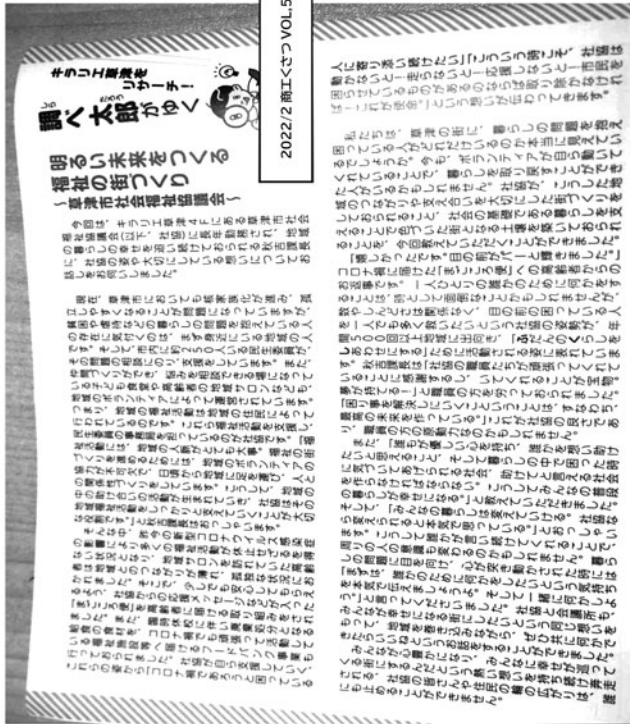


○内容

- ・ウエルカム映像(今までの第1回~7回のVF映像)30分前からウエルカム生演奏(音楽ボランティア:ドルチェ)
- ・オーブニングセレモニー(パーチャル花火)
- ・会長あいさつ
- ・参加者代表でステーション……コロナ禍地域福祉応援ステーション(堀内圭三さん)
- ・市社協への思いを語るビデオレター(参加者のうち2人から市社協への応援メッセージ、ビデオレター)
- ・タイムカプセルオープン、朗読、映像(朗読ボランティア:フジユクローパー・玉川)
- 第4回VFのタイムカプセルを開け、参加者へ報告(タイムカプセル:メッセージ134枚、写真7枚)
- ・タイムカプセルに入れよう(2025年、3年後のわたし…市社協70周年へ)
- 参加者で3年間つなごう(堀内圭三さん)
- ・音楽で心を一つに(堀内圭三さん)
- ・閉会あいさつ

- 参加対象 市長、過去にVFに参加していたいただいた選抜40人~50人と理事、評議員 … **69人**

- 協力ボランティア…13人(草津市ボランティア連絡協議会)



「コロナウィルス(100年に1度の危機)とボランティア」

総務省が発表している「令和3年度高齢社会白書」で「新型コロナウイルス感染症拡大によりボランティア活動への参加が減少」という調査報告があり、「活動をやめた」活動日数や時間の減少が、アメリカ67.4%と最も高く、スウェーデン53.3%、ドイツ30.1%、日本21.7%と記載されました。

草津市でもボランティア活動が停止・中止といった団体が増えていく中、ボランティア人口は168人も減少しています。

しかし、一方で地域の暮らしの問題は複雑・多岐にわたったり、人とひととの希薄化やコロナ禍に伴う「貧困・孤立・孤独」が広がっています。

私たちは、「100年に1度の危機」だけではなく、少子高齢化・財政削減・地球温暖化に伴う災害等の様々な問題に立ち向かっていかなければならないと考えます。

草津市社会福祉協議会は、地域福祉活動を継続しながら、様々な暮らしの問題について変化を恐れず「解決する社会づくり」を展開します。

「生き残る種とは、最も強いものではない。最も知的なものでもない。それは、変化に最もよく適応したものである。」(ダーウィンの『種の起源』著者 / 1809~1882)

6. 第3次草津市地域福祉活動計画の検証

p1

—住民主体の福祉のまちづくり—

基本目標	福祉の風土づくり 子どもから高齢者まで一人ひとりが尊重され、くらしの課題を他人ごととしない福祉の風土をつくるため、地域福祉活動の魅力を広く広報し、住民への啓発に取り組めます。		
推進項目	①地域福祉活動の周知・啓発 見える社協、魅せる社協活動をめざして広報し、住民への啓発を行い、地域の福祉力アップを図ります。		
グループワーク	【市社協が考える課題】 ・近所力アップ講座は、市が行なっている「みんなのでトーク」の出前講座として実施しています。 ・開催地域が固定化しているため、講座の内容を充実させ、また積極的に広報紙やホームページ等で講座の周知・啓発を図り、講座の開催回数を増やしていく必要があります。 ・社協の「見える化」として、広報紙「社協くさつ」やホームページ等、市社協独自の媒体や、記者提供など市社協活動や地域の活動を外部に積極的にPRし、より多くの市民の方の目にとまるような啓発が求められます。 また、今後は、SNS等の活用についても検討し、多世代への周知も求められています。	【作業部会の皆さんから捉えられた残された課題】 ↑ ○ 移転を契機にしたPR方法の開発 ・街中に市社協が移転されたので、PRしやすくなれたと思います。 ・新型コロナウィルスがより一層地域のつながりを分断したと思います。それにより一層孤立化が進んでいるように思います。駅前に移転されたことで、駅前の孤立しがちなマンション住まいの方など、住民に身近に市社協を感じていただけたのではないかと思います。 ・地域の情報を広報紙にて紹介する ・各団体の意見を聞く	【事業展開等、もっとこうしたい方がよいこと：課題に対する対策】 ○ 他団体と協働して新たな活動者を獲得する取組の実施 ・親子や退職後の高齢者等が気軽に取り組めるよう、市社協や地域福祉活動団体、社会福祉施設等が連携して、福祉講座やイベント、体験機会等の提供を進める。 ・地域性が多々あると思いますが、各まちづくり協議会他諸団体途への働きかけをアツクするのの一つと思います。 ・“集まる”楽しさを再確認するために、生活の中で自然に集まる場を活用していく(例えば、駅、大型ショッピングセンター、学校など) ・オンラインと集まることとの使い分け
	○ 新たな周知方法の開発 ・学区まちづくりセンターよりの広報紙の活用で事業の啓発、PRをする。 ・一般的に「社会福祉協議会って何？知らなくても日常生活に支障はないよね」というのが実感です。こんな中ですから、社協自身が自らの媒体による情報発信は、その広がりにおける程度の限度が存在すると思いますし、現在の社協は大変頑張っていると思います。 ・内容を充実しても、広報紙やホームページなどをとだけの方が見ているかが課題で、これまでと同じような一般的な広報、啓発は限りがあるのではないかと。 ・自らの発信と他者からの発信として、外部への発信方法を考える。 ・コロナで“集まる、顔を合わせる、話す”ことの重要性が再確認されつつあるなか、なかなか解決策にたどりつけなかった(SNS等の活用が追いつかなかった) ・平和堂・商工会議所・コミュニティ事業団・医師会(ケラリエ入居者)と合同で情報紙等を発行する ・生活の中に福祉があることの周知(幼少の頃から当たり前にある環境) ・関わりのある団体なのでホームページや広報紙は気にかけて見ていますが、以前は「社協って？」でした	○ 異なる広報媒体を活用した情報発信の強化 ・まちづくりセンターの広報紙で呼びかけをする事で啓発でき、事業活動に興味ができ、参加しやすくなる。 ・新聞やテレビなどの既存の媒体の力は大変大きいものがあります。従いまして、これらを利用することを考えるのも良いかと思えます。R2年度当初のコロナ禍で、新しい取組を新聞で多く取り上げられ、社協はこんなに頑張っているとの認識を新たにすることがあります。 このことから、記者提供にもっと力を入れていくのも良い方法と考えます。提供を受けたメディアが取り上げてくれる保証はないし、取り上げてもらえる記事を作ることには大変ですが、 ・インスタグラムでの発信 ・SNSの利用について、参加者の年齢に応じたツールの利用方法を構築する。 ・自らの発信は続け、影響力のある発信者との活動で、より外へ発信していく。 ・SNS+これまでのアナログな発信との併用 ・LINE開設等で、手軽に情報配信できると、若年層にもより身近になるのでは？ ・市社協以外の情報紙へのコラボ	

【達成度評価基準】◎期待を超える成果があった、△期待とおりの成果があった、○期待未満の成果であった】

	<p>○若い世代の地域福祉に関わるきっかけづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より一層地域福祉を推進するため、子どもや青年層、壮年層へと活動する人を拡大していくとともに、ボランティア活動の機会拡大を進める必要がある。 ・中高生～若い世代へのアプローチ ・利用者の年代を考慮したツールとしてSNSの利用方法を考える。 ・学校と連携した多世代間の交流事業の検討。 ・高齢者以外に向けたPR ・福祉活動やボランティアを負担に思う人が多く、楽しさを前面に出したアプローチが来ていない ・特典を付け、興味を持ってもらう ・世代別のアプローチ方法を変えていく(子供～高齢者、若年層(子育て世代)) ・地域の特徴を取り入れる(旧住民、マンションの意見) 	<p>○若い世代が参加しやすい講座の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と同じくらい子ども地域とかかわることが減っていると思う。講義形式の講座と(コロナのこともありますが)気軽に交流できるもの両輪で孤立している方がひとりでも減ればいいなと思います。 ・身近に福祉を感じられる。気軽に参加できる、そんなSNSを通じた企画があれば若者へPRができるのではないかな。 例)「小学生のA君のボランティアをしたいという夢をかねえよう」という企画。SNSで協力をつづり、SNSで結果報告し、感想評価ももらう。 ・楽しさのPRや特典など、1歩踏み出すきっかけづくり <p>○学校等と協働した企画の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校・教育研究所等との連携 ・学生発信の企画、大きく地域を巻き込むような多世代間の交流を目指す。 ・身近な福祉を気付けるよう対象者ごとにPRを変えていく
<p>○市社協事業の見える化の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机上の業務だけでは市民に伝わらないものも多いかと思えます。コロナ禍の中で、市社協がされている取組をもっとPRできると良いと思います。例えば、介護保険を扱う私たちが身近なところでしたら、車いすが無償で借りられる、寄贈のおむつが無償でいただけるなど市社協があって良かったと利用者が感じるところだと思えます。 ・市社協に來ないと地域の情報が伝わらない ・社会福祉協議会の活動や意義など地域で認知理解されていない ・何をしているのか事業の内容が市民に伝わっているのか？ ・市社協⇄学区社協、つながっているところが見えない ・見える社協だけでなく、目・耳・触のアピールは？ 	<p>○市社協事業が「見える」媒体を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クアマネ向けに社協の取組(例えば車いすが借りられる事業、おむつの無償譲渡、支えあい運送支援事業などの活動)を1枚物のパンフレットなどにしていただけたらいいなと思います。クアマネが持ち歩いて必要な利用者に提案しやすく、社協のPRもできると思います。 ・社協以外の広報誌に社協のことをのせる ・商業施設などにもチラシ・広報誌など配架する→目にふれる機会を増やす ・チラシの置き方(若い人にみてもらう機会を増やす・紙に頼らない/SNS) <p>○地域に出向き、市社協事業をPRする機会を増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に出向いて、各種団体の会合などの機会に社協の取組について直接語り掛ける啓発方法。 ・地域で開催される企業や他団体の行事このイベントに参加してPRする ・市社協の「幅広いPR」 ・他団体とかを通じてPRする機会を作り、垣根を低くしていく 	

【達成度評価基準 ◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

		<p>○「我がごと」と感じる出前講座の内容充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療福祉を考える会議の出前講座の開催。学区、地域住民に見える化事業としては啓発が出来ます。意見も地域に応じて出やすく活動事業の内容も出やすくなります。 ・地域福祉を他人事だと思っている人が多いと思います。 ・風土づくりと事項の住民主体活動は相通じることと思います。学区により課題等は当然違います。より多くの人に実情を知ってもらい、関わりを感じてもらい必要があると感じます。 ・エリアの固定をすることで、場所、人数、世代のギャップを解消する。 ・子どもから高齢者と対象が大きすぎて、市民には食いついてきにくい事かな？と恐った。 ・講座のレパートリーが少ない(もともと子供向けの内容を増やす) ・市社協として積極的に地域への働きかけが弱い ・市社協も出前講座に参画されていたんですね。周知が薄いのでは知りませんでした ・住民さんとの交流・講座を意見として取り入れる。対象市民(子供から高齢者、地域ごと等、多岐に渡るため絞り込みが必要) 	<p>○コロナ禍でも可能な講座の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数については、集まらずにできるオンラインでの活動を増やす。 <p>○講座の地域や対象者を明確化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け講座、女性向け講座、子育て世代向け講座、勤労者向け講座と、具体的な案内があるといいなあ…。 ・エリアの固定化をすることで、成功事例の水平展開、誰もが参加できる内容・中身の充実を図る。簡単、明確、費用が安くできる。
--	--	---	--

【達成度評価基準 ◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

一 住民主体の福祉のまちづくり

<p>基本目標 住民主体の活動づくり</p>	<p>住民主体の福祉力向上を図るため、人づくりとその人を支援する体制をつくります。</p>		<p>達成度 ※3段階評価 ○</p>
<p>推進項目 ②地域福祉力の向上</p>	<p>地域福祉力の向上と住民主体の地域福祉活動の発展のため、その基礎をなす人づくり、またその人を支援する体制をつくります。</p>		
<p>グループワーク</p> <p>【社協が考える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関心のない方にも関心をもっていただき、福祉の風土をつくり、新たな担い手を育成するため に、平成30年度から草津市福祉教養大学を創設しました。福祉活動者だけでなく、福祉の隣接領域の方々(医療・弁護士・住職等)に登壇いただき、受講生からは幅広い視点から話を聞くことができるといってお声も多かったです。 ・草津市福祉教養大学を卒業された方のうち、実際に活動をしてみたいという方を対象とした草津市福祉教養大学院を令和元年度から実施しています 大学院に進まれた方の中から、実際に地域活動を始めた方もおられます。しかし、大学から大学院への希望者が13%となっており、大学卒業から大学院への希望者を増やしていくための工夫が必要となつています。 ・医療福祉を考える会議の開催は13学区が実施し、地域交えあい運送支援事業は5学区が実施、学区の居場所づくりを実施する学区も4学区が実施と、学区社協が新たに事業を開始する学区も増えてきています。地域の特徴を活かした活動への広がりがあ るものの、実践へつながるには時間を要する学区もありです。市社協は地域特徴を丁寧にとらえううえで、地域での動きや時代の流れ等を常にキャッチし、活動者の身近な相談相手となる必要があります。 	<p>【事業展開等、もっとこうしたい方が良いこと】</p> <p>○より身近な医療福祉を考える会議の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療福祉を考える会議の開催を町内組織の中に入り町内の現状や取組、活動内容の状況を話し合える場作りを努める。 ・医療福祉を考える会議、障害者団体には案内すらないのでは？民児協に入り、初めて知った。 ・課題の吸い上げ方 ・話し合いの場づくりには多様な人がかわることが大事。福祉関係者以外、まったくと別の分野 ・民生委員になって初めて参加の声がかかった ・PTA や子ども会、青少年育成は蚊帳の外？ ・地域の課題が地域住民にしっかり届けられていない ・地域の課題を知って、我が事に感じてもらうのにもっと工夫が必要 ・参加するメンバーはたくさんさんのジャンルから集められるといいが、人が増えるともまならない ・若い世代の参加がほとんどない。若い世代が入りにくいのか？ <p>○新たな活動者の獲得につながる講座の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教養大学においては福祉活動に理解を得て、継続して行い、社会福祉について受講者を得たい。 ・参加者が固定化しており、参加者の広がりが少ないのではないか。 ・方法が確立されていないかつたり、ハードルが高く感じられたりするために活動する人が少ない。 ・新規事業への関わりについて、実践への高いハードルがある。 ・人材育成は未来のビジョンを明確にしないと効果的でない。 ・福祉教養大学…私ですら敷居が高いイメージです。参加年齢層は？もっと知ってほしい、参加してほしいと思うターゲットを知りたい。 ・地域包括との情報を得る ・活動を紹介するのではなく、その中にある楽しさを伝える ・教養大学の中が見えない。ハードルが高く感じている ・ターゲットとしている年代は？ ・どういう人を受けてほしいのか明確にして対象に応じた講座の設定 ・字が場が必要だと若い人の参加には工夫が必要 ・福祉教養大学：卒業し活躍しておられる人々の口コミ活動 ・参加者の拡大：若者向けに SNS 等の呼びかけ、地域ではまち協/民生委員の活用 	<p>○医療福祉を考える会議の参加者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療福祉を考える会議も高齢者層の参加…青少年育成市民会議、子ども会等への参加の呼びかけは一切ないが、今後の声かけのリストアップの検討を！ ・特定の人たちだけでなく、より多くの人たちに関わってもらおう。 声かけてほしい(子ども会、PTA、企業など)何かコロボが生まれるかも。 ・医療福祉のネーミングをもっとやわらかいものにしては？ ・会議の任り方にこだわらない。我が事に感じられるやり方は？ 	
<p>【達成度評価基準】◎期待を超える成果があった、○期待どおりの成果があった、△期待未満の成果であった</p>	<p>○福祉教養大学の卒業生の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にはサロンやボランティアグループが多数あることから、福祉教養大学を卒業された方などが、地域活動のリーダーとして活躍できるような各団体と連携、マッチングできるように支援していく。 ・教養大学を続けていただき、つながりを作りながら、仲良しサークルで終わらないよう草津(地域)のビジョンを語れるようになれ ばすばらしい。 ・受講者が望む実践コースを2、3講座増やす。 ・(活動の)相談する立場だけでなく、相談される立場を経験することにより、福祉の視点が養われる。 ・福祉教養大学について…「こんな人にも参加してほしいんです!!」 っていうアピール文を考えてみる？ ・学ばないでではなく、やってみてから学ぶ 		

<p>○他分野との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心を持つ方を増やすために、まず、福祉だけにこだわらず、つながりを持つ分野にたずさわる方へのアプローチから、福祉とのつながりを持ってもらう。 ・実験してみて、どんどん修正しながら変化し続ける取り組み(担い手となる人材を養育できる仕組み) ・楽しみが感じられる体験型の講座を1つか2つ実施しては。 		
<p>○気軽に参加・取り組める福祉活動の講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや現役世代の仕事をしていても少しの時間でも気軽に福祉への興味を持てるものに参加できる、もしくは知ることのできる仕組みがあると思います。 ・学区単位ぐらいの小規模な開催で、初めての方にも気軽に参加してもいい関心を持ってもらう。担い手としてつながるきっかけに。 ・若者に興味を持ってもらう。担当としてつながるきっかけに。(例)アニメである冒険者ギルドに登録し、ポランティア体験というクエストをこなしながら、レベルを上げてもらう(町会長にインタビュアー、民生委員にインタビュアーなどをクエストにして)。 ・大学卒業生の力を借りて、若者をサポートしてもらう。 ・オンライン講座(期間限定)好きな時間に繰り返し見ることが出来る ・現役の大学生にも少しでも経験(どこかで残っているように)ふらっとポランティア 	<p>○参加しやすい講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口を増やしたり、話を聞く機会を増やしたりすることで、関心を持つ方を増やす。 ・地域活動の楽しさや自分の居場所を感じるには実践し体験することも大切だと思います。 ・今の福祉教養大学は高齢者等時間がある方の参加はしやすい、担当利用者の中でも参加している利用者もおられますが、長期間活動は難しいので、福祉教養大学の参加者の若返りが必要だと思います。利用者の社会参加の面では、その方の生きがい作り、ケアマネとしてほしいのですが、社協の活動の継続を思うと、参加者の若返りが必要だと思います。 ・課題解決から入るのではなく、興味・関心から派生する活動へのおさそい。 ・講座の内容から次へつなげるための施策 ・講座って何されてますか？まず、開催されているのに知られてない、気付かれない ・興味や楽しさにつながるテーマにしぼった講座 	<p>○町内会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区社協活動や地域での福祉活動を行う場合、その地域の町内会長の理解が必要と思う。でないとポランティア活動特に地域サロンでも、個人が勝手にやるとの雰囲気になってしまう。 ・地域医療福祉の町内会への参加(実は町内会の役員さんも負担が増えている) ・町内でのつながりがうすい中で関わりの ・まちづくり協議会の名がハンズと出ている、学区社協の印象が薄い？
<p>○町内会への学区社協・市社協事業の周知啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区社協の活動は、すべて町内会長にも案内を出していく。 ・社協とまち協と共同で進めるという目標を立てたら 		

【達成度評価基準：◎期待を超える成果があった、○期待どおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

	<p>○ニーズに応じた活動の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会活動などに対する意欲の高い方がその能力を発揮して社会貢献できる場や機会の提供が必要である。 ・人生の中で、子ども時代、現役時代、熟年時代と成長していくはずだが、その節目に福祉の視点が見過とされがちである。 ・ボランティアへの興味と内容・中身 ・ニーズの見直しも必要 ・送迎ボランティアの拡大をする 	<p>○ボランティアを促進する好循環の仕組みづくり</p> <p>・ボランティアをしたら何かメリットがあると口コミでも広がるのではないかと思います。実家の地域の受け売りですが、65歳を過ぎたら、全員にボランティア活動に声がかかり、ポイントがもらえます。ポイントを使って「習い事」として音読の仕方やレクリエーション活動で使えるような事(手品やコーラス、黒板を使って前に出てレクリエーションをする方法を習うなど)を教えてもらい、「本番として実際にティチャーサービスなどで披露したり、広報誌の音読の録音をします。そうするとポイントがもらえて、ポイントは地域通貨として使えたり、次の「習い事」への参加に使えたりします。仕事はセーブして自由な時間も欲しいけど、人の役にも立って、自分も楽しめると口コミで広がり、新たな出会いもあって楽しそうです。そのような活動が子ども世代や現役世代でもあると、地域みんなが楽しみながら福祉の関心を持てるのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何々のボランティアをしましょうと言うと、手を上げてくれる。具体的な仕事を上げると結構集まってくれますから、具体的なボランティアを提示できると良いように思える。 ・どういう困りごとが地域にあり、どんなボランティアがあるのか(求められているのか)PRしていく ・学校などにもPRすることで家庭に持ち帰ってもらおう ・経験者に気軽に相談できる仕組み ・PRするなら大きい会場でシンポジウム開催?何年かに1回か、それに向けて考えよう ・登録はしんどい。少しでもやってもらおう気軽に ・団体への呼びかけ(具体的な内容を持って) <p>○学区社協・他団体からの事業提案を形にする仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業へ関わる人や活動する人を増やすために、事業に対する支援(ヒト、モノ、カネ)が必要なため、ハードルを下げる施策がある。各地域からのポトムアップの情報、提案が上がる仕組みの構築をする。
--	---	---

【達成度評価基準・◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

一 住民主体の福祉のまちづくりー

<p>基本目標 絆をつむぐまちづくり 住民どうしがふれあい、いきいきと楽しく活動するボランティアの輪を広め、絆をつむぐことができる地域をつくります。</p>	<p>推進項目 ② ボランティア活動の充実と住民参加の仕組みづくり</p>	<p>【事業展開等、もっとこうした方がよいこと】</p>	<p>達成度 ※3段階評価 ○</p>
<p>グループ ワーク</p>	<p>【社協が考える課題】 ・ボランティアフェスティバルでは中・高・大学生にボランティア活動してもらい機会を設け呼びかけを行っています。が、社協に登録されているボランティアの4割が70歳以上となっており、若い世代のボランティアが少ないのが現状です。福祉教育などを通じて、ボランティア意識を広げるような事業展開が必要です。 また、移転に伴い、令和3年度でボランティアフェスティバルは終了となります。そのため、今後キラリ草津の入居者団体や、キラリ草津が所在する大路区の団体等とも連携を図りつつ、これまで行ってきたボランティアとの連携についても検討していく必要があります。 ・若い世代の福祉風土を高め、ボランティアが活動に関心をもち、気軽に参加できることのできるボランティアとして「収集ボランティア」の周知啓発の他、福祉教育の推進やボランティア体験教室の内容を充実させていく必要があります。</p>	<p>【作業部会の皆さんから捉えた残された課題】</p> <p>○ <u>若年層のボランティア活動のきっかけづくり</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動者の若返りや全世代参加が必要と思います。 ・将来必ず大人になる子どもたち(中・高・大学生)が地域の活動(ボランティア)を知る機会を多く作ることが必要。地域の中にも、中高生が居場所として参加できる活動があることを知り、自分で選び活用することで、学校や家庭とは異なる第三の居場所になったり、適度な注目や承認で自己肯定感が高まる等の経験を重ね、段階を経てボランティア意識をほぐす。 ・ボランティア登録者の4割が70歳以上という点なので、若い世代の参画が必要。 ・若い世代のボランティア登録者増のためにハードルを下げる。 ・若い世代はとてもしんどい、他人に手を差しのべる行為に慣れていない、なぜなら、差しのべられる経験が少ないから。“他人”を恐れている反面、SNSなどで簡単に見知らぬ人を信じてしまう危うさがある。 ・ボランティアについて、よく知らない中高生。周知もされていないのに、登録(?)となるはずですね。周知の方法を考えましょう。 ・福祉の敷居が高い 	<p>○ <u>学校と協力したボランティア活動の機会創出</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たとえば、立命館大学にある将棋部にボランティア活動の依頼をして、要介護状態の高齢者と将棋をするなど、大学のサークル活動とボランティア活動のマッチングはいいかでしょうか。以前、個別に話を持って行く、「いいですよ」とは言われましたが、ケアマネには守秘義務がありますので、その利用者を紹介するわけにもいかない、実現しませんでした。活動の主催者を置き、大学生はボランティア人員を、ケアマネは利用者に活動の紹介を、と出来ると実働できるボランティアになるのかなと思います。もちろん、高齢者側から子ども達や大学生に、年齢問わずに一定数の興味を持っていただくボランティア活動もいいたいと思います。(ボランティアを受け身だけでなく、双方が行っている状況) ・時々、利用者から、通りがかりの高校生や大学生にベッドから落ちていたところを助けてもらったエピソードを聞きます。若い世代に介助方法を講義の一つとして知っていただくのはいいかでしょうか。認知症サポーター養成講座の介護方法版のイメージです。学生側は単位がもらえる仕組みがいいと思います。 ・地域小中学校の児童生徒会の委員会活動やクラブ活動の一つとして、ボランティア委員会・ボランティアクラブの立ち上げが出来るように、社協としてバックアップしてあげるように、いろんな手段を考えてみたらどうでしょうか。それくらいのことをしてほしいと周知→登録入は結び付かないのでは？

【達成度評価基準】◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった

		<p>○若い世代が得意とする分野でのボランティア活動の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前には市協が来られたので、中・高・大学生も多く通ると思います。コロナフクチンの予約を高齢者がスマホからとることは難しかったのですが、お孫さんがとってくれたと嬉しそうに話す利用者も多くおられました。駅前でスマホ教室、zoom 教室、DVD再生する方法を伝授するなどを中・高・大学生の自由参加ボランティアとしてできると良いなと思いました。参加した中・高・大学生にはスタバの子ケットなど、今の学生が好きな記念品などがあるといいのではないかと思います。 ・ボランティアフェスティバルなど1年後にまたね〜と集まる ・SNSでの拡散、友を呼ぶ、話せない人向け ・プチボランティア、ちょこボラ <p>○プラットフォームとしての役割の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者に対して、教育機関・行政・団体との連携、プラットフォームとしての役割、SNS 発信が必要。また、災害ボランティアについては、保健センター等とも連携しながら、ボランティアで物資等支援活動(仕分け・箱詰め等)できる部分があるのでは。 ・その日限定のボランティアの発信(SNS)例えば毎月物資分け〇時〜〇時誰でもOK など <p>○ボランティアの楽しさを実感してもらえらる体験の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人たちにボランティア登録という重く感じるのではないでしようか。ボランティアの楽しさを実感してもらえらる機会が作れないでしようか。大学生に聞きました「ボランティア仲間を募集する方法は…SNSで文字は殆ど入れない。写真やイラストで募集する。です」 <p>○収集ボランティア等の誰もができる活動の周知強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・忙しくてできない収集ボランティアを企業に個別にPRすると、賛同される企業も多いと思います。 ・現役世代でも、子育て中でも、在宅でも自由に身近に日常生活の中でフレキシブルに参加できるボランティア活動の提案。 ・子どもと一緒にゴミひろいボラ <p>○誰もが参加できるボランティア活動の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代のボランティア活動を支援するために、気軽にできるボランティア活動を拡充し参加することを優先する。 ・実行委員会制 ・ボランティア経験のため一年間かけて〇〇の役割(さつまいも作る人、洗う人、振り行く幼稚園など) ・イベントのボランティア(やきいもetc.) ・多数でないといけないもの
	<p>○障害者・高齢者であっても参加できるボランティアの仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当している利用者にも声をかければボランティアに参加し、社会とのつながりを新たに持てる利用者も多くいますが、参加時のフォローをすすめる方がいない中で、ケアマネから参加団体にはお願いしにくいです。ケアマネが付いていくわけにも行かず、仲介したり、フォローしたりして下さる方が(それこそボランティア!)がおおられると、いいのになと思うことが多々あります。 ・ボランティアに対するイメージ、「縛られる」「融通が利かない」「大変」といったイメージの払しょく。 ・お互いに苦手意識あり。誰かが世話しているといいいが 	

【達成度評価基準・◎期待を超える成果があった、○期待どおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

	<p>○ボランティア団体同士のつながりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移転に伴うボランティアフェスティバルは継続して開催しなければいけない。新型コロナウイルス感染症のなか開催のあり方について考え、先の見える時期になれば実施すべきで、各団体と連携を取り交流の開催をめざす。 ・キラリエサポーターに登録するのに条件が必要。重荷。 	<p>○市社協を交流・居場所づくりとして拠点化する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キラリエを社協の居場所、ふれあいの場として交流のできる活動拠点にする。 ・ふれあ事業として夏場は納涼まつりの開催、秋はボランティアふれあいフェスティバルの開催、キラリエ大通りを歩行者天国にして交流のつどいを行う。 ・ボランティアするサロン <p>○住民のニーズ等を把握しボランティアのマッチング強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元高齢者の依頼したいこと(電球を替えて欲しい、新聞を改修して欲しいなど)と現役世代の依頼したいこと(習い事の送迎、少年野球の審判、宿題を見てくれるなど)をマッチングして、お互い様の活動が広がるとういいなと思います。 ・高齢者の運転を終わってもらったための説得ボランティアもあるとういなと思います。家族や運転免許センターの方が説得するよりも、運転を卒業された同世代の方 2,3 人から運転を辞めたメリットを同じ目線で話してもらい、運転を卒業されたら今度は説得ボランティア側にかわっていただくとういと思います。 ・ボランティア登録者の4割が70歳以上ということだが、若い世代の力が必要となる困りごとが明確であれば、若い世代も登録してくれるのではないかな。 <p>○ボランティア活動による好影響のPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアによって、仲間との繋がりができ、居場所ができて、そのことが、健康寿命の延伸に繋がることをPRしたい。 <p>○気軽に参加してもらえらるボランティア講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“コミュニケーションに不安がある”から、他人へのアプローチができにくいと考えられるので、見知らぬ場での出会い(コミュニケーション研修?)をしかけるのももしろいかもれない(ゲーム性をもって)。ポケモンGOで平気で町中を歩くのに、あいさつしない不思議さに気づいてほしいなと。
	<p>○新たなボランティア獲得の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い人のボランティアがいないと言われるが、40～50歳代は、現実の社会の活動を實際に支えている働き盛りの年代で、その方々にボランティアをと言っても無理な話だ。ですから、ボランティアをする時間的、心理的に余裕のある年代、すなわち大学生までと、65歳以上の高齢者に期待すれば良いと思う。 ・ボランティアの継続にとって最大の課題は、後継者難と資金面と申します。 	

【達成度評価基準 ◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

		<p>○誰もが参加しやすい居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の中で、高齢者、障害者、子ども、若者や子育て家庭、外国人等だれもが気軽に集い、交流できる機会や場づくりの必要がある。 	<p>○学区ごとの拠点・居場所づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の様々な方々が、気軽に立ち寄って話をしたり、情報交換を行ったりできるよう、学区や町内会等で地域サロンをはじめとした住民主体の交流の場づくりを広めていく。
	<p>○災害を我が事として捉える機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草津市はあまり災害がないので、災害に対する危機感がないのかもしれない。 ・災害ボランティアを増やすために、日常から訓練して登録者を増やす。 	<p>○フードバンクと災害の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存食とフードバンクをうまく循環させ、災害への備えが福祉につながる一石二鳥のような取組がでないか。 <p>○町内会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアを増やすために、学区単位はもちろんであるが、町内会と連動した取組ができないだろうか？ 	

【達成度評価基準 ◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

一市社協が取り組む福祉のまちづくり

推進項目	達成度 ※3段階評価 ○	
グループワーク	<p>【社協が考える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区社協は学区の地域福祉の要です。そのため、学区担当を設け学区社協の活動支援に力を入れ、学区社協の地域活動支援や、学区ごとに開催される医療福祉を考える会議の支援を行ってきまします。草津市内に小学校区は14学区ありますが、人口動態、世帯構成、高齢化の状況等、14学区それぞれ特色があり、地域の課題も様々です。 ・今後こうした地域の特色や課題を学区社協と共有しながら、学区社協と協力しながら地域福祉活動を進めていく必要があります。 ・また、学区社協アンケートでは、「多世代交流」「居場所づくり」「つながりづくり」「学区社協活動の周知啓発」「担い手の育成」「誰もが楽しめる地域活動の開催」を、今後取組たいという学区が多かったことから、市社協としても学区社協の地域福祉活動への支援を行っていく必要があります。 ・生活課題が多様になり複雑化すると、ボランティアに対するニーズも多様化し、それに対応できる多様なボランティアが必要になります。ボランティアセンターは、アンテナをばり、社会的に必要とされるボランティアを結成するための機能を果たす役割があり、今後時代のニーズにあったボランティア養成講座・体験教室を企画していく必要があります。 ・また、ボランティアを行う団体や人数が増えると、活動するためのニーズも増えてきます。 ・ボランティア情報紙を発行していますが、ボランティアセンターとしてボランティア活動者に必要な情報を届けるためには、分かりやすく発信する工夫をするだけでなく、助成金などのさまざまな情報収集に努めることが重要です。 	<p>【事業展開等、もっとこうしたい方がいいこと】</p> <p>○大学生と学区社協活動へのマッチング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区社協の取組は、地域に根差した活動で素晴らしいと思います。前項の全世代を巻き込んだ活動など、学区社協で行うといいのかなと思う部分もあります。例えば、絵が得意な高齢者が地域の子どもの絵を教えることで、災害時に子どもやその親が気にかけて避難を促すなど、地域だからそのつなかりが防災にもつながると思います。 ・学生と一緒に考える(計画～実施) ・社会に出る前のバイトや部活動ではできない経験 ・学生は色んな意味でやる気ある、発言力もすごい ・提供ばかりではない、学生主体、参加型のもの ・学生への周知は教育機関とも連携 ・大学のサークル、地域サロン出張講座・交流 ・講座などのきっかけづくり ・近隣大学のサークル・ボランティア活動一覧を作成し、周知、情報共有。また、大学側にこんなボランティア募集と周知 ・大学生に囲碁、将棋を一緒にしてほしい、話し相手も。 ・大学生が中高生に友達のようにあつまって話したり勉強を教えたりしてもらう場 ・ボランティア大学生、高校生の活用(卒業・就職単位に影響?)
	<p>【作業部会の皆さんから捉えた残された課題】</p> <p>○後継者の育成・発掘</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンなど頑張っている方も多く、サロンによっては主催者が自腹で活動に必要なことを準備したり、送迎したりしているケースもあるように聞きます。あまりに負担が大きいと次の担い手が無くなるのではないかと心配です。 ・学区内の拠点作り、居場所作りを行い、ボランティア活動の充実と参加者の募集に努め、まちづくりセンターの活用と福祉活動の地域発進に努めます。 ・地域の事業が多様多様になり、事業への協力、参加の機会も多く、役員や委員への負担が多い。 ・担い手を確保するのに、どの地域も苦労している。 ・ボランティアは“自主的”なものではあるが、しかけ、きっかけがないとなかなかひと足がでない。 ・“義務”ではなく“楽しさ”“生きがい”に感じられるようにするにはどうしたらよいか? ・サロンの主催者の負担があると次の担い手がなくなる ・サロン参加者、主催者、送迎の問題 ・協力は出来るが自分が主になることはアウト ・ボランティアの楽しさ生きがいの伝え方 ・担い手確保 ・社協って何か知らない。情報発信、広報紙、HPなど読んでくれない ・社協だけはかんべんして ・ボランティアの参加きっかけ ・若い年代のボランティア参画 ・若い人たちも一緒に考える場が少ない ・ボランティア後継者の不足 ・若い世代への周知 ・事業の目的が不明確 ・活動者の意識の共有 ・必要な事業の選別 ・担い手不足 ・後継者の育成発掘、困っている人が困ったまま待っているだけで解決した後、その過程を振り返ることがない ・年々ボランティアが減少→担い手の育成が必要。高齢化、興味がない 	<p>○活動グループの立ち上げ支援・活動グループへのマッチング支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルバイトやボランティアなんてハードルが高いという人も多いたが、働いて少しでも収入があれば、家でゴロゴロせず外にしてみたい...という声も多いと思う(障害者の作業所みたいに)そういった場をつくるための支援(NPOの立ち上げ支援等)できないか? ・市社協が駅前に移転されたので、学生が立ち止まってくれるきっかけ(ボランティア)はどうでしょうか?スマホの使い方を教えるボランティアをしたら、スタバのカードがもらえらるか ・個人ボランティアに活動の場を設ける ・収集ボランティアボックスを通り道におく。社協の存在のPR

【達成度評価基準】○期待を超える成果があった、△期待とおりの成果があった、○期待未達の成果であった

		<p>・ボランティアのポイント制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 手持ちポイントを 65 歳全員に 2 ポイントを使って習う 3 習ったことを活かす(ボランティア)するとポイントがたま る。商品券や次の習い事に <p>・ポイント制にして、高齢者、障害者、若年性認知症など中高年 も巻き込めないか</p> <p>・ボランティア体験企画サロン</p> <p>・お互いにされるばかりではなくて、する側にもまわる(絵、戦 争の話、地域の歴史の話、鉄道の話</p> <p>・活動内容の選別により参加者の負担感を軽減する。 事業の選別</p> <p>○個人ボランティアの育成</p> <p>・“個人ボランティア”をすすめてもよいかと思う。グループに入 るのが苦手な人、集団行動ができない人なども、社協がサポー トしつつ育てていく。</p> <p>・“ずっと一人で活動”するのもあり! もしかしたら不登校やひき こもりの人も…</p> <p>・関心のあること、ないことに触れる機会を。魅力のある人</p> <p>・ひとりで活動したい人は多いはず→自分ができること。特技 を生かしたボランティア(パソコン・絵・歌・スマホ等)</p> <p>・学区社協、市社協役員、役員、職員の作業について希望者を募 る。</p> <p>(収集物の整理等で、○○日××時から整理作業等)</p>	<p>○専門職の出番をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の出番のあるテーマ、話し合いの設定 ・専門家の研修会(人にはなかなか聞けない事) お金(相飾)、兼、スマ ホ等 楽しい講師を。
	<p>○専門職と地域の連携等への働きかけ</p> <p>・ここでの事例ではないかもしれないが、医療福祉の会議には、医師、ケア マネ、訪問看護、地域の高齢者福祉施設等の専門職がメンバーに連ねて いるが、この方々からもっと地域に対して提言や意見を出していただ けるように、市社協からも働きかけて欲しい。現状では、このそうそうたる メンバーの出る場がない。</p> <p>・学区担当を決めていただき、医療福祉を考える会議にも参加頂いてい ますが、講演終了後職員さんと参加者の交流ができればと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職が十分かわわれない ・医療福祉会議 専門職の参加が少ない→意見があまり聞けない 		

【達成度評価基準 ◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

	<p>○包括的な相談体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、相談内容が多様化・複合化していることから、包括的な相談体制が必要である。 ・ヤングケアラー ・包括的な相談体制 ・関係機関との連携 ・相談窓口が分かりづらい ・包括的な相談体制、専門職との連携→介護保険、障害者、育児などたどりの相談体制が・・・ <p>○誰もが参加しやすい居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者、若年性認知症の方などの社会参加が少ない。 ・中高生対象の居場所が少ない。青少年の自殺、ひきこもり、非行、虐待は増えており、コロナ禍で児童相談所への相談件数は年間 8 千件以上と増大している。(滋賀県)また、SNS で人とのつながりや居場所を求める子どもも多く、トラブルに巻き込まれてしまうケースが増大している。 ・多世代交流の場づくり ・高齢者、障害者、若年性認知症の社会参加 ・中高生の居場所がない(少ない) ・元気な時から参加できる体制 ・居場所や拠点同士のつながり ・地域との関りが薄い ・誰もが参加しやすい居場所づくり(趣味などで楽しく集まれるサークルが開かれた(公共の)場所に少ない) <p>○学区の取り組みに関する情報発信と学区社協への支援強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区ごとに特色が違うが、特色に合わせた対応と重なり合う課題に対しての情報を共有する。 ・自分自身が住まいる学区社協が「何してる?」と知らないことだらけ... ・各学区社協の広報誌等も印象が薄い... ・新聞だけでは伝わらない。活動の PR。 ・学区社協の活動をどう知ってもらうか。 ・情報発信→求められるツールが使われているか(紙媒体、SNS、人等)
<p>○包括的な相談体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会の理念に基づき、どのような相談内容であっても受け止めて適切な支援へとつなぐ包括的な相談支援体制づくりを推進。 ・外国籍の方が自国の言葉で話せる窓口 ・とりあえず悩みを聞く窓口→専門の窓口へ ・各相談窓口の交流会(悩みがでるのは夜間。悩みを聴ける(うけとめる)体制) 	<p>○他団体と協働した居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち(中高生)が地域に居場所を持てるように、学校や家庭とは別の形で安心して人と関わり合えることができるように専門機関・教育機関との公民協働や、活用できる地域団体との民民連携により、地域全体として繋がることで、子どもたちの居場所としての選択肢が増える。 ・他団体との協力、まち協のグループとコラボしたカフェを始めたい ・学区のカフェにお手伝いし中高大も入ってもらおう ・誰でも気軽に自由に参加できる仕組み ・気軽に誰でも参加できる雰囲気
<p>○地域に根ざした地域福祉活動への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内ごとの特色を生かした事業の展開を進める。 ・地域医療福祉を考える会議(小規模)の開催。 ・社協、民生委員、福祉委員との連携を計る。 ・学区団体との交流会の開催を行う。 ・学区ごとに特色が違うので、学区社協との協力を密にしながら、課題を洗い上げ地域に根ざした活動を行う。 ・悩みがでるのは夜間なので、悩みを聴ける体制。 <p>○学区社協等の活動の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区や町内会の事業の見直し、整理や、場合によっては各種団体が関係する市の事業の整理、見直し。 ・学区社協や市社協の魅力を伝えていきながら、活動を推進していく。もっと伝えて、知ってもらおう。 	

【達成度評価基準:○期待を超える成果があった、△期待どおりの成果があった、○期待未満の成果であった】

			<p>○学区社協の取組の周知強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区まち協での社協のアピールが薄い？どのように社協の活動を知らせてもらうか？社協が担うべき活動とは？と見直して仕切りなおしの時期では？ ・少人数でのセミナーで広報啓発。
	<p>○住民ニーズの把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの多様化を受け、生活課題の洗い出しと整理を行う。 ・発信の工夫と情報収集方法や媒体を見直し、情報の整理をする。 ・高齢者独自の個別課題 ・マンシヨンの鍵、デイサービスの送迎 ・企業からの聞き取り。 	<p>○ニーズのデータベース化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベース化することにより整理と管理が容易となり、多種多様なニーズが浮き上がり、対応が可能になる。 ・包括や関係機関と連携会議、医療福祉を考える会議を通して情報共有 ・コンビニなど地域の企業からニーズを把握していく。 (例：高齢者がコンビニに来る時間が固定されていたりする場合、そこから見えてくることあるのでは) ・個々の住民との話しの中からニーズをひろう。 	

【達成度評価基準：◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未達の成果であった】

一市社協が取り組む福祉のまちづくり

推進項目	⑤個別援助活動の充実と市社協の基盤づくり	達成度 ※3段階評価
グループワーク	<p>【市社協が考える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業や貸付事業では、複雑化したケースが多くみられ、担当自立支援専門員・生活支援員だけでなく、職員全員が困ったことに耳を傾けられる職員である必要があります。 ・また、権利擁護事業を継続していきけるように、財源確保に努めていく必要があります。 ・令和2年度より、善意銀行の取組を強化し、企業等からの寄付物品を必要とされる地域活動や福祉事業所に配布する「まごころ便」を開始し、これまで希薄だった福祉事業所等ともつながりを持つことができました。 ・今後は、この取組を通じて、企業と地域活動、企業と福祉事業所、人と地域活動のつながりがづくりを進めていけるよう、企業への周知啓発を行っていく必要があります。 	<p>【事業展開等、もっとこうしたい方が良いこと】</p> <p>○権利擁護事業の周知啓発強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネにとっても、今の権利擁護事業は成年後見センターに繋ぐよりハードルが高い状態です。ケアマネ側も権利擁護事業についての実情や社協の実情を知り、市社協もケアマネの支援の実情などを知っていただけたらと思います。 ・権利擁護事業へのつなぎ方を知りたい。 ・つながった成功体験を知りたい。 ・社協の実情を知りたい。 ・社協の職員全員がすべての声に耳を傾けることには限界があるので、細分化・専門化が必要。 ・事業の内容がわかるとなると研修会の開催が必要 ・専門職や地域の方(民生委員や地域の活動者など)への周知啓発 ・事業を市社協だけが知っていても意味がない。多くの人が知って利用していただけるハンドブック？ 研修？ <p>○権利擁護事業における他団体との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護支援の必要な人の発見・支援、早期の段階からの相談・対応体制の整備、意思決定支援・身上保護を重視した成年後見制度の運用に資する支援等の地域連携の仕組み(地域連携ネットワーク)との連携を図る。 ・権利擁護事業について、社協の実情や思い・ケアマネの思い等を話し合う場を作り、お互い理解する。 ・広報と希望者への研修等で理解を深める(何かを手伝いたい人はたくさんいる)。
<p>【作業部会の皆さんから捉えた残された課題】</p> <p>○権利擁護事業の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業のハードルが高いと思います。高齢者の利用人数も少ないです。実際に依頼しようとして、ケアマネから地域包括支援センターに利用意向を伝えると「まず無理でしょう」と話が返ってきて、成年後見センターで紹介することがほとんどです。まだ、判断能力がある方にとっては成年後見センターを紹介しても、繋がりにませぬ。結局、利用しないままにこじれてから成年後見センターに依頼しますが、手遅れ状態になる事が多いです。権利擁護事業を成年後見センターに繋ぐ前にまずは使っていただく必要と思っておりますが、稼働していません。 ・今後、高齢者の増加により認知症高齢者も増加することが見込まれることから、誰もが利用しやすい事業や制度の普及と、権利擁護に関する啓発が必要である。 ・権利擁護事業につなぐにいく。うけてもらえない。 ・財源が少ないから利用者が少ない？ ・困っている人たちは声をあげにくい(潜在化) ・権利擁護事業自体の周知(知らない人も多いのでは) ・住民の認知度が低い。知らない。 ・相談に来られた方の問題や課題の解きほぐし方。 ・重複事業の見直し ・制度についての理解ができていない。なぜ必要なのか？ 	<p>○市社協事業のスクラップ&ビルド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業効果が薄い事業についての取捨選択や取組方の改善、組織の在り方の検討、見直し。 ○権利擁護事業の専門員・生活支援員への研修の充実 ・物の支援は心の支援である。どんな支援もひと声をかけていただきたたい。支援員のひとつひとつの大きな支えになるかを自覚していただく、さらに安心へとつながると思う。 ・権利擁護の事例等をもとにセミナーを行い、より多くの職員の方に携わってもらえる濃い研修がされると良いなあ… ・段階に応じた職員研修 	<p>○職員の人材育成・業務量の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の知識向上、勉強会、研修会。 ・業務担当者の明確化、人員の確保を行い、事業活動に努める。 ・事業の拡大や新たな取組によって、職員への負担が増大し、社協の組織の歪み。 ・権利擁護事業では、本当にいろんな方が支援を受けていると思います。自立支援専門員の方にかなりの負担がかかっているのではないのでしょうか？ ・社協業務のうち、雑務について外部委託。 ・職員の事務負担が大きい ・職員の計画的な育成 ・多様な場面に出不けない

【達成度評価基準】◎期待を超える成果があった、○期待と通りの成果があった、△期待未満の成果であった

	<p>○財源確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業は大事。利用者が増えて、利益が増える仕組みが必要ではないか。 ・財源を確保するため、困り事解決のための資金集め・資金繰りを行う。 	<p>○新たな財源確保の方法を構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護事業は必要な事業ですので、事業収支の安定化を図り、実働していただきたいです。財源確保にはクラウドファンディングなど、若い方にもPRとなる方法が良いと思います。 ・財源確保に於いては募金活動の協力を得て又県、国よりの予算確保をするべき。 ・使用目的を明確にする。 ・使い道をしっかりと公開していくことで、例えば募金しようかとなる。 ・クラウドファンディング的な集め方。 <p>○普恵銀行のさらなる周知啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まごころ便、ありがとうございます。もっとPRしても良いと思います。 ・フードバンクの活動とまごころ便の福祉事業に強化するべき。 ・普恵銀行の呼びかけ ・まごころ便やフードバンクのマッチングが難しそうだが、ほしい方はたくさんいる
<p>○企業へのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業さんには地域福祉活動を求められる現地を見ていただく機会はあるのでしょうか。 ・企業からの寄附物だけでなく、ボランティア協力等どんどん協働に向けてほしい。 ・ボランティアをしたい企業は多いと思うがつながらない？ ・企業からのボランティア協力 ・関係機関・企業との連携 ・企業の理解不足 ・財源確保→企業からの協力が少ない。 	<p>○企業へのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フードバンクの活動…県社協が取り組んでいるようなフードロス削減の観点からの企業よりの支援を行う。 ・福祉活動に関心のある企業も増えていると聞きます。現場を見て、理解してもらう手はどうでしょうか。 ・「企業ができるボランティア一覧」を作成し、呼びかけ ・企業にとってボランティアは企業のイメージアップ。企業に、ボランティアの案、種類の一覧などでアピール ・賛助会員の願いの時に、ボランティアについてもチラシをいれる。 ・企業ができる社会貢献を具体的に示す (人・金・もの以外にも、民間団体との協力) <p>○企業と協働できる事業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業を巻き込むためには、公共性と一定の収益性がないと難しいと思われる。お金だけでなく協業という形をとることが企業を動かす一つのきっかけとなる。 <p>○企業との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業との間に入って下さる強い味方的な存在に委員として入ってもらってましたか？ 	

【達成度評価基準・◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未満の成果であった】

		<p>○潜在化しているニーズの掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の困難を誰かに話せず、苦しんでいる人がたいへん多いと思われる。 ・複合的課題への対応 ・地域・関係機関とのつながり、連携強化 ・情報の共有がしにくい(プライバシーの問題?) ・どこに誰に相談したらいいのかわからない。 ・断らない相談窓口 ・潜在化しているニーズの掘り起こし。→住民同士のつながりが 	<p>○包括的な相談体制の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らし高齢者・障害者は暮らしの中でいろいろ困りごとがある。こういう方のターゲット体制が必要で、行政、専門職、地域、企業が連携して取組を進めるべき。 ・医療福祉を考える会議で地域課題の解決へ ・訪問との連携(生活の細かな困りごとの解決) ・社協に地域ケア会議に出していただきたい。権利擁護事業だけでなく、収集ボランティアなど、社会参加につながる・生きがい・地域の部分にご意見をいただきたい。 <p>○潜在化しているニーズに基づき新たな事業の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物代行・巡回サービス…買い物物に出られない方に代行で買い物する。 ・もしくは出張販売の実施。 ・潜在化している困りごと、個別にあってもまとまらないので把握されていない。 ・地域支え合い送迎、他の機関との理念とかの共有できづらい。・潜在化したニーズの掘り起こし。学校や会社などの聞き取り →個人情報?
--	--	---	--

【達成度評価基準・◎期待を超える成果があった、○期待とおりの成果があった、△期待未達の成果であった】

7. 草津市社会福祉協議会のあゆみ

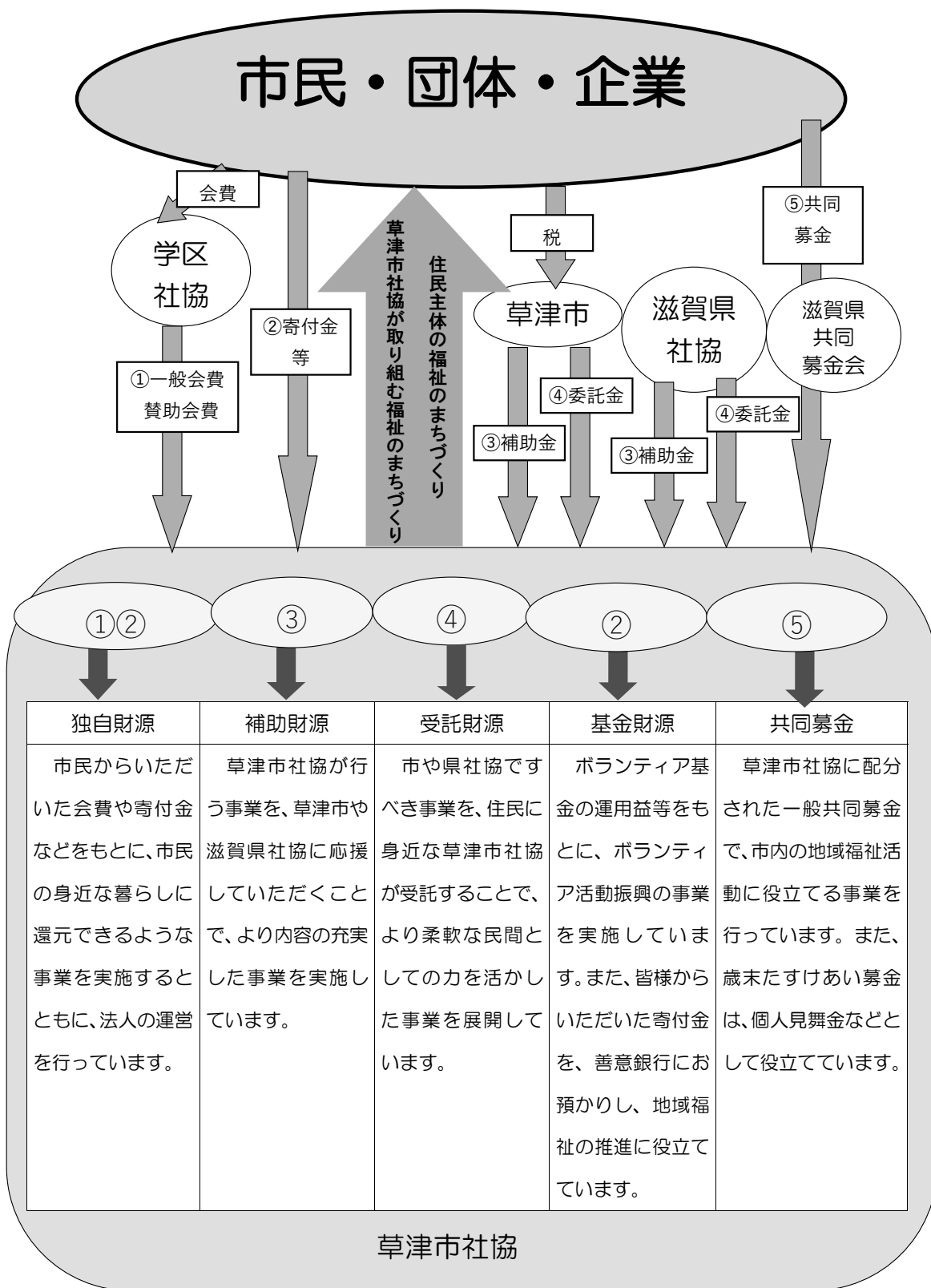
年号	西暦	人口	世帯数	草津市社会福祉協議会の歴史	学区・区社協の状況	草津市の沿革 草津町、若上村、山田村、笠縫村、常盤村合併による市制施行(32,152人)	県・国の動き(事件)
昭和29年	1954	32,152	6,223			10月 市議会定数が26となる	
30年	1955	31,853	6,160	草津市社会福祉協議会発足		7月 市議会定数が26となる	国勢調査全国人口89,275,529人
31年	1956	33,803	6,551			9月 栗栗町から沢川地区が編入 11月 国鉄東海道線、京都―米原間の電化完成	
33年	1958	35,328	6,748	心配ごと相談所開設	草津小学校で完全給食開始	7月 草津市役所移転	
34年	1959	31,732	6,021	生活福祉資金貸付業務開始	学区社協が作成(志津・山田・老上・笠縫・常盤)	8月 市議会定数が24となる	新国民健康法施行
35年	1960	35,022	6,961	第1回社会福祉大会開催	草津学区社協結成	8月 草津市商工会設立	高齢成長期・自民党が所信演説発表
36年	1961	37,054	7,021			4月 上水道工事開始	
37年	1962	37,537	7,223				社会福祉協議会基本要項策定
38年	1963	37,834	7,419		季節保養団の開設	7月 名神高速道路、栗東―尼崎間が開通	老人福祉法制定
39年	1964	38,845	7,697			4月 市の一部で上水道給水開始 10月 市民劇場(市制10周年)	オリンピック東京大会開催 東海道新幹線開業
40年	1965	38,328	8,417			3月 草津消防署発足 10月 草津市人口38,328人	母子福祉法、特別児童手当て法制定 厚生年金法改正、母子保護法制定
41年	1966	39,014	8,733	社会福祉会館設置(旧 草津第二公民館)		7月 上水道市内全域に給水開始	国勢調査全国人口98,275,961人
42年	1967	40,349	9,228			5月 市民憲章制定	大量消費時代に入る
43年	1968	41,466	9,735	社会福祉法人化			3 徳田強奪事件
45年	1970	46,400	11,316			3月 国鉄草津―京都間複々線化完成	日本万博開幕
46年	1971	50,547	12,550			8月 人口5万人突破	児童手当法制定
48年	1973	58,422	14,830	広報紙「社協くさつ」創刊	草津小学校を分離し、草津第二小学校 開校	7月 学校給食センター完成	日本オイルショック 老人医療費公費負担制度(福祉元年)
49年	1974	62,226	15,862		草津第二学区社協結成(草津学区から分離)	9月 近江大橋開通 10月 市制20周年	雇用保険法制定
50年	1975	64,825	16,676	善徳銀行設置・生活つなぎ資金貸付事業開始		1月 山寺工業団地の造成完了	
52年	1977	70,299	18,369		老上小学校を分離し、玉川小学校開校	8月 人口7万人突破	総理府、出生率・高齢化目立つと発表
53年	1978	72,834	19,099		草津小学校を分離し、天倉小学校開校 矢倉学区社協結成(草津学区から分離)	6月 学校給食で米穀給食開始 8月 社会福祉センター完成	サラ金苦が問題化
58年	1983	82,931	22,663		笠縫学区社協結成(笠縫学区から分離)	7月 図書館オープン	社会福祉事業法の一部改正で市内社協が法制化
60年	1985	86,632	24,165	ボランティア事業実施(60・61年) <国庫補助ボランティア育成事業>		7月 デイ・サービス事業開始 12月 (社)草津市シルバー人材センター設立	83～92年 国制障害者の10年
61年	1986	87,946	24,666	福祉活動推進校指定事業開始		7月 「市長への手紙」ポスト設置	男女雇用機会均等法施行
62年	1987	88,969	25,208		草津市ボランティア基金設置	12月 草津都市開発株式会社設立	
63年	1988	90,439	25,937		玉川学区社協結成(老上学区から分離)	7月 人口9万人突破 8月 京滋/ヤマト全線開通	
平成元年	1989	92,202	26,816	ボランティア活動推進地区指定事業開始 (学区社協でボランティア育成を始める)	玉川小学校を分離し、南草津小学校 開校	4月 「エルティ982」オープン	消費税率3%スタート 厚生省「ゴールドプラン」発表
2年	1990	93,595	27,524	高齢者5人1人あいやロソ事業開始			福祉8法改正
3年	1991	94,293	28,088	5人1人あいやまちづくり事業実施(3～7年) <国庫補助事業>		12月 第3次草津市総合計画(くさつハイ・プラン21) 開始	「5人1人あいやまちづくり事業」開始

年号	西暦	人口	世帯数	草津市社会福祉協議会の歴史	学区・区社協の状況	草津市の沿革	県・国の動き(事件)
4年	1992	96,431	30,291	草津市役所日庁舎に事務所移転		5月 新庁舎事業開始(さびやが保健センター、草津アミカホールオープン)	国が「高齢者福祉基本法」制定
5年	1993	97,262	31,184			8月 県立長寿社会福祉センター開館	新・社会福祉協議会基本要項制定
6年	1994	98,947	32,650			3月 立命館大学びわこ・くさつキャンパス開学 9月 JFJ 草津支店開業	厚生省「新ゴールドプラン・エンゼルプラン」制定、パートビル法制定
7年	1995	100,544	33,840	警察員貸与事業廃止		6月 人口10万人突破	厚生省「新ゴールドプラン・エンゼルプラン」制定、パートビル法制定 主任児童委員制度創設
8年	1996	102,531	35,098	リハビリ教室送迎事業開始(市委託) 福祉車庫貸出事業開始			阪神・淡路大震災 ボランティア元年
9年	1997	104,946	36,716	恵のほのサマーセンター事業開始(9～11年・市委託事業)		3月 草津市障害者福祉長期計画 12月 総人口で参院中を上回り、県内第2位へ	介護保険法制定、児童福祉法改正
10年	1998	108,504	39,134	心配ごと相談所の開設(毎日相談実施)	志津南地区社協結成(志津地区から分離)	4月 立命館大学経済・経営学部がびわこ草津キャンパスに移転	NPO法成立
11年	1999	110,326	40,676	ボランティアコーディネーター設置		3月 草津市母子保護計画制定 4月 草津市総合計画(～さつ2010ビジョン)制定 9月 人口11万人突破	新エンゼルプラン制定
12年	2000	111,616	41,702	地域福祉権利擁護事業開始 介護保険高額サービス負担事業開始(市委託) 福祉機器リサイクル事業開始(市委託) 家族介護者交流事業開始(～平成20年度、市委託) 視覚障害者訓練事業開始(～平成15年度、市委託)	高笠東学区社協結成(玉川学区から分離)	3月 草津市高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画 第1期「くさつゴールドプラン21」制定 10月 草津市同和地区福祉計画	介護保険制度スタート 新成年後後援制度施行 社会福祉事業法から社会福祉法へ改正 交通(入)アフリー法施行 年金改正法成立
13年	2001	113,335	42,902	ボランティア国際年記念行事実施 健康福祉セーフティネット促進事業 (単年度県補助金) 生活福祉資金継続者支援資金開始(～平成21年度、県社協委託) 介護者サロン開設		8月 草津市児童育成計画～くさつエンゼルプラン	
14年	2002	113,796	43,266	地域福祉緊急雇用創出特別対策事業(15年・滋賀県緊急雇用創出特別対策事業) 地域福祉推進員設置(御保銀) サマーボランティアサービス事業(～平成15年度、市委託) 地域サロン事業補助金開始	岩川学区社協結成(草津第二学区から分離) 大路区社協を結成(草津第二学区を改名)	3月 JFJ 高草津のり入アフリー化完成 9月 入居センター「TOURISる」オープン	ホームレス自立支援法制定
15年	2003	114,009	43,462	第13回全国ボランティアフェア(びわこ)の草津プロック実施 広報紙「社協くさつ」100号発行 市政50周年記念事業 (福祉を考える市民のついでの中で実施)		3月 草津市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 第2期「くさつゴールドプラン21」制定	障害者福祉支援費制度スタート
16年	2004	114,712	44,089				改正児童虐待防止法施行 DV法改正法施行 発達障害者自立支援法施行
17年	2005	115,431	44,769				障害者自立支援法施行
18年	2006	116,411	46,032		学区社協エリアリンク実施		障害者雇用促進法改正 改正介護保険法施行 高齢者虐待防止・介護者支援法施行
19年	2007	117,419	47,036	響×ロザロン開始(～平成20年度) 音楽ボランティアの自主事業に転換	地域福祉協議会開催		

年号	西暦	人口	世帯数	草津市社会福祉協議会の歴史	学区・区社協の状況	草津市の沿革	県・国の動き(事件)
20年	2008	119,123	48,260	1月 草津市地域福祉活動計画策定 「福祉を考える市民のつどい」と「ハワフル交流市民の日」と共同開催 新設生活福祉資金貸付制度開始(県社協委託)	住民福祉活動計画策定(草津・渋川・老上・南笠東)	8月 「草津市協働まちづくり指針」策定	後期高齢者医療制度施行
21年	2009	120,632	49,177	みんなのでトーク「近所カアップ講座」実施 福祉委員の手引き書作成	住民福祉活動計画策定(志津南・玉川・笠縫・笠縫東) 笠縫学区社会福祉協議会設立50周年		
22年	2010	122,423	50,279	「福祉を考える市民のつどい」と「ハワフル交流市民の日」と「くさつアートのフェスタ」共同開催 生活福祉資金貸付相談体制整備(貸付相談員の配置、県社協委託) 災害ボランティアセンター運営訓練実施(県防災訓練)	住民福祉活動計画策定(志津・大路・大倉・山田・常盤)	第2期地域福祉計画策定	
23年	2011	124,595	51,703		しが地獄を支え合い体制づくり事業にて拠点整備(志津南・草津)		東日本大震災
24年	2012	125,611	52,217	舊地町に事務所移転 ボランティアカフェエスティール事業実施	医療福祉を考える会議開始(笠縫東、老上)		
25年	2013	126,853	53,170		第2次住民福祉活動計画策定(志津南・南笠東) 医療福祉を考える会議開始(山田)		
26年	2014	128,603	54,233	地球支え合い連送支援事業実施	第2次住民福祉活動計画策定(山田) 地域支えあい連送支援事業(志津南・山田)	7月 草津市協働のまちづくり条例施行 中間支援組織として位置付けられる	
27年	2015	130,048	54,990	設立60周年 中間支援組織総連携事業(とく・得/ハスツア-、脳トレサポーター養成講座)実施	医療福祉を考える会議開始(志津・大倉・渋川・常盤)	第3期地域福祉計画策定 人口13万人突破	生活困難者自立支援法施行 マイナハン-法施行
28年	2016	131,258	56,033	介護予防サポーターポイント制度(市委託)	老上西学区社協結成(老上学区から分離) 医療福祉を考える会議開始(南笠東・笠縫)		熊本地震 障害者差別解消法施行
29年	2017	132,588	57,121	第3次草津市地域福祉活動計画策定		4月 市民センター・公民館が「地域まちづくりセンター」に変更	改正社会福祉法施行
30年	2018	133,667	58,200		医療福祉を考える会議開始(草津)		
令和元年	2019	134,658	59,234	青年会議所、ロクハ荘とともに「緑炎祭」を共同開催			5月より新元号「令和」

年号	西暦	人口	世帯数	草津市社会福祉協議会の歴史	学区・区社協の状況	草津市の沿革	県・国の動き(事件)
2年	2020	135,839	60,315	新型コロナウイルス特別貸付の窓口受付を開始 事業所や地域サロン等に向けて「まごころ便」の配送を実施	新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により事業の中止が相次ぐ 地域支えあい運送支援事業(南笠原)医療福祉を考える会議開始(志津南) 第3次住民福祉活動計画策定(南笠原) ラストボランティアアフェスティバル開催	第4期地域福祉計画策定	新型コロナウイルスが全国で感染拡大
3年	2021	137,266	61,426	大路2丁目に事務所移転 第4次草津市地域福祉活動計画策定 つながりのサポート事業開始(市受託)			東京オリンピック開催

8. 財源の流れ



資料編

「草津市社会福祉協議会職員行動原則」

草津を愛し、住民の思いを大切に、住民から愛され信頼される社協をつくります。

1. 私たちは、地域に出向き、より身近な福祉の専門職として力を発揮し、住民とともに地域の福祉力を高めます。
2. 私たちは、住み慣れた地域で誰もがその人らしく暮らせるまちをつくります。
3. 私たちは、地域住民や各種団体、行政などとのつながりを持ち、地域福祉のプラットフォームとしての役割を発揮し、地域を多方面から支えることで、地域の福祉課題の解決に結びつけます。
4. 私たちは、地域に寄り添う社協職員として人間力を高められるよう、あらゆる機会を通じて自己研鑽に努めます。
5. 私たちは、法令を遵守し、社協の組織や事業に関する説明責任を果たし、信頼される社協づくりをすすめます。

第4次草津市地域福祉活動計画

令和4年4月

発行：社会福祉法人 草津市社会福祉協議会

〒525-0032 滋賀県草津市大路2丁目1番35号

TEL：077-562-0084 FAX：077-566-0377

URL：<http://www.kusa-shakyo.or.jp>

草津市社会福祉協議会キャラクター
ふくちゃん

